

元
大日本
曾先
之原著
大田百祥講義
開權
頭 十八史略講義

東京書肆

同盟書屋



003141-000-4

特20-134

十八史略講義 (齧頭) 上卷

太田 百祥 / 著

M25

ACC-1224



通鑑綱目
卷之六
宋高宗皇帝
建炎元年

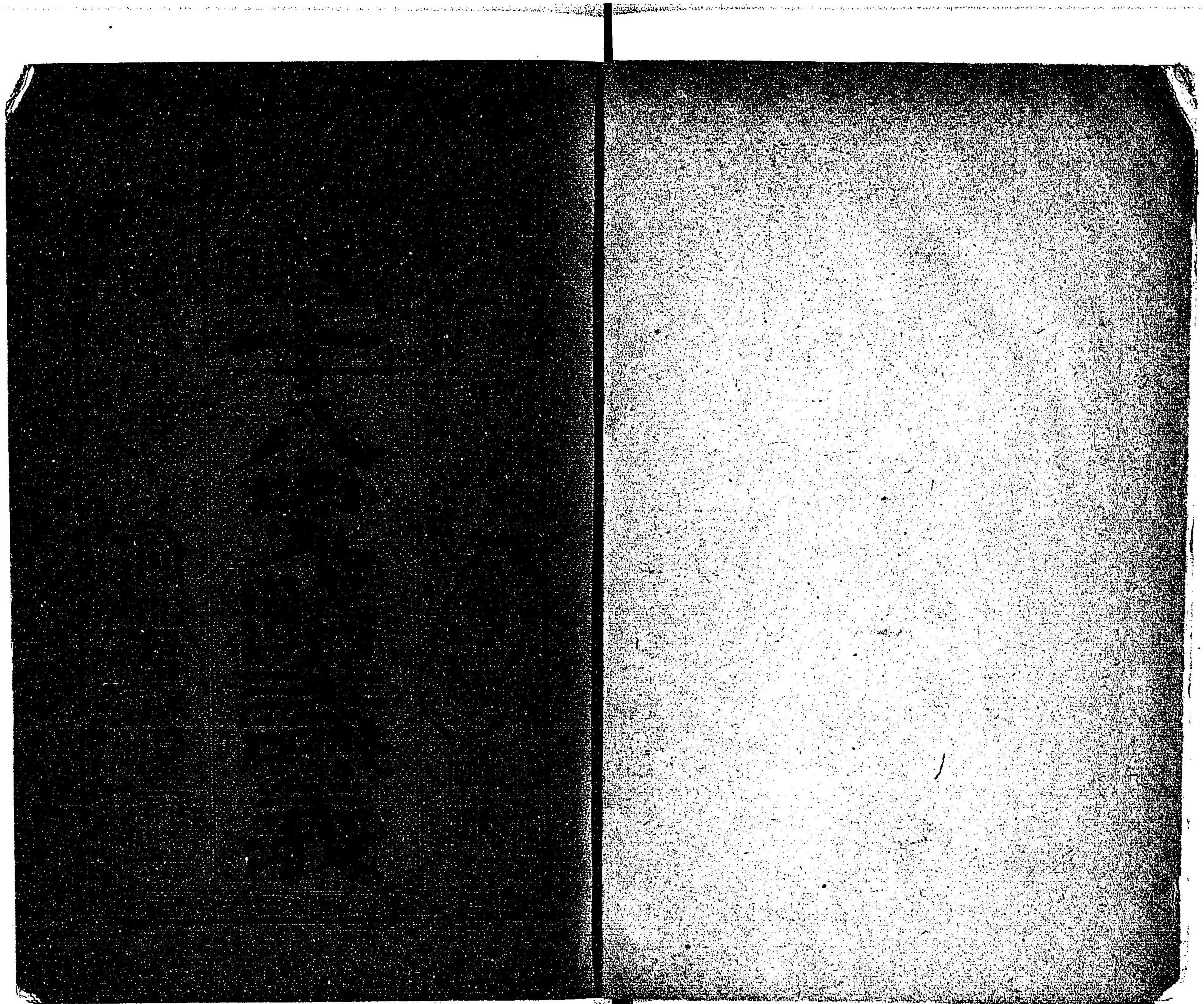
會公之
日本
太田
自前
講義

東坡先生

同治
年
書
局
印

印

印



十八史略講義序

元曾先之十八史畧四庫全書提要無其目
元明史亦無曾先之其人學問文章不足傳
也歟童蒙課本无他發明之故也歟然僅々
數卷支那歷代治亂興敗名君碩輔賢人哲
士之跡收拾弗遺簡而不粗約而能備於是
乎上從混元下至趙宋秩然有序能撮其要

後學由焉而研尋歷代離合沿革瞭然於胸臆間而後及馬選史記溫公通鑑源委本末不謬其序也書肆文盛堂與同業相圖將刻斯書命余以講解余幼年居常誦斯書至今得窺支那歷代沿革之概略獨以有斯書也因諾之授業之餘磨墨隆々拮据三閱月而全部奏功焉嗚呼區々之勞本爲黃小圖也

世或以撰者不明恐爲坊間陋本於是乎序

明治二十五年十二月十一日

華陰散史太田百祥撰

凡例

一 斯書僅々七卷ニシテ上大古ヨリ趙宋ニ至ル簡ニシテ漏サズ約ニシテ要ヲ得テ支那歷代治亂興敗史學ノ階梯タル之ニ過ギズ坊間諸版アリ講解汗牛充棟ト雖モ能ク其誤リヲ正シ事實ヲ明確ニ引證スル者ニ至リテハ甚ダ少シ是レ余ガ淺陋ヲ忘レテ此勞ヲ取ル所以ナリ

一 此書ヲ講ズル僅々時月ヲ以テ草卒筆ヲ起ス其誤謬モ亦少カラズ他日ノ修正ヲ俟テ其完全ヲ求メントス

一 上層ニ略解及ヒ出典ヲ出スト雖モ未ダ充分ナラザル者ハ他日精註十八史畧校本ヲ撰ミ其脫漏ヲ増補セントス

一見出シニ熟語其他ヲ掲クト雖ニ論評ニ關スル者ハ補ノ一字ヲ出シテ諸書ヲ引證シ之ヲ掲グ本文ヲ讀ム者ノ助ケトス

一人名ハ一切右傍ヘ一ヲ引キ一目瞭然タラシメ本文ヘハ妙點○黑點●ノ二個ヲ下シ文義ヲ曉ルノ一助トス併セテ褒貶ノ意ヲ示ス

一講義ハ務メテ簡明ヲ旨トス

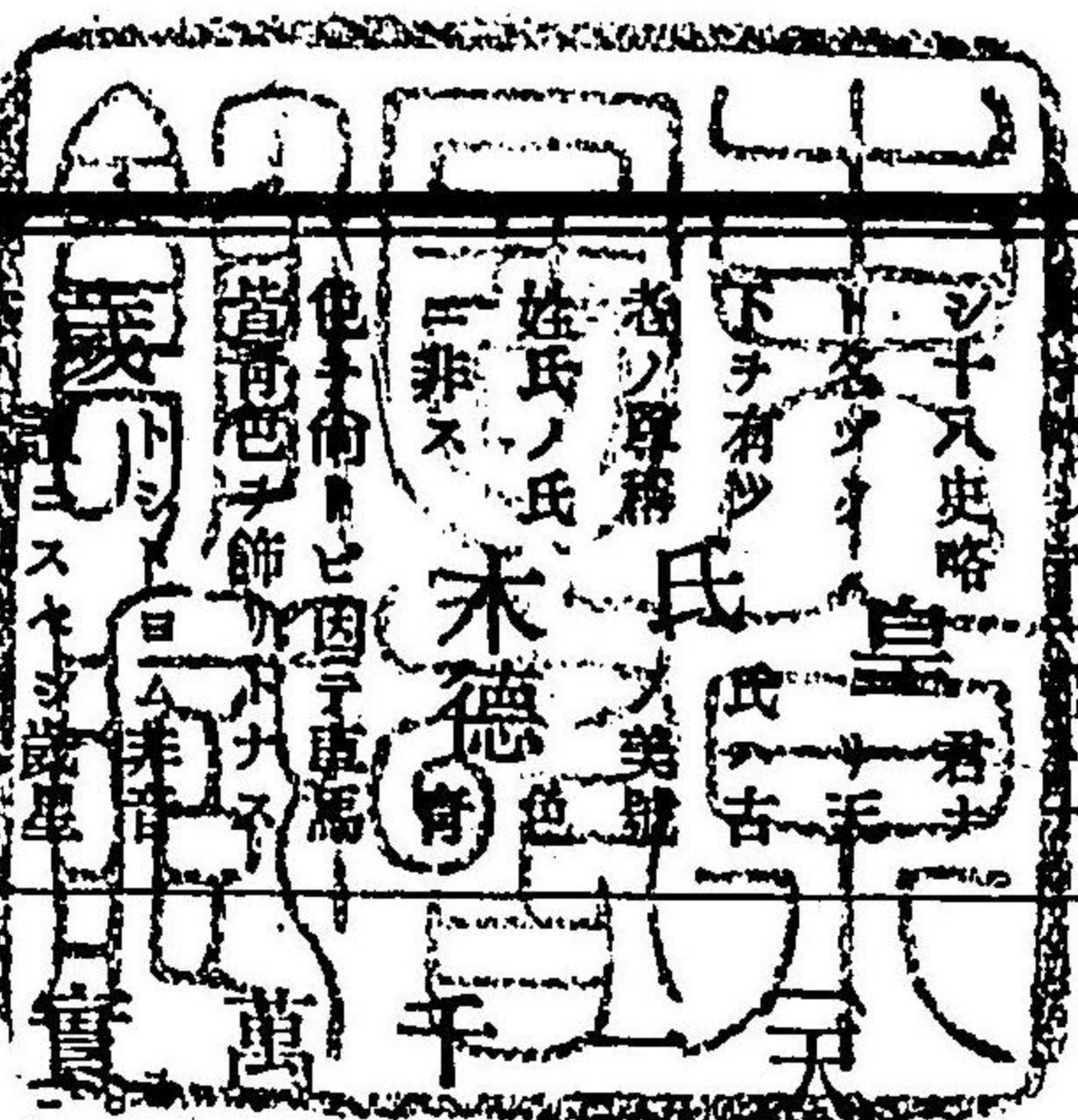
明治廿五年十二月

編者識

蠶頭字解

本史 史記漢書後漢書三國志

晉書梁書陳書後魏書北齊書後周書隋書南史北史唐書五代史宋



十八史畧講義卷一

元 曾 先 之 原著

大日本 太田 百 祥 講義

太古

上ノ古キ時代

天皇氏以木德王歲起提攝無爲而化兄弟十二人各萬八千歲地皇氏以火德王兄弟十二人各一萬八千歲人皇氏兄弟九人分長九州凡一百五十世合四萬五千六百年人皇以後有曰有巢氏構木爲巢食木實至燧人氏始鑽燧教人火食在書契以前年代國都不可攷

始メテ世ニ出ル者ハ天皇氏ニテ木德ニテ青色ヲ尙トヒ車馬等皆青色ヲ用ヒタリ燧星ノ寅ニアラハルヲ見テ一年ヲ定メタリ時ニ民ハ質朴ニテ法令モナク皆上ノ德ニ化セリ兄弟ノ十二人アリテ此ノ時代ヲ合セバ一萬ト八千歲人皇氏ハ兄弟九人ニテ分レテ九州ニガシラトナリ凡テ一百五十

ハ十二年ニ一周シ一
支ツメケル一支ヲ
メケルチ一
攝提
歲ト定ム

寅ノ 無爲 別ニ上
異名 ヨリ法
ヲ制セズシテ人
皆之ニ化スナリ 各
合ニ作ルベシ以下皆
之ニ準ズベシ

火德 色赤色ヲ尙
トビ車馬皆
赤 九州 九州實賦
色 九州 九州實賦
以前未ダ九州ノ目ア
ラズ後人之ヲ追稱ス
ル 燧 キリビトテ木
也 燧 ナスリ合セテ
火ヲ 天皇云々
出ス 後人天地人三才ヲア
ケ上古首出ノ君ニ名
ヅクルハ其事ヲ神ニ
スルニ過ギズ太古ヲ
分ツ我神代
ヲ分ツ如シ

代ツキ此ノ年代ハ四萬五千六百年ニテアリキ人皇ヨリ後ハ有巢氏トイフモ
ノアリテ始メテ木ヲ結ビテタキバヤシバチ以テマハリテ覆フテ巢ヲツクリテ
之ニ住居ス即人家ノ始メナリ未ダ火食ヲ知ラズ桃李ヲ食ヘリ燧人氏ニ至リテ
人ニ火食ヲ教ヘタリコレハ書契トテ文字ヲ札ニホリツケ後ノ世ニ傳フルヲ
ナセシ前ノナリ故ニ年代ノ遲速國
都ノ位置ハ之ヲ考フニ由ナキナリ

三皇

太昊伏羲氏

〔太昊伏羲氏〕風姓。代燧人氏而王。蛇身人首。始畫八卦。
造書契。以代結繩之政。制嫁娶。以儷皮爲禮。結網罟。教
佃漁。養犧牲。以庖厨。故曰庖犧。有龍瑞。以龍紀官。號龍
師。木德王。都於陳。庖犧崩。女媧氏立。亦風姓。木德王始
作笙簧。三皇ハ伏羲神農黃帝チイフ此ノ天子ハ風姓ニテ燧人氏ニカハリ天下
罪ヲ斷シ理ノ文字ニアラハス能ハザル所チエガキ教ヘリ又札ヲツクリテ之
ニ文字ヲキザミ事ヲ辨シテ昔シヨリ繩ヲムスビコト口覺エニセルナラハシチ
改メテ民ノ便利知ルベシ又夫婦ノ禮ヲキメニ枚ノ皮ヲ相方ヨリトリカハセチ
スルヲ以テ禮トナス後世ノユイハナリ又網ノアミヲ結ビテ獸ヲトリ罟ノメ

三皇

龍瑞 龍馬圖ヲ貢
フテ出ツ故
ニイ 女媧 古ハ文
フ 女媧 字ナク
音ヲ以テヨア因テ後
人音ニ因テ傳フ女媧
婦人ニアラス猶春秋
傳石曼姑孟子ノ馮婦
ノゴトシ婦 不周
人ニアラス 其自ラ身ヲ亡ガ
山 シ國ヲ滅スルチ
イ 五色石 上下
フ 五色石 ノ分
チ正シ君臣父子夫婦
兄弟交友ノ倫ヲオサ
メ化育ヲタスケ天ノ
及バザル所ヲ補フ

ノコマカキアミチ用ヒテスナドリシ魚ヲトルコチ教ヘリソレニマタイケニヘ
チカヒ料理場所ヲ造リコトニテコロシタリニヤキチサセタリセリ故ニ庖犧ト
イフ名アリ龍ノアラハレ目出度シルシアリ因テ官ノメシルシニ龍ノ字ヲツケ
自ラハ龍師トテ龍ノオサトナレリコレモ木德ノ王ニテ陳ニ都セリ庖犧ノ崩シ
テ女媧氏立テリ亦風姓ニテ木德ノ 諸侯有共工氏與祝融戰。不
王ニテ始メテセウノフエチ作レリ

勝而怒。乃頭觸不周山。崩天柱。析地維。缺女禍。乃鍊五色石以補天。斷鯀足。以立四極。聚蘆灰。以止滔水。於是地。平天成。不改舊物。諸侯ノ中ニ共工氏トイフアリ祝融ト戰ヒマケテ怒
サハギナレバ天下モミタレ天ノ柱ノ折レ地ノツナノカケタルカト思フ程ニ天
下ノ法則ノミダレタレバ女媧ハ五倫ノ道ヲオサメ天ノ及バザル所ヲタスケ賊
黨ノ餘類マテテ平ゲテ天下ノ紀綱トテキマリチタテリマタ水ノ諸々ニ出レバ
アシチヤキソノ灰ヲ以テ水ヲトメメリソコテ地モ以前ノ如ク天モ成就シ化育
ノ功ヲトゲモト 女媧氏没。有共工氏。太庭氏。柏皇氏
ノ如クトナレリ

〔中央氏〕〔歷陸氏〕〔驪連氏〕〔赫胥氏〕〔尊盧氏〕〔混沌氏〕〔昊
英氏〕〔朱襄氏〕〔葛天氏〕〔陰康氏〕〔無懷氏〕風姓相承者十
五世。女媧氏没シテ十三ノ時代ヲ歷テ
風姓ノ相續ハ十五代ニテアリキ

斷鰲足 四極ヲ立テ其

黨類ヲ絶テ新ニ紀綱ヲ立ルヲイフ

蘆灰 コレハ德政ヲシキ以テ

民心ヲ安ンズル地

平 四土舊ニ復シ萬民生ヲ安ンズル

蜡 禮記郊特牲

ノ十二月萬物ヲ合セ

アツメテ索シテ之ヲ

製スル 草木ヲウ

ナリ 鞭 草木ヲウ

ナリ 軒轅 丘名

セシム 軒轅 丘名

ルナリ 軒轅 丘名

コレニ生マル河南開

封府新鄭縣ニ在リ漢

書律曆志曰黃帝始メ

テ衣裳ヲ垂ン軒冕ノ

服アリ故ニ軒轅

氏トイフ

南車 一説子午盤

針ヲ用ヒ之

ナ車ニ 風后 帝大

置クト 風后 帝大

ヲ去リ琴ヲトリ羊ヲ

牧スルト夢△占フテ

之ヲ求メテ風后ヲ海

軒轅乃習用干戈以征不亨諸侯咸歸之與炎帝戰于阪泉之野克之黃帝ハ公孫姓ニテ又姬姓トモイフ名ハ軒轅トイヒ有熊國大イナルイナツマノ北極星ノ七星中初メニアル樞星ノマハリナ一トメガリスルト夢ミテ其激動ノハメシキニ感シテ帝ヲ生メリ炎帝ノ世ハ衰ヘリ諸侯ハウチアヒヤマズ黃帝因テ干戈即タテトホコトヲツカヒコナスコトヲ教ヘテソムキテ至ラザル者ヲ征伐此武器ヲツカヒ大ニ兵威ヲ加ヘシヲ以テ諸侯モオソレテ之ニ歸伏セリ炎帝ト阪泉ノ野ニ 蚩尤作乱其人銅鐵額能作大霧軒轅作指南車與蚩尤戰於涿鹿之野禽之遂代炎帝爲天子土德王以雲紀官爲雲師 蚩尤トイフモノ時ニ乱チキカメキ額ニテ能ク術ヲ以テ大ヒニ霧ヲ起サシメ敵ニ方角ヲ失ハシメ軍ニ不利ヲ興フ因テ其方角ヲアヤマランガ爲ニ指南車ヲ作り方角ヲアヤマラズシテ兵ヲストメ蚩尤ト涿鹿ノ野ニ戰ヒ之ヲトラヘリ遂ニ炎帝ニ代リ天子ト作舟車以濟不通得風后爲相力牧爲將受河圖見日月星辰之象始有星官之書師大撓占斗建作甲子容成造曆隸首作算數伶倫取嶰谷之竹制十二律箏以聽鳳

炎帝神農氏

〔炎帝神農氏〕姜姓。人身牛首。繼風姓而立。火德王。斲木爲耜。揉木爲耒。始教畊作。蜡祭。以赭鞭鞭草木。嘗百草。始有醫藥。教人日中爲市。交易而退。都於陳。徙曲阜。傳帝承。帝臨。帝則。帝百。帝來。帝襄。帝榆。姜姓凡八世。五百二十一年。コノ帝ハ姜姓ニテ人ノ身ニテ角アリシト風姓ニツギ火德ノ王ニテ此帝始メテスキクハチ作り耕作ヲ教ユ十二月報田祭ヲナシ赤色ヲマツトフ故ニアカツチナムチニヌリ草木ヲウチ枯レヌ標ヨク實チムスアロフマツナイニウテリ古ヘヨリ節分ノ晚ニ諸木ノ皮ヲハギ或ハムチウチハ生長チハヤメ實チムスビ風雨ノ爲ニ害ヲウケヌナドイヘル或ハ其類カ又醫藥ノ發明モ此帝ナリ貿易トイフコトヲナシ日ノアル中ニ互ニ物品ヲトリカヘ人民ノ生活ヲトゲシメ陳ニ都シテ曲阜ニウツレリソレヨリ七代チヘテ姜姓凡テ八代ニシテ五百二十年ニテアリキ

黃帝軒轅氏

〔黃帝〕公孫姓。又曰姬姓。名軒轅。有熊國君。少典子也。母見大電繞北斗樞星。感而生帝。炎帝世衰。諸侯相侵伐。

鼎 處州縉雲縣仙都山ニアリ黃帝が

湖山トイフ所ノ銅ヲ采リテ鼎ヲツケル故ニ地名

得姓十トナス

四人 別レ十二姓トナルト新

已際諸任荷傳信瓊依

二姫二酉 音語ニ詳カナリ餘ハ降

ヲ民トナル

五帝

一説ニ伏羲神農黃帝堯舜チ五帝トナス此説ハ易ノ大傳ヨリ出ツ

少昊 ヨク太昊ノ法ヲ修ム少

鳴雄鳴六。雌鳴六。以黃鐘之宮。生六律六呂。以候氣應。鑄十二鐘以和五音。舟ト車ヲ造リ通セヌ所ヲアタセリ風后ヲ得テ相ト

模倣チ見テ天文ノ書ガ出來師大撓トイフモノ北斗星ノケンサキノ御サヌチ見

テ十二支十干ヲ作り之ヲ配當シテ六十甲子ヲ以テ始メニモドルヲ定メリ容

成曆ヲツクリ隸首ハ物ノカズトリスルヲ發明伶倫ハ崑崙ノ北ニアルカイ谷

ヨリ竹ヲキリ十二本ノ竹筒ヲツクリ之ヲ吹ケル風ノコヘチナス陽ノ音ガ六

ツアリ陰ノ音ガ六ツアリ十二律ノ定メハコヘニ始マリ黃鐘ノ宮ガ本ニテ六律

六呂ノ音チ生セリコレヲ以テ天地ノ氣ノ加減チウカハフ又十二鐘ヲツクリテ

五音ヲト 嘗晝寢夢遊華胥之國怡然自得其後天下

大治幾若華胥。アル日黃帝ノヒルチセシニ夢ニ仙境ニアソベリナントナ

シテ化スルノ道チマ會得アリ其後天下ノ治マルコト仙境ノ如クニテアリシト

世傳黃帝采銅鑄鼎鼎成有龍垂胡髯下迎帝騎龍上天群臣後宮從者七十餘

人小臣不得上悉持龍髯髯拔墮弓抱其弓而號後世

名其處曰鼎湖其弓曰烏號黃帝二十五子其得姓者

十四 世ニ傳フ黃帝銅ヲ采リ一ノカナヘチ造レリ出來上リテ龍アリアゴノヒガ

五帝

少昊金天氏

〔少昊金天氏〕名玄囂黃帝之子也亦曰青陽其立也鳳

鳥適至以鳥紀官 名ハ玄囂トテ黃帝ノ子ナリ亦青陽トイヘリソノ立テ

名付ケリ

顓頊高陽氏

〔顓頊高陽氏〕昌意之子黃帝孫也代少昊而立少昊之

衰九黎乱德民神雜糅不可方物顓頊受之乃命南正

重司天以屬神火正黎司地以屬民使無相侵瀆始作

曆以孟春爲元 昌意ノ子ニテ黃帝ノ孫ナリ少昊ニ代ハツテ立テリ少昊ノ

衰フルトキ黎氏九人徳ヲヤアリ行ヒアシク民ト神トノ別

吳トイフ金徳ヲ以テ王タリ遂ニ金天氏ト號シ曲阜ニ都ス按ズルニ姓ハ巳母チ嫫祖トイフ帝金徳ヲ以テ王タリ故ニ金天氏トイフ大淵ノ樂ヲツケル大淵ハ一ニ九淵トイフ鳳鳥 説文鳳瑞フ 禽羽毛ノ長王者ノ徳盛ンナレバ則チ至ル 官 鳳鳥氏玄鳥氏ノ類ノ如シ詳ニ左傳昭公十七年ニ見ユ 高陽 クニノ名コトヨリ起ル 九黎 黎氏九人當時ノ諸侯 民神 便蒙ニ天チ司リ曆チ治メ時チ明ニスルノ

類ハ神ニ属セシメ即
祭祝ノ一之ニ附ス地
チ司リ地チ度リ民チ
居クノ類ハ民ニ属セ
シメ人倫ノ道チ明ニ
シテ之ニ附セシム皇
朝人文漸ク開ケテ崇
神帝人神宮チ異ニス
ルノ制チ始ム此
意ト暗ニ合フ 南
正重 南ハ木ニ作
ル方ヨシ木
正ハ春官重ハ名少昊
氏ノ子句芒ナリ
火正黎 火正ハ
夏官黎
ハ名顓頊氏ノ子
祝融ナリ 帝
馨 名ナリ初高辛ニ
封セラル故ニ高
辛氏トイフ白虎通ニ
云譽ハ極ナリ其能ク

チタテズ混雜分ツ可ラズ神ニ用フル器モ人之チ用フルノ紛亂別ナキニ至ル因
テ南正重ハ天ノ事チ司トリ即日本古代ノ神祇官トナリ神ノ一チ司トリ此人ニ
神ノ一チマカサシム火正黎ハ地チ司トリ民ノ一チアツカラシム互ニ別チナ
シテ乱レケガストナカラシム始メテ曆チ作り孟春チ以テ初メトナセリ

帝馨高辛氏

〔帝馨高辛氏〕玄囂之子。黄帝曾孫也。生而神靈。自言其名代顓頊而立居於亳。玄囂ノ子ニシテ黄帝ノ曾孫ナリ生レテ神ノ如キ奇異ニテ自ラ其名イヘリ顓頊ニ代ハリテ立

居レリ

帝堯陶唐氏

〔帝堯陶唐氏〕伊祁姓。或曰名放勳。帝馨子也。其仁如天。其知如神。就之如日。望之如雲。都平陽。放勳トテ帝馨ノ子ナリ堯ノ仁徳ハ天ノ萬物チ養育スル如ク其惠大イナリ其知ノ明カナルハ神ノ靈ナルガ如ク深キナリ之ニ近ソケバ天威ノナレ近ク可ラザルガ如ク之チ遠クヨリ望メハ太早ノ雲チ仰グガ如ク人之チヒタフ眞ニ聖ナルカナ平陽ニ都セリ 芣茨不剪。土階三等。有草生庭。十五日以前。日生一葉。以後日落一葉。月小盡。則

道徳チ施シ行ヒ
窮極スルチイフ 顓
頊 少昊以上多ク其
徳チ以テ天下チ
有ソノ號トナス顓頊
以下名字チ以テ國ニ
配 芣茨 茅チモツ
ス 芣風雨チ防グノミ觀
美チ求メズ故ニ其端
チキラズ以テ之チフ
ク凡ソ階玉石チ以テ
チ砌ス土階ハ其撰
チイフ三代ノ制天子
九等之チ降ソソギ三
等トナス其卑キチイ
フ 極 一脱ニ至極ノ
徳チイフ
堯 孔子稱ス大哉堯
ノ君タルヤ唯天
チ大ナリトス唯堯之
ニ則ル蕩々乎トシテ

一葉厭而不落。名曰芣茨。觀之以知旬朔。カヤアキハフキオズキザハシハヒクシ三段ニテツマツテアリ一日草ノ庭ニ生ズル二月十五日前ハ陽ナレハ一葉ツク生セリ後十五日ハ陰ナレハ一葉ツクハオツ月ノ小ノトキハ一葉來月ノ陽氣チ含ムタメ乾キテオチズ之チコロミ草ト名付ケコレニテ月ノ朔日ト十日トチワキマヘ月ノ大小モ分ツニ至レリ

治天下五十年。不知天下治歟。不治歟。億兆願戴已歟。不願戴已歟。問左右。不知問外朝。不知問在野。不知乃微服游於康衢。聞童謠曰。立我蒸民。莫匪爾極。不識不知。順帝之則。天下チ治ムルニ五十年ナリシニ堯自ラ天下ノ全ク治リシカ人

民ノ已チアリガタク思フカ何如チ知ラズ左右ニトフニワカラズ之チ宮中ノ外政務チアツカフ者ニキクニワカラズ野ニ出テトフニ分ラズ因テ身ハ賤者ノ服チキテ人通リアル路ノ幾スヤニ分レル所ニユキ童ノハヤリウタチキクニ我ラノ多クノ民チ立テ置クハ管爾堯帝ノヨキコノ上チキ法チ立テ置レタルニヨルニアラザルハナシサレバナニモカモ只々此方ハ知ラズ帝ノ法則ニシタガリ 有老人含哺鼓腹。繫壤而歌曰。日出而作。日入而息。鑿井而飲。耕田而食。帝力何有於我哉。又老人見レバ食チ口ニフクミ腹チタトキ地ビタチタトキ歌チイフ日ノ出レバ外ニ出テ日入テ休息チナシ井チホリ飲水ニ供シ田チタガヤシテ食ニ供ス天子ノ力

民能ク名ツ 鼓腹

食ニアク 擊壤

ナウチ節 帝力

曰帝力何有於我哉

帝於我有何力哉

ル可ナリ是レ傳寫ノ

倒ナリ力ハ上文ノ作

ト息ト及ビ 觀

食ト觀ナリ 華

ハ華山即西嶽五

嶽ノ一ナリ 華

封人 事ハ莊子ノ

天地篇ニ出

四嶽 章昭ノ曰

發チ主リ諸侯ノ伯タ

リ又曰ク官名一人ニ

シテ四嶽諸侯ノ

事ヲ總テ

舜

便蒙名ナリ蒲坂ニ都

シ天下チ十二州ニ分

少舜ハ虞ノ地ヨリ途

スルチ得タリ遂ニ有

虞氏ト號ス虞氏ニ有

トイフモノハ虞ノ字

文ノ單ナルチ以テ有

モナニモナク銘々ノ勝手ニテ生活ヲ遂ゲ

リトイヘリ是レ則チ天下太平ノシシ也

觀于華 華封人曰 嘻 請

祝聖人 使聖人壽 富多男子 堯曰 辭多男子 則多懼 富

則多事 壽則多辱 封人曰 天生萬民 必授之職 多男子

而授之職 何懼之有 富而使入分之 何事之有 天下有

道 與物皆昌 天下無道 脩德就間 千歲厭世 去而上僊

乘彼白雲 至于帝鄉 何辱之有 堯立七十年 有九年之

水 使鯀治之 九載弗績 堯老倦于勤 四嶽舉舜 攝行天

下事 堯子丹朱不肖 乃薦舜於天 堯崩 舜即位

華封人ノ境ヲ守ル小役人ノイフニ只今聖人ヲ御祝ヒ申サン聖人ヲシテ壽命

永ク富貴ニシテ男子ヲ澤山モタルトヤウニシタシト帝堯ノイフソレハコトハ

リ申サン男子ノ多クレバ自然ニ心配ノ多ク富シテ繁昌セバ自然用モ多ク又長

壽ヲタモテバ自然人ヨリ恥辱ヲ受ルコト多ク因テコトハリ申ス封人イフイヤ左

様ノコトチイハルハ天ハ萬民ヲ生シテ必ズ之ニ職分ヲ授ケ男子ノ多クシテ之

ニソレソレ職分ヲ授ケバ何モ左程ニオソルコトハアルマシク富メバソレモ男

子多キムヘ銘々ニ分チサツケバナニモ左程ニ面倒ノコトアルマシク天下道アリ

治マレバ物ヲ入ト其所チ得テ皆昌ヘリ天下道ナク亂ルレバ徳ヲ修メテ其身チ

善クシ閑靜ノ處ニツキ隱遁シテ此ノ世ニアキナバ去リテ上仙シ彼レニアル

白雲ニ乘リテ帝郷ノ仙境ヘ至レハ決シテ恥辱ヲ受ケス様ナキナリナントカク

ノ如キモノニテアラザルカトイヘド堯ハ之ニ從ハザリキ堯立テ七十年九年ノ

水アリ鯀ヲシテ之ヲ治メシメリ九年タチ功ナシ堯老テ政事ニウメリ時ニ四嶽

ノ舜ヲ舉テ天下ノコトチカリニ行ハシメリ堯ノ子丹朱ハ父帝堯ニ似ズ天

下チ治ムルノ器ニアラズ因テ舜ヲ天位ニスルメ堯崩シテ舜位ニ即ケリ

帝舜有虞氏 姚姓 或曰 名重華 瞽瞍之子 顓頊六世孫

也 父惑於後妻 愛少子象 常欲殺舜 舜盡孝悌之道 烝

十八史略讀卷一

十一

ノ風ト 釐降 オサ
 化セリ メハ
 一説ニタモフノ 意ナリト又通ス 邑 便蒙二人ノ案會
 都 スル所小チ邑ト
 イヒ大チ都トイフコ レハ大概チアゲテイ
 フ周禮ノ制ノ如クナラズ 八
 元八愷 元ハ善
 ナリハ 人ノ善者愷ハ和ナリ
 八人ノ一致セシナカ ヨキ 咨 舜コレトハ
 人ニ厚クシ仁人チ信 シテ姦惡チフサガシ
 △ 文獻通考ニイ フ宋ノ中興樂
 志論ニ五絃ハ虞舜ニ 作り七絃ハ周ノ文武

於吠畝。妻以二女。曰娥黃女英。釐降干媯。納遂相堯攝
 政。放驩兜。流共工。殛鯀。竄三苗。舉才子八元。八愷。命九
 官。咨十二牧。海之內。咸戴舜功。舜ノ之チキ、田舎ヨリ舜チアゲニ
ノホトリニ仕度チト、ノヒニ女チ下シ嫁セシメリ途ニ幾ニ相トシテ政チ攝セ
リ時ニ四凶トテ四人ノ惡人チ或ハ放チ或ハ流シ或ハ斬ニ處シ又三苗ノ國ノ惡
人チ之チ逐ヒ拂ヒ押込ムルニ至ル才子ノ八元八愷チ九人ノ官ニ命シテ十二州
ノ大名ト相ハカリ治チナシ四海ノ内咸チ舜ノ功チ戴キアリガタク思ヘリ
 彈五絃之琴。歌南風之詩。而天下治。詩曰。南風之薰兮。
 可以解吾民之愠兮。南風之時兮。可以阜吾民之財兮。
 時景星出。卿雲興。百工相和而歌曰。卿雲爛兮。禮縵縵
 兮。日月光華。旦復旦兮。舜子商均不肖。乃薦禹於天。舜
 南巡狩。崩於蒼梧之野。禹即位。舜ハ五絃ノ琴チ彈キ南風ノ詩チウ
タヒ意チ天下ニ用ヒ天下治マレリ
其詩ノ大意ハ南方ハ陽ニテ物チ長育スルノ意チフクム南風ノ暖カニカホリフ
ク時節ハナントナク心持ノヨク吾民ノイキドホリフサグ心持モコノ風ガフキ
テ民ノ心チ平ニスル帝王ノ天下チ治ムルコノ如クナラザル可ラズ又コノ時節
ハ物チヤシナヒ吾民ノ財チアツク大ニ可スキナリ人君モ亦此ノ如ク民チシテ

ニ作ル琴ノ長サ 三尺六寸六分 南
 風之詩 海内無
 琴歌チ得テ自ラ逸ス 琴歌チ以テノ故ニ天
 下自ラ治マ 和暢
 ルニアラズ 薰
 ナ 南風 長ク萬物
 リ チヤシナ
 フ故ニ能ク民財 薰
 チ殷阜ニス 景星
 大星ナリ狀チ半月ノ 如シ晦朔ノ時ニアラ
 ハル徳星 卿雲 古
 トモイフ 慶卿通ズ氣ニアラズ
 煙ニアラズ五色ノ氣 盤太平ノ禮
 應ナリ 豐隆確

夏后氏禹姒姓。或曰。名文命。鯀之子。顓頊孫也。鯀湮洪
 水。舜舉禹代鯀。勞身焦思。居外十三年。過家門不入。陸
 行乘車。水行乘船。泥行乘橈。山行乘橋。開九州。通九道。
 陂九澤。度九山。告厥成功。舜嘉之。使率百官行天下事。
 舜崩。乃踐位。禹ハ姒姓ニテ或ハ名ハ文命鯀ノ子ニテ顓頊ノ孫ナリ父ノ洪水
思チコガラシ水チ防ギ十三年外ニ居リ家門チ過キテモ入ラズ陸ニハ車ニノリ
水チユクニハ船ニノリ泥チユクニハカシキニノリ山チユクニハ履ノ下ニツ
マツカメ爲ニキリチツケテハタラキ九州チヒラキ九州ノ澤ニツミチ造リ九
州ノ山々チ測量セリ實ニ其功偉ナリ因テ其功ノ成リシチ上ニ申達舜大ニ之チ
賞シテ百官チヒキマハシテ天下ノ政チア 聲爲律。身爲度。左準繩。

夏后氏

厚クトマシメユタカナラシムベキトニコリト歌ヘリサレバ實功ノアガリ景星
 卿雲ノ吉瑞アラハレタリ百工モ互ニ和シテ歌チツクリ卿雲ハキラメキアツマ
 リテユツタリトナガク日月モ一層光リカバヤキ今日モ其翌日モトナリ舜ノ子
 ハ不肖ナリ因テ禹チ天位ニス、メ舜南巡狩シテ蒼梧ノ野ニ崩シテ禹天子ノ位
 ニ即

類書音韻子料ニツク
ルマトヒアツマル貌
以テアヤマル

爛熳日 押韻ナ

夏 史記周書夏トイ
フ后字チツケ夏

后ハ封地ニヨリ配ス
ルニ后子以テシ天下

チ有少號トナス役人
后ニ因テ號チ生ズル

ハ非 過門 家チ願
ナリ

ニ違マ 聲爲律
アラズ

聲音ハ自ラ音律ニ應
シ身體ハ自ラ尺度タ

リ左右運用スル所ハ
自ラ規矩準繩タルナ

堯舜之人

右規矩一饋十起以勞天下之民出見罪人下車問而

泣曰堯舜之人以堯舜之心爲心寡人爲君百姓各自

以其心爲心寡人痛之舌有醴酪至禹時儀狄作酒禹

飲而甘之曰後世必有以酒亡國者遂疏儀狄取九牧

之金鑄九鼎三足象三德以享上帝鬼神

物サシナ以テサシタルガ如クスムミナハチ左ニシ又サシガ子アンマハシチ右ニ

シ物チハカハル如ク過不及ノタガイナシ民ヨリ物チオクレバ十タビモ起キテ其

來レル天下ノ民チイタハリ厚ク禮チイヘリアル日ニ外ニ出テシニ罪人チ見タ

リ車ヨリ下リテ問フテ泣キイフ堯舜ノ民ハ皆堯舜ノ心チ以テ心トセシニ寡人

ノ君トナリ百姓ハ各自ラノ心チ以テ心トナセリ皆吾ノ心チ政ニ用フルノ至ラ

ザル處故ニ吾ノ心チ以テ心トナサシムルニ至ラズ各々ミチヲ犯スニ至リ誠ニ之

チ痛ム可キトカズレリ古クヨリ甘酒トイフモノアリ禹ノ時ニ至リテ儀狄酒

チ作レリ禹飲ンテ之チ至テ味ヨキモノトホメ然シコレチ以テ後世必ズ國チ亡

ス者アラシクコレハ謹ムベキ者ナリトイヘリ因テコレノ儀狄チバ遠ケルニ至ル九

州ノ金チトリオサメ九州ニカタドリ九ツノ鼎チ造レリ三本ノ足ハ三德ニカタ

ドレリ之チ以テ會諸侯於塗山執玉帛者萬國禹濟江黃

龍負舟舟中人懼禹仰天歎曰吾受命於天竭力而勞

萬民生寄也死歸也視龍猶蝦蟇顏色不變龍俛首低

尾而逝南巡至會稽山而崩子啓賢能繼禹道禹嘗薦

益於天謳歌朝覲者不之益而之啓曰吾君之子也啓

遂立有扈氏無道啓與戰于甘啓崩

アリ禹江チアラタルトキ黃色ノ龍舟チモチアゲ覆ヘサントセリ舟中ノ人チソル

禹コノトキ天チ仰キ歎シテイフ吾ハ命チ天ヨリ受ケ力チ竭シテ萬民チ勞ハリ

天ニソムカズ今日マテ世チ送レリ今命ツキ此處ニ舟覆リ没ス人ノ生チ保ツハ

寄合ヒナリ死スルコトハ天ニ歸ルナリ何ゾオソルコトアルベキト龍チミルニ

守宮チ見ル如ク顏色モカハラズ自若タル氣色龍首チタレ尾チタレテコソハト

去レリ南チメグリ會稽山ニ至リ崩セリ子ノ啓賢者ナリヨク禹ノ道チ受ケ繼ギ

ツトメリ禹嘗テ益トイフ者チ天位ニス、メリ歌チウタフモノ參朝スル者モ益

ノ方ニニカズシテ啓ノ方ニニキ吾君ノ子ナレバ此人位ニ即ケベシ君トナル可

キ人ナリト因テ啓立テリ有扈氏ノ大名無道 子(太康)立盤遊弗返

有窮后羿立其弟(仲康)而專其政義和守義不服羿假

王命命胤侯征之仲康崩子(相)立羿逐相自立嬖臣寒

泥又殺羿自立相之后有仍國君女也方娠奔有仍而

民ナ 醴酪 醴ハ甘
酒ナリ
少麴多米一宿ニテ熟
ス飲ンテ人チヨハシ
メズ醴酪牛馬ノ乳造
ル所亦醴ノ類

九鼎 胡五峯ノ曰
ク禹始メ洪
水ノ害チ除キ九州ノ
分野チ別チ土田ノ高
下チシナシ貢賦ノ式
度チ定メ井田封建ノ
經略チ立テ一時コノ
民チ生養スルノ道チ
ツクセリ又鼎チイハ
之チ萬世ノ準トス春
秋ノトキ晉鄭刑書チ
イル則チ知ル古人制
チ創メ度チ立テ久遠
ニ傳ヘント欲スル者
必ズ鼎ニ 謳歌 往
於テス

ナ基フテ歌咏ニ發ス
ルナリ諸侯北面シテ
大子ニ見ル
ナ觀トイフ
黃龍
擊要萬南ニ巡狩シ江
ナラタリ中流ニ二黃
龍アリ舟ヲオフ舟人
ナソル禹笑テイフ吾
命ヲ天ニ受ケカチツ
クシ以テ人ヲ養フ生
ハ性ナリ死ハ命ナリ
何ゾ龍ヲ愛ヘン是ニ
於テ尾ヲ
義和
氏
ナリ合セテ一官トナ
リ曆象ヲ主トリ時ヲ
授
寒泥
后羿ハ嬖
幸ノ臣寒
ハ姓泥ハ名鄒氏ノ曰
ク帝立テ二十八年泥
ノ子ニ滅セラレ夏途
ニ中絶スル者四十年

生少康其後少康有田一成有衆一旅因夏舊臣靡舉
兵滅泥而復禹之績
有窮ノ君ニ羿トイフモノ其弟仲康ヲ立テ政治
ヲ專ニセリ時ニ羲氏和氏羲ヲ守リ和氏服セズ羿王命ヲ假リ胤侯ニ命シテ之ヲ征
伐セシム仲康崩シ子ノ相立テリ羿相ヲ逐フテ自立セリ相ノキサキハ有仍國君
ノムスメニテ懷妊シテ有仍ノ國ニニケカケレ少康ヲ生メリ其後少康十里ノ田
アリ五百人ノ衆アリ夏ノ舊臣胤トイフ者ニヨツテ兵ヲアゲテ泥ヲ滅ボシ禹ノ
舊績ニ復シテ夏ノ天下
自少康以來歷王杼王槐王芒王
泄王不降王局王廛王孔甲好鬼神事淫乱夏德
衰天降一龍有雌雄陶唐氏之後有劉累者學擾龍以
事孔甲賜之姓曰御龍氏龍一雌死潛醢以食孔甲復
求之累懼而逃
少康ヨリ七代ヲヘテ王孔甲ニ至リ鬼神ヲ好ミ之ヲアガメ
淫乱ヲトセリ故ニ夏ノ德衰ヘ天ヨリ雨少ノ龍ヲ降セリ
コレニメスチスアリ之ヲ養フ者劉累ニ陶唐氏ノ後ニテ劉累トイヘルモノア
リ至テ龍ヲナツケルコトニ難シ孔甲ニツカヘリ因テ御龍氏トイフ姓ヲアガ
ヘリ然ルニ龍ノメス死セリヒト云フ者之ヲシホツケトシ孔甲ニ食ハシム再々ヒ
之ヲ與ヘヨト望マレ龍ノ容易ニ殺ガキモノナレバ累ハ禍ヲオソレテ出奔セ
リ
孔甲之後曆王皇王發王履癸號爲桀貪虐力

一龍 左傳諸本乘
龍ニ作ル物
雙ヲ乘トイフ蓋シ此
ノ時河漢共ニ降龍ア
リ而シテ龍各雌雄ア
リ故ニ下文雌雄死ス
トイハズシテ龍
一雌死ストイフ
鐵
一說ニ鐵字
鉤索
ハ當ニ索ノ
下ニアルベシ傳錄ノ
誤リ索ハ繩ナリ淮南
子桀ノ力賂ヲ制シ鉤
ヲ伸ベ鐵ヲ索ニス又
大紀桀能鉤ヲ申ベ鐵
ヲ索ニス是レナリ今
案ズルニ鐵鉤索鐵ヲ
以テ造ル所ノ鉤ト索
トヲ爲ケルノ字
旬自ラ順ナラン
三
其大數チアケ弟
千 千三千食客三千

能伸鐵鉤索伐有施氏有施以末喜女焉有寵所言皆
從爲傾宮瑤臺殫良財肉山脯林酒池可以運船糟堤
可以望十里一鼓而牛飲者三千人末喜以爲樂國人
大崩伐夏桀走鳴條而死七世凡四百三十二年
後三代
目ハ世ニイフ桀ニテ利チムサボリ極メテ暴虐ナリ力量スケレ鐵ノマカリチシ
リタルナハチモトノ如クニノベリ有施氏ノソムケアリ之ヲウテリ有施其女チ
以テメアハセ其心ヲ悅バセリ甚ダ寵アリテ此女ノイフ所ハ皆キトイレリ玉ノ
宮珠ノウテナチツクリ民ノ財ヲツクシテカケリ肉チ山トシホシニクチ林トシ
酒チ以テ池トナセバ船ノ運轉チ自由ニスベク酒カスハ積ミカサチ堤トナセバ
遠ク十里ヲ望ム可キ如キ大ナル一一度太鼓ノチレバ酒チノムト牛ノ飲ガ如ク
三千人モアラン之ヲミテ末喜ハ樂トセリ國人大ニ崩レ之ヲ救フコト能
ハズ湯夏チ伐チ桀鳴條ニ走リテ死セリ夏七代四百三十二年ナリキ
殷
殷王成湯子姓名履其先日契帝嚳子也母簡狄有娥
氏女見玄鳥墮卵吞之生契爲唐虞司徒封於商賜姓
傳昭明相士昌若曹圍曰冥曰振曰微曰報丁報乙報

殷 契ハ初

轉セラル故ニ商ト號
ズ盤庚ノ居ヲ遷スニ
及ビ改メ殷ト號ス湯
ヲ殷トイフハ追稱ナ
リト始ノ 玄鳥 楊
名ニ非ス
ノ曰ク此レ詩ノ天玄
鳥ニ命シテ降シテ商
ヲ生ムノ句アルニ因
テ其說ヲモトメテ得
ズ從テ其說ヲ求メテ
ワカラズ從テ之ガ証
說ヲナス馬氏奇ヲ好
ムノアマリカクイフ
朱子詩傳亦之ニ因テ
改メス按ズル古毛詩
注ニ云フ玄鳥至日太
牢ヲ以テ高祖ヲ祀ル
其福ヲ祈ル時ヲシル
ス故ニ天玄鳥ニ命ズ

丙。主壬。主癸。主癸子天乙是爲湯。始居亳。從先王居。

子姓名ハ履其先代ヲ契トテ高辛氏ノ子母ノ簡狄有娥氏ノ女ニテ昔シ高媒ハ子
ヲモツヤウ祈ル神アリ參詣ノ道ニテツバメノ卵ヲホトセシチノミソレヨリ
妊契ヲ生メリ此人唐虞ノ司徒トナリ商ニ地ヲ賜ハリ子姓ヲウルソレヨリ代々
ヘテ主癸ノ子ノ天乙トイフガ湯ナリ始メテ亳ニ居リ先代ノ相土ノ居リシ處ニ
從テ居リ 使人以幣聘伊尹于莘。進之夏。桀不用尹。復歸
湯。桀殺諫者。關龍逢。湯使人哭之。桀怒。召湯囚夏臺。已
而得釋。湯出。見有張網四面而祝之。曰。從天降。從地出。
從四方來者。皆罹吾網。湯曰。嘻。盡之矣。乃解其三面。改
祝曰。欲左左。欲右右。不用命者。入吾網。諸侯聞之。曰。湯
德至矣。及禽獸。伊尹相湯伐桀。放之南巢。諸侯尊湯爲
天子。
湯人ヲヤリツカヒモノヲモタシ賢者ノ伊尹ヲ辛ノ地ヨリムカヘ桀ニス
メシニ之ヲツカハズ因テ湯ノカタヘモドラレ桀ハ諫メシ者ヲ殺セリ湯其
人ノ處ヘクヤミチイヒニヤレリ桀イカリ湯ヲヨビ夏臺ニオシコメリ然シ程ナ
ク許サル一日湯ノ外ニ出シニアミチ四方ニハリ祝フニ天ノ上ヨリクル者モ地
ノ下カラ出ルモノ及ビ四方カラクルモノコラズコノアミニカハレト湯之ヲ見
テコレテハ鳥ハタマラヌノコラズコノアミニカハレト因テ三方ヲトカセテ一

トイフ古説ハアヤマ
ラズコレニテ史記ノ
アヤマリ知レル然ラ
バ印オノムニアラス
燕ノ來ル時節高祖ヲ
祭リ福ヲ求メ子孫ノ
昌ヘテ祈ル此時ヲ以
テ生ル玄鳥ニ命ズル
ハ時節ヲイフ決シテ
玄鳥ニ命シテ契ヲ生
マシムルニアラ
ズ原文アヤマル 天

乙 禮生ニ王ト稱シ

死ニ廟主ト稱ス皆帝
名ヲ以テ之ニ配ス天
モ亦帝ナリ殷人湯ヲ
尊ム故ニ天乙トイフ
關龍逢 大紀曰
諫テ曰ク人君謙恭敬
用テ節シ人ヲ愛ス

方ニハラシメ左右イツレニモユケ此ノ命ニソムク者ハアミニカハレト改メ祝
セシム諸侯之ヲキ、湯ノ德ハ禽獸ニマデ及フトホム伊尹ハ湯ニ相トナリ桀ヲ
代チ之ヲ南巢ニ放チ諸 大旱七年。太史占之曰。當以人禱。湯
侯湯ヲ尊ビ天子トセリ 曰。吾所爲請者民也。若必以人禱。吾請自當。遂齋戒。剪
爪斷髮。素車白馬。身嬰白茆。以身爲犧牲。禱于桑林之
野。以六事自責曰。政不節歟。民失職歟。宮室崇歟。女謁
盛歟。苞苴行歟。讒夫昌歟。言未已。大雨方數千里。ヒテ
ル一七ケ年ナリ天文者ノウラナフニ人ヲ殺シテイノレバヨロシト湯ノイフソ
レハイカヌワレガ命ヲコフハ民ノタメナリソレヲ殺ストハ以テノ外若シタツ
テトナラバ吾身ヲ以テイケニヘトセント身ヲ清メツメチキリ。髮ヲタチ白木ノ
車白キ馬ニノリ晒シタルカヤチ身ニマトヒ自ライケニヘトナリ祈ルニ六事ヲ
以テシ政事ノ度ヲ失フカ民ノ職ヲ失ヒナンギチ君ガカケルカ宮室ガタガクオ
ゴレルカ婦人ノタノミガ行ハルカ上下マイナヒモノ、行ハルカ人ヲザン
スルアルモノサカンニアルカ若シ此ノ六事ニ背クナケレバ天雨 湯崩。太
子降セトイヒ言ノオハラヌニ大雨忽チ下リ數千里ヲウルチヌ

子(太丁)早卒。次子(外丙)立。二年崩。弟(仲壬)立。四年崩。太
丁之子(太甲)立。不明。伊尹放之桐宮。居憂三年。悔過自

故二天下安クシテ社稷宗廟固シ今王靡民ヲ殺ス唯君ノ後ノ亡シトナソル人心已ニ去リ天命祐ケズナシト少シクアラタメザルキカズ龍達立テ去ラズ桀怒リ遂ニ之ヲ殺シ祝言ヲ以テ神セリ祝言ヲ以テ神ヲ祝ト
大旱七年 實黃ノ曰ク湯ノ早七年或ハ湯在位十三祀ニシテ早ノ年七ノミ若七年ヲ連テ以テ四方早スレバ百穀何ソ種ヲトメシ生民何ソ遺育センヤ 白茆凡ソ神ニ供シシクニ白茆ヲ以テス故ニ身

身ニマ 苞苴 苳ハトフ
△苴モツ、△貨財ハ物ヲ以テツ、△故ニ總テ之ヲ苞苴トイフ也 桐宮 桐ハ湯ノ墓ノナルトコロ伊尹宮ヲ營ミ太甲ヲ此ニ 祥 字典凡放子置ク 祥 吉凶ノ兆皆祥 桑穀 野ノトイフ 今朝ニ生ズコレ朝亡ビ野トナルノ象ナリ 祥桑 略語穀モ亦カレルナリ
大宗中宗高 皆廟ノ號之ヲ宗尊スルナリ其德ノ尊ア可ク歷世コボタヌチイフナリ

賁尹乃奉歸亳修德諸侯歸之自太甲歷沃丁大庚
小甲雍己至太戊亳有祥桑穀共生于朝一日暮大拱伊陟曰妖不勝德君其修德太戊修先王之政二日而祥桑枯死股道復興號稱中宗自太戊歷仲丁外壬至河澆甲避水患遷于相至祖乙居耿又圮于耿歷祖幸沃甲祖丁南庚陽甲至盤庚自耿復遷于亳股道復興 湯ノ崩ツテ太子ハアカヅニ次子立ツ二年ニテ崩シ弟立チ四年ウメイスル三年其過チクヒ自ラ身ヲ責ム心得ナレハ舊ニカヘシ德ヲ修メテ諸侯歸伏セリソレヨリ代チカサ子大戊ノ代ニナリ亳ニ不思議ノアアリ桑ニカザノ共ニ朝ニ生セリ一日ノ暮ニ其大サ両手ニテカコム程丸太ノフトサ位ニナレリ伊陟ノイフ妖怪ハ人ノ德ニハカツテ能ハズ君德ヲ修メヨトイフ因テ太戊先王ノ政ヲ修メリ二日ニシテ右ノ怪シキ植物ハカレ死セリコレヨリイヨリ德ヲ修メ股道復興レリ中宗トイヘリソレヨリ代チヘテ河澆甲ニ至リ水ノ患ベチサケテ相ニウツレリ祖乙ニ至リ耿ニ居リ又水ニテ害チ受ケリソレヨリ五代ベテ盤庚ニ至リ耿ヨリ亳ニウツリ股道マタオコレリ 自盤庚
歷小辛小乙至武丁夢得良弼曰說說爲胥靡築于

傳巖求得之立爲相武丁祭湯有飛雉升鼎而雉武丁懼而反己殷道復興號稱高宗自武丁歷祖庚祖甲廩辛庚丁至武乙無道爲偶人謂之天神與之博令人爲行天神不勝乃僂辱之爲革囊盛血仰射之命曰射天出獵爲暴雷震死 盤庚ヨリ二代ヘテ武丁ニ至リ夢ニヨキタヌケ土チハコビ路警請チナセシガ之ヲ明上ケ立テ相トナセリ武丁一日湯チマツレリ維ノ鼎ノ上ニテナケリ武丁オソレバ身ニカヘリツシメリ因テ股道フマビ興リ高宗トイヘリソレヨリ武乙ノ代ニナリ無道ニテ人形ヲ造リ之ヲ天神トナツケコレト恭チウタシメ人チシテ天神ニカハリウタシメ天神ニアタリシ人マケレバ甚ダ之ヲ辱カシメリ又カハアクロチ造リ血チトリテ之ヲ入レ上ニツルシテ射テ皮チヤブル之ヲ天チ射ルト名付ケアソベリ出テカリシ雷ニウタレテ死セリト 歷太丁帝乙至帝辛名受號爲紂資辯捷疾手格猛獸智足以拒諫言足以飾非始爲象箸箕子歎曰彼爲象箸必不盛以土簋將爲玉杯玉杯象箸必不羹藜藿衣短褐而舍茆茨之下則錦衣九重高臺廣室

毫

祖乙ヨリ以下ハ
都定マラズ盤庚
ニ至リ毫ヲ定メ治チ
ツクリ殷トナヅク

胥靡

胥ハ相ナリ
靡ハ隨ナリ

古ハハ相從テ坐スカ
ロキ刑罪朴刑ニ至ラ
ザル者ハ禍チキ索チ
帶ビ相連レテ役ヲ執
ル

說

楊慎ノイフ武
丁ハカツテ民
間ニ居リ已ニ既ノ賢
ヲ知ル一旦アケテ之
レヲ臣民ノ上ニ加ヘ
ント欲ス人ノ之レチ
承知セズ故ニ之レチ
夢ニカコツケ重キチ
トル殷ノ民ハ鬼チ信
ズ民ノ信ズル所ニ因
テ之レチ導ク是レ聖

人ノ權ヲ用

紂 受ト
フルナリ 音相

近シ時人輒稱シテ紂
トナズ途ニ之チ號ト
ス隘法ニ義チ損シ善
チ害スル等ノ義チ取
ルニ

資辨捷疾

資辨ハ性能言ナリ能
言ハ則チ非チ飾ルニ
足ル捷疾ハ事チ執ル
銳敏ナリ銳敏ナレバ
則チ諫メチ

九重

拒クニ足ル 衣トイフ既モアリ又
宮闈ノ一ニテ深キ一
ナイア 鹿臺 臺ノ
既アリ 名瓊
室玉門チツクリ其大
三里其高千尺ナリ
鉅橋 倉ノ名漕運
ニ便ナラシ

稱此以求天下不足矣

太丁帝乙チヘテ帝辛ニ至リ名ハ受トイヒ號シ
テ紂トイヘリムマレツキヨク辨シスバシコク

猛ケキケモノテ手ウチニシ智愚ハ人ノ諫メチ受ケズ之チ拒ク程ニ足リ言チ吐
ケバ是非ニマケテ言ヒ張ル程ニ足レリ始テ象牙ノハシチツクレリ箕子ナゲ
キテイフコノ勢ニテ増長セバ限リナク管ガヨケレバウツハモカハラケチ用ヒ
ズ玉ノ盃トナラシサスレバアカザヤ豆ノ葉チシルトナサズ又短キ布ノ衣チキ
カヤアキノ家ニ住マハズニシキノ衣ノ九枚重子ニ千丈ザシキノ風テ
ユケバ天下チ以テ來リシモマダ不足ナラシ實ニ欲ハ限リナキモノナリ紂伐

有蘇氏有蘇以姐已女焉有寵其言皆從厚賦稅以實

鹿臺之財盈鉅橋之粟廣沙丘苑臺以酒爲池縣肉爲

林爲長夜之飲百姓怨望諸侯有畔者紂乃重刑辟爲

銅柱以膏塗之加於炎火之上使有罪者緣之足滑跌

墜火中與姐已觀之大樂名曰炮烙之刑淫虐甚庶兄

微子數諫不從去之比干諫三日不去紂怒曰吾聞聖

人之心有七竅剖而觀其心箕子佯狂爲奴紂囚之殷

大師持其樂器祭器奔周紂力有蘇氏チウテリ有蘇女チメアハス寵

鹿臺ノ財チミタシ鉅橋ノ倉ニモミシタシ沙丘苑臺チヒロクシ酒ニテ池
チツクリ肉チカケテ林トシ月チ閉チヨルヒルノ分チナク酒チノメリ百姓大ニ
怨メリ諸侯ニソムク者アリ紂大ニ刑法チ重クシ銅ニテ柱チツクリアブラチヌ
リ之チ火ノ上ニ横ヘテ罪人ハ之ニカミラシム足油ニテヌルミ火中ニガチテ燒
死ス之チ姐已トミテ悅ビ之レチ人チヤク刑トイヘリ淫亂暴逆キハマレリ庶兄
ノ微子ガ數度諫レドモ從ハズ因テ國チ去ル比干ハ諫メ三日去ラズ紂イカリ聖
人ノ心中ニハ七ツ穴アリトキク今比干ハ自ラ以テ聖トナセバアルカナイ試
ミント之チ殺シテ其心チミント箕子ハイツハリ狂人トナリ身チ賤者ノ奴トナ
リ紂之チオシコメリ殷ノ大師ハ音樂ノ具及
ビ祭禮ニ用フル具チ以テ周ニ出奔セリト 周侯昌及九侯鄂侯爲

紂三公紂殺九侯鄂侯爭并脯之昌聞而歎息紂囚昌

爰里昌之臣散宜生求美女珍寶進紂大悅乃釋昌昌

退而修德諸侯多叛紂歸之昌卒子發立率諸侯伐紂

紂敗于牧野衣寶玉自焚死殷亡箕子後朝周過故殷

墟傷宮室毀壞生禾黍欲哭不可欲泣則爲近婦人乃

作麥秀之歌曰麥秀漸漸兮禾黍油油兮彼狡童兮不

與我好兮殷民聞之皆流涕殷爲天子三十。一世六百

長夜飲

深宮夜飲

天已二明ケルヲ知ラズ故ニ長夜トイフ一既ニ紂淫樂ヲナシ百二十一日ヲ以テ一夜トナシ之ヲ長夜ノ飲トイフ庶

兄微子

外紀曰微子及比仲衍ヲ生

△巳ニシテ后トナリ辛子生△乙及比后ハ微子ノ賢ヲ以テ立テ太子トセントス大史法ニ據テ爭テイフ妻ノ子アレバ妾ノ子ヲ立ツ可ラス故ニ紂ヲ立テ後奴婢漢法トス鬼薪是レナリ大師樂官ノ長

二十九年

周侯昌及比九侯鄂ハ紂ノ三公ニテアリ紂九侯ヲ殺セリ鄂侯アリ昌ニ象里ニオシコム昌ノ臣宜生美女珍寶ヲ求メテ進メリ紂大ニ悦ビ昌ヲナルス昌退キ徳ヲ修メリ因テ人々之ニツク死シテ子ノ發立ヲ請侯ヲヒキツレ紂ヲウテリヤアレ寶物珠玉ヲ身ニマツテ自ラヤケ死ニシ亡ア後箕子ガニモトノ殷ノゴタンアトヲ通ルニ宮室ノコハレ田トナリ五穀ノ生セシチナガメ人目モアレバナケズ聲ヲタズナカントセバ婦女子ニ似タリ因テ其傷ミニタヘズ歌ヲツクル其意味ハ今余ガ殷ノアトヲ見レバ夢ノ至テミノリヨク盛ンナリ禾黍トテモ同様ナリカク周ノ盛ナルニカハハラズ殷ノハカナサハソレトイフモ彼ノ紂ノアシキ童ノワレント中アシク合ハザルヨリコトニ至リシトナリ殷ノ民皆流涕ニ及ベリ殷ハ三十一代六百二十九年ナリ

周

周武王姫姓名發后稷之十六世孫也后稷名棄棄母曰姜嫄爲帝嚳元妃出野見巨人跡心欣然踐之生棄以爲不祥棄之隘巷馬牛避不踐徙置山林適會林中多人遷之氷上鳥覆翼之以爲神遂収之兒時屹如巨人之志其游戲好種樹及成人能相地之冥教民稼穡

興於陶唐虞夏之際爲農師封于部別其姓號后稷卒

周ノ武王ハ姫姓ニテ名ハ發后稷十六代ノ孫ナリ后稷名ハ棄棄ノ母ヲ姜嫄トイヒ帝嚳ノキサキ野ニ出テ大ナル人ノ足アトヲフミ心之ヲヨロコビ踐ミソレヨリ懷妊シ棄ヲ生△不吉トナシ之ヲヨコミチノセマキ處ヘステダリ馬牛之ヲヨケテフマズ因之ヲウツン山林ニ置キ猛獸ニ食ハシメントス然ルニ林中人至ルニ會ヒ又死セズ之ヲ此度ハ氷ノ上ニウツス然ルニ鳥來リテ之ヲオホフテタスク爲ニ凍ヘズ因テ之ヲ神ヲザトナシ途ニトリアゲソダテリ子供ノトキヨクダカク大人ノ見込ノ如シアソビニモウエモノ一ノミチナシ能ク土地ノ善ナルヲミワケ民ニ農事ヲ教ヘシメ陶唐虞夏ノアヒダニ興リ農師トマテスミ部ニ封ヒラレ其姓ヲハ分チテ后稷トイヒ奉ス子不窋立夏后氏政衰不窋失其官

奔我狄之間不窋卒子鞠立鞠卒子公劉立復修后稷之業務畊種百姓懷之公劉卒子慶節立國於豳歷皇僕參弗毀險公非高圉亞圉公叔鉏至古公亶父蘧鬻攻之去豳渡漆沮踰梁山邑於岐山下居焉豳人曰仁人也不可失扶老携幼以從他旁國皆歸之夏后氏ノ政ハ衰ヘリ不窋ハ其役ヲ失ヒ夷狄ノ間ニ奔レリ卒シテ其子ノ鞠立チコレモ卒シテ子ノ公劉立テリフタヒ后稷ノ業ヲ務メ耕ヤシ種ユルヲ務メテ百姓之ニナ

史記大師疵小師彌其樂器ヲ持チ周ニ走ル是レナリ註ニ微子トナス非ナリ書ノ微子篇箕子ヲ稱シ父師トナス比干ハ少師トナス微子ハ王子トナス則チ知ル微子ハ大師タラス微子箕子比干下謀リ遂ニ去ル則チ微子國ヲ去ル最モ先キニ上文數々諫メテ從ハズ國ヲ去ル是レナリ周ニ歸リ以テ宗祀ヲ全フスコレヨリ商亡アルノ後ニアリナンゾ其宗器ヲ持シテ周ニ奔ルノ事アラ

周

巨人 大人トイフ
ト屹ハ其志

凡ナラズ屹然トシテ
大人ノ樹立スル所ア
ルガ如キヲ 棄 棄
イフナリ 棄 棄
ク農師トナス農官ノ
長ナリ舞葉ヲ部ニ

封セ 夏后氏政
シム 夏后氏政
衰 夏后氏政衰ハ謂
フハ夏太康國ヲ
失ヒ稷ノ官ヲ廢シ復
農ヲツトメヌコトイ
フ 戎狄 西夷ヲ戎

夷ヲ狄 太伯虞
トイフ 二人太姜ノ出史
仲 配特ニ太姜少子

季歴ヲ生ムトイフモ
ノ季歴太任ヲ娶リ婦
姑相繼ク故ナリテ下
直ニ皆賢婦人ノ一句
ナリテ之ヲ統フ此レ
此ノ一句ナケレバ季
歴二兄ト異母タ
ルニ似タリ 斷

髮文身 フカ
ビカイ
リ來ラザ 荆蠻 荆
ルチ示ス 楚ノ舊號蠻ハ南夷ノ
名正義ニイフ太伯吳
ニ奔ル居ル所ノ城蘇
州ノ北常州無錫縣ノ
界梅里村ニ在リ其城
及ビ家見ニ存ス而シ
テ荆蠻ニユクトイフ
モノ楚越ヲ滅ボシ其
地楚ニ屬セリ秦楚ヲ
滅ス其地秦ニ屬ス秦

季歴ヲ生ムトイフモ
ノ季歴太任ヲ娶リ婦
姑相繼ク故ナリテ下
直ニ皆賢婦人ノ一句
ナリテ之ヲ統フ此レ
此ノ一句ナケレバ季
歴二兄ト異母タ
ルニ似タリ 斷

ツケリ卒シテ子ノ慶節立テリ幽ニ國ヲナシ數代ヘテ古公重父ニ至リ猶鬱セメ
キタル因テ國ヲサリ漆沮ヲ渡リ梁山ヲコヘ岐山ノ下ニムラヲ立テ住居ス幽ノ
人民コノ君ハ仁君ニテ決シテミスナルモニアラズ求メテシタガフベシト老
人ヲタヌスケテ幼者ハ手ニヒキ背ガヒナドノ之ニ從ヒ他ノ國々マテモ皆之ニ歸
セ 古公長子太伯次虞仲其妃太姜生於子季歴季
歴娶太任生昌有聖瑞太伯虞仲知古公欲立季歴以
傳昌乃如荆蠻斷髮文身以讓季歴古公卒公季立公
季卒昌立爲西伯西伯修德諸侯歸之虞芮爭田不能
決乃如周入界見畊者皆遜畔民俗皆讓長二人慙相
謂曰吾所爭周人所耻乃不見西伯而還俱讓其田不
取漢南歸西伯者四十國皆以爲受命之君三分天下
有其二 古公ノ長子太伯次ギハ虞仲其妃即古公ノ夫人太姜少子季歴ヲ生メリ
即古公ノ末子ナリユレガ太任ヲメトリテ昌ヲ生メリ文王ナリ古公ノ
孫生ルレトキ吉瑞アリ殊ニ聖人因テ太伯虞仲ノ二人父ノ末子ノ季歴ニアトチ
ユヅリテ孫ノ昌ニユヅラシム心アルチサツシ兩人季歴ニユヅリテ荆蠻ニユケ
リ彼ノ風ニ身ヲナシ彼國ノ人トナリカミチタチ身ニホリモノヲナシタリ古公
卒シテ公季立ツ公季卒シテ昌立テリ西伯トナリ西伯德ヲオサメリ諸侯之ニ服

セリトキニ虞當田地ノアラソヒアリ決セズ因テ周ニユキ脈ハ決シテモラハン
ト二人ユケリ周ノ界ニイルニ畊ス老ハ皆畔チユヅリアヒ民俗皆長者ニユヅル
風アリ二人大ニ赤面シイフ吾ノ争フ所ハ周人ニ對シ赤面ナリト西伯ニアハズ
還レリ俱ニ其田ヲ讓リテ取ラズ漢南西伯ニ歸スルモノ四十國アリ皆ゴノ人コ
ソ天命ヲウケベキノ君ナリト 有呂尙者東海上人窮困年老
天下三分シテ其二分チ有ス 有呂尙者東海上人窮困年老
漁釣至周西伯將獵卜之曰非龍非黿非熊非羆非虎
非貔所獲霸王之輔果遇呂尙於渭水之陽與語大悅
曰自吾先君太公曰當有聖人適周周因以興子真是
耶吾太公望子久矣故號之曰太公望載與俱歸立爲師
謂之師尙父西伯卒子發立是爲武王東觀兵至於盟
津白魚入王舟中王俯取以祭既渡有火自上復于下
至于王屋流爲鳥其色赤其聲魄是時諸侯不期而會
者八百皆曰紂可伐矣王不可引歸 呂尙トイフモノア東海
釣ノミナシ周ニ至ル西伯一日カリセントシテ之ヲウラナフニ其獲モノハ龍ニ
アラズアマリヤウニアラズ又神獸トモイフクマニモアラズヒケマニモアラズ

楚ノ字ハ莊襄王ノ名
楚ナレバ之ヲイミ吳
越ノ地ヲ通シテ荆ト
ナス北人史ヲ書スル
ニ及ビ又蠻ノ字
ヲ加ヘシナリ

伯 紂文王ニ命シテ
四方諸侯ノ長ト
ナシ征伐ヲ專ニスル
ヲ得故ニ西伯ト稱
ス

麗 彫麗押韻樓輔
古叶

太公 魏了翁曰ク
古ヘ者父ヲ
稱シテ太公
トイフナリ

師尙 詩ノ毛傳ニ曰ク
師ハ太師ナリ尙
父ハ尙アヘク父ノ如
ク又曰師ヲ遇シ尙
ニ父ノ禮ヲ以テス故
ニ師尙父トイフナリ

父 詩ノ毛傳ニ曰ク
師ハ太師ナリ尙
父ハ尙アヘク父ノ如
ク又曰師ヲ遇シ尙
ニ父ノ禮ヲ以テス故
ニ師尙父トイフナリ

自 自ラノボル
上 トヨム方ヨ
ク自然ニノボリ
テ下ルナリ

魄 入聲ニテヨロコビガ
ラス又魄ハ進散ノ聲
論衡雷虛篇其魄然ト
シテ進烈ノ如キモノ
椎ノ擊ツ
所ノ聲

引歸 伐 父ノ志ヲ繼グ故
ニ文王ノ神主ヲ
ノセテ
神農虞
ユク

夏 淳朴祖譜ノ
道ヲイフ
薇 薇非歸衰
押韻ナリ
宗周 業 王
交趾 南 古
ノ起ル所
チイフ

虎ニアラズ猛獸ニアラズ獲ル所ノ者ハ霸王トナル人ノ輔佐タル人ナラントア
シノ如ク呂尙ニ渭水ノキタニアヘリ與ニ語リテ大ニ悦ビ吾先君ノ大公ノ時代
ヨリ周ニハ聖人アレバ彼ニ至ルベシ周ハ聖人ニ因テ興ルトイハレシガ子ガ眞
ニ其人ニテアルカヨロコバシ吾太公子ヲ懇望スルヲ久シト因テ太公望ト名チ
少ケテ一所ニ車ニノセテカヘリ師トナシ教ヲウケリ西伯死シテ子ノ發立テリ
是ヲ武王トナセリ東ニ兵威ヲ示シテ盟津トイフ所ニユクニ白魚ノ王ノ舟中ニ
入レリ是レ殷ノ命周ニ歸スルノ祥白ハ殷ノ色ナリ王俯シテ之ヲ取テマツル既
ニワタルニ火ノ上ニノボリモドレリ其火王ノ船ノ屋根ニキテ火ノヨコニナカ
レ島トカハリ其色ハ赤ク其聲ハイカニモガチツキヨロコビタルナキゴヘチセ
リ是ノ時諸侯約束セズアツマルモノ八百皆紂ハ討ツベシトイヘドモ王キカズ
去ル 紂不悛王乃伐紂載西伯木主以行伯夷叔齊
叩馬諫曰父死不葬爰及干戈可謂孝乎以臣弑君可
謂仁乎左右欲兵之太公曰義士也扶而去之王既滅
殷爲天子追尊太公爲太王公季爲王季西伯爲文王
天下宗周伯夷叔齊耻之不食周粟隱於首陽山作歌
曰登彼西山兮采其薇矣以暴易暴兮不知其非矣神
農虞夏忽焉沒兮我安適歸矣于嗟徂兮命之衰矣遂

餓而死 位牌チノセテユク父ノ志ヲツグ意ナリ伯夷叔齊ノ二人馬チヒキ來リ諫
メテイフ父ノ死シテ葬ラザルニ兵ニ及ブハ孝トハイヘズ臣タルノ身ヲ以テ君
ニ向ヒ之ヲ弑スルハ仁トハ言ヘズコノ義御トマレアレカシト諫メリ左右ノ
者ハ怒リ二人ヲウタントス太公イフイヤ此人々チハ義ヲ守ル人タリ決シテ害
ス可ラズ人ヲ以テタヌケテ其傷ヲ去ラシム王殷チ滅ボシテ天子トナリ古公チ
アトヨリ古公チタツトビ太王トナシ公季チ王季トナシ西伯チ文王トナシ天下
周チタツトビ之チ王トス二人ハ之チハザ周ノ祿チハマズ首陽山ニ隱レテ歌チ
作ル其意ハ彼ノ西山ニノボリテアラビチトリ食フ武王ノ暴臣チ以テ紂ノ暴君
ニカハルモ其アシキチ知ルモノナシ神農虞夏ノ聖君ハ世ニナク天下チユヅ
ル道モイマタチホロビナクナリシ故ニ天下ヲ奪フニ至ルモハヤコノ世ニノソ
ミナシワレインヅクニユカン運命ノツキタルトヨト遂ニ首陽山ニ餓死セリト
武王崩太子誦立是爲成王成王幼周公位冢宰攝政
管叔蔡叔流言曰公將不利於孺子與武庚作乱武庚
者武王所立紂子祿父爲殷後者也周公東征誅武庚
管叔放蔡叔王長周公歸政初武王作鎬京謂之宗周
是爲西都將營洛邑未果王欲如武王之志召公遂相
宅周公至洛築王城是爲東都以洛爲天下中四方入

交ノ地今ハ 烈風

安南國タリ

鹽鐵論ニ云フ周公時

風條ヲ鳴ラサズ烈風

ナキナリ雨ハ塊ヲ破

ラズ淫雨ナキナリ

技南

國ハ南蠻ニ

アリ

林邑

亦南蠻ノ國

ナリ

正四方

正チ四

方ニ取

リ向フ所ニ迷ハザラ

シムルチイフナリ

刑錯

錯ハ指

ト同シ

膠

釘チ以テ船ヲ裝

ハズ膠チ以テ粘

合スルチイフ正義ニ

曰ク昭王德衰ハ南征

シ漢チ渡リ舟人之チ

惡ミ膠船チ以テ王ニ

進メ王船チ御シテ中

流ニ至テ膠液船解ケ

服荒

九服ノ外

荒裔ノ地

ニアリ一世一見ノ者

服風ナリ先王ノ制邦

内甸服邦外侯服候衛

賓服蠻夷要服戎翟

服四面相去

各五百里

服

犯チナ

ソ事分チ非トシテ上

チ犯スチ階トイフ

下堂

王ハ堂上ニ

シ坐諸侯禮

ナ庭上ニ行フ禮ナリ

今王堂チ下リ諸侯チ

見ル周室衰フル

ノ始メナリ

衛

衛國ノ巫ハ其神

能ク前知スルチ

以テ

水塞

二旬水

尙ホ然

十八史略記卷一

三十一

貢道里均也。王居西都而朝會諸侯於東都。周公召公

相成王爲左右人。自陝以西召公主之。自陝以東周公

主之。交趾南有越裳氏。重三譯而來。獻白雉曰。吾受命

國之黃者。天無烈風淫雨。海不揚波。三年矣。意者中國

有聖人乎。周公歸之。王薦于宗廟。使者迷歸路。周公錫

以駟車五乘。皆爲指南之制。使者載之。由扶南林邑海

際期年而至國。故指南車常爲先導。示服遠人而正四

方。武王崩。太子誦立。成王幼。周公旦宰相。長トナリ

政事。ナカリニアツカル。武王弟タル管蔡ノ二人ガ周公チ惡ミ流言チハナチイフ

周公ハ幼君ニ不タメナラント。武庚トイフ殷ノ後タル者チダギコミ兵チアケ周

公東代シ。武庚ト管叔チ誅シ。蔡叔チハナテリ。王生長シテ周公政チカヘセリ。初メ

武王ガ鎬京トテ都チ建テ。宗周トイヘリ。西ユヘ西都トス。又東ニモ洛邑ニ營マン

トシテ。之チトグズ。王武王ノ志チトゲントス。召公遂ニ家チ居ク可キ地チミダテ

周公洛ニイタリ。王城チキヅク。東都是レナリ。洛ハ天下ノ中ニテ四方ヨリ貢キチ

オクル道ノ程同シキ便利チハカリテナリ。王西都ニ居リ。諸侯チ東都ニ會セシム

周公召公成王チタスケ。左右ノ人トナリ。陝ヨリ西ハ召公東ハ周公主ル。交趾ノ南

越裳氏トイフ國三國ノ譯語チ加ヘテ來リ。白キ雉チタテマツル申ス。吾ハ國ノ老

臣ヨリ命チ受ケ來ル。吾國ニハ天ニハゲシキ風モナク。ナカアモナシ。海ニハ波

チ揚ゲザル。三年ナリ。コレトイフ。モオモフニ中國ニ聖人ノアルナラント。因ト

遠路チマイル。周公之チ王ノ德ニ歸センメ。白雉チ宗廟ニス。ヘメリ。使者歸ル路ニ

マヨヘリ。因テ四方チアサギシ。車五少チ賜ヘリ。皆指南ノ制ニテ。南チ指セリ。車中

ニ器チモウクナラン。使者之ニノリ。扶南林邑ノウミノキハチエキ。一年ニテ。國ニ

カヘレリ。ユヘニ此ノ車ハ常ニ人チ案内スルモノニテ。遠方ノ人チ服シテ。四方チ

正ス。トハ此ノ指南車ノ正シク。成王崩。子康王釗立。成康之際。

天下安寧。刑錯四十餘年。不用康王崩。子昭王瑑立。昭

王南巡狩至楚。以膠舟載之。溺不返。子穆王滿立。有造

父者。以善御幸於王。得八駿馬。遊行天下。將皆有車轍

馬跡。王西巡。世傳王以此時。觴西王母瑤池上。樂而忘

歸。徐偃王作乱。造父御王。長驅歸救乱。告楚伐徐。徐敗。

王將征犬戎。祭公謀父諫曰。先王耀德不觀兵。王不聽。

征之。得四白狼。四白鹿。以歸。自是荒服不至。諸侯不睦。

成王崩。子庚王釗立。成康ノアイダ天下ヤスケ。刑罰ハ四十餘年ノアイ

ダ用ヒザルニ至ル。康王崩。子昭王瑑立。昭王南ニユキテ楚ニユクニ船

リ況ンヤ人 一相

太子靜尙ホ幼キヲ以テ乃チ相トモニ協和共ニ國事ヲ理ム因テ以テ其年ニ名ヅケ之ヲ共和トイフ凡テ十四年ナリキ

外 召穆公名ハ虎出方叔荆蠻ヲ南征シ尹吉嚴狄甫ヲ北伐シ仲山甫以テ褒

發之 史記ニ橫シテ之ヲ弁テ厲王ノ末ニ至リテ發シテ之

龍 史記ノ注ニ虻ニ作ル蜥蜴

萬方 方計ナリ計ヲ設ケテ千

萬ニ至リ以テ其笑ヲ

誘フチ 故 故字史記

烽火 史記ニ從ヘバ故ハ猶ホ仍ノゴ

大笑 錢 高キ處ニ於テ之ヲア

笑而シテ卻克ハ兵ヲオコセリ趙ノ妾ハ嬖ヲ笑ヒテ平原君ノ客ハ散セリ幽王ハ火ヲアゲテ諸侯ニタハムレ以テ褒姒ノ笑ヲ發セリ而シテ諸侯ハ叛クヤ呼古ヘヨリ婦人一咲シ微ト雖無窮ノ禍ヲノコス人豈ニ笑ヲ以テ輕忽トナシテ

人王ヲニクミ膠舟ニカハプ子ヲ以テノセ溺レテ返ラズ子ノ穆王滿立テリ遣父トイフモノアリ善ク馬ヲツカフヲ以テ王ニ幸セラレ八ノ名馬ヲ得テ天下ニアソビアルケリ皆イヅクモ車ノワダチ馬ノ足跡ヲツケント王西ニ巡リ世ニ傳フ王ハゴノトキ西王母ト崑崙ノ瀛池ニ酒盛リセリト樂ミテ歸ルトチ忘レタリ然ルニ徐ノ僂王亂ヲ作セリ遣父王ニ御トナリ長驅シテ歸テ亂ヲ救ヘリ楚ニ昔テ徐ヲ伐タシメリ徐ヤブレリ王犬戎ノ夷ヲ征セントス祭公謀父イサメテイフ先王ハ德ヲオサメ之ヲ立派ニシ人ニカヤキ示シテ兵威ヲ見セルトハナサ子バ王止ル可シトイフ然ルニ王キカズ征シテ四ツノ白狼四ツノ白鹿ヲ得テカヘレリコレヨリ荒服トテ要服ノ外

立崩弟孝王辟方立崩子夷王燹立下堂而見諸侯楚始僭稱王夷王崩子厲王胡立無道暴虐侈傲得衛巫使監國人之謗者以告則殺之道路以目王喜曰吾能弭謗矣或曰是障也防民之口甚於防川水壅而潰傷人必多王弗聽於是國人相與畔王出奔彘二相周召共理國事曰共和者十四年而王王于彘王宣王靜立任賢使能有召穆公方叔尹吉甫仲山甫等爲政於內

外王化復行周室中興焉崩 穆王崩シテ子ノ共王立タリ崩シテ子ノ懿王立テリ崩シテ子ノ厲王立テリ無道ニテ暴虐ニテオゴリタカブレリ衛ノカンナギチ得テ國人ノソシル者ヲ察セシメテ之ヲ告クトキハ速ニ殺セリ道路オソレテ人口チキカズ目チ以テミルノミ王喜ビ吾レ能ク謗リチヤメリト或人ノイフコレハ謗

降于庭曰予褒之二君卜藏其穢歷夏殷莫敢發周人發之黎化爲龍童妾遇之而孕生女棄之宜王時有童謠曰厭弧箕服實込周國適有鬻是器者宜王使執之其人逃於道見棄女哀其夜號而取之逸於褒至幽王之時褒人有罪入是女於王是爲褒姒王嬖之褒姒不

謹シミチ致サザ
ルベケンヤ
補

注 前篇褒人ノ神化
シテ二龍トナル
以テ王庭ヲ何フ註ニ
褒ハ夏ト同姓ナリ

逸於褒 網鑑註
シテ褒ニ養ハル聖嬰
褒人罪アリ女ヲ入レ
以テ贈フ

犬戎殺 犬戎ニ殺スル
コトヲ謂フ

幽王 褒姒ニ褒姒
ヲ處ニシ盡
方周ノ路ヲ取り去ル
是ニ於テ諸侯申侯ト
共ニ故ノ太子宜臼ヲ
立少皞ニ火ヲ燧ニ
作ル同註ニ盡ク燧ト
イヒ夜ヲ燧トイフ

驪山 華州渭南縣
ニ在リ古ノ

好^ハ笑^ヲ王^ヲ欲^ス其^ノ笑^ヲ萬^ノ方^ノ不^レ笑^ハ故^ニ王^ハ與^テ諸^ノ侯^ト約^シ有^レ寇^ト至^ル則^チ舉^グ

烽^ノ火^ヲ召^シ其^ノ兵^ヲ來^テ援^ク乃^チ無^ク故^ニ舉^グ火^ヲ諸^ノ侯^ト悉^ク至^リ而^{シテ}無^ク寇^ト褒^姒

大^ニ笑^フ王^ハ廢^シ申^后及^テ太^子宜^臼以^テ褒^姒似^ク爲^ル后^ト其^ノ子^ハ伯^服爲^ス

太^子宜^臼奔^テ申^后王^ハ求^テ殺^ス之^ヲ弗^レ得^テ伐^シ申^后申^后召^シ犬^戎攻^ク王^ヲ

主^ト舉^グ烽^ノ火^ヲ徵^ク兵^ヲ不^レ至^リ犬^戎殺^ス王^ヲ驪^山下^ニ幽^王立^テリ初^メ夏

庭ニ降レリ褒ノ二君トイフウラナフテ其吐ク所ノ龍ノ精氣ヲ永クオサメリ夏
殷ノ二代ヲ過ギ決シテ之ヲヒラカズ周人ノチヒラケリ精氣ハトカゲトカハレ
リ十三ニナル女子ガ之ヲ見テ夫ナクシテハラミ女子チ生メリ之チ不吉トシテ
棄テトナス宣王ノトキ童ノウタフアリ山桑ニテツクル弓竹テアミシ矢ヅトハ
全ク周國チ亡ホサント寸度之ヲ賣ルモノアリ王之ヲトラフ其人ニケ途中ニ棄
テチ見其夜ナキチ不憫ニオモヒ之ヲ取リ褒ニニケリ幽王ノ時ニイダリ褒人ノ
罪アリコノ女チバ王ヒ入レルニ王ハ之ヲ寵シタリ褒姒トイヒトシト笑フコト
好マズ王ノ之ヲ笑ハシメントシ種々計レモ笑ハズ因テ一計ヲ設ク前ヨリ諸侯ト
約シテ敵ノ至ルコトアレバ烽火チアゲテ知ラセルコトセリソレテ各兵チ出シテ
救フ今敵モナキニ火チアゲタリ諸侯ノコラズ至ルニ敵ナシ褒姒大ニ笑ヘリ王
大ニ喜ビ因テ后ト太子ヲ廢シ之ヲ后トシ其子ノ伯服ヲ太子トセリ宜臼ハ申ニ
奔レリ王ノ之ヲ殺サンコトヲ求ム得ズ申チウテリ申侯犬戎ヲヨビ王ヲ攻ム王速ニ
烽火チアゲテ兵來ラ 諸侯立宜臼是爲平王以西都逼於

東 驪戎ノ居ル所故
ニ驪トイフ

遷 聖嬰王ハ豊鎬ノ
犬戎ニ逼ルヲ以
テ乃チ東洛
邑ニ遷レリ

東都 平王東洛邑ノ王城ニ
遷リ即チ周公鼎ヲ定
メルノ所之ヲ東
都トナス

春 春秋ハ魯ノ史記
入名ナリ孔子平
王ノ東遷命令政教ノ
天下ニ行レザルヲ以
テ故ニ因テ之ヲ修メ
テ以テ褒貶ノ法ヲ示
サザルヲ得

鼎輕 禹ノ九鼎ハ猶ホ
世傳聞ノ重ノコ
トノ鼎ノ輕重ヲ問フ
者ハ周ノ天下ヲ奪フ

重

十八史略諸義卷一

子生於其時靈王崩子景王貴立崩子悼王猛立庶弟

三十五

我徙居東都王城時周室衰微諸侯強并弱齊楚秦晉

始大平王之四十九年即魯隱公之元年其後孔子修

春秋始此平王崩太子之子桓王林立崩子莊王佗立

崩子釐王胡齊立齊桓公始霸釐王崩子專王閔立崩

子襄王鄭立晉文公始霸襄王崩子頃王壬匡立崩子

匡王班立崩弟定王瑜立楚莊王使人問鼎輕重王孫

滿郤之定王崩子簡王夷立吳始僭稱王 諸侯宜臼チ立タリ

西都ハ戎狄ニ近クセマレタメ東都ノ王城ニ引移レリ時ニ周ハオトロヘ諸侯強キ

モノハ弱キモノチ并セ齊以下三國始メテ大キクナリ平王ノ四十九年ハ魯ノ隱公

元年ニ當ル其後孔子ノ春秋ヲ作ル之ヲ始トス平王ナクナリ太子ノ子立チコレ

モ崩シ莊王タテリ崩シテ釐王立テリ齊ノ桓公始メテ稱トナリ釐王崩シ子ノ惡

王立テタリ崩シ子ノ襄王立テリ晉ノ文公始テ霸タリ襄王崩シテ子ノ頃王壬匡

立テリ崩シテ子ノ匡王立テリ崩シテ弟定王立テリ楚ノ莊王人チ以テ鼎ノ輕重

ヲ問ハセリ王孫滿之ヲ辨シテシリゾケ 簡王崩子(靈王泄心)立孔

ノ志アリ
ルナリ
晋三氏

皆侯
烈王韓魏趙

ニ命シ侯トナス我足
利ノ季也朝倉織田氏
ニ命シテ國主トナス
ガ如シニ氏皆斯波氏
ノ老臣猶ホ韓魏趙ノ
晋ニ於ケルガゴトシ
補 温史始メテ此ニ
托ス下五代ニ至
リ朱史此ニ因リ綱ヲ
提ケ月ヲ張リ間ニ異
同アリ俱ニ是レ千歲
ノ龜鑑發聲動モスレ
バ紛チ紆致ス其
量チ知ラザル也

西
初メ考王其弟攝
ヲ河内ニ封シ周
公ノ官ヲ續カシム是
チ西周ノ桓公トナス

敬王都チ成周ニワツ
シ東周ト號ス桓公王
城ニ都ス王城ハ即チ
雒邑西周後ニ分レテ
ニト
平王東遷
ナル

敬王都チ成周ニワツ
シ東周ト號ス桓公王
城ニ都ス王城ハ即チ
雒邑西周後ニ分レテ
ニト
平王東遷
ナル
コレ春秋ノ始メ威烈
王ヨリ始メテ戰國ニ
入り般王微弱東西周
分チ王タリ正ニ理ム
各々一都ニ居ル故ニ
東西周トイフ

春秋戰國

十二列國
上文
列叙
スル所ニ據ルニ實ニ
十三國トナスシカシ
十二國トイフモノ吳
ハノチ中國ニ通シタ

子朝弒之。晋人攻子朝而立敬王丐。孔子歿於其時。敬
王崩。子元王仁立。崩。子貞定王介立。崩。子哀王去疾立。
弟思王叔帶襲弒之而自立。少弟考王嵬又攻殺思王
而自立。崩。子威烈王午立。晋趙氏魏氏韓氏始侯。周自
東遷以來及是二十世而愈微。諸侯用兵爭強。號爲戰
國。威烈王崩。子安王驕立。齊田氏始侯。安王崩。子烈王
喜立。崩。弟顯王扁立。諸侯皆僭稱王。顯王崩。子慎靚王
定立。崩。子赧王延立。五十九年。與諸侯約。從攻秦。秦昭
王攻周赧王奔秦。頓首受罪。盡獻其邑。秦受獻而歸赧
王於周。以卒。周爲天子三十七世。初夏亡。九鼎遷。殷
亡。遷周。成王定鼎於郊。郟。卜曰。傳世三十。歷年七百。至
是乃過其歷。凡八百六十七年。
簡王崩シテ子ノ異王立テリ孔子其
時ニ生レリ靈王崩シテ子ノ景王立テ

春秋戰國

崩シテ子ノ悼王立テリハラチガイノ弟子朝之ヲ弒セリ晋人子朝チ攻メリヤ
ガテ敬王ヲ立テリ孔子ハ其時ニ歿セリ敬王崩シテ子ノ貞定王介立テリ崩シテ子
ノ哀王立テリ弟叔帶襲フテ之ヲ弒シテ自立セリ少弟ノ考王又攻メテ思王ヲ殺
シテ自立セリ崩シテ子ノ威烈王立テリ晋ノ三氏始メテ侯トナレリ周ハ東遷
リコノカタニ二十代ニテ愈カスカニナレリ諸侯軍ヲ用ヒ各強キチアラソビ戰國
トナス王崩シテ子ノ安王立テリ齊ノ田氏始メテ侯トナリ安王崩シテ子ノ烈王立
テリ崩シテ子ノ顯王立テリ諸侯皆僭シテ王ト稱セリ王崩シテ子ノ慎靚王立テリ
崩シテ子ノ赧王立テリ五十九年諸侯ト從チ約シテ秦チ攻メリ秦昭王周チ攻メ
リ赧王秦ニラソリ首チサゲ罪チウケリ因テノコラズ其邑チサソリ秦之チウ
ケトリ王チ周ニカヘセリ王卒セリ周天子タルコトハ三十七代初メ夏ノ亡ブルト
キ九鼎ハ殷ニウツル殷亡ビテ周ニウツリ成王鼎チ郊郟ニ定メウラナ
フニ世チ傳フルコト三十年チヘル七百ト然ルニ八百六十七年ニ及ベリ

周平王以後爲春秋之世。其列國與周同姓者曰魯。
曰衛。曰晉。曰鄭。曰曹。曰蔡。曰燕。曰吳。其與周異姓者。
曰齊。曰宋。曰陳。曰楚。曰秦。此其大者。餘小國若春秋
所書。杞。許。滕。薛。邾。莒。江。黃。之屬。不可盡述。於十二列
國之中。有齊桓公。宋襄公。晉文公。秦穆公。楚莊王。五

ルチモツテ之ヲ並ヘ
カソヘザルナリ史記
十二諸侯年表モ亦然
リ案ズルニ春秋吳初
メテ經ニ見ユルハ成
公ノ七年ニ在リ然ラ
バ則チ隱元年ヲ距ル
一殆ソト百四十年

吳

太伯

武王吳伯ヲ
追封ス故ニ

吳太伯トイフ太ハ善
美ノ稱伯トハ長トイ
フ一

上國

ハ上流
ノ國中

國ヲ聘 曲禮諸侯太
指ス 聘 夫チシテ諸
侯ニ問ハシメル

四 聘トイフ

君

諸樊餘祭夷
味僚ナリ

盧

諸樊ノ子僚ヲ殺
シテ自立ス

越

蠻夷ノ
國ナリ 仰瞻

史記越世家ニイフ勾
踐國ニ反ヘリ乃チ苦
身焦思膽ヲ坐ニ置ク
坐臥即チ膽ヲ仰ケ是
レニテハ坐ノ字ヲ重
子テイフ上ノ坐ノ句
ハ坐席チイフ又或ハ
之ニ拘ハリ坐ノ字チ
以テ句トナシ臥ノ字
チ下ニツケテ讀ムモ
ノアリ此ノ説是ナラ
ズ膽ヲ仰ギ頭ヲ仰ギ
テ膽ヲ管ム 檀 材ト
ルチイフ 檀 材ト
ベキトハ之チウエテ
材トナル可キトキチ

覇事跡。若論春秋諸國之終始。有未及戰國而先亡者。有既及戰國而後亡者。各舉其概。周威烈王以後。爲戰國之世。則秦楚燕齊趙魏韓七大國而已。秦楚燕猶爲春秋之舊國。田齊趙魏韓則爲戰國之新國。凡春秋戰國之國。雖繫周之諸侯。而國異政。實不繫於周。難於盡載。附見周之下方。其時各有先後。則觀者詳之。周ノ平王以後チ春秋ノ世トナシ其列國周ト同姓ノ者ハ魯以下七秋ニ書スル所ノ若キ杞許四下六國ノ如キ者ハ一々之ヲ述ルコトナラズ十二列國中ニテモ齊ノ桓公以下四公桓公チ加ヘテ五稱トイヒコレラハ有名ノ事跡ナリ若シ春秋ノ諸國ニツキ終始チ論ズレバマダ戰國ニナラズシテ先ヅ滅亡スルモノアリ既ニ戰國ニナリ滅亡スルモノアリ各其アラマシチアグリ周ノ威烈王以後チ戰國ノ世トナス則チ秦楚燕齊趙魏韓ノ七大國ニ止マル秦楚燕ハヤハリ春秋ノ古國ニテアリ田齊趙魏ハ則チ戰國ノ新規國ナリ凡ソ春秋戰國ノ國ハ周ノ諸侯ニ關係ハナセドモシカシ國々政チ異ニセリ全クハ周ニカトハラヌ之チツクシテアゲラレ又因テ別ニ周ノ下ノ方ニ附ス時ニ先後アレバ看者之チ詳セヨ

〔吳〕姬姓。大伯仲雍之所封也。十九世至壽夢。始稱王。壽

夢四子。幼曰季札。札賢。欲使三子相繼立。以及札。札義不可封。延陵號曰延陵季子。聘上國。過徐。徐君愛其寶劍。季子心知之。使還徐君。已歿。遂解劍懸其墓而去。吳ハ姬姓ニテ大伯仲雍ノ受ケシ地行ナリ十九代ニテ壽夢ノ代ニ至レリ始メテ王ト稱セリ其四子幼者チ季札トイヒ札賢ナリ三子チシテ相ツギ立テ札ニ相續チ及ルサシメントセリ札ハ人倫ニソムクノ義チ以テキカズ延陵ニ地チ受ケテ延陵季子トイヘリ中國ニ使者トナリ徐國チスグ徐君札ノ劍チホシガリ愛セテ季氏心中ニ之チ察シアタヘント許ス然レモ用事ス子バ之チワタス能ハズワカレリヤガテ用スミカヘレバ徐君ハモハヤ死去セリ因テ之チ既ニ許セシユヘ死者トテアザムカズトテ劍チ壽夢後四君而至闔廬。舉伍員謀國事。員字子胥。楚人伍奢之子。奢誅而奔吳。以吳兵入郢。吳伐越。闔廬傷而死。子夫差立。子胥復事之。夫差志復讎。朝夕臥薪中。出入使人呼曰。夫差而忘越人之殺而父邪。周敬王二十六年。夫差敗越于夫椒。越王勾踐以餘兵棲會稽山。請爲臣。妻爲妾。子胥言不可。太宰伯

イフ果シテ吳ハ此ヨ
十三年ニシテ吳滅
ビタ

鴟夷 史記列
傳鴟夷
ノ下ニ革ノ字アリ注
ニ應劭ノ曰ク馬革ヲ
取リ、夷トナス楯ノ
形ヲ按ズルニ字典鴟
夷ハ酒器ナリ酒ヲ入
レル皮アケロ

生聚 民ヲ生シ財
ヲ聚メルナ
リ左傳林註ニ越此レ
ヨリ以テ十年民ヲ生
シ財ヲ聚メ富ンテ後
ニ教ニ故ニ教訓又十
年ノ後

范蠡不 史記ニ范蠡ノ曰
ク會稽ノ一ノ天越
ヲ以テ吳ニ賜フ吳取
ラズ今天吳ヲ以テ越

可 史記ニ范蠡ノ曰
ク會稽ノ一ノ天越
ヲ以テ吳ニ賜フ吳取
ラズ今天吳ヲ以テ越

二賜フ豈ニ天ニ逆フ
可ケンヤ且ツ天ノ與
フル取ラサレバ反ツ
テ其ノ咎ヲウク云々
トア 鴟夷子皮
吳王ノ子胥ヲ殺スナ
以テモルニ鴟夷ヲ以
テ今今蘇自カラ罪ア
ルヲ以テ號トナセリ
因テ之ヲ唱ヘルハ猶
ホ我モ亦一子胥トイ
フガコ 布衣 未ダ
トシ 爵位
ヲ蒙ラザルヲ布
衣トイフ 遺

書大夫種 外記
ニ遺ル書中ニ飛鳥盡
キ其弓藏マル故鬼死
シ走狗烹ラル敵國破
レ謀臣亡ブノ語アリ

詔受越賂。說夫差赦越。勾踐反國。懸膽於坐臥。即仰瞻
嘗之曰。女忘會稽之耻邪。舉國政屬大夫種。而與范蠡
治兵事。謀吳。太宰嚭譖子胥耻謀不用。怨望夫差。乃賜
子胥屬鏤之劍。子胥告其家人曰。必樹吾墓。檟可材
也。抉吾目懸東門。以觀越兵之滅吳。乃自剄。夫差取其
尸。盛以鴟夷投之江。吳人憐之。立祠江上。命曰胥山。
後四君ニシテ闔廬トイフ。代ニナリ伍員トイフ。人物ヲアゲ國ノ事ヲハ
カラシムコレハ伍子胥トイフ人ナリ楚人伍奢ノ子ニテ奢誅セラレテ吳ノ國ニ
奔リ吳ノ兵ヲカリ楚ノ郢ニ入りテサンバンニ敗リ亡父ノウラミヲ報セリ後吳
越ヲ俊ツ闔廬キツキテ死セリ子ノ夫差立テリ子胥復々之ニツカヘリ夫差ア
ダヲ復セント志ザシ朝夕薪ノナカニ身ヲ臥サシメ出入ニ人ニ呼バシ夫差ソノ
方ハ越人ニ父ヲウタレシヲヨモヤ忘レハ致スマツトイハセテハゲム周ノ敬王
二十六年夫差越ヲ夫椒ニ敗レリ越王勾踐餘兵ヲ以テ會稽山ニタテモリキウ
メイセリ請フテ夫婦トモ臣妾トナラン子胥之ヲキガズ然ルニ太宰伯嚭越ノ賂
ヲ受ケ夫差ニ説キテ越ヲユルセリ因テ勾踐國ニカヘリソレヨリキウヲホシ
獸肝ヲ用フルナラン之ヲ坐スル塲所ヤ臥ス所ヘモカケ首ヲアゲテ之ヲナメ自
ラ貴メテイフ汝ハ會稽ノ恥辱ヲ忘レタルカヨモヤ忘ルハアルアジク膽ノ苦
味ニテ其恥ヲ受ケシトキナ忘レザラシム國政ヲアゲ大夫ノ種ニ任セ范蠡ト兵

ヲ治メ吳ヲウツヲ事トセリ時ニ吳ノ方太宰嚭子胥ヲ譖シテ此ノ者己ノ謀ヲ
用ヒラレヌトチ恥ザテ怨ミ居レリト夫差イカリテ劍ヲヤリ自殺セシム子胥イ
カリ其家人ニイフ必ズ我墓ニアツサナウエヨコレガソノ子器トナル時分ニ吳
ハ亡ビン又吾ガ目ヲクヅリ之ヲ東門ニカケテクレキツト越兵ノ吳ヲ滅ス所ヲ
ミント大ニ怒リ自カラ首ヲハチテ死セリ吳王其ナキカラテ取リ之ヲ馬ノカハ
ニツ、ミ之ヲ川ニナゲコミタリ吳人之ヲ不憫ニオモヒヤシロチ川上ニ立テ胥
山トイフ 越十年生聚十年教訓周元王四年越伐吳吳
三戰三北夫差上姑蘇亦請成於越范蠡不可夫差曰
吾無以見子胥為恨冒乃死越既滅吳范蠡去之遺大
夫種書曰越王為人長頸烏喙可與共患難不可與共
安樂子何不去種稱疾不朝或譏種且作亂賜劍死范
蠡裝其輕寶珠玉與私從乘舟江湖浮海出齊變姓名
自謂鴟夷子皮父子治產至數千萬齊人聞其賢以為
相蠡喟然曰居家致千金居官致卿相此布衣之極也
久受尊名不祥乃歸相印盡散其財懷重寶間行止於

蘇轍ノ曰リ范蠡ハ勾踐ノ與ニ患難ヲ共ニスベキヲ知レバ則チ之ヲ爲シテ吳ヲ滅ボシ以テ其功ヲ致スノ與ニ安樂ヲ同フスベカラザルヲ知ル則チ之ヲ棄テ江湖ニ浮ブ仇讎ヲ去ルガゴトシ是ヲ以テ臣君惡名ヲマヌカル賢トイハザルベカラズ

蔡

蔡仲

列國年表ニ云フ武王殷ニ克チ弟叔度ヲ封ズ叔度殷ノ武庚祿父チサシハサミ亂チナセリ其子胡乃チ行チア

陶自謂陶朱公。貨累鉅萬。魯人猗頓往問術焉。蠡曰。畜五牴。乃大畜牛羊於猗氏。十年間貨擬王公。故天下言富者稱陶朱猗頓。越十年ノ間ハ人チアツメ十年ノ間ハ之チ數ヘコミ勞吳ハ三タビ戰ヒテ三タビ敗北セリ夫差姑蘇ノ塞ニホリ亦和陸チコヘリ范蠡キカズ夫差イフ吾ハ子胥ニ面目ナシ頭巾チカブリテ死セリ越ハ吳ヲ滅ボセリ范蠡去レリ大夫種ニ書チオケル越王ノ人トナリハ首ノ長ク口ハ鳥ノ口ノ如クトガレリカヤウノ人相ノ人ハ患チトモニスルニヨキ人ニチ安樂ヲトモムニメル人ニチナラズソナタモ早クサラメカトカク言ヘリ種病氣ト稱シテ參朝セズ或人亂チチサントストザン言セリ越王劍チタモフテ死セシム范蠡ハ其ガサバラヌ賢ヤ珠玉チシマツシテ家來ドモト舟ニ江湖チノリダシ海ニ浮ビテ齊ニ出テ姓名チカヘテ自カラ鷗夷子皮トイヘリ父子産業チ治メテ數千萬ノ身代トナシ官ニ居テハ卿相ノ位チナス此レテハ人間ノハテナリ長ク名ノ高ク人ノ上ニ居ルハ不吉ナルト相ハ御免チチガフト辭職セリ因テ其印チカヘスノコラズ其財チチラシ大切ノ寶チモチヒソカニノガレテ陶ニ止マレリ陶朱公トイフ産ハ巨萬チカサチリ魯人ニ猗頓トイフモノアリ往テ術チ問ヘリ蠡ノイフ五匹ノメスノ牛羊チカヘ之チ本トシ牧畜チナセトコノヨリ十年間ニ利チ得王公ニ比敵スルノ富トナリ天下ニ稱セラレ

〔蔡〕姬姓。蔡仲之所封也。周公蔡蔡叔於郭鄰。其子胡率

〔德〕改行。復封于蔡。後世至春秋之末。爲楚惠王所滅。蔡

〔曹〕姬姓。武王弟曹叔振鐸之所封也。其後世至春秋中

爲宋所滅。曹ハ姬姓ニテ武王ノ弟曹叔振鐸ノ受ケン地ナリ其後春秋ノ世ニイタリテ宋ニウタレテ滅ボサレタリ

〔宋〕子姓。商紂庶兄微子啓之所封也。後世至春秋有襄

公茲父者。欲霸諸侯。與楚戰。公子目夷請及其未陣擊

之。公曰。君子不困入於阨。遂爲楚所敗。世笑以爲宋襄

之仁。其後有景公者。熒惑嘗以其時守心。心宋之分野

公憂之。司星子韋曰。可移於相。公曰。相吾之股肱。曰。可

移於民。公曰。君者待民。曰。可移於歲。公曰。歲饑。民困。吾

誰爲君子。韋曰。天高聽卑。君有君人之言。三宜有動。侯

ラタメ德ニシタガヒ復タ胡チ蔡ニ封シ之チ蔡仲トナス

改行

文王ノ德ニ循ヒ父蔡叔ノ行チ改メリ

曹

世紀ニ曹ハ叔振鐸ヨリ伯陽

宋

阨 阻阨ナリ之チ阻阨ニ迫ラシメ以テ之チ困シメザルチイフ時ニ楚水チワタリテ未ダ列チナサザル故ニイフナリ

襄公

襄公諱公孫當時必不稱

シテ宋公ノ仁トイフ

ニ布列シ各陸度アリ

周天三百六十五度四

分度ノ一分ニテ十二

次トナシ地ノ十二野

ニ配スコレテ分野ト

ナス宋ノ分野ハ尾ノ

四度ヨリ斗ノ六度ニ

至ル折木ノ次ナリ

君者待民人君

待テ其尊齊楚魏

キヲナス與ト敵國

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

魯

史記世家云周武王周

公且子伯禽ノ庸曲阜

ニ封ス是ヲ魯公トナ

ス然ラバ則チ封チウ

少ルモ之ハ周公ナリ

公魯マシ武王ヲ佐ケ

未ダ封ニ就カズ成王

ノ時ニ至リテ伯禽チ

シテ封ニ就カシ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

伯禽

己ガ子チム

チウチ以テ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

報政

獻ホ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

尙切

有功ノ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

遲疾

遠速ト

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

其人ニ存スト雖大

抵強弱ノ分ハ已ニ此

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

トナ

之果徒一度。歷數世。至康王。偃。有雀生。占之。曰。必霸天下。偃喜。敗齊楚魏。與爲敵國。偃淫虐天下。號之曰桀。宋。周慎親王時。齊潛王。與楚魏共伐宋。滅之。而分其地。宋ハ子姓ニテ商紂ノ庶兄微子啓ノ受ケシ地ナリ後世春秋ニ至リ襄公茲父トイフ人アリ諸侯ニ覇タラントノゾミ楚ト戰ヘリ公子目夷其マダ陳取ラヌニ及ビ之ヲ擊タントコフ公ノイフ君子ハ人ヲ難義ノ場所ニ困メズト途ニ楚ニヤアラレタリ之ヲ宋襄ノ仁ト人ハ笑ヘリ其後ニ景公トイフ人アリ此時火星ガ心宿ノ星ヲ守レリコレハ丁度宋ノ境イメニアタル災ハ宋ニアリ公ウレフ天文者子章ノイフワザハイハ宰相ニ移スコシトイヘハ公ハソレハ以テノ外相ハ吾股肱ノタスクナリ然ラバ人民ニ災チウツスベシコレハ愈以テノ外君ハ民ヲ待テ生チトケソノ民ニ災チキス可ラズ然ラバ議ニ移サンソレモ以テノ外議ガ饑饉ナレバ民ハクルシマン吾誰レニヨツテ君トナル民チ困ルシメテドワナルモノカ子章ノイフ天ハ高クシテ卑クキニキク君ハ人ニ君タルノ言三ツアリ何レ星ハウゴクナラント之チウカフフニ果シテ一度ホドウツリ災ナシトイフリレロリ數代ハテ康王ニ至リス。メノカカ生。ムトアリ之チウラナフニ必ズ天下ニ覇タラント喜ブ。大ニ齊楚魏チ敗リ三國トモニクンテ敵國トナレリ偃淫虐トテ身モチアシク其虐ノ桀ノ如キタメ桀宋トイフ周ノ慎親王ノトキ齊ノ潛王楚魏トトモニ宋チ伐テ滅ボシ其地チ分テリ

魯 史記世家云周武王周公且子伯禽ノ庸曲阜ニ封ス是ヲ魯公トナス然ラバ則チ封チウ少ルモ之ハ周公ナリ公魯マシ武王ヲ佐ケ未ダ封ニ就カズ成王ノ時ニ至リテ伯禽チシテ封ニ就カシトナ 伯禽 己ガ子チムチウチ以テトナ 尙切 有功ノトナ 遲疾 遠速トナ 其人ニ存スト雖大抵強弱ノ分ハ已ニ此トナ 魯 史記世家云周武王周公且子伯禽ノ庸曲阜ニ封ス是ヲ魯公トナス然ラバ則チ封チウ少ルモ之ハ周公ナリ公魯マシ武王ヲ佐ケ未ダ封ニ就カズ成王ノ時ニ至リテ伯禽チシテ封ニ就カシトナ 伯禽 己ガ子チムチウチ以テトナ 尙切 有功ノトナ 遲疾 遠速トナ 其人ニ存スト雖大抵強弱ノ分ハ已ニ此トナ

魯姫姪周公子伯禽之所封也周公誨成王王有過則

魯ハ姫姓ニテ周公ノ子伯禽ノ受ケン所ノ地ナリ周公ガ成王ニオシヘテ成王過アレバ伯禽チムチウチ成王ノ行チ改タメシム伯禽封土ニツクトキ之チイマシメテイフニ我ハ文王ノ子武王ノ弟ニテ今ノ王ニハ叔父ナリ因テ自ラオゴリ上ニ立テラルト身ノ上ニアレ然シ我ハ一タビカミ洗フニモミタビ髪チ握リ一度ノ飯ニモ三タビ口中ニアル食チ吐キダシ起テ天下ノ士チアシライセリソレニテモ天下ノ賢人チ失ハンチキツカヘリ子モ魯ニユカバイカニモ謹ミオ

ニ見ル均シク其法ナ
リ其流弊ハ必ス免レ
ズ變シテ之ヲ通ズル
ハ子孫ニアリ

十三世 伯禽ヨ
以下

孝公顯公顯公魏公厲
公獻公眞公武公懿公
伯御孝公惠公隱公ニ
至リテ十三世トナス

三氏 皆桓公ヨリ
出ツ故ニ三

桓ト **執國命** 國
イフ 命ヲトルトハ命ハ命
令ナリ世々國權ヲ執
リ威福ヲナ

中都 中都ハ邑ハ東平
ニ屬ス魯ハ邑長
ナリ大夫トイヒ令ト
イヒ長トイヒ尹トイ

宰 中都ハ邑ハ東平
ニ屬ス魯ハ邑長
ナリ大夫トイヒ令ト
イヒ長トイヒ尹トイ

司空 官
ハ

邦土ノ一ヲ掌ドリ四
民ヲ安ンシ地ヲ與ヘ
地利ヲ時節ニ合セテ
與ヘ授ケルヲ職トス

大 最モ少ナカラズ

司寇 今日ノ警視
官也邦禁ヲ
掌トリ姦慝ヲナシ
暴亂ヲトリシツメ之

左右司馬 官ハ邦政ヲ掌ドリ六
卿ヲズル邦國ヲ平ニ
スル武

優倡 所謂
俗部

三 娼妓ナリ

都 第坤ノ曰ク孔子
三都ヲ墮チ公室

ソレテ國主トイフチ鼻ニカケ驕リタカアルコトハナス可ラズトサトセリ太公ハ
齊ニ封セラレタリ五月ニシテ政ヲ報シ國ヲ治ル方チ上告ス周公ナント速カナ
ルコトナラズヤ太公曰ク吾ハ臣君ノ禮ヲオホマカニシテ其國俗ナリニシテソレ
ユヘハヤシト伯禽ハ上告三年ニ及ブナガシ周公イフナントテマノドレシヨ
其ハソ俗チカヘ禮ヲアラタメ襄ハ三年ニシテノソクコト定メリ周公イフ後ノ
世ハ齊ニ北面シテ仕ヘシニタイ政ハオホマカニヤスグセ子バ民ガ近ク下出
キヌ平ニヤスグムゾウサニスレバ民ハ之ニ歸ス周公太公ニ問フ何チ以テ齊チ
オサムル曰ク賢者チタツトビ功アルモノチタツトブ周公イフソレナレハ後世
君チ試シ位チ奪バフ臣下ノ出ン太公周公ニ問フ二何チ以テ魯チ治メルヤ周公
イフサレバナリ賢者チ尊トビ親族チシタシム太公イフソレナラハ後世ハ上ノ
人ニ賢オナクナリ

公之弟曰桓公桓公之子莊公莊公有庶弟三人曰慶
父其後爲孟孫氏曰叔牙其後爲叔孫氏曰季友其後
爲季孫氏是爲三桓世執國命歷子班閔公僖公文公
宣公成公襄公至昭公伐季氏三家共伐之公奔乾侯
以卒弟定公立以孔子爲中都宰一年四方皆則之由
中都爲司空進爲大司寇相定公會齊侯于夾谷孔子

曰有文事者必有武備請具左右司馬以從既會齊有
司請奏四方之樂於是旌旄劍戟鼓譟而至孔子趨而
進曰吾兩君爲好夷狄之樂何爲於此齊景公心怍靡
之齊有司請奏宮中之樂優倡侏儒戲而前孔子趨而
進曰匹夫熒惑諸侯者罪當誅請命有司加法焉首足
異處景公懼歸語其臣曰魯以君子之道輔其君而子
獨以夷狄之道教寡人於是齊人乃歸所侵魯鄆汶陽
龜陰之地以謝魯

ナ強クセントス部ト
 殺トチコホチ卒ニ成
 ナ隨ツト能ハズ勢ノ
 奈何トモスベキナ
 ナヲモツテ
少正
 ナヲ
卯 柯維祺ノ曰ク孔
 子少正卯ヲ誅ス
 其說ハ荀卿ヨリ出ツ
 朱子論語左氏載セズ
 子思孟子皆ハズ之ヲ
 疑フ然レモ荀卿孔子
 ナ去レ未ダ違カラズ
 或ハ其實ヲ得ン
臠俎 禮郊祭リ畢
 夫ニ致ス祭肉俎ニ在
 ルヲ臠俎トイフ
孔子去魯 其ノ
 簡ミ禮ヲ棄テトモニ
 ナスアルニ足ラザル

クモチ來レリ孔子アリアシニスミ申ス今兩國ノ君好ミチナスニ夷狄ノ樂ハ
 何事ノ齊君心中ニハヤ之ヲサシツシテカタツケサセリ齊ノ有司宮中ニテモテ
 ハヤス樂ヲ奏セント役者セイヒクノドウ化者ナド皆ハムレテ前ニ出ヅ孔子
 大ニ怒リ匹夫ノ身トシテ諸侯ヲマドハス罪ハ誅ニ當ル請フ速ニ法ヲ加フベキ
 ハ其タハムレシ者ヲトクヘテ首ト足トヲ異ニシテ殺セリヤカテ會スム齊君
 大ニオソレカヘリ其臣ニ語テイフ魯ハ君子ノ道ヲ以テ其君ヲ輔佐シ子ハ獨リ
 夷狄ノ道ヲ以テ齊人ニ教ヘ面目ナシト是ニ於テ齊人ハ孔子言於定公
 怪不所ノ魯ノ邪汝陽陰ノ地ヲガハシテ魯ニラビス
 將墮三都以強公堂叔孫氏先墮郈季氏墮費孟氏之
 臣不肯墮成圍之弗克孔子由大司寇攝行相事七日
 而誅亂政大夫少正卯居三月魯大治齊人聞之懼乃
 歸女樂於魯季桓子受之不聽政郊又不致臠俎於大
 夫孔子遂去魯定公卒子哀公立欲以越伐三桓不克
 歷悼公元公至繆公知尊子思而不能歷共公康公
 至平公嘗欲見孟子而不果歷文公至頃公爲楚考烈
 王所滅魯自周公至頃公凡三十四世
 孔子定公ニ申シ三桓
 ノ私邑毀郈成ノ三部

ナ知ル故ニ幾
 ナ見テタツ **鼎**
 銘ハ考父廟ノ鼎
 ノ銘文左傳昭ノ
 七年孟僖子
 ノ語ニ見ル **銘詞**
 句ゴトニ韻ナリ魏水
 叔ノ曰ク是ニ體ス三
 句此レ只鼎ノ意ヲ完
 フシ上文トワタルナ
 シ然レモ分ニ隨テ自
 ラ足ス致テ多ギテ求
 メズ正ニ上文 **俎**
 ト相關セリ
豆 牲體ヲ乘スナ俎
 トイヒ菹醢ヲモ
 ルヲ豆 **料量** 料ハ
 トイフ 度リ
 調羹ヲモツテ言フ量
 ハ多少ヲ概量スルナ
 ヲ米穀ヲモツナイフ
 平ハ均齊ノ言フハ

チコホチ公室ヲ強クセントス叔孫氏ハ先ツ郈ヲコホチ季氏ハ後ヲコホチリ孟
 氏ノ臣ハ成チコホツトチ不承知ニテ之ヲカコミシモ克ツトテキス孔子大司寇
 ヨリ相ノトチカチ行ヒ七日目ニテ政ヲミダス大夫ノ少正卯ヲコロセリ居ル
 三月ニテ魯大ニ治ル齊オソレ女樂ヲオクリ國ヲ乱サントス季桓子之ヲ受ケリ
 政チキカズ天ヲマツリテ祭ノ肉ヲ大夫ニクハラズ孔子遂ニ去レリ定公卒シ子
 ノ哀公立テリ越チ以テ三桓ヲ伐ントセシモ及ハズ悼公元公チヘテ繆公ニ至リ
 子思チ尊アトチ知リ用ブルト出来ズ共公康公チヘテ平公ニ至ル孟子チ見ント
 セシニトケズ文公チヘテ頃公ノ代ニイタリ楚ノ考烈王ニ滅サレ魯周公ヨリ頃
 公ニイタルマテ凡テ三 **孔子名丘字仲尼其先宋人也有**
 十四代ニテアリキ **正考父者佐宋三命滋益恭其鼎銘云一命而僂再命**
而僂再命而俯循墻而走亦莫余敢侮僂於是粥於是
以餬予口孔氏滅於宋其後適魯有叔梁紇者與顏氏
女禱於尼山而生孔子爲兒嬉戲常陳俎豆設禮容長
爲季氏吏料量平嘗爲司機吏畜蕃息適周問禮於老子
反而弟子稍益進適齊齊景公將待以季孟之間孔子
反魯定公用之不終適衛將適陳過匡匡人嘗爲陽虎

聚散出納ノ間輕重多寡均齊ヲ得ルナリ孟子所謂會計司當ル是レナリ

織吏 史記ニ司織司職ニ作ル

周禮ニ牛人鄭註駘讀シテト機ナス以テ牛ヲ繫ク

拔樹 孔子ニキ禮ヲ大樹ノ下ニ習ハス宋ノ司馬桓魋

之ヲ殺サントシ其樹ヲ拔ク孔子去ル弟子ノ曰ク以テ速ニスベシ孔子曰ク天德ヲ我ニ生セリ桓魋ソレヲチイカン

寶 賢太夫ナリ趙簡子未ダ尙ホ得ザルノ時此ノ二

鳴犢舜華 晉ノ賢太夫ナリ趙簡子未ダ尙ホ得ザルノ時此ノ二

人ヲ用ヒ而シテ後政ニ從フ其已ニ志ヲ得ルニ及ビ

不濟 此ノ字句ナリ

此命也 此ノ字句ナリ

新序此ノ水ヲ濟ラズト作ス家語ニハ鳥獸ノ不義ニ於ル尙ホ之ヲ避ケルヲ知ル況ンヤ人ヲ於テ

適陳 論語ヲ案スル則チ糧ヲ絶ツハ當ニ此時ニアル

反于蔡 追溺稱斯スル一丈人篠ヲ衛フ等ノ事アリ

何爲於是 何故ニ乃チ此ニアリトイフゴトシ

所暴孔子貌類陽虎止之 孔子名ハ丘字ハ仲尼其先ハ宋ノ人正考父ト云者アリ宋ニ補佐トナレリ此人出世スルタ

ビニイヨリ再命ニテ大夫トナレバ其容ハ前ヨリモウヤバシクウツムケリ三命ニテ卿トナレバ愈頭ヲタレテウヤバシク選避ノ甚ハダシキカキノワキヲ通リ

政ヲ中央チユカズソノ位ニセバ人ハ余チアナドラズ是ニウスガユチ食シ是ニアツガヒチ食シテ予ノ口チスゴスト孔氏宋ニ家タエシ其子孫ガ魯ニユキ叔梁紇トイフモノアリ顔氏ノ女ト尼山ニイノリ孔子チ生メリ兒タルトアソビニモ

肉チアケル蓋チザツキノダケヒチナラハ儀式ノカタノミチシテアソベリ生長ノ後季氏ノ吏トナリ米穀ノ會計ヨクアヘリ又ケモノチアツカレ役トナレバ獸類何レモ肥ヘ其數チマセリ周ニユキ禮ヲ老子ニトヘリ反ヘツテ弟子次第ニス

ニ反ヘリ定公之ヲ用フルトトグズ衛ニユキ陳ニユカントシテ匡チ通レリ匡人ハ前ニ陽虎トイフ者ニ手アラキ目ニアイシトアリ孔子ノ貌陽虎ニ似タルチ以テ之ヲ止メ

既免反于衛醜靈公所爲去之過曹適宋 與弟子習禮大樹下桓魋伐拔其樹適鄭鄭人曰東門

有人其類似堯其項類臯陶其肩類子產自要以下不及禹三寸纍纍然若喪家之狗適陳又適衛將西見趙

簡子至河聞寶鳴犢舜華殺死臨河歎曰美哉水洋洋

乎丘之不濟此命也反于衛適陳適蔡如葉反于蔡 既陽虎ニアラザルトトヤカリマカレ衛ニ反ヘル靈公ノ所爲チニクミ去リ曹チ

スギテ宋ニ適フ弟子ト禮式チ大樹ノ下ニテ習ハセリ桓魋其樹チ伐リ拔ケリ鄭ニユクニ鄭人ノ孔子チソシルニ東門ニ人ノ居テ其トタヒ堯ニ似テ其ウナシ

ハ臯陶ニ類シ其肩ハ子産ニ似テコシヨリ以下ハ禹ニ及バヌ一三寸程シボシホトシテ憂ヘアルト襄ノアル家ノ狗ノ主人ノ哀ミ飲食チアヌヘラレヌ如キ有様

トイヘリ陳ニユキ又衛ニ適ク西趙簡子チ見ントシテ河水ニ至ルニ寶鳴犢舜華ガ殺サルトトコニ河ニソソミテ歎シテ曰フニ美ナルカナ河水ノ水ヒロクトシ

テカハラヌモ丘ノコトチアタリカシヨニ至ル能ハザルハ運命ノツケル所ナリト衛ニ反リ陳ニユキ蔡ニユキ

楚使人聘之陳蔡大夫謀曰孔子用於楚則陳蔡危矣相與發徒圍之於野孔子曰詩云

匪兕匪虎率彼曠野吾道非邪吾何爲於是子貢曰夫子道至大天下莫能容顏回曰不容何病然後見君子

楚昭王興師迎之乃得至楚將封以書社地七百里令尹子西不可孔子反于衛季康子迎歸魯哀公問政終

不能用乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

不能乃序書上自唐虞下至秦繆刪古詩三千爲三

夫子

便環ニ云フ 夫子ノ稱ハ 始メテ魯ノ泰誓ニ見ル將士ヲ指スナリ春 秋ノ時ニイタリテ先 王長者ノ稱トナス故 ニ孔門弟子孔子ヲ稱 シ皆夫子ト曰フ此レ 當時ノ稱ニ沿ル特ニ 之ヲ創スルニアラズ 惟專ハラ子トイヘハ 則チ孔門弟子ノ孔子 ヲ稱シテ自リ 易 始マルナリ 是レ人事ノ吉凶悔吝 ヲ明ニスルモノソノ 書タル造化ヲ推シテ 人事ニ合ハシム伏義 ハ卦ヲ衛キ文王ハ衆 ヲ繫キ周公ハ爻ヲ繫 ギ孔子ハ之ガ傳ヲ爲 ル皆人ニ教フルニ謹

百五篇皆絃歌之禮樂自此可述晚而喜易序象象繫 辭說卦文言讀易章編三絶因魯史記作春秋自隱至 哀十二公絶筆於獲麟筆則筆削則削子夏之徒不能 贊一辭子弟三千人身通六藝者七十有二人 孔子ヲ禮チ

以テ召ベリ陳蔡ノ大夫ノ謀チイフ孔子ガ楚ニ用ラルトキハ陳蔡ハ危ク必ズ 兵ヲ出サン因テ之ヲウツニ若カズト共ニ人數ヲ出シテ之ヲ野ニガコモリ孔子 イフ詩ニイフ野牛ニアラズ虎ニアラズ彼ノ廣キ野ニ循ヒ行クトアリシカ今我 モ汝等ト歐ニアラズシコノ野ハラチタドリユクソレトイフモ吾道ノヨカラザ ルニハ難義チスルカナニユヘニカクノ如クナルヤト子貢ノイフ夫子ノ道ハ至 テ大イナリソレ故ヘ天下ニテ容レヌナラン顔回イフイヤ容レテクレンハ何シ ヲウレトスルニ當ランソレテ始メテ君子タル所ノ見ヘルト語レリサスガ顔 氏ハエライモノ楚ノ昭王師ヲ興シテ之ヲ迎ヘリ因テ楚ニイタルコトヲ得地行書 社ノ地七百里ヲ以テセントス令尹子西之ヲ承知セズ孔子平衛ニ反レリ季康子迎 ヘテ魯ニカヘラス哀公政ヲトヒタリ然シ用ヒトホサズ因テ書經チノハ堯舜ヨ リ秦ノ穆公マテ古詩ハ三千チケツリ三百五篇トセリ皆之ヲ樂ニノセラレベリ 禮樂モコレニテ述ルコトヲ得後ニ禮記樂記チツクラレシ晩年ニ易チ好マレトシキ チノペラレリ易チヨム皮ニテカハリニ竹ノ三度マテキレリ魯ノ史ニモトツキ 春秋チツクリ隱公ヨリ哀公ニ至リ十二公筆ヲ獲麟ニ止メリ筆ニスベキハ奮然 ラザレバ削ル子夏ノ文學者モ一言チ以テ口ヲヘスルコト能ハズ弟子三千 人アリ身六藝ニ通セシモノ七十三人アリ年七十三ニテ死去セラル 年七

十三而卒子鯉字伯魚早死孫伋字子思作中庸孟子

其門人也名軻魯孟孫之後生於鄒幼被慈母三遷之

教長受業子思之門道既通游齊梁不用退與萬章之

徒難疑答問作七篇○老子者楚苦縣人也李姓名耳

字伯陽又曰字聃爲周守藏吏孔子問焉老子告之曰

良賈深藏若虛君子盛德容貌如愚孔子去謂弟子曰

鳥吾知其能飛魚吾知其能游獸吾知其能走走者可以

以爲網游者可以爲綸飛者可以爲矰至於龍吾不能

知其乘風雲而上天也今見老子其猶龍乎 子ノ鯉字ハ伯

孫ノ伋字ハ子思中庸チツクレリ孟子ハ其弟子ナリ名ハ軻魯ノ孟孫ノ後都ニ生 レリ幼ノトキ慈母處チ三度カヘ教チナス生長ノ後業チ子思ノ門ニ受ケ學成リ 聖賢ノ道ニ達シ齊梁ニ游ベリ用ヒラレズ因テ退キ萬章ノ徒ト疑ハシキチ互ニ 難問シアヒ七篇ノ文チ作レリ老子ハ楚國ノ苦縣ノ人ニヤ李姓名ハ耳字ハ伯陽 又字ハ聃トイヒ周ノ守藏吏トテ朝廷ノ寶器ノダシ入チアツカル役ナリ孔子之 ニトヘリ老子告ケ良キ商人ハ深ク品チ所持シナキ如ク君子ハ盛ンナル徳アリ

畏預防ノ法ヲ以テ後 世假テ神ヲ誣ヒ入チ 欺クトシ又以テ其ノ 身ヲ害ス懼ルベシ 獲麟 春秋哀十四 年西ニ狩リ シテ麟ヲ獲ルニ止マ ル麟ハ仁獸王者ノ瑞 時ニ明王ナク出テト 獲ラルルニ過フ孔子 周道ノ興ラザルチ傷 ミ感シテ筆ヲ絶ツナ リ 鄒 本ト郡ノ國地 魯ノ封内西 猶龍 ノ隔ニアリ 茅坤云フ老子猶ホ龍 ノニトシ其見ル所ノ 能ク遠ク物外ニ逃 ルヲ以テナリ 至關 王門關ナリ 列仙傳ニ關

令尹老子下俱ニ流沙
ニユク流沙ハ玉門關
ノ外ニ
關令尹

柯維祺ノ曰ク案ズル
ニ莊子列子載スル所
關尹子ノ論其旨微妙
道徳篤ニ似タリ班固
藝文志道家關尹子九
篇アリ既若曰ク即チ
關令尹
之乱 注非
喜ナリ
南子ニツキ内亂ノ起
リシチイフナリ

南子 宋ノ女
出 左傳定公十
四年ニアリ 輒
出 太子 蒯聵チイ
公 太子 蒯聵チイ
臣 石乞孟繁チ
子

テ其容具ハ愚者ノ如クナルベシト孔子弟子ニイフ鳥ハ飛ビ魚ハオロギ歌ハ奔
ル走ルモノチトル網ニテトルオヨクモノハ約糸飛ブモノハ糸ツキノ矢チ以テ
トル可シ龍ニ至リテハ之ヲハカルト出来ヌ風ト雲トニノイテ天上
スルガトマリ其位ノ一龍ハ計ル可ラズ今老子ハ龍ノ如キナリト 老子見
周衰去至關關令尹喜曰子將隱矣爲我著書乃著道
德五千餘言而去莫知其所終其後有鄭人列禦寇蒙
人莊周亦爲老子之學莊周著書侮孔子而誚諸子焉
老子周ノ衰フルチ見テ函谷關ニ至ル關ヲ守ルモノ喜ノイフ子マサニ隱レシト
ス我ノ爲ニ書チ著ハセト因テ道徳五千餘言チ書キ著ハシ去リ其終ルトキチシ
ラズ其後鄭ノ人ニ列禦寇トイフアリ蒙ノ人ニ莊周トイフアリ亦老
子ノ學チナセリ莊周ハ著書アリ孔子チアナドリ語チチソシレリ

〔衛〕姬姓。武王母弟康叔封之所封也。後世至春秋有靈
公夫人南子之亂。子蒯聵欲殺南子。不果出奔。公卒立
蒯聵之子輒。蒯聵入。輒拒之。子路與其難。太子之臣以
戈擊子路。斷纓。子路曰。君子死冠不免。結纓而死。衛人
醜子路。孔子聞之。命覆醢。戰國時。子思居於衛。言苟變

路 子路ハ輒ノ方ニ
テ太子ノ兵チフ
セギ 醢 子路ノ禍チ
死ス 痛ミ其似チ
食フニ 干城 詩ニ
忍ビズ 周南
鬼宜ノ驚云ク赴々武
夫公侯干城トアリ

鳥之雌雄 相似
シガタキ者ナリ言フ
ハ自ラ以テ聖人トナ
ス則チ能ク其言
ノ是非チ別タズ 君
角 角國チ失ヒ隘ナ
シ故ニ唯君ト稱
ス後五皆
此例ナリ

鄭

可將衛侯曰變嘗爲吏賦於民。食人二雞子。故弗用。子
思曰。聖人用人猶匠之用木。取其所長。棄其所短。故杞
梓連抱。而有數尺之朽。良工不棄。今君處戰國之世。而
以二卵棄干城之將。此不可使聞於鄰國也。衛侯言計
非是。而群臣和者如出一口。子思曰。君之國事將曰非
矣。君出言自以爲是。而卿大夫莫敢矯其非。卿大夫出
言自以爲是。而士庶入莫敢矯其非。詩曰。具曰予聖。誰
知鳥之雌雄。周之諸侯。惟衛最後亡。至泰并天下爲帝。
二世始廢君角爲庶人。衛ハ姬姓ニテ武王ノ同母ノ弟康叔封ノ受ケシ
地ナリ後世春秋ニイタリ靈公ノ夫人南子ノ乱
アリテ子ノ蒯聵ハ南子チ殺サント欲セリトグズニケ靈公死シ蒯聵ノ子輒チ立
テリ蒯聵國ニ入ラントス輒之チフセク子路輒ノ方ニテ蒯聵ノ方ノ臣ニマタリ
アヒ冠ノヒモチキラル君子ハ死シテモ冠ハマガズトヒモチ結ンテウタレリ衛
人子路チシホツケトセリ孔子之チキキ命シテ子路ノ禍チイタミシホツケノ者
チステシム戰國ノ時子思衛ニ居リ言フ苟變イフ人ハ大將ニナスベシ衛侯ノイ
フ變ハマヘニ吏トナリ民ニソリツケ一人ヨリ雞卵二ツチトリ食ヘリ故ニ左傳

子産

簡公ノ時已ニ相ト爲リ

聲公卒スルニ至リソ

レマテツトメリ史記

左傳皆

然リ

子産仁愛忠厚卒スル

ニ及ビ猶人之ヲ悲シ

ミ親戚ヲ亡フガ如シ

孔子爲ニ泣テ曰ク古

ノ遺愛

ナリ

兵

鄭ハ晋楚ノ間ニ

介スルヲ以テ故

ニ數度其兵ヲ被

ムルナリ

受

レ之

一説ニ穆襄ノ

後ヲ受ルチイ

フ兵ヲ受ルノ謂ニア

ラズ此ノ言ハ從フ可

キニ似

タリ

ノモノハツカハス于思イフ聖人ノ人ヲ用フルコトハ大工ノ木ヲツカフゴトシ其長クヤクダツ處ヲトリ其短クヤクニタトヌ處ヲ棄ツ故ニマルバ柳アツサノ尺ノビフトサノアルモノニ五六尺ノ朽タトコロガアルモ其工ハコレヲサテズ用フ今君ハ戰國ノ世ニ居リ二卵ノ爲ニ干城ノ將ヲ棄ルハ隣國ヘキカセラレヌコナリト諫メリ此時衛侯ノ言ノ計ハヨカラズソレニ群臣ハ皆一致至極ヨシトイフ群臣ノ君ノ非ヲトガメメ于思イフ君ノ國事ハ日々ニアシカリナン君ガ言チダシ自ラヨシトイヘバ卿大夫ハ決シテソノアシキチ直スコトナシ上ヨリ大夫士庶人ト段々ニソウナツテ皆之ヲ分別セルコトナキニ至ラン具ニ予ヲ聖トイフ鳥ノメスチヌノ遠モリカラヌ況ンヤ聖チヤ人々ノムザト世辭チイヒホメルハアテニナラズ周ノ諸侯惟衛バカリ最モ後ニ亡ア秦ノ天下チ并セテ帝トナルニ至リ君角チ庶人トス

鄭姫姓。周宣王庶弟桓公友之所封也。桓公子武公。與其子莊公。並爲周司徒。數世至聲公。相子産。子産者公族。國氏名僑。孔子過鄭。與子産如兄弟云。穆襄以來。鄭無歲不被普楚之兵。子産受之。以禮自固。雖普楚之暴不能加焉。鄭至周威烈王時。君乙爲韓哀侯所滅。韓徙都之。鄭ハ姫姓ニテ周ノ宣王ノ庶弟桓公友ノ受ケシ地ナリ桓公ノ子武公其子莊公ト並ニ周ノ司徒トナリ數世聲公ニ至リ子産チ相ニセリ子産ハ公族ニテ

晋

圭

王諸侯ヲ封ツ圭ヲ賜ヒ以テ瑞信

ヲナス五等

各異ナリ

史佚

林有望ノ曰ク史記チ

觀ルニ桐葉弟ヲ對ス

ル史佚之ヲ成スヤ明

カナリ周公入テ賀ス

ルト曰フガ若キ史之

ヲ見ズ然レモ其事又

劉向說苑ニ見ル信ズ

可ラザルモノアリ

介推子

左傳ニ

作ル注ニ介ハ姓推ハ

名之ハ諱助ナリ

寒食

寒冷ノ食文

公子推ノ火

國氏名ハ僑孔子鄭チナスギ子産ト兄弟ノ如クシタシメリ穆公襄公ヨリコノカタ鄭ハ歳トシテ晋楚ノ兵チウケザルナシ子産之ヲウケルニ禮義チ以テアタレバ晋楚ノ暴ト雖之ニ暴チ加ヘルコト能ハズ鄭周ノ威烈王ノ時ニ至リ君乙韓ノ哀侯ニ滅ボサレテ韓ハ移リ之ニ都ス

晋姫姓。成王弟唐叔虞之所封也。成王幼與叔虞戲。削桐葉爲圭。曰。以此封若。史佚請擇。曰。王曰。吾與之戲耳。佚曰。天子無戲言。遂封唐。後世至文公。霸諸侯。文公名重耳。獻公之次子也。獻公嬖於驪姫。殺太子申生。而伐重耳於蒲。重耳出奔。十九年而後反國。嘗餒於曹。介子推割股以食之。及歸。賞從亡者。狐偃趙衰。顛頡。魏犢。而不及子推。子推之從者。懸書宮門。曰。有龍矯矯。頃矢其所。五蛇從之。周流天下。龍饑之食。一蛇割股。龍返於淵。安其壤土。四蛇入穴。皆有虛處。一蛇無穴。號于中野。公曰。噫。寡人之過也。使人求之。不得。隱綿上山。中焚其山。

ニ死スルヲ哀シミ故
ニ其日ヲ以テ火ヲ禁
シ炊煮セザ

韓趙
韓慶趙無恤魏駒
ノ三人ナリ

家人
居家ノ人官
職ナキチイ
フ

齊
齊ノ弟夷
無知
仲年ノ子ナ
リ襄公無知ニ於テ從
父弟タリ此ニ弟無知
トイフ恐クハ弟
ノ字ヲ衍ス

置
ハステカク己チ
井ルノ怨ヲカク

九合
トイフ
糾古字通用
一則
仲父
桓公悉ク國
政ヲ管仲ニ
マカスチイフ呂覽ニ
有司事ヲ桓公ニ請フ
桓公ノ曰ク以テ仲父
ニ告グ曰有司又公ニ
請フ曰ク仲父ニ告グ
曰是ノ如キモノ三々
トイフ

尸蟲
尸腐爛蟲
ヲ生ズ尸
蟲トイ
晏子
擊嬰
フナリ
子齊ニ相トシテ食肉
ヲ重サズ妾帛ヲ衣
ズ其先人ヲ祀ル
豚肩豆ヲ掩ハズ
平
擊嬰ノ註ニ平ハ
仲
註ニテ仲ハ字ナ

子推死焉後人爲之寒食。文公環綿上田封之。號曰介山。
晉ハ姬姓ニテ成王ノ弟唐叔虞ノ受ケシ地ナリ成王幼キトキ叔虞トタハムレ桐
葉ヲ削リ圭トナシ此ヲ以テ汝ヲ大名ニセシカキヤク佚日チエラマントイフ王
ノイフ晋ハ之トタハムレ佚ノイフ天子ニタハムレトナフナシ遂ニ唐ノ地チ
アトフ後ノ世文公ニ至リ諸侯ニ稱タリ文公名ハ重耳獻公ノ次男獻公驪姫チ嬖
セリ太子ノ申生チ殺セリソゴテ重耳チ蒲ニ伐テリ重耳出奔セリ十九年ニハテ國
ニカヘリ前ニ曹ニテ餒ユシテアリ介子推己ノ股チサキ之ニアタラ歸ルニ及ビ
トモニ從フ者チ賞セリ子推ハ及バズ子推ノ家來書チ宮門ニカケイフ龍アリ重
耳ニタラフ強壯ニテシメラク居所チ失ヒ五蛇ノ從ヒテ天下チメグルアル日龍
ガ繼ヘテ食ニ乏シキニ一蛇ハ股チサキ食セシム龍ハ各淵ニ返リ其壤土ニ安ン
シ四蛇モ穴ニ入り皆トコロアルニ一蛇ハ穴ナク野中ニナケリナントアハレナ
ラズヤト公之チキトコレハアヤマレリト人チ以テサガサスニ得ズ綿上ノ山中
ニ隱レリ其山チヤケリ子推ヤケ死セリ後人之ガタメ其日ハ寒食チキンシ寒食
トイフ文公綿上ノ田チト
リマキ高クシ介山トイフ

子推死焉後人爲之寒食。文公環綿上田封之。號曰介山。
晉ハ姬姓ニテ成王ノ弟唐叔虞ノ受ケシ地ナリ成王幼キトキ叔虞トタハムレ桐
葉ヲ削リ圭トナシ此ヲ以テ汝ヲ大名ニセシカキヤク佚日チエラマントイフ王
ノイフ晋ハ之トタハムレ佚ノイフ天子ニタハムレトナフナシ遂ニ唐ノ地チ
アトフ後ノ世文公ニ至リ諸侯ニ稱タリ文公名ハ重耳獻公ノ次男獻公驪姫チ嬖
セリ太子ノ申生チ殺セリソゴテ重耳チ蒲ニ伐テリ重耳出奔セリ十九年ニハテ國
ニカヘリ前ニ曹ニテ餒ユシテアリ介子推己ノ股チサキ之ニアタラ歸ルニ及ビ
トモニ從フ者チ賞セリ子推ハ及バズ子推ノ家來書チ宮門ニカケイフ龍アリ重
耳ニタラフ強壯ニテシメラク居所チ失ヒ五蛇ノ從ヒテ天下チメグルアル日龍
ガ繼ヘテ食ニ乏シキニ一蛇ハ股チサキ食セシム龍ハ各淵ニ返リ其壤土ニ安ン
シ四蛇モ穴ニ入り皆トコロアルニ一蛇ハ穴ナク野中ニナケリナントアハレナ
ラズヤト公之チキトコレハアヤマレリト人チ以テサガサスニ得ズ綿上ノ山中
ニ隱レリ其山チヤケリ子推ヤケ死セリ後人之ガタメ其日ハ寒食チキンシ寒食
トイフ文公綿上ノ田チト
リマキ高クシ介山トイフ

公成公景公厲公至悼公。霸業復盛。又歷平公昭公頃
公周室益弱。而六卿范氏知氏中行氏趙氏魏氏韓氏
皆大。歷定公至出公。知氏與趙魏韓氏分范中行氏。公
怒。四卿反攻公。公出奔而死。哀公立韓趙魏氏。又滅知
氏而分之。幽公立。晉獨有絳曲沃。餘皆入韓趙魏氏。號
爲三晉。烈公立。三卿以周威烈王命爲侯。又歷孝公至
靜公。魏武侯韓哀侯趙敬侯共廢靜公爲家人。而分其
地。晉絕不祀。
文公卒スソノ後遂ニ代々覇トナリ襄公ヨリヘテ悼公ニ至リ霸
業マタ盛ヌ平公昭公頃公チヘテ公室ハイヨ、弱クナリ六ノ家
老ガ大キクナリ定公チヘテ出公ニ至リ知氏趙魏韓氏ト范ト中行氏チ分テリ公
怒リシニ四氏ハウラミテ公ノ方ニ向ヘリ公出奔シテ死セリ哀公立チ三氏ガ知
氏チ滅ボシテ之チ分テリ幽公タチ晋ハ獨リ絳州ノ曲沃チ有テリ餘ハ皆三氏ニ
入り三晋トイヘリ烈公立チ三卿周ノ威烈王ノ命チ以テ侯トナリ又孝公チヘテ
靜公ニ至リ魏ノ武侯韓ノ哀侯趙敬侯ト共ニ靜
公チ廢シ家人トシ其地チ分チ晋ハ祀チタツ

擁 之手抱持スル
チイフ

補 左傳襄二十八年
晏子ニ邴殿其鄙

六十ヲ與ヘテ受ケズ
子尾ノ曰ク富ハ人ノ
欲スル所ナリ何ゾ獨
リ欲セザル對テ曰ク
慶氏ノ邑ハ欲チ足ス
故ニ亡ア吾ガ邑ハ欲
ニ足ラズ之ヲ益スニ
邴殿チ以テス乃チ欲
ニ足ル亡アル日ナケ
ン外ニアリ吾ガ一邑
ヲ宰スルヲ得ズ邴殿
チ受ケザルハ富チ惡
ムニアラズ富チ失ハ
ンチ恐ル且ツ富ハ
布帛ノ幅アルガ如シ
之ガ制度チナシ選ル
ナカラシムルナリ按
ズルニ利害損益ノ度

其人ノ意匠ニ係ル本
文ト合セ見テノチニ
コノ人ノ善ク之ヲ度
ルチ見ル可シ

豚肩 豚ハ豕ナリ
禮記集說ニ

大夫ノ祭リニハ少年
ヲ用ヒ豚ヲ用フベカ
ラズ周人ハ肩チタツ
トア肩ハ翅ニオキ豆
ニハオク可ラズ此レ
但ニ其極メテ少ナキニ
タトフナリ豚ノ兩肩
ヲ併セテ亦以テ豆チ
掩フニ足ラザルチイ
フ故ニ豆チカリテ之
チイフノミ禮ハ豊カ
ナラズ殺ナラザルチ
タツトア晏子ハ之チ
殺ニ失スルモノナリ
補 晏子春秋ニ景公
酒チノム酣ナル

覇桓公爲始。名小白。兄襄公無道。群弟恐禍及子糾。奔魯。管仲傅之。小白奔莒。鮑叔傅之。襄公爲弟。無知所弒。無知亦爲人所殺。齊人召小白於莒。而魯亦發兵送糾。管仲嘗遮莒道。射小白中帶鉤。小白先至齊而立。鮑叔牙薦管仲爲政。公置怨而用之。仲字夷吾。嘗與鮑叔賈分利多。自與鮑叔不以爲貧。知仲貧也。嘗謀事窮困。鮑叔不以爲愚。知時有利不利也。嘗三戰三走。鮑叔不以爲怯。知仲有老母也。仲曰。生我者父母。知我者鮑叔也。桓公九合諸侯。一匡天下。皆仲之謀。一則仲父。二則仲父。齊姜姓。太公望呂尚ノ受ケシ地ナリ。後世桓公ニ至リ諸侯ニ朝タリ五霸ハ桓公ガ始メニテ名ハ小白兄ノ襄公イカメ人多クノ弟禍ノ來ルチ恐レ魯ニ奔レリ管仲之ニモリ役タリ小白莒ニ奔リ鮑叔之ニモリ役タリ襄公弟ニ殺サレ弟モ人ニ殺サル齊ノ人小白ヲ莒ヨリ召ア魯ヨリモ兵ヲ出シテ糾ヲ送ル管仲前ニ莒ノ途中ニテ小白ヲ射ル帶ニツクワニ當レリ小白光ツ至テ齊ニ立ツ鮑叔牙仲チスルム公前ニ己レチ射タカラミチステ用フ仲ハ字ハ夷吾前ニ鮑叔ト商

法ス利分チアケル多ク己ニ取ル鮑叔之チムサホルトセズ仲ノ貧チ知レバナリ
マタ事チハカルニヤリコメラレセマシムル鮑叔之チ愚トセズ時ニ利ト不利アレバ
一時ノチチカレカレノハズ又三タビ戰ヒ皆敗北スルモ之チ卑怯トセズ仲ガ老
母ノアルチ知リ老母ニ氣チ取ラルトサレバ仲イフ我チ生ム者ハ父母我チヨク
知ル人ハ鮑子ナリト桓公諸侯チ九タビ合ハセ天下チ一タビ正セリ九ハ糾ナリ
ト左傳ニアリ其說ヨシハヒトマトメニ正スコレハ皆仲ノ謀ナリ一事ノ起ル
コレモ仲ニ次ノ事 仲病桓公問群臣誰可相易牙如何仲
曰殺子以食君非人情不可近開方何如曰倍親以適
君非人情不可近蓋開方故衛公子來奔者也豎刁何
如曰自宮以適君非人情不可近仲死公不用仲言卒
近之三子專權公內寵如夫人者本皆有子公薨五公
子爭立相攻公尸在床無殯斂者六十七日尸蟲出于
戶 仲病トナル桓公問フ群臣誰カ相トス可キ易牙トイフモノ何如仲ノイフ已ノ
子チ殺シ君ニ食ハシム人情知ラズ決シテ近ク可ラズ開方ハ此人親ニソムキ
君ニキニイルヤウス人情知ラズ近ク可ラズソレニコノ人ハモトノ衛ノ公子ノ
オチアレナリ豎刁ハイカバコノモノ自ラ宮刑チウケシ者ト自分ト男根チタチ
君ノ所ニスミコメリ人情知ラズ近ク可ラスカク言ヒ死ス仲死シ其ニソムキ之
チ用フ三子權チ專ニス公內寵夫人ノ如キモノ六人アリ皆子アリ公薨セリ五公

トキ曰ク今日願クハ
諸大夫ト樂飲ヲナサ
ン請フ禮ヲナスコトナ
カラン晏子登然トシ
テ容ヲ改メテ曰ク君
ノ言アヤマル群臣固
ヨリ君ノ禮ナキヲ欲
スカ多クレバ以テ其
長ニ勝ルニ足リ勇多
キハ以テ君ヲ弑スル
ニ足リ而モ禮セシメ
ズ禽獸力ヲ以テ政ヲ
ナシ強キモ弱ヲ犯
シテ日主ニテ易ヘバ
君將タ安ンカ立ン凡
ソ人ノ禽獸ヨリ貴キ
所以ノ者禮アルヲ以
テナリ故ニ詩ニ曰ク
人ニシテ禮ナケレバ
ナンゾスミヤカニ死
セズト禮ハナカルベ
カラズ公キカズ少間

公出ツ晏子起ズ公入
ニモ晏子起ズ交々ア
グルトキハ則チ先ツ
ノム公怒テ色ヲ變ズ
抑手疾視シテ曰ク爾
キニ夫子ノ寡人ニ教
ヘシハ無禮ノ不可ナ
ク寡人出入スルニ起
ズ交々アグルトキハ
先ツ飲ム禮カ晏子席
ヲ避ケ再拜稽首シテ
請テ曰ク嬰敢テ君ト
言テ之レヲ忘レンヤ
臣以テ無禮ノ實ヲ致
スナリ君若シ禮ナカ
ランコトヲ欲セバ此
レ是レナリ公ノ曰ク
是ノ若キハ孤ノ罪ナ
リ夫子席ニ就ケ寡人
命ヲ聞ク禮三行シテ
遂ニ酒ヲ罷ム蓋シ是
ノ後ヲ法ヲ師ヒ理チ

子立シテ争ヒ公ノ尸ハユカニアリ之ヲオサメルコトナキ
六十七日ノ長キニ及ベバ尸ヨリ出ワキ尸ヨリハイダセリ 自桓公八
世至景公有晏子者事之。名嬰字平仲。以節儉力行。重
於齊。一狐裘三十年。豚肩不掩豆。齊國之士待以舉火
者七十餘家。晏子出。其御之妻從門間窺其夫擁大蓋
策駟馬。意氣揚揚自得。既而歸。妻請去。曰。晏子身相齊
國。名顯諸侯。觀其志。嘗有以自下。子爲人僕御。自以爲
足。妾是以求去也。御者乃自抑損。晏子怪而問之。以實
對。薦爲大夫。公使晏子之晉。與叔向私語。以爲齊政必
歸陳氏。如其言。景公後五世至康公。田和受周安王命
爲侯。遷康公海濱。以死姜氏。遂絕不祀。桓公ヨリ八代ニテ景公
フリ事ヘリコノ人コノ上ナキ節儉ニテ齊ニ尊敬セラレ一校ノカハゴロモチ三
十年キタリ神ニサシアゲルザツキノ豚モ豆ニ出ルヤウニ多クキラズ齊國ノ士
ハマツシク晏子ノ御影ニテ助ケテ得テカマドニ火ノアガル者ガ七十餘軒アリ
一日晏子出ツ其御者ノ妻門ノスキマヨリミル其夫ハ大ナルカサチカヘ四匹

ノ馬ニムチウチ大得意ニテユケリヤガテ家ニカヘリ其妻去ランコトヲ請フ其
言ニ晏子ハ齊國ノ相ニテ名ハ諸侯ニアラハル其志ヲ見ルニイツモ自カラ人ニ
下レリソレニ引カヘツナタハタカノ知レタ人ノ僕トナリ馬ノ御者ナリ然ルニ
自ラコレテ足レリトス妾ソレ故ニ去ンコトヲ求ムト御者大ニハツソレヨリ自
分ハズツトオサヘヘリクダシ晏子心ゾキトヘリカクサズコトヲ因テアハレミ
カツハ其志ヲホメ大夫ニシテヤリシト景公晏子ヲ晉國ニユカシムニ叔向ト私
シニモノガタリテ齊ノ政ハ陳氏ニ歸セントイヒシガ全クソノコトナレリ景公
ノ後五代ニテ康公ニ至リ田和周ノ安王ノ命ヲ受ケ侯トナレリ康公チ海濱ニ遷
サシメ死セシメ妻氏ノ○田氏齊者本媯姓故陳厲公佗子
齊ハ遂ニ絶テマツラズ
完之後也。完奔齊爲陳氏後。又以陳爲田氏。完事齊桓
公爲正卒。諡敬仲。五世至釐子乞。事齊景公爲大夫。
其收賦稅於民。以小斗受之。其粟予民。以大斗行私惠
於民。而公弗禁。由是得齊衆。乞專政。卒。子成子恒。弑簡
公立平公。封邑大於公所食。田氏齊ハ本ト媯姓ニテ故ノ陳ノ厲公ノ
以テ田氏トナシ完ハ齊ノ桓公ニ事ヘテ工正トナレリ卒シ敬仲ト諡ラル五世釐
子乞トイフ者ニ至リ齊ノ景公ニ事ヘテ大夫トナル其賦稅ヲ民ニトル小ナルマ
スニテウク其粟ヲ民ニアトフトキハ大マスアトラセルカクシテ私ノ惠ヲ民ニ
行ヘリ公之ヲ禁ゼズ因テ齊ノ人望ヲ得乞政ヲシマニシテ卒セリ子ノ成子恒

修メテ國政ヲ
治メテ百姓務ム

田 陳田ノ二字
聲相近キナ

氏齊 以テ遂ニ田氏トナス
或ハイフ敬仲既ニ奔
リ本國ノ號ヲ稱スル
ヲ欲セズ故ニ陳ノ字
ヲ改メテ田氏ト
ナスナリ

子乞 史記ヲ按ズ
ルニ敬中完
ノ子穉孟庚孫涇孟莊
曾孫文子須無孟孫桓
子無字其子即チ
釐子乞ナリ

家 押韻ナ
即墨

大夫 大夫ハ邑宰
ナリ

萬家 萬月ノ
邑ナリ

補

史記世家云フ齊威王
始メ國ヲ治メ民服セ
ズ王之ヲ患フ時ニ即
墨ノ大夫類リニ毀晉
ヲ致シ阿大夫類リニ
譽言ヲ致ス即チ王人
チシテ之ヲ察セシム
然レモ毀晉ノシキリ
ナル即墨却テ大ニ治
マル民安堵而シテ阿
ノ民穰セズ邊境存リ
ニ相犯シ因テ王二人
チ召シ而シテ賞ス可
キヲ賞シ罰スベキヲ
罰ス是ニ於テカ民皆
悅服百姓穰穰ナリト
シ邊境コトナリ
齊漸ク盛ンナリ
枚 物ノ數一ノチ枚
トイフナリ
檀 姓ナリ史名
チ佚ス

簡公ヲ弑シテ平公ヲ立テリ
地ハ公トリマヘヨリ大ナリ

恒卒襄子盤立。與韓趙魏通使。

蓋三家且有晉。而田氏且有齊也。歷莊子白至太公和

遂以周安王命爲侯。卒子桓公午立。卒子威王因齊立。

初不治諸侯皆來伐。八年楚大發兵加齊。齊使淳于髡

請救于趙。齎金百斤車馬十駟。髡仰天大笑。王曰。先生

少之乎。髡曰。臣見道傍有禳田者。操一豚蹄。酒一壺。祝

曰。甌窶滿篝。汙邪滿車。五穀蕃熟。穰穰滿家。臣見其所

持者狹。所欲者奢。故笑之。王乃孟黃金千鎰。白璧十雙。

車馬百駟。髡乃行。時齊國幾不振。王乃召即墨大夫。語

之曰。自子之居即墨也。毀言日至。然吾使人視即墨。田

野辟。人民給。官無事。東方寧。是子不事吾左右以求助

也。封之萬家。召阿大夫。語之曰。自子之守阿。譽言日至。

吾使人視阿。田野不辟。人民貧餒。趙攻鄆。子不救衛。取

薛陵。子不知。是子厚幣事吾左右以求譽也。是日烹阿

大夫。與魯譽者。群臣聳懼。莫敢飾詐。齊大治。諸侯不敢

復致兵。

恒卒襄子盤立。與韓趙魏通使。蓋三家且有晉。而田氏且有齊也。歷莊子白至太公和。遂以周安王命爲侯。卒子桓公午立。卒子威王因齊立。初不治諸侯皆來伐。八年楚大發兵加齊。齊使淳于髡請救于趙。齎金百斤車馬十駟。髡仰天大笑。王曰。先生少之乎。髡曰。臣見道傍有禳田者。操一豚蹄。酒一壺。祝曰。甌窶滿篝。汙邪滿車。五穀蕃熟。穰穰滿家。臣見其所持者狹。所欲者奢。故笑之。王乃孟黃金千鎰。白璧十雙。車馬百駟。髡乃行。時齊國幾不振。王乃召即墨大夫。語之曰。自子之居即墨也。毀言日至。然吾使人視即墨。田野辟。人民給。官無事。東方寧。是子不事吾左右以求助也。封之萬家。召阿大夫。語之曰。自子之守阿。譽言日至。吾使人視阿。田野不辟。人民貧餒。趙攻鄆。子不救衛。取薛陵。子不知。是子厚幣事吾左右以求譽也。是日烹阿大夫。與魯譽者。群臣聳懼。莫敢飾詐。齊大治。諸侯不敢復致兵。

男子ノ美稱古ヘハ大
夫皆子ト稱ス

威王言 楚國以
テ寶ト

オス丁ナシ惟善以テ
寶トナスノ意ナリ

盼 當ニ盼ニ作ルベ
シ盼盼三字ハ

自ラ異ナリ舊註之ヲ
混同スルモノ非

黔夫 姓
名ナリ史其

姓ヲ失ス **稷下**
劉向別錄ニ曰ク齊ニ

稷門アリ城門ナリ説
談ノ士稷下ニ期會ス

ルナリ索隱ニ曰ク齊
地記云齊城西門系水

ニ側シ左右講室趾ア
リ往々存焉蓋シ系水

ニ側スルニヨリ故ニ

無[△]可シ是ノ日阿ノ大夫トホメシモノチカマカニセリ群臣ゾツトシテ決シ
テカザリイツハリチイフモノナシ齊太ニ治マレリコレヨリ諸侯モクツシテ兵
ヲ齊ニ
△ケズ **威王與魏惠王會田于郊** 惠王曰齊有寶乎王

曰無有 惠王曰寡人國雖小猶有徑寸之珠 照車前後

各十二乘者十枚 威王曰寡人之寶與王異 吾臣有檀

子者使守南城 楚不敢爲寇 泗上十二諸侯皆來朝 有

盼子者使守高唐 趙人不敢東漁於河 有黔夫者使守

徐州 則燕人祭北門 趙人祭西門 有種首者使備盜賊

道不拾遺 此四臣者將照千里 豈特十二乘哉 惠王有

慚色 威王卒子宣王立 喜文學游說之士 騶衍淳于髡

田駢慎到之徒七十六人 皆爲上大夫 是以齊稷下學

士盛且數百千人 然而孟子至而不能^レ用^レ 威王魏王ト村ニ

王イフ齊ニ寶アリヤ威王イフイヤ寶ハナイ惠王イフワタシノ國ハ小トイヘド
スコシハ寶ガアリラタリ一寸ノ夜光ノ珠車ノアトサキチ十二車ヲ照ラス者十

稷門トイフ古側稷音

相近キヲ以テイフ又

廣喜ノ曰ク齊ニ稷山

アリ館ヲ其下ニ立テ

以テ遊士 **孫臏** 則

ヲ待ツ **齊軍帥**

トイフ猶ホ則跪顯布

ノ例ノ **齊軍帥**

ゴトシ **齊軍帥**

當ニ軍帥ニ作ルベシ

史記ニ齊王孫臏ヲシ

テ將タラシメントス

臏辭謝シテ曰ク刑餘

ノ人不可ナリ是ニ於

テ乃チ田忌ヲ以テ將

トナシ而シテ孫子師

個アリトホコレリ威王イフワタシノ寶ハ王ト異ナリ吾臣ニ檀子トイフ人アリ南
城ニ守タラシメ楚ハ決シテ泗上ニ兵チアケズ十二ノ諸侯ハ皆來朝セリ盼子ト
イフモノアリ高唐ニ守タラシメ趙人ハ決シテ東河ニスナドリセズ黔夫トイフ
者アリ徐州ヲ守ラシメ燕人ハ北門ニ祭リ趙人ハ西門ニ祭リテ使シ來ラマシ
ニ祭リテ福ヲ求メリ種首トイフ人アリ盜賊ニ備ヘシメ道ニ遺セシチヒロハ
ズ此ノ四臣ハ千里ヲ照ラサントシ十二車ノワツカニ止ラズトイヘバ惠王赤面
セリ威王卒シテ子ノ宣王立テリ文學ノ士ヲ遊ヒ人君ニ説ク者チコノム名士多
ク來リ上大夫ニセリ是ヲ以テ齊ノ稷下即城門ノ學士ノ盛ナルトハ幾ン下千人
ガ七八百モアリ孟子至 **魏伐韓韓請救於齊** 齊使田忌爲將
ルニ之ヲ用ユル能ハス **魏伐韓韓請救於齊** 齊使田忌爲將
以救韓 魏將龐涓嘗與孫臏同學兵法 涓爲魏將軍 自
以所不能及以法斷其兩足而黥之 齊使至魏竊載以
歸至是臏爲齊軍帥 直走魏都 涓去韓而歸 臏使齊軍
入魏地者爲十萬竈 明日爲五萬竈 又明日爲二萬竈
涓大喜曰 我固知齊軍怯 入吾地三日 士卒亡者過半
矣 乃倍日并行逐之 臏度其行暮當至馬陵 道隘而旁
多阻 可伏兵 乃斫大樹白而書曰 龐涓死此樹下 令齊

孟嘗君 孟ハ字嘗ハ邑

ノ名史記ハ以テ諡トナス索隱ニイフ號シテ孟嘗君トイフ

臨トイフ非ナリ

白裘 狐腋ノ白毛ヲアツメテ

裘ヲツクルヲイフ甚ク美ニシテ得ガタキモノ所謂干羊ノ皮ハ一狐ノ腋ニ如カザルモ 便家ニ云傳

傳 ハ驛遞ナリ古ハハ車駕ヲ以テ之ヲ傳車トイフ舊注ハ傳ヲ以テ驛券トナスノ説ヲ取ル之ヲ失ス

補 司馬公ノ曰ク君子ノ士ヲ養フハ以テ民ノ爲ニスルナリ易ニ曰ク聖人賢チ

養ヒ以テ萬民ニ及ブ今孟嘗君ノ士ヲ養フヲ智愚ナレズ咸チヲ擇メズ其君ノ祿ヲ盜ミ以テ私黨ヲ立テ虚威ヲ張リ上ハ其君ヲ侮ドリ下其民ヲ害ス是レ奸人ノ雄ナリ

補 綱目ニ齊韓魏秦ヲ伐チ其軍ヲ函谷關ニ敗ル河涇絶ル一日秦河東ノ三城チサキ以テ和セリ又三國乃チ退ケリ

戰國縱横ノ世秦山東ト毎ニ相傾ク田文秦ヲ伐ツ漢ニ盛

王 第一トナス

孫賈母 己レチヲ愛ス

ルノ情ヲ以テ子ノ君ヲ忘ルノ心ヲ賣ム

師善射者萬弩夾道而伏期暮見火舉而發涓果夜至斫木下見白書以火燭之萬弩俱發魏師大乱相失涓自剄曰遂成堅子之名齊大破魏師虜太子申魏韓チ伐

齊ニ請ヘリ齊田忌ヲシテ將トシテ韓チ救ハシメリ魏ノ將龐涓孫臏ト同シク兵法ヲ學ベリ涓ハ魏ノ將軍トナリ自ラウザノ及バザルチ以テ法ヲ用ヒ其兩足チキリ入レズミセリ齊ノ使魏ニイタル時之ヲツレテ歸ル是ニ至リ龐ハ齊軍ノ師トナリスケニ魏都ニユケリ涓韓チ去テ歸ル龐齊軍ノ魏ノ地ニ入ル者ニ命シ

十萬ノカマドヲツクラシメ翌日ハ五萬又其翌日ハ二萬ト段々ヘラシ人ノヘル如ク見セカケシ涓喜ビ我レ齊ノ軍ノ卑怯ナルチ知ルウツカ三日ニ過半ノ兵ハ去レリ因テ勇ミタツテ日ヲ倍シ一日ノ歩行ノ道チ二日分ゾ歩行キ人數チ井

セテ之ヲ逐フ龐其行チハカルニ暮ニ馬陵ノ方ニケルナラシ道ハセマクツバニ險阻多ク兵チ伏スベシ因テ大樹チキリ白クシテ奮ス龐涓此ノ樹下ニ死セント

齊ノ師ノヨク射ル者ニ命シ多クノ石ニミチ道チ夾ミテ伏セシメ暮ニ火ノアケルチ見テ發セト涓アンノ如クキリシ木ノ下ニキテ白書ヲ見テ火ニテ之ヲ見ル

トタンニ萬弩一度ニ發ス敵ミダレチレリ涓因テ自ラ首ハチテ死ス時ニイフト

チ々色々氣チモミ刑人ニシテモ彼ニ名チアケラレタリト齊大ニ魏ノ師チ破リ太子チ虜ニス

宣王卒潛王立靖郭君田嬰者宣王之庶弟也封於薛有子曰文食客數千人名聲聞於諸侯號爲孟嘗君泰昭王聞其賢乃先納

質於齊以求見至則止囚欲殺之孟嘗君使人抵昭王幸姬求解姬曰願得君狐白裘蓋孟嘗君嘗以獻昭王

無他裘矣客有能爲狗盜者入秦藏中取裘以獻姬姬爲言得釋即馳去變姓名夜半至函谷關關法鷄鳴方

出客恐秦王後悔追之客有能爲鷄鳴者鷄盡鳴遂發

傳出食頃追者果至而不及孟嘗君歸怨秦與韓魏伐

之入函谷關秦割城以和孟嘗君相齊或毀之於王乃

出奔宣王卒セリ潛王立テリ靖郭君田嬰ハ宣王ノ庶弟ニテ薛ニ地チ受ケリ子アリテ文トイヘリ食客數千人アリ名聲ハ諸侯ニキコヘリ號シテ孟嘗君トナス

秦ノ昭王其賢チキリヨツテ先ヅ人質チ齊ニ入レバハントムユケバ囚ヘ之チ殺サント孟嘗君人チヤリ昭王ノ幸姬ニイノチゴロチセリ姫ノイフド

ウカ君ノ狐ノソキノ白ニテ製ス皮衣チ得ント孟嘗君コレハ前ニ昭王ニ出シ他

ノモノナシ客ニ能ク狗トナリ盜チナス者アレバ之チ殺ス入リテ之チ取テ

姫ニ獻セリ姫爲ニ言テ釋サルトチウル姓名チカヘ夜半ニ函谷關ニイタル關ノ

法雞鳴キ方ニ客チ出モリ秦王ノアトニ悔ヒ之チ追ハシテ恐ル客ニ雞ノ鳴キ

コヘヨクスル者アリ雞ガ盡ク鳴ケリ因テ全ク夜明トナシ門チヒラケバ宿次キ

馬ニテカケ出レ朝飯ゴロニ追フモノ果シテ至レリマニアハズ孟嘗君タスカリ

質於齊以求見至則止囚欲殺之孟嘗君使人抵昭王幸姬求解姬曰願得君狐白裘蓋孟嘗君嘗以獻昭王無他裘矣客有能爲狗盜者入秦藏中取裘以獻姬姬爲言得釋即馳去變姓名夜半至函谷關關法鷄鳴方出客恐秦王後悔追之客有能爲鷄鳴者鷄盡鳴遂發傳出食頃追者果至而不及孟嘗君歸怨秦與韓魏伐之入函谷關秦割城以和孟嘗君相齊或毀之於王乃出奔

是レ買母 灌脂 葦

尾ニ束子テトハ葦草
ヲ其尾ニ縛シテ脂油
ヲ以テ之ニソリヤ燒
ケヤスヤ計ルナリ

援 援ハ引ナリ鋼盤
ノ注ニ槌ハ杖ニ
作ル槌ヲトリ之ヲ鼓
スルナリ自ラ槌ヲ取
リ警ヲウツテ兵

夜 夜 掖ト同シ齊田單
ヲ封シ夜邑萬戶
ヲ以テス夜邑ハ祖稅
ノ奉アリ以テ其用ニ
供ス可シ溜上ハ遊觀
ノ樂シミアリ以テ其
心ヲ慰 爲諸侯 諸
侯トナルハ三晉ノ如キ
ニアラズ自ラ諸侯ニ

邑 掖ト同シ齊田單
ヲ封シ夜邑萬戶
ヲ以テス夜邑ハ祖稅
ノ奉アリ以テ其用ニ
供ス可シ溜上ハ遊觀
ノ樂シミアリ以テ其
心ヲ慰 爲諸侯 諸
侯トナルハ三晉ノ如キ
ニアラズ自ラ諸侯ニ

列スルナリ王 傳
命ニハアラズ 擊要ノ
舍云々 註ニ幸
舍代合及ビ傳舍上中
下ノ三等客ノ舍スル
所ノ名 魚興家
ナリ
ミナ乎ト謂チナス家
ハ古叶ト知ルベシ
無以爲家 以テ
家ヲノ計ナ
キナイフ 邑入
食邑ノ入ル 出錢
所ノ租稅 民ニ分チ借シ息ヲ取
リテ以テ客ニ 責 求
奉ズルナイフ 求
リ貸者ノ息錢ヲ責メ
求ムルナイフ

カヘリ秦ヲ怨メリ韓魏ト之ヲ伐チ國谷關ニ入ル秦城
ヲ割キテ和陸セリ孟嘗君齊ニ相トナリ讓ニアヒ去ル

潛王滅宋而驕

燕昭王以齊嘗破燕之故與諸侯合謀而攻齊燕軍入
臨淄潛王走莒楚將淖齒救齊反殺潛王而與燕共分
齊之侵地王孫賈從潛王於莒而失王處其母曰汝朝
出而晚來吾則倚門而望汝暮出而不還吾則倚閭而
望汝今事王王走汝不知處汝尙何歸焉賈乃攻淖齒
殺之求潛王子法章而立之保莒以抗燕時齊城惟莒
即墨不下即墨人推田單爲將軍身操版鐙與士卒分
功妻妾編於行伍收城中得牛千餘爲絳緋衣畫五彩
龍文束兵刃其角灌脂束葦於尾燒其端鑿城數十穴
夜縱牛壯士隨其後牛尾熱怒奔燕軍所觸盡死傷而
城中鼓譟從之聲振天地燕軍敗走七十餘城皆復爲

齊迎襄王於莒封單爲安平君

潛王宋ヲ滅ボシテカアル燕昭
王齊ガ前ニ燕ヲヤアリシカドチ

以テ諸侯ト組合テ齊ヲセメリ燕ノ軍臨淄ニ入ル潛王莒ニ走ル楚ノ將淖齒齊ヲ
救フ反ツテ潛王ヲ殺セリ燕ト共ニ齊ノ侵セル地ヲ分テリ王孫賈潛王ニ莒ニト
モセリ王ノ居處ヲミウシナフ其母ノイフ汝アサ出テト晩ニカヘリ來レバ吾ハ
アンシ家ノ門ニテマツ汝暮ニ出テト還ラチマ心配最モ強ク里ノ門マテユキマ
ツ子ヲ思フ親ノ情此ノ如シ汝ハ今王ニツカフニ王走ル汝處ヲ知ラズ汝ナホオ
メノト歸ルヤ賈ヨツテ母ニ勸マサレ賈淖齒ヲ攻メテ之ヲ殺セリ因テ潛王ノ
子法章ヲ求メテ之ヲ立テリ莒ヲ保チ燕ニ抗敵セリ時ニ齊ノ城ハタノ莒ト即墨
トノミ下ラズ即墨ノ人田單ヲ推シテ將軍トナシ身ニ板クハチトリ士卒ト同シ
様ニ功ヲ分テリ妻妾マテモ兵ニアメリ城中ヲオサメ牛千餘ヲ得タリ赤色ノキ
モノ衣ヲツクリ之ニ五色ノ龍ノ形ヲカキ劍ヲ牛ノ角ニユハヒアラチソノキ
葦ヲ牛尾ニタバチテハシチキ城ヲウガチ數十ノ穴ヲツクリ夜ニソレソレ牛
ヲ縱テリ壯士其ニツキ攻メリ牛尾ノ熱ク怒リ燕ノ軍ニ奔レリ之ニフレンモノ
ハノコラズ死シ又ハ傷ヲウケリ城中ヨリトキノコヘチ以テセム天地モ覆ヘル
ケシキ燕軍敗走セリ七十餘城皆復タ齊トナリ襄王ヲ莒ヨリ迎ヘテ單ニ地ヲヤ
リ安平君 單攻秋三月不克魯仲連曰將軍在即墨曰
無可往宗廟亡矣將軍有死之心士卒無生之氣莫
不揮泣奮臂欲戰今將軍東有夜邑之奉西有淄上之
娛黃金橫帶騁乎淄澠之間有生之樂無死之心故不

君王后

后ハ姓ナリ其

姓后ノ后ト稱ス可ラザルヲ以テ別ニ號ヲ立テ君王后トイフ姓

反間

孫平兵

ク反間トイフコトハ敵ノ間ニヨツテ之ヲ用フルナリ凡ソ軍ノ擊ント欲スル所城ノ攻ント欲スル所人ノ殺サント欲スル所必ク先ソ其守將左右謁言問者舍人ノ姓名ヲ知リ吾ノ間必ク敵間ノ來リテ我ヲ間スル者ヲシテ因テ之ヲ利導セシム故ニ反間用フルコト得ベ

松栢

標

勝也。單明日厲氣。巡城立於矢石之所。援枹鼓之狄人乃下。襄王既立而孟嘗君中立爲諸侯無所屬。王畏之與連和。初馮驩聞孟嘗君好客而來見。置傳舍十日。彈劍作歌曰。長鋏歸來乎。食無魚。迂之幸舍。食有魚矣。又歌曰。長鋏歸來乎。出無輿。迂之代舍。出有輿矣。又歌曰。客使人出錢於薛。貸者多不能與息。孟嘗君乃進驢請責之。驢往不能與者。取其券燒之。孟嘗君怒。驢曰。令薛民親君。孟嘗君竟爲薛公。終於薛。襄王卒。子建立。母君王后賢。事秦謹。與諸侯信。君王后卒。齊客多受秦金。爲反間。勸王朝秦。不修攻戰之備。不助五國攻秦。秦王政既滅五國。兵入臨淄。王建遂降。遷子共。處之松栢之間。

趙

綱鑑ノ穆王紀ノ註ヲ按ズルニ造

父ハ季勝ノ五世ノ孫ナリソノ族コレヨリ

趙トナス註ニ即チ戰國趙ノ祖也

衰云々 趙衰以

字左傳文公七年買季ノ旨 滅

朔 事ハ左傳宣公十二年ニ見ニ

而死。以齊爲郡。蓋人歌之曰。松栢邪。邪住建共者客邪。

單狄ヲ攻メルニ三月マデカテズ魯仲連ノイフ將軍即墨ニアルトキハ外ニニケ場所ナシコトヲ奮發セズハ國ガ亡ブトイフ始末將軍死スルノ心アリ士卒生キル氣ハナシ皆ナ悲憤ソナシナダフルヒハリヒガシテ戰ハント思フソレニ引カハ今將軍ハ東ニ夜邑ノトリマヘアリ西ニ淄上ノ愉快ノ場所等アリ黃金帶ニ横ハルソレテ淄淵ノ間ニハセル生キテ樂ム心ハアルモ死スル心ハ更ニナシコトトモ勝テヌケト單明日ハ氣ヲハゲマシ城ヲメグリ矢石ノ場所ニ立テ太鼓ノブチヲトリウチナラシ味方ナハゲマシ狄人因テ下レリ襄王ステニ立テ孟嘗君中立シテ諸侯トナレリ誰レニモタノム所ナシ依頼セヌ襄王オソレテ和睦セリ初メ馮驩トイフ者孟嘗君ノ客ナ好ムトキハ來リ見ユ傳舍ニ入レ置ク十日劍ヲツマハシキ歌ヲ作レリ長鋏トテ劍ノ名チイヒ驢ヲントス食フニ魚ナシナガ居ハルソレマメ之ヲ幸舍ニ移シ食フニ魚アリ又歌ヒ長鋏カヘラン出ルニ車ナシナガ居ハルソレマメ之ヲ代舍ニウツシ出ルニ車アリ又歌フテイフ長鋏カヘラシコト分テハ家族ノ手當ナク養フコト出來ズト孟嘗君悅ハズ時ニ邑ノ入費ニテハ客ヲ給スルニ足ラズ人チシテ錢ヲ薛ニ出シ利チ取レリカクシモノ利チ出サス孟嘗君驢ヲスルメ之ヲ責シテ請ヘリウケヤヒ往ク利チ出スコト出來ヌモハハ誰書チヤケリ孟嘗君怒レリ驢ノ曰フ薛ノ民チシテ君ニ親シマシメントソノ爲ニセリ孟嘗君竟ニ薛公トナリ薛ニ終レリ襄王卒セリ子ノ建立テリ母君王后賢ナリ秦ニ事フルコト謹シメリ諸侯ト信義アリ君王后卒シテ齊ノ客多ク秦ノ金ヲ受ケ反間チナシウチキリセリ王チスルメコト秦ニ朝セシメ軍ノソナヘダチチセズ楚燕趙魏韓ノ五國チ滅シ兵ハ臨淄ニ入ル王建遂ニ降レリ之チ松栢ノ樹ノ間ニオシコメ死セシム因テ齊チ都トス齊人之チ歌フテイフ松栢ナルカ栢ナルカ建チ共ニ住マシムルハ客ナルカ

要二後十五年二武
長シテ嬰下共ニ買ナ
滅スリテ 孰難
下ニ一ニ晉爲其易請
先死ノ一付テ添フ曰
ノ下ニ嬰嬰ノ
二字ヲ加フ 嬰
自殺 武成人タル
以後ノ此
之ヲ終 鄂々 直
言スル 胡三書曰
ナ 繭絲 胡三書曰
民ノ晉澤ヲ凌シ繭絲
ノ緒ヲ抽キ盡キズ止
マス取ルチイフ保障
民ノ生ヲ厚フシ保チ
樂キ以テ自ラ障シ愈
増シ愈厚フセシムル
如ク 尹鐸 簡子ノ
ナリ 家臣ナ

〔趙〕之先本與秦同姓。祖於蜚廉。有子季勝。其後有造父者。事周穆王。以功封趙城。由是爲趙氏。春秋時有趙夙者。事晉夙。生成子衰。衰生宣子盾。人曰趙衰冬日之日也。趙盾夏日之日也。冬日可愛。夏日可畏。盾生朔。大夫屠岸賈滅朔之族。朔有遺腹子武。賈索之不得。朔客程嬰。公孫杵臼相與謀曰。立孤與死孰難。嬰曰。死易。立孤難耳。杵臼曰。子爲其難。杵臼取它兒匿山中。嬰出謬曰。與我千金。吾告趙氏。孤處。賈嘉乃使人隨嬰。殺杵臼及孤。而趙氏真孤在。嬰後與武滅賈。竟立武。而自殺。以下報宣孟及杵臼。武卒。號文子。

トイフ者アリ周ノ穆王ニ事ヘリ功ヲ以テ趙城ニ封チ受ケリ因テ趙氏トナル春
秋ノ時趙夙トイフ者アリ晉ニ事ヘリ夙成子衰チ生ミ衰宣子盾チ生メリ人ノイフ
趙衰ハオトナシク冬日ノ日ノ暖ナル如ク趙盾ノ方ハ夏日ノ激烈ナル如ク冬日
ハ愛ス可キモ夏日ノ方ハ畏ル可キナリ盾方朔チ生メリ大夫屠岸屠朔ノ族チ滅

晉陽ハ趙 損戸
ノムラ 數 戸數ヲ減損スレ
マ則チ稅賦ハヤ
シテ民力ノ 三板
アルナリ 胡三書ノ曰ク高サニ
尺一版トナス三版ハ
六尺村山氏曰ク註ニ
一丈版トナス誤リ
龜 蛙ト同シ蝦 漆
木漆粘器物チ飾ル
ベシ人ノ身ニツケバ
クズレテ癩
ノゴトシ 飲器
後世ニイフ獨體杯ナ
リ呂覽ニハ觴ニ爲ト
ナス漢書六宛傳ニ何
奴月氏王チ破リ其頭
チ以テ飲器トナス是
レト同シナリ

ホセリ朔ニハラニソコリシ子ノ武トイフアリ賈之チサガシテ得ズ朔ガ客ニ程
嬰公孫杵臼トイフ者アリトモノニ謀テイフ孤チ立テルト死チ遂ルトドチラ
ノ方ガムツカシキヤ嬰ノイフ死スルハタヤスク孤チ立テハヨリタテルト
困難ナリ杵臼ノイフソナタハ其ムツカシキ方チセヨト自分ハ他人ノ兒チ取テ
山中ニカクレンリ嬰出テイツハハリイフ我ニ千金チケレム趙氏ノミナシ
ノ擲所チ知ラレシ賈喜ア因テ人チシテ嬰ニツカセ杵臼ト孤チマコロセリソ
テ趙氏ノ眞ノ孤ハシカ下在リ嬰後ニ武ト賈チホロホシ竟ニ武チ立テト自分ハ
死セリ冥途ニテ宣孟杵臼ニコノコチ脱キ安心サセントイヘリ勇トイフ可シ武
死シ文子ト號セリ 文子生景叔。景叔生簡子。鞅。簡子有臣曰周
舍。死。簡子每聽朝。不悅曰。千羊之皮。不如一狐之腋。諸
大夫朝徒聞唯唯。不聞周舍之鄂鄂也。簡子長子曰伯
魚。幼曰無恤。書訓戒之辭於二簡。以授二子曰。謹識之。
三年而問之。伯魯不能舉其辭。求其簡。已失之矣。無恤
誦其辭甚習。求其簡。出諸懷中而奏之。於是立無恤爲
後。簡子使尹鐸爲晉陽。請曰。以爲繭絲乎。以爲保障乎。
簡子曰。保障哉。尹鐸損其戸數。簡子謂無恤曰。晉國有

侯ナシテ激怒セシメ
ヲ之ニ從ハシメト
ス綱鑑註ニ雞口ハ小
ト雖正猶ホ能ク食テ
進ム牛後大ナリト雖
花乃チ糞ヲ出ス

口後 鬼谷

風俗通ニ曰ク鬼谷先
生ハ六國ノ時縱橫家
ナリ

季子 素隱ニ云
ク接スル

字ノミ 負郭 負ハ
ナラズ 依リ

背ナリ 負郭ノ田ハ但
近城ノ田宅ヲ言フナ

一頃 今ノ一町
七段ニ賦

十六步有奇 武靈

王 趙武靈王服義ト

謀リ胡服シテ騎
射シ以テ百姓ヲ教ニ
國人皆欲セズ公子成
疾ト稱シテ朝セズ王
ノ曰ク吾國備ヘナク
將ク何ヲ以テ守ラン
衆ノトキ中山齊強
キヲタノミ吾地ヲ侵
シ水ヲ引キ鄙ヲ圍ミ
守ラザルニチカシ故
ニ寡人變服騎射以テ
四境ノ難ニ備ヘ中山
ノ怨ヲ報セント欲ス
ルナリ公子成命ヲ聽
キ乃チ胡服ヲ賜ヒ以
テ朝シテ始メテ 償
命ヲ出ダセリ
其直ニアタルモノチ
オクル即チ玉ニ通ス
ル所ノ者チ 給取
出スナリ

日不可既委質爲臣。又求殺之。是二心也。凡吾所爲者
極難耳。然所以爲此者。將以愧天下後世爲人臣懷二
心者也。襄子出讓伏橋下。襄子馬驚索之得讓。遂殺之。
襄子立伯魯之孫浣。是爲獻子。獻子生烈侯。籍以周威
烈王命爲侯。歷武公。敬侯。成侯。至肅侯。秦人恐喝諸侯。
求割地。有洛陽人蘇秦。游說秦惠王。不用。乃往說燕文
侯。與趙從親。燕資之以至。趙說肅侯曰。諸侯之卒十倍
於秦。并力西向。秦必破矣。爲大王計。莫若六國從親。以
擯秦。肅侯乃資之以約。諸侯蘇秦以鄙諺說諸侯曰。寧
爲雞口。無爲牛後。於是六國從合。

トナリ全ノチシニアラズ聲チカラス行キテ市ニ物チ乞ヘリ其妻トテトモスガ
ノ漆ノ總身ニカブレカマヒトナリシメニ知レヌ然ルニ其友知リ之ニ語テイ
フソナタノ器量ヲ以テ趙孟ニ臣トシ事ヘンナレバキツト近ツキテ龍チ得ンソ
ハトキソナタノ器量ヲ以テ趙孟ニ臣トシ事ヘンナレバキツト近ツキテ龍チ得ンソ

ノアルコトナラズヤ腹イフイヤソレハヨカラズ既ニ身チマカシテ殺スコトチセバ
二心ナラズヤ一タイソシガカヤウノ下チスルハゴクムカシキコトニテアル然
ルチコレチ爲スハ天下後世ノ人ノ臣トナリ二心チ懷ケモノチ大サシメンガ
爲メナリ決シテ志ハカヘヌトコタヘリ後チ襄子チ出シトキ橋下ノ下ニ伏セリ
襄子ノ馬其異形ニオドロケリ人々モ氣ガツキ之チサガシ讓チ得タリコノ度ハ
助ケズ之チ殺セリ讓襄子ノ衣チサキテ自殺セリ襄子伯魯ノ孫浣チ立テ是チ
獻子トナス獻子烈侯籍チ生メリ周ノ威烈王ノ命チ以テ侯トナレリ武公敬侯成
侯チヘテ肅侯ニ至ル秦人諸侯チ皆ドカシ地チサカントチ求メリ洛陽ノ人ニ秦
秦トイフ人アリ秦ノ惠王ニ游說セリ用ヒラレズ往テ燕ノ文侯ニ說キ趙ト組合
ヒ親クセリ燕之ガ入費チ出セリヨツテ趙ニユキ肅公ニ說テイフ諸侯ノ卒ハ秦
二十倍ス力チ併セテ四ニ向フトキハ秦ハキツト破レン大王ノ爲ニ計ルニ六國
組合シテ秦チヒリゾケルニコストナシ肅侯入費チナリ諸侯チ約セシム秦イ
ヤシキコトハ皆大以テトケイツソ人ノ下トナリテ大イナルヨリ一本立テ人ノ
前ニタチタトヒ小トモ人ノ後ニハ附キガタキト雖口牛後ノ說チ以テサトシ六
國ミナ之 蘇秦者師鬼谷先生。初出游。困而歸。妻不下
機。嫂不爲炊。至是爲從約長。并相六國。行過洛陽。車騎
輜重擬於王者。昆弟妻嫂側目。不敢視。俯伏侍取食。蘇
秦笑曰。何前倨而後恭也。嫂曰。見季子位高金多也。秦
喟然歎曰。此一人之身。富貴則親戚畏懼之。貧賤則輕

壁 此ノ時壁ニ殺
アリ請フ王ニ

指シ示サン 五步
トノ語アリ

之内 至近ナイフ
ナリ下文十

歩ノ内亦同意ナリ周
ノ一尺ハ蓋シ今ノ曲
尺七寸二分

以頸 願ナリ

血云々 言フハ
秦王チ

殺サントスルチ言フ
毛遂ノ王ノ命ハ遂ノ
手ニカハル

靡 披靡
ノ意ナリ

右 願師古
ノ貌ナリ

古ハ右チ以テ尊トナ
ス按ズルニ阿漢刊誤
ニ古者居レバ則チ左
チ貴トビ兵チ用ゾル

廉頗 精交ニ
タリ

フ相如ハ秦王ニイサ
ミ廉頗ニ怯ナルハ何
如答フ相如ハ戰ノ士
ニアラズ死チ以テ義
チ行ヒ而シテ強秦ニ

屈セズ禮チ以テ國チ
オサメ而シテ廉頗ニ
抗セズ其剛柔進退ノ
際チ處スル頗ル道チ
學フ者ニ類スルナリ

負荆 杖チウケン
ヲチ欲スル

馬服君 虞喜
ノ曰

ク馬ハ兵ノ首ナリ號
シテ馬服トイフモノ
ハ言フハ能ク馬チ服
取スルナリ者嘗テ功

易之况衆人乎使我有洛陽負郭田二頃豈能佩六國
相印乎於是散千金以賜宗族朋友既定從約歸趙肅
侯封爲武安君其後秦使犀首欺趙欲敗從約齊魏伐
趙蘇秦恐去趙而從約解蕭侯子武靈王胡服招騎射
略胡地滅中山欲南襲秦不果

蘇秦ハ鬼谷先生チ師トセリ初メ出
遊シ窮困シテ歸ル妻ハ機トハタチ
ガリテ下ラス兄曰モモ之ガ爲ニ米チカシガズ是ニ至テ六國組合長トナレリ行
テ洛陽チ過ギ車騎ノトモゾロ荷物ノ車王者ニマガフヨウ兄弟妻トアニヨメ
オソレテ目チカタムケ決シテミズロレ伏シソバニ居リ食チ取リモテナス蘇秦
笑テイフ何ニユヘ前ニオホヘイデ後ハウヤヘシキカアニヨメイソナタノ位
高ク金ノ多キチ見レバソレテカクスルトイフ秦大ニ嘆シテイフワツガ一人ノ
身チ富チ貴クナルト身内マデガチオソルマツシケレバ之チアナドリ輕シメ
マシテ他人ハナホサラノト然シ我ニ洛陽賈郭ノ田ノ二百畝モアレバ之ニ安シ
シナカレ六國ノ相印チ佩ブマツトナリヨハニ千金チマキ皆々ヘ渡シ既ニ組合
ノトチ定メテ趙ニモドレリ蕭侯地チヤリ武安君トセリ其後秦犀首チシテ趙チ
アザムカシメ從約チ敗ラントス齊魏趙チウチ秦人恐レ趙チ去リ組合トケリ蕭
侯ノ子武靈王夷ノ服チツケカハリタル風チ見セ騎射チヨクスル人チ
招キ夷ノ地チカスメトリ中山チ滅シ南秦チウタントシ未ダトゲズ

傳子

惠文王惠文嘗得楚和氏璧秦昭王請以十五城易之

欲不與畏秦強欲與恐見欺藺相如願奉璧往城不入

則臣請完璧而歸既至秦王無意償城相如乃給取璧
怒髮指冠卻立柱下曰臣頭與璧俱碎遺從者懷璧間

行先歸身待命於秦秦昭王賢而歸之秦王約趙王會
渾池相如從及飲酒秦王請趙王鼓瑟趙王鼓之相如

復請秦王擊缶爲秦聲秦王不肯相如曰五步之內臣
得以頸血賤大王左右欲刃之相如叱之皆靡秦王爲

一擊缶秦終不能有加於趙趙亦盛爲之備秦不敢動

子ノ惠文王ニ傳ヘリ惠文嘗テ楚ノ和氏ノ璧チ得タリ秦ノ昭王十五城チ以テ之
ニ易ントチコヘリ與ヘマシク思ヘバ秦ノ強ク何如ナル答ノ來ルガオバソル
アタヘバアザムカレマイトモイヘズ問相如璧チ奉シテ往ント願フ城ノ手ニ入
ラヌセツハ玉チソノマヘニシテカヘサント既ニ至ル秦王壁チ見テ城チ出ス意
ナシ相如壁ニキズアリトイツハリ之チ取リ忽チ怒レル壁ハサカダチ冠チサス
如ク柱ノ下ニヒリゾキイフ臣ヤクメスマチメコノ壁ト頭トチ俱ニコレニウチ
ツケ碎カントコノサハギニ從者ニ問道チユキ先キニカヘラシメ其沙汰チ秦ニ
マツ秦昭王之賢者トシテ遇對シ之チカヘセリ後秦王趙王ニ約シテ渾池ニ會

アリ此ノ號 鼓瑟
 ナ得タリ
 瑟ヲ鼓スルモノハ絃
 ニ纏卷アリ絃ヲ調ス
 ルノ緩急柱ノ運轉ニ
 在リ若シ其柱ヲ一定
 ニカハツケニセバ則
 チ絃得テ調フ可ラズ
 緩者ハ緩ニ一ニシテ
 急者ハ急ニ一ニシテ
 活法ナ
 不能難
 キナリ
 書ヲ括ノ言ヲ辨折ス
 ルノ能ハザルナリ
 四十萬云々
 練軍軍雜言ニ云ク坑
 者ハ只是レ不知ヲ掩
 フテ害ヲ加フルナリ
 眞ニ土ヲ掘テ坑ヲナ
 スニアラズ今民間訟
 謀モ亦坑陷ノ詞アリ

セリ相如從テ酒ヲノムニ及ビ秦王趙王ニ請ヒ瑟ヲヒカシム趙王之ヲヒケリ相
 如マテ秦王ニコヒホドギナラシ秦ノウタテセロト秦王承知セズ相如ノイフ
 五ツアソノ内ニテ臣ハ首ノ血ヲ大王ニソリギカケント秦王ヲ殺サントス左右
 ノ者相如チキラントス相如シカリツケリ之ヲ以テ皆フルヘリ秦王因テ爲ニ一
 タヒホドギナウチ其意ノ如クス秦趙ニ兵ヲ加ヘルヲ出來ズ趙
 ノ方ニテモ盛ニ備チナシ秦決シテ輕ク兵ヲ出サズシカヘリ 趙王歸以
 相如爲上卿在廉頗右頗曰我爲趙將有攻城野戰之
 功相如素賤人徒以口舌居我上吾羞爲之下我見相
 如必辱之相如聞之每朝常稱病不欲與爭列出望見
 輒引車避匿其舍人皆以爲耻相如曰夫以秦之威相
 如廷叱之辱其群臣相如雖驚獨畏廉將軍哉顧念強
 秦不敢加兵於趙者徒以吾兩人在也今兩虎共鬪其
 勢不俱生吾所以爲此者先國家之急而後私讎也頗
 聞之肉袒負荆詣門謝罪遂爲刎剄之交惠文王子孝
 成王立秦伐韓韓上黨降於趙秦攻趙廉頗軍長平堅

即チ是レ此ノ意朱子
 ノ曰ク長平四十萬人
 チ坑殺ス史ノ過言信
 スルニ足ラズ敗レハ
 則チコレ有リ若シ之
 ヲ盡ク四十萬人チ坑
 スルトイフ其所在幾
 多又趙卒ハ都テ是レ
 百戰ノ士豈ニ四十萬
 人肯テ手ヲ束子テ死
 チ受ケルモノアラシ
 決シテ信ズ可ラズ
 堅白 公孫龍堅白
 論堅白石三
 可ナルカ曰ク不可ニ
 可ナルカ曰ク可ナリ
 謂フハ目ニ破テ視但
 白チ見レバ則チ其堅
 キチ知ラズ則チ之チ
 白石ト謂フ手石ニ觸
 ルレバ則チ其堅チ知
 ル而シテ其白チ知ラ

璧不出秦人行千金爲反間曰秦獨畏馬服君趙奢之
 子括爲將耳王使括代頗相如曰王以名使括若膠柱
 鼓瑟耳括徒能讀其父書不知合變也王不聽相如以テ
 上卿トナシ廉頗ガ右ニアリ頗イフ我レ趙ノ將トナリ城ヲセメ野ニ戰フノ功ア
 リ相如モトヨリ賤シキ人ナリムザト口舌ノクチサキア我上ニ居ル吾實ニ之ガ
 下ニ居ルトテ蓋シ我相如チ見ルハキツ下之ヲ辱シメント相如之チキ朝ス
 ル毎ニフダシ病トイヒ與ニ列チ爭フトチノゾマズ出ルトキ望ミ見レバ忽チ車
 ナ引キ避ケ隱ル其舍人皆以テ恥トナス相如ノイフ夫レ秦ノ威テスラ相如之チ
 廷ニテ叱リトシ其群臣チハツカシム相如ハ愚罵ナレ廉將軍チオソル理ナシ
 只キツカフトハ強秦ノ決シテ兵ヲ趙ニ加ヘヌ者ハ徒吾ガ同人ノ在ルメナリ
 今兩虎ノ共ニ鬪フトキハ其勢ハ俱ニ生キルトナシ故ニ今吾ノ車チサケルハ國
 家ノサシムキノ處チ大事ニ思ヒ私ノアタハフトトナスト頗之チキ大ニ悔ヒ
 荆トテバラノ如キトゲアル木チハダニ背キヒ門ニ至リテビサナセリ途ニ死シ
 テクヒメ交リチナセシト惠文王ノ子孝成王立テリ秦韓チウチ韓ノ上黨趙ニ
 グダレリ秦趙チ攻メリ頗長平ニ軍セリ璧チ堅クシテ出テス秦人千金チ與ヘマ
 キチラシ爲ニ反間ノ計チナシイフ秦ニハ獨リ馬服君ノ子ノ括トイフ者ノ將ト
 ナルトチ畏ルト王括チシテ頗ニ代ラセシム相如トメル王ハ名バカリチ以テ括
 チ使フハ柱ニ膠スルトテコトザニニカワラツケヒク如キナリ彼ハギイタ
 フウニ父ノ書チヨミ變ニアフテ之チ計ルトチ知ラズ用ユ可ラズ君キカス 括
 少學兵法以天下莫能當與父奢言不能難然不以爲

ザレバ則チ之ヲ堅石トイフ是レ堅白終ニ合セテ一トナス可ラズ司馬彪ノ曰ク堅白ハ堅石ハ石ニアラズ白馬ハ馬ニ非ルチイノ同異ハ異者ハ同シク同シキ者ハ異ナラシムコトイフ今按ズルニ堅白古ハ必ズ脱アリ孔子ノ稱セズ細セザルノ如キ是レチ今龍ハ之ガ辨ヲナスナリ

脱而出

穎ハ錐ノキツ

穎ハ錐ノキツ

然。括母問故。奢曰。兵死地也。而括易言之。趙若將括。必破趙軍。及括將行。其母上書言。括不可使。括至軍。果爲秦將白起所射殺。卒四十萬皆降。坑於長平。趙相平原君公子勝。食客常數千人。客有公孫龍者。爲堅白同異之辨。括少。少。少。兵法ヲ學ビオモラ天下已ニ敵スル者ナシト父ノ者トイフ難問ノイフ兵ハ死スル場所ナリソレヲタヤスケ言フ趙ノ若シ括ヲ將トスルコトアレバキツト趙軍ヲ敗北サスト括ノ行シトスルニ及ビ其母上書シテ言フ括ハ決シテ御用ニタツ可キモノニアラズト括軍ニ至リシニアンノ如ク白起ニ射殺サレ卒四十萬皆降リ長平ニオトシ殺セリ趙ノ相平原君公子勝ハ食客常ニ數千人アリ客ニ公孫龍トイフ者アリイコトニイヒノヘ辨舌ニテ名アリ

秦攻趙邯鄲平原君求救於楚。擇門下文武備具者二十人。與之俱得十九人。毛遂自薦。平原君曰。士處世。若錐處囊中。其末立見。今先生處門下三年。未有聞。遂曰。使遂得處囊中。乃穎脫而出。非特未見而已。平原君乃以備數。十九人目笑之。至楚。

アラズ一脱ニ穎ノ字ハ當ニ木ニ從ヒ頃ニ從フベシ集韻ニ錐ノ柄ナリ柄ヲ併セテ俱ニ脱然トシテ出ルチイフ故ニイフ特ニ其末ノ見ハルノミニアラズ若シ以テ錐穎トナセバ則チ末ト何ソノ異ナラン

歷階

階ニ登ルニ足ヲ案メザ

兩言

利ト害トイ

奉社稷以

從

猶ホ一國ヲ舉ツテ唯命之レ從ハントイフガ軟血ニトキナリ凡ソ盟ハ血ヲ以テ口旁ニ塗ルチイフ

定從不決。毛遂按劍升曰。從之利害。兩言而決耳。今日出而言。日中不決。何也。楚王怒叱曰。胡不下。吾與而君言。汝何爲者。毛遂按劍而前曰。王所以叱遂以楚國之衆也。今十步之內。不得恃楚國之衆也。王之命懸於遂手。以楚之強。天下莫能當。白起小豎子耳。一戰而擧鄢郢。再戰而燒夷陵。三戰而辱王之先人。此百世之怨。趙之所羞。合從爲楚。非爲趙也。王曰。唯唯。誠若先生之言。謹奉社稷以從。遂曰。取雞狗馬之血。來捧銅盤。跪進曰。王當軟血而定從。次者吾君。次者遂。左手持盤。右手招卞九人。軟血於堂下。曰。公等碌碌。所謂因人成事者也。平原君定從。歸曰。毛先生一至楚。使趙重於九鼎。大呂以遂爲上客。楚將春申君救趙。會魏信陵君亦來救趙。

九鼎

夏禹ノ鑄ル所ノ寶鼎大

呂周廟ノ大鐘遂ニ能ク趨テシテ天下ノ重シムル所トナラシムルナリ

鄆下

鄆鄆ノ城下ナリ

三遺失

展超テ便スル

ナリ其老病用ニ堪ヘザルナリ

魏

畢萬

左傳閔公元年ニ公畢萬

ニ魏ヲ賜ヒ以テ大夫トナス

桓子 按ズルニ史記魏

大破秦軍鄆下

秦趙ノ鄆鄆ヲ攻メリ平原君救テ楚ニ求メリトキ内々十九人ハアリ今一人ナリ毛遂私シテ望メリ平原君イフ士ノ世ニ居ルハ雖ノ

茶音孫蓋子修之孫蓋子取其子ハ即子桓子ナリ

納履

足ヲ納シテ之ヲ著ケルナリ古詩ニ瓜田不納履ト同シ

補

眞西山ノ曰ク居親マズ親シム所ノ者必ズ賢富ニテ安リニ

必ス當ル途シテ受リニ學グズ學ル所ノ者必ズ貧窮困スト雖非

不知其死

仇郭開與使者金令毀之頗見使者一飯斗米肉十斤被甲上馬以示可用使者還曰廉將軍尙善飯然與臣坐頃之三遺失矣王以爲老遂不召楚人迎頗於魏頗

處 竟二何ノノ地ニ
在ルカ其必ス當

二歎ニ死スベキ
一チイフ 吳

起 太史公ノ曰ク吳
起ノ武侯ニトク

ニ形勢ノ徳ニ如カザ
ルチ以テス然レヒ之

チ楚ニ行フニ刻暴少
恩チ以テ其身チ亡ホ

スニ至ルハ 洞庭

悲ムベシト 湖
水ナ 彭蠡 澤ナ

河濟 水ナ 泰華

山ナ 伊闕 水ナリ

註ニ伊闕ハ俗ニ
龍門トイフ 羊

腸 山ナ 孟門 山

後世石州ノ龍
門縣ナリ 太

行 山ナ 補 子思曰

ハ固ニ之チ利スル所
以ナリ止仁ナラザレ

バ則チ下其利チ得ス
上義ナラザレバ則チ

下辭リチナスコト樂
シ△島ニ曰ク利ハ義

ノ和ナリ又曰ク用チ
利シ身チ安ンシチ以

テ徳チ崇トブナリ此
レ皆利ノ大ナルモノ

孟子ハコノ言チ活用
セシメテトク故ニ温

公ノ曰ク子思孟子ノ
言ハ一ナリト

同師 トモニ鬼谷
先王ニ事フ

ルガ 張儀 本傳ニ
イフ 其妻ノ

〔魏〕之先本與周同姓。文王子畢公高之後也。國絕。有苗裔。曰畢萬。事晉。邑于魏。數世有絳。絳後四世曰桓子。者與韓趙共滅知氏而分之。桓子之孫曰文侯斯者。以周威烈王命爲侯。以下子夏田子方爲師。過段干木之間。必式。四方賢士多歸之。文侯之子擊。遇子方于道。下車伏謁。子方不爲禮。擊怒曰。富貴者驕人乎。貧賤者驕人乎。子方曰。亦貪賤者驕人耳。富貴者安敢驕人。國君而驕人。失其國。大夫而驕人。夫其家。夫士貧賤者言不用。行不合則納履而去耳。安往而不得貧賤哉。擊謝之。文侯謂李克曰。先生嘗教寡人家。貧思良妻。國亂思良相。今所相非魏成。則翟璜。二子何如。克曰。居視其所親。富視其所與。達視其所舉。窮視其所不爲。貧視其所不取。

五者足以定之矣。子夏田子方。段干木成所舉也。乃相成。

魏ノ先ハ本ト周ト同姓ニテ文王ノ子畢公高ノ子孫ナリ國々少苗裔アリテ畢萬トイヘリ晉ニ事ヘテ魏ニ邑チ受ケリ數世ニシテ絳トイフモノアリコノ後四代桓子トイフモノアリ韓趙ト共ニ知氏チ滅ボシテ之チ分テリ桓子ノ孫ニ文侯トイフ者アリ周ノ威烈王ノ命チ以テ侯トナリキ子夏田子方チ以テ師トナシ段干木ノ間チ通レハ禮チナス四方ノ賢士ハ多ク之ニ歸セリ文侯ノ子擊チ方ニ道ニアヘリ車ヨリ下リテ伏シ謁セリ子方禮チナサズ擊怒テイフ富貴ノ者ガ人ニタカナルカ貧賤ノ者ガ人ニタカナルカ方イフ貧賤ノ者ガ人ニタカナルナリ富貴ノ者ハナカカ人ニタカナルレヌ國君ナレバ國チ失ヒ大夫ナラ家チ失フソコニユクト士ノ貧賤ノ者ハ言用ヒラレズ行ヒ合ヘザルトキハ則チ履チハキテイトマナリ何クニユクモ貧賤チ得レバ罪チナリト擊言チ去レリ一日文侯李克ニイフ先生前ニ數チ賜ハリ家ノ貧クナルトキハ其妻チ思ヒ國ノ亂タルニハ其妻大將チ思フソノ人ナレバ國家チモ治マラント思フ今將トスル所ハ魏成チナクハ履積ナリ何レカヨカラシクノイフ居ルトキハ親ム人チミテ親ム故ニ賢ナリ以下能ク實際チ見キハメテナスコノ五ツチ以テ大臣ノ職ニアリ少カセルコトチ決定ス可シ子夏田子方其他チ有衛人吳起者初仕魯魯欲使起擊齊而起娶齊女疑之起殺妻以來將大破齊師或曰起殘忍薄行人也起恐得罪歸魏文侯以爲將拔秦五城起與士卒同衣食卒有病疽起吮之卒

曰ク噫子書ヲ讀ミ游
 脱スルヲケレバ安
 ソ此ノ辱ヲ得ンヤ張
 儀其妻ニイツテ曰ク
 吾ガ舌ヲ視ヨ尙ホ在
 ルヤイテ妻笑テイハ
 ク舌在ルナリ儀
 ノ曰ク足レト
秦地 地ハ蓋シ也
 ノ字ノ訛リ
 或ハ云フ爲ハ字ノ如
 シ置置將軍ノ地ヲナ
 スニアラズヤノ爲地
 トナスモ亦通ズ
激儀 蘇秦秦ノ趙
 ナ伐チ從約
 ナ敗ラントスルヲ恐
 レ乃チ儀ヲ召シテ之
 ナ辱シメ以テ儀ヲ激
 怒セシメ儀諸侯ノ獨
 リ秦ノ能ク趙ヲ苦ル
 シムルヲ念ヒ遂ニ秦

母聞而哭曰。往年吳公吮其父。不旋踵死敵。今又吮其
 子。妾不知其死所矣。文侯卒。子擊立。是爲武侯。武侯浮
 西河而下。中流顧謂吳起曰。美哉山河之固。魏國之寶
 也。起曰。在德不在險。昔三苗氏左洞庭。右彭蠡。禹滅之
 桀之居。左河濟。右泰華。伊闕在其南。羊腸在其北。湯放
 之。紂之國。左孟門。右太行。恒山在其北。大河經其南。武
 王殺之。若不修德。舟中人皆敵國也。武侯曰。善。
 衛人ニ
 吳起ト
 イフモノアリテ初メ魯ニ仕ヘリ魯吳起チシテ齊チ擊タシメントス起齊ノ女チ
 娶レバウダガヘリ起之ヲ殺シテ大將タルチ求メリ因テ大ニ齊ノ軍チヤブレリ
 或ハイフ起ハムゴグ行アシク薄情ノ男ナリ起罪ヲ得ント思ヒ恐レ魏ニ歸セリ
 文侯以テ將トナシ秦ノ五城チ拔ケリ起士卒ト衣食ヲトモニシ卒ニ疽トテヨウ
 チヤウノデキモノ出來シモノハウミシルチヌヒヤレリ卒ノ母ナキカタル前ノ
 トシニ吳公ガ其父ノ疽チヌヒテアリガタク思ヒ直ニ命チヌク今マタ其子チヌ
 フ恩ニ感ジテマタモヤ死ナシ其地チ知ル可ラズ文侯卒シテ子ノ擊立テリ是チ
 武侯トイヘリ武侯西河チ舟ニテ下リ中ゴロニテアリムギイフナントウツクシ
 キ山ト河トノ天然ノカタメハ魏國ノ寶ニテハアラマカ起ノイフイハ君ノ徳ガ
 ナニヨリカタク山河ノ險ニアラズソレ故ヘ三苗氏以下皆ハ地ハ險ニテモ徳ナ

ニイレリ蘇秦ハヒソ
 カニ其舍人チシテ金
 幣チモタラシ儀チタ
 スケシメテ秦王チ見
 ルトチ **肆熟** 放肆
 得タリ **冠蓋相望** 奉使
 ノ者
 道ニ相接スルチ **侯**
 イフナリ
羸 史記列傳ニ曰ク
 侯羸年七十家貧
 シク大梁夷門監者タ
 リ公子酒チ置キ大會
 シ賓客坐定マリ公子
 車騎チ從ヘ左チ虛シ
 クシ自ラ夷門侯生チ
 迎ヘタリ侯生黧衣冠
 チ攝シ直ニ上ル公子
 轡チ取り甚ダ恭ヤシ
 賓客皆 **一如羸**
 驚ケリ

武侯卒。子惠王營立。東
 敗於齊。將軍龐涓與太子申皆死。南敗於楚。西喪地於
 秦。乃卑辭厚幣以招賢者。孟子至而不用。子襄王立。孟
 子去之齊。魏人有張儀者。與蘇秦同師。嘗遊楚。爲楚相
 所辱。妻慍。有語儀曰。視吾舌尙在否。蘇奉約從。時激儀
 使入秦。儀曰。蘇君之時。儀何敢言。蘇秦去。趙而從。解儀
 專爲橫。連六國以事秦。秦惠王時。儀嘗以秦兵伐魏。得
 一邑。復以與魏。而欺魏。割地以謝秦。歸爲秦相。已而出
 爲魏相。實爲秦地。襄王時。復歸相。秦已而復出。相魏以
 卒。
 武侯ノ卒シテ子ノ惠王立少東ハ齊ニ敗ラレ將軍龐涓ト太子申ト皆死セリ南ハ
 楚ニ敗ラレ西ハ地チ秦ニトラレ言チヒクシツカヒ者チ手厚クシテ賢人チヨブ
 孟子至リシモ用ヒラレズ子ノ襄王立テリ孟子去テ齊ニユケリ魏人ニ張儀トイ
 フモノアリ蘇秦ト師チ同フセリ嘗テ楚ニアソビ楚ノ相ニハダシメラル妻イキ
 ドボリ語ル儀ノイフ舌ノ舌チミヨナキカアルヤアレバ遊説ハヤメヌ時ニ秦合
 從チ約セシニ時ニ儀チ怒ラセテ秦ニ入ラセ趙チウタシメヌトチハカレリ使者

言 無忌ノ鄒ニ至リ

晉郤符ヲ合セ果
シテ之ヲ疑ヒ朱亥四
十斤ノ鐵椎ヲ袖ニシ
テ鄒ヲ擊殺

竊符
スルヲイフ

精采ニ曰ク臣子ノ禮
ヲ以テ之ヲ言ヘバ則
チ符ヲヌスミ命ニ方
カフ未ダ罪ナリ君父ニ
得ルヲ免レズ當時ノ
勢ヲ以テ之ヲ觀レバ
則チ趙ハ救ハザルベ
カラズ趙ヲ救フハ亦
魏ノ自ラ救フ所以ナ
リ亦當ニ功ヲ以テ之
ヲ恕スベ

五國
燕 楚

魏趙韓

ナリ

韓

康子

史記ヲ按ス
ルニ獻子闕

ノ子宣子孫貞子曾孫
莊子之孫莊子其子即

チ康子 禮記

ナリ 許人 二父
母存セバ友ニ許スニ
死テ以テモズ

皮面 戰國策ニ面
チクシリノ下ニ自カ
ラ屠リ腸ヲ出シ遂ニ
以テ死スル

重自
ノ七字アリ

刑 案隱ニ曰ク重ハ
猶復ノゴトシ人
ノ爲ニ仇ヲ報シテ死
シ乃チ復タ妾ノ故チ

以テ自ラ其身ヲ刑シ
人ヲシテ議ラザラシ

ニ金ヲモタセテ儀ヲアザムキヤレリ儀イフ蘇君ノ趙チ去ラヌ時ハ恩トシテ趙
チウツトチイフマシト約セリ然ルニ秦趙チ去リテ合從ハトケリ儀ハ横トテ
コヤヒヨリ六國ノ合從チトキ六國ノコラズ秦ニ仕ヘシメントス秦ノ惠王ノ時
ニ儀ハ秦ノ兵チ以テ魏チウチテ一ノ邑チトルフタミビ魏ニヤレリ因テ之チア
ザムキテ地チサキテ秦ニアビセシムソレヨリ歸リ秦ノ相トナレリマタソレヨ
リ出テ魏ノ相トナレリ實ハ秦ノ爲ニス襄王ノトキニマタカヘリ秦ニ相トナリ
マタ出テ魏ノ 魏安釐王立封公子無忌爲信陵君無忌
相ニテ本ス

愛人下士。食客三千人。秦攻趙。魏王使晉鄙救之。秦昭
王欲移兵先擊救者。王恐止晉鄙兵壁于鄴。又使新垣
衍說趙共尊秦爲帝。魯仲連往見衍曰。彼秦者棄禮義
上首功之國也。即肆然帝天下。則連有蹈東海而死耳。
衍再拜曰。先生天下士也。吾不敢復言。帝秦矣。趙平原
君夫人無忌姊也。趙急。使者冠蓋相望。責救於無忌。無
忌請於王。及使賓客游說萬端。王不聽。客侯嬴救無忌。
禱於王幸姬。竊得晉鄙兵符。且薦力士朱亥。與俱謂晉

鄙合符而疑則擊殺而奪其軍。一如嬴言。

魏ノ安釐王立テ
公子無忌ヲ封シ

信陵君トセリ無忌人チ愛シ士ニ下レリ食客ハ三千人秦趙チ攻メリ魏王晉鄙チ
シテ救ハセリ秦ノ昭王兵チ移シテ先ツ救フ者チウタシメントセリ王恐レテ晉
鄙ノ兵チ止メテ鄒ニトリテチカマヘリ又新垣衍チシテ趙ニトカシメリ共ニ秦
チ尊ビテ帝ニナサント魯仲連ユキ衍ニアツテイフ彼ノ秦ハ禮儀ナドハウチヌ
テ一番ノ功チナヌ者チ尊ア國ナリモシホシイマニ天下ニ帝タルコトナリセ
マ連ハ世ニ立タズ東海チフミ死ストモ秦ハ帝ニナス可ラズト衍再拜シテイフ
先王ハ天下アツボレノ士ナリ吾レ決シテ秦チ帝トスルコトチ申サズトテ去レ
リ趙ノ平原君ノ夫人ハ無忌ノ姉ナリ趙急ナリ使者ノツツケテ來ル無忌ニ救チ
求ム無忌王ニ請ヒ客チ以テ種々トキツケタルモ王ハキカズ客ニ侯嬴トイフモ
ノ無忌ニ教ヘテ王ノ幸姬ニダノメリソハコソリ晉鄙ノ力ニヤリシテ
片々チトラセ之チ以テ晉鄙ノ兵チトリアゲユカン彼ガアヤ
シメバ之チウチコロシテ其兵チ奪ヘト因テ殺シ其兵チ奪フ 得兵以進

大破秦兵解鄴鄆圍而無忌不敢歸魏秦伐魏魏患之
使人請無忌不肯歸客毛公薛公見曰魏急而公子不
恤一旦秦克大梁夷先王宗廟公子何面目立於天下
乎無忌趣駕還諸侯聞無忌爲魏將皆遣救無忌率五
國兵敗秦兵於河外追至函谷關而還無忌卒十八年

形名

形ハ古ヘ
刑ト通ズ

韓非子ノ曰ク言アル者ハ自ニ名ヲナス事アル者ハ自ラ形ヲナス名ヲ以テ實ヲセム之ヲ刑名トイフ刑名ハ即チ形名ナリ故ニ曰ク審ニ形名ニ合スト是レナリ案隱ニ曰ク劉向別錄ニ云フ申子ノ學號シテ刑名トイフ者ハ名ニ循テ以テ實ヲ實メテソ君ヲマツトビ臣ヲイサシメ上ヲ崇トビ下ヲ抑ヘテ六經ニ合ハシムナリ

祝

祝ハ大ナリ融ハ明カナルナリ故ク天下ヲ光融ス

莊

故ニ祝融トイフ

王

村山氏ノ曰ク伍

奉隱語ヲ設ケ之ヲイサム即チ鳥ヲ以テ王ニ比ス王其隱語ヲアテリ又之ニヨツテナスアルノ志ノア隱語ハ正言ヲ藏匿シテカレテ借リテ此ヲサトスナリ史ノ滑稽傳ニ之ヲ説クニ隱ヲ以テスト

始霸

前

是レナリ

補 胡一桂曰ク五霸

王ノ十二年齊ノ桓公國ニ入ルニ始マリ定王ノ十六年楚ノ莊王卒スルニ至リ五霸ノ業終レリ蓋シ七王九十五年チ此ニ歴タリ

而魏王假立後又二年秦王政遣兵伐魏殺王假而滅魏爲郡ハ前事ヲ略シテ魏ニカヘラズ秦魏ヲウテ魏之ヲ患レフ人ヲ以テ無忌ニ請ハシム無忌歸ルヲ不承知ナリ客毛公薛公ノ見テイフニ魏ハ急ニシテ天子之ヲ救ハズ一旦忽チ秦ノ大梁ニカチ先王ノ宗廟ヲコボテバ公于ハ何ノ顔アリテ天下ニ立ツヲ得ン速ニ救フベシト無忌驚チイソガセテカヘル諸侯無忌ノ魏ノ將トナルト聞キ皆救ヲヤレリ無忌五國ノ兵ヲヒキツレ秦ノ兵ヲ河外ニヤアリ追テ函谷關ニ至テカヘレリ十八年ニシテ魏王假立テリ後又二年秦王政兵ヲツカハシ魏ヲ伐テリ王假ヲ殺シ魏ヲ郡トセリ

〔韓〕之先本與周同姓武王子韓侯之後也國絕其後裔事晉爲韓氏韓武子之三世曰厥厥五世至康子與趙魏共滅知氏又二世曰景侯虔以周威烈王命爲侯韓相俠累與濮陽嚴仲子有惡仲子聞軹人聶政之勇以黃金百鎰爲政母壽欲因以報仇政曰老母在政身未可以許人也及母卒仲子乃使政圖之俠累方坐府兵衛甚嚴政直入刺之因自皮面扶眼韓人暴其尸於市

購問莫能識姊嫫往哭之曰是深井里聶政也以妾在

故重自刑以絕蹤妾奈何畏沒身之誅終沒賢弟之名

遂死政尸旁

鄭哀侯二世至昭侯鄭人申不害以黃老刑名之學爲昭侯相國治兵強昭侯有弊袴命藏之不以賜左右侍者曰君亦不仁者矣昭侯曰明主愛一頓一笑頓有爲

補 通鑑魏ノ吳起楚ニ奔レリ楚ノ悼王ヨリ其賢ヲキニ至レバ則チ之ニ任シ相トナス起法ヲ明ニシ合テ密ニシ不急ノ官ヲステ公族疏遠ノ者ヲ廢シ戰國ノ士ヲ養ヒ要スルニ兵ヲ少ヨクシ遊説ノ縱橫チイフ者ヲヤブルニアリ是ニ於テ南ニ百越チ平ラギ北ハ三晉チ卻キ西秦チウチ諸侯楚ノ少ヨキチ慮ハ而シテ楚ノ貴戚大臣吳姬ヲ怨ム

閉關 古ノ列國各關尹チ置キ敵國ノ賓至レバ關尹以テ告グ則チ行キ理ムルニ節チ以テ之

嘖者笑有爲笑今袴豈特嘖笑哉善必待有功者昭侯卒子宣惠王立二世至桓惠王韓上黨守降趙致趙受秦兵而有長平之敗又一世至王安秦王政遣將虜安遂滅韓爲郡

昭侯ヨリ四代哀侯ニ至リ徒リ鄭都ニ至リ哀侯ヨリ一代ニ以テ昭侯ノ相トナリ國治マリ兵強シ昭公ニヤブレシ袴アリ之チシマヒ置カシム決シテ左右ニタマハザオ侍者イフ君モアマリ不仁ハ御方ナアズ昭公イフ理ニ明カナル君ハ一度眉チヒソム一モ一度笑フ一モカシメリソノケハ上チナラフハ常ニテ眉チヒソムハ笑フモ皆上ノナス所ニナラフ況ンヤ弊袴モ之ニ做プテ人ノ安リニゼン一チウレサ因テ昔モ有功ノ者チマチ之チアタヘテ安リニセマシク欲ストカケレリ昭公卒シテ子ノ宣惠王立テリ三代ニシテ桓惠王ニ至ル韓ノ上黨ノ守ニ趙將ル趙ノ兵チ受ル一チイタシ長平ノ敗北アリ又一代ニテ趙安ニイタシ秦王政兵チ遣ハシ安チ虜ニシ遂ニ韓チ滅ボシ郡トス

楚之先 出自顓頊顓頊之子爲高辛火正命曰祝融弟吳回復居其職吳回二世有季連者得辛姓季連之後有鬻熊事周文王成王封其子熊繹於丹陽至夷王時楚子熊渠者僭爲王十一世至春秋有曰武王益強大

チ迎フ關チトツレバ則チ其使チ距絶シテ爲ニ道セシ

黃棘 後チ和シテ又破ル故ニ昔チ贈リテ更ニ和

屈平 史チ請フ

列傳ニ曰ク屈平王聽ノ聽ナラザルチ疾ニ譏詔ノ明チ蔽フ一邪曲ノ公チ害スル一方正ノ容レラレザルニ故ニ憂愁幽思シテ離騷チ作ル離騷ハ猶ホ離憂ノトシトアリ是**箝**冠チ髮ニレナリ**簪**連チテ之チ固タメル

珠玉 所以ノ者

珠玉チ以テ刀室ニ施ス猶ホ是レ富貴ノ一

至文王始都郢成王與齊桓公盟召陵尋與宋襄公爭霸後與晉文公戰城濮歷穆王至莊王即位三年不出令日夜爲樂令國中敢諫者死伍舉曰有鳥在阜三年不蜚不鳴是何鳥也王曰三年不飛飛將衝天三年不鳴鳴將驚人蘇從亦入諫王乃左執從手右抽刀以斷鐘鼓之懸明日聽政任伍舉蘇從國人大悅又得孫叔敖爲相遂霸諸侯

楚ノ先ハ顓頊ヨリ出テ顓頊ノ子ハ高辛ノ火正タリ命シトイフモノアリ季連チ得タリ季連ノ後ニ鬻熊トイフモノアリ周ノ文王ニ事フ成王其子熊繹チ丹陽ニ封セリ夷王ノ時ニチリ楚子熊渠トイフモノアリ周ノ文王ニ事フナリ十一代ニテ秋春ニ至リ武王トイフアリ益々強大トナリ文王ニ至テ始メテ郢ニ都ス成王齊ノ桓公ト召陵ニ盟ヘリツイア宋ノ襄公ハ霸チアラソヘリ後ニ晉ノ文公ト城濮ニ戰ヒタリ穆王チ歷テ莊王ニ至ル位ニツキ三年マテ令チ出サズ日夜宴遊ノミチナセリ國中ニ令シ敢テ諫ムル者ハ殺スト伍舉イフ鳥ノチカニアリ三年飛バズ鳴カザルハ何ノ鳥ナルカ王イフ三年飛バズ鳴カザルハ見アリ飛バズ天マアモツカン鳴ケバ人チナドロカスツトイヘリ蘇從モ亦入テ陳メリ王因テ左ニ從ガ手チトリ右ニ刀チヌキ鐘鼓ノカケタルチタチキリ其明日ヨリ政チキケリ伍舉ト蘇從トニマカセリ國人大ニ悅ベリ又孫叔敖チ得テ相トナシ遂ニ

マシテ瑣瑣ヲ以テ頭
ニ上スチヤ之ヲ足下
ニ施ス趙使ノ大ニハ
ソル所以ナリ

荷郷 戰國ノ鴻儒
東坡イフ高

談異論一時ヲ快フス
而シテ李斯書ヲヤク
ノワザハイ此ニ基ク
綱目集覽ニ云ク荷卿
ハ趙ノ人名ハ況時人
相尊トビ之ヲナツゲ
テ卿トイフ後漢宣ノ
諱ヲサケテ號シテ孫
卿トイ 孤 禮ノ玉藻
ヘリ 孤 二凡ソ自
稱小國ノ君ハ孤トイ
フ又曲禮ニ諸侯民ト
言フ自稱シテ寡人ト
イフ其凶服ニアルチ
適子孤ト 涓人 顔
イフナリ 師 顔

古ノ日ク消ハ潔ナリ
其内ニ在リ潔清洒掃
ノ事ヲ主ル蓋シ左右
ニ親近スル一調者ノ
ゴトキ類 樂毅 擊
ナイフ 要
ニ殺伐掠ヲ禁シ逸民
ヲ禮シ賦歛ヲ寛フシ
暴令ヲ除キ舊政ヲ修
メ齊民喜悅シ樂毅チ
封シ昌國君トナス此
ノ役殺王三十一年ニ
アリ燕王殺ト燕ヲ伐
ツトナ謀ル殺泣テイ
フ臣曠昔ノ昭王ニ事
フル猶今日ノ大王ニ
事フルコトシ若シ復
タ罪ヲ得テ他國ニ在
リ終身敢テ趙ノ奴隸
ニ謀ラズ況ンヤ子孫

諸侯ニ
朝タリ

歷共王。康王。頰敖靈王。平王。昭王。惠王。簡王。
聲王。悼王。肅王。宣王。威王。至懷王。秦惠王欲伐齊。患楚
與從親。乃使張儀說楚王曰。王閉關而絕齊。請獻商於
之地六百里。懷王信之。使勇士北辱齊王。齊王大怒。而
與秦合。楚使受地於秦。儀曰。地從某至某。廣袤六里。懷
王大怒。伐秦。大敗秦。昭王與懷王盟于黃棘。既而遺書
懷王。願與君王會武關。屈平不可。子蘭勸王行。秦人執
之以歸。楚人立其子頃襄王。懷王卒於秦。楚人憐之。如
悲親戚。初。屈平爲懷王所任。以讒見疏。作離騷。以自怨
至。頃襄王時。又以譖遷江南。遂投汨羅。以死。秦拔郢楚
徙於陳。頃襄王卒。考烈王立。又徙於壽春。
共王康王頰敖以下ノ
王ヲヘテ懷王ニナリ
關チ秦王齊ヲ伐ント欲シ楚ノ一味チナスチ患ヘ朝儀チ以テ楚王ニトカシメイ
フ王閉ク齊ト交チ絶テバ商於ノ地六百里ヲタマツラント楚王ノチ信シ勇士

齊有孟嘗君。魏有信陵君。趙有平原君。楚有春申君。皆
好客。春申君食客三千餘人。平原君使人於春申君。欲
夸楚。爲玳瑁簪。刀劍室。飾以珠玉。春申君上客。皆躡珠
履。以見之。趙使大慙。趙人荀卿至楚。春申君以爲蘭陵
令。季園以妹獻春申君。有娠。而後納之。考烈王。娠生幽
王。園使盜殺春申君。以滅口。而專楚政。幽王卒。弟哀王
爲楚人所弑。而立其庶兄負芻。秦王政遣將破楚。虜負

チヤ趙王乃子殺子觀
津ニ封シ望諸君トイ
フ
亞卿 次卿ナリ
通監ニ曰
ク燕ノ師勝ニ乘ンテ
長驅シ齊ノ城皆風チ
望ミテ潰ヘリ樂毅燕
軍ヲ脩整シ侵掠ヲ禁
止シ齊ノ逸民ヲ求メ
顯ハシテ之ヲ禮シ其
賦歛ヲ寬フシ其暴令
ヲ除キ其舊政ヲ脩メ
齊ノ民喜悅シ桓公管
仲ナ郊ニ祀リ賢者ノ
園ヲ表シ王蠲ノ
墓ヲ封セリ **督**
亢 燕ノ美地秦之チ
欲ス燕丹故ニ軻
ヲシテ圖チモメラシ
以テ進マシム
於期 秦於期ノ首
チ千斤邑萬

家ニ **焯** 案隱ニ曰ク
焯ハ染ナリ
毒藥ヲ以テ染ル
ナイフナリ **血**
血出ツルソ
如纒 ゴカニ一絲
ノ如クナリ其纏ハ極
メテ小ト雖凡必ズ立
チドコロニ死ス **寒**
ルチイフ
寒蓬ト **匕首** 圖ニ
押韻 在リ
軸ノ如クニス故ニ圖
チヒラキ己ニツキテ
匕首ノア **體解** 支
ラハル **徇** 行示ナリ以
テ衆ニ示シ
テ戒ト **補** 戰國策ニ
ナス 荊柯將ニ

芻滅楚爲郡 春申君相ノイナレトキニ齊ニハ孟嘗君魏ニハ信陵君趙ニ
人アリ平原君使ヒテ春申君ノ方ニナルニ楚ニホコリ及ク隨甲ノカンザシチ作
リ刀劍ノサヤハ珠玉ヲ以テカザレリ春申君ノ上客ハ皆珠玉ヲカザリトセルク
ツチハキ之ヲ見ル趙ノ使者ハ大ニハチカキタリ趙人荀卿楚ニ至ル春申君之チ
蘭陵ノ令トセリ李園トイフモノ妹ヲ以テ春申君ニ獻セリ妊娠シテ之ヲ考烈王
ニイレ生レシハ幽王ナリ全クハ春申君ノ子ナリ園之チ世ニ知ラセマツトシ盜
チシテ春申君ヲコロサシメリ因テ楚ノ政チ專ハラニセリ幽王卒シテ弟ノ哀王
楚人ニ統セラレ其庶兄ノ負芻チ立テリ秦王政兵
チ進ハシ楚チ破リ負芻チ處ニシ楚チ郡トナセリ

〔燕〕姬姓召公奭之所封也三十餘世至文公嘗納蘇秦
之說約六國爲從文公卒易王噲立十年以國讓其相
子之南面行王事而噲老不聽政顧爲臣國大亂齊伐
燕取之醢子之而殺噲燕人立太子平爲君是爲昭王
弔死問生卑辭厚幣以招賢者問郭隗曰齊因孤之國
亂而襲破燕孤極知燕小不足以報誠得賢士與共國
以雪先王之耻孤之願也先生視可者得身事之隗曰

古之君有以千金使涓人求千里馬者買死馬骨五百
金而返君怒涓人曰死馬且買之况生者乎馬今至矣
不期年千里馬至者三今王必欲致士先從隗始况賢
於隗者豈遠千里哉於是昭王爲隗改築宮師事之
姓ハ姬姓ニテ召公ノ受ケシ地ナリ三十餘代文公ニ至ル嘗テ蘇秦ノ説チイレ六
國ト約シテ組合チナセリ文公卒シ易王噲立ツ十年目ニ國チ以テ其相ノ子之ニ
讓レリ因テ南面シテ王事チ行ヒ噲ハ老シテ政チキカズカヘツテ臣下ニナル國
大ニ亂レリ齊燕チウチ之チ取リ子之チシホヅケトシ噲チコロセリ燕人太子平
チ立テ君トナシ是チ昭王トナス死スル者ハトムライ生キタルハタツチ人望チ
得テ又辭チ卑フシツカイモノチ手アツクシ賢者チ招ク郭隗ニトフ齊ハ孤ガ國
ノ亂レニヨリ燕チ圖ヒヤブリ國チアラサレタリ孤全ク今ノ場合ニテハトテ
之チ報フルトナラズ誠ニ賢者チ手ニ入レ國チ與ニ同ク治メシナラハ先王ノ恥
チソノケトチ得ンコレガ出來レバ實ニ孤ガ望ム所ナリ先生ヨキモノチ親テ身
之ニ事フトチ得セシメント隗イフ古ノ人君千金チモツテ近臣ニ千里ノ馬チ買
ハセリ死馬ノ骨チ五百金ニカヒ返レリ君イカル近臣ノイフイヤ死馬スラ買ハ
ハ生ルモノハイフ迄モナク必ズ之チモチ來ラント一年タメヌウチ名馬ノ三匹
マイルト今王モ士チ招キイタスナレバ最初コトロミニ此方ヨリ丁寧ニ待遇シ
テハ如何サスレバ隗ヨリ賢ルモノハナシ千里チ遠トセマツ遠方ヨリ必ズ
賢者ノ來ルトナラントイヘリ因テ昭王隗ガ **於是士爭趨燕樂毅**
爲ニ宮チ改メキツキテ之ニ師トシテ事フ

秦ニ適カントシ秦武陽ヲシテ副タラシメ太子ノ賓客其事ヲ知ルモノ皆白衣冠ニテ以テ之補 秦紀ニ己ヲ送ル 卯二十五 年燕ヲ滅シ二十六年 秦ノ初メテ天下ヲ并スノ年 トナス

秦

列國年表ニ曰ク 秦 非子ハ桓騎十九世ノ孫タリ即チ秦獻是レナリ襄公ニ至リテ世ヲ傳 フル六 附庸 一 二庸ハ塘下通ズ附庸ハ猶ホ風城ノゴトシ

救周有切

史記ニ秦

ノ襄公兵ヲヒキヒ周チ救ヒ戰甚ダカメテ功アリ周大戎ノ難チサケテ東維也ニウツル襄公兵ヲ以テ周ノ平王ヲ送ル 虞 姬姓晉獻公ニホロホサル事ハ孟子及ビ春 秋傳ニ詳カ ナリ 百里

奚 惠王ノ二十二年 九月虞ノ大夫百

里ヲ秦ニ奔リ秦 倍 始メテ志ヲ得ル

秦 襄王ノ五年冬晉 緄ニ糴チ秦ニ乞

ハシム下ニ百里儂ノ 請アリ初メ惠公秦ニ

自魏往以爲亞卿任國政已而使毅伐齊入臨淄齊王出走毅乘勝六月之間下齊七十餘城惟莒即墨不下昭王卒惠王立惠王爲太子己不快於毅田單乃縱反間曰毅與新王有隙不敢歸以伐齊爲名齊人惟恐他將來即墨殘矣惠王果疑毅乃使騎劫代將而召毅毅奔趙田單遂得破燕而復齊城 樂毅ハ魏ヨリ往ク之ヲ亞卿トセリ 國政ハ此人ニ任スソレヨリ毅チシテ齊チ伐タシメリ臨淄ニ入ル齊王出テ走ル 毅勝ニ乘シ六月ノ間ニ齊ノ七十餘城ヲ下セリタリ莒ト即墨トノミ下ラズ昭王 卒シテ惠王立テリ惠王太子タルトキ己ニ毅ニ快カラズ因テ田單反間チハナチ イフ毅新王トナカアシクソレユヘカハラズ齊チウツトチ以テ名義トシテナガ 居チセリ故ニ齊人ハタマ他將ノ來レバ即墨ノチ恐ルト惠王アソノ 如ク毅チウタガヒ騎劫チヤリ代リ將タラシメテ毅チヨベリ毅趙ニ奔レリ田單 遂ニ燕チ破ルイチ得テ 齊ノ城チトリモドセリ 惠王後有武成王孝王至王喜喜太

子丹質於秦秦王政不禮焉怒而亡歸怨秦欲報之秦將軍樊於期得罪亡之燕丹受而舍之丹聞衛人荊軻賢里辭厚禮請之奉養無不至欲遣軻軻請得樊將軍首及燕督亢地圖以獻秦丹不忍殺於期軻自以意諷之曰願得將軍之首以獻秦王必喜而見臣臣左手把其袖右手提其胸則將軍之仇報而燕之耻雪矣於期慨然遂自刎丹奔往伏哭乃以函盛其首又嘗求天下之利匕首以藥焯之以試人血如縷立死乃裝遣軻行至易水歌曰風蕭蕭兮易水寒壯士一去兮不復還于時白虹貫日燕人畏之軻至咸陽秦王政大喜見之軻奉圖進圖窮而匕首見把王袖提之未及身王驚起絕袖軻逐之環柱走秦法群臣侍殿上者不得操尺寸兵左右以手搏之且曰王負劍遂拔劍斷其左股軻引匕首摘王不中遂體解以徇秦王大怒益發兵伐燕喜斬

首及燕督亢地圖以獻秦丹不忍殺於期軻自以意諷之曰願得將軍之首以獻秦王必喜而見臣臣左手把其袖右手提其胸則將軍之仇報而燕之耻雪矣於期慨然遂自刎丹奔往伏哭乃以函盛其首又嘗求天下之利匕首以藥焯之以試人血如縷立死乃裝遣軻行至易水歌曰風蕭蕭兮易水寒壯士一去兮不復還于時白虹貫日燕人畏之軻至咸陽秦王政大喜見之軻奉圖進圖窮而匕首見把王袖提之未及身王驚起絕袖軻逐之環柱走秦法群臣侍殿上者不得操尺寸兵左右以手搏之且曰王負劍遂拔劍斷其左股軻引匕首摘王不中遂體解以徇秦王大怒益發兵伐燕喜斬

賂ヒテ國ニ入ラン
ヲ求メ秦ニ許スニ五
城ヲ以テス入ルニ及
ンテアタヘズ既ニシ
テ晉饑ユ羅ヲ秦ニ求
ム秦之レヲアトフ明
年秦饑ユ羅ヲ晉ニ求
メリ晉アタヘズ秦故
ニウ
善馬云々
史記ニ曰ク初メ繆公
善馬ヲ亡ナヒ云々繆
公ノ曰ク君子ハ畜塵
ヲ以テ人ヲ害セズ晉
聞ク善馬ヲ食フ云々
三百人ノヲノモノ秦
ヲ撃ト聞キ皆從ハン
ヲ求メ從テ繆公ノ

クルシムヲ見テ
之ヲスクヘリ **霸**
西戎 秦田余ヲ用
ヒ戎ヲ伐ツ
一ナ謀ル國ヲ益スル
一十二地ヲ開ク一十
里遠ニ西戎ニ覇タリ
王繆公ニ賜フニ金鼓
ヲ以テ命シテ四方
諸侯ノ伯トナル是レ
襄王二十補 呂氏春
九年ノ一 秋ニ曰
ク百里奚未ダ時ニア
ハザルトキ牛ヲ秦ニ
販セリ鬻クニ五羊ノ
皮ヲ以テス公孫枝之
ヲ得テ諸子繆公ニ獻
シ事ヲ風セント請フ

丹以獻後三年秦兵虜喜遂滅燕爲郡

子丹秦ニ質トナリ秦王政之ヲ禮セズ怒テ亡ク歸レリ秦ヲ怒ミ之ヲ報ゼントセ
リ秦將軍樊於期踵ヲ得テ亡クテ燕ニユケリ丹之ヲ受クテ舍セシム丹衛人荊軻
ガ賢チキ、辭ヲ卑クシ禮ヲアツクシテ之ヲ請ヒアツク之ヲモテナシイキド
ク因テ軻ヲヤラントス軻願クハ將軍ノ首ト、燕ノ督亢ノ地圖ヲ得テ之ヲ秦ニタ
テマツリヨノツテニテ秦王ヲ刺シ丹ハ於期ヲ殺スニ忍ビス之ヲイヒ難シ軻自
ラ意ヲ以テ自己ノ心持チ以テ之ヲトホマハシニイヘリ其言ニドウカ秦軍ノ首
ヲ得テ之ヲ秦王ニタマツリタシヨレナシテユケバ秦王ハ喜ビ臣ヲ見ルナラ
ンソノトキ臣ハ左手ニ其袖ヲトリ右手ニ其胸ヲサシンサスレバ將軍モ犬死ナ
ラズ仇ハ即座ニ報シテ燕ノ恥辱ハキレニソ、ガニイカニ御承知アルカト於
期其志ニ感シテ遂ニ自刎セリ丹奔リ往テ伏シテ哭セリ因テ函トテハコニ首ヲ
入レ又前ヨリヨホドヨキアイ口ヲ求メテ藥ヲ以テヤキコマセ人ヲタメスニ毒
氣ノ爲ニソツカノキズニテモ血ハイトノ如クツバケテ出テ立チドコロニ死セ
リ因テ軻ヲ送り遺ハセリ行テ易水ニ至レリ歌テイフニ風ハモノサビシク易水
モ寒クイトモアハレナシ備フス壯士ハ一ドサレバ二度トカヘラヌ覺悟ニコソサ
レバ天地モ人ノ心ヲ察セルカトノ意ナリ此ノ時白キ虹ノ日ヲツキヌテキアラ
ハル燕人事ノナラヌカト畏ル軻感陽ニ至レリ秦王政大ニ喜ビ早速ニアヘリ軻
圖ヲサシゲテ進メリ圖ヲ見セツ、圖ノツキテ短劍アラハル因テ手バヤグ王ノ
袖ヲトツテサスマグ身ニトホラズ王驚キ起テ袖ヲタチキレリ軻之ヲ逐フ柱ヲ
マハリテニゲル秦ノ法ニ群臣ノ殿上ニ居ル者ハスコシノ双物ヲ持ツトナラズ
因テ左右ヨリ手ヲ以テ軻ヲウテリウチナガライフ王ニハ劍ヲ背ニアゲテ人ニ
拔ケヤスクセヨ遂ニ劍ヲヌキ其左ノモノヲキレリ軻カナハズト思ヒ王ニ短劍
ヲナゲリアタラズ其構ニ死ス因テ五體ヲ分チキリテ衆人ニ之ヲ見セリコトニ

於テ秦王大ニ怒リイヨ、兵ヲ發シ燕ヲ代チ喜丹チキリテ
之ヲ差出セリ後三年燕兵喜チ虜ニシテ遂ニ燕ヲ滅シ郡トス

〔秦之先本顓頊之裔。曰大業者。生柏翳。舜賜姓嬴氏。其
後有蜚廉。蜚廉子曰女防。女防之後有非子。好馬。爲周
孝王主馬於汧渭之間。馬大蕃息。分土爲附庸。邑之秦
閔二世。至秦仲始大。歷莊公至襄公。犬戎殺幽王。襄公
救周有功。封爲諸侯。賜以岐西地。歷文公。出子武公。德
公宣公。成公。至繆公。有百里奚者。敬虞大夫也。爲繆公
夫人媵。亡秦走宛。楚人執之。繆公聞其賢。以五羖羊皮
贖得之。授之政。號曰五羖大夫。百里奚進其友蹇叔。以
爲上大夫。繆公送晉惠公歸晉。已而倍秦。合戰于韓。繆
公爲晉軍所圍。岐下有嘗食公馬者。三百人馳冒晉軍。
晉解圍。遂脫繆公。以反。先是繆公亡善馬。野人共得而

公ノ曰ク之ヲ五羊ノ皮ニ買フテ事ヲ屬ス乃チ天下ノ笑トナルナカラシヤ枝ノ曰ク賢ニ譲リテ下ル臣ノ智ナリ境内マサニ服セントス誰カ嘲笑セシヤ途ニ之ヲ用ヒ謀アタラザルナシ舉必ス功アリ

分 裂地以テ封ス故ニ分土トイフ

帝道 五帝ノ道

王道 五霸ノ道

三王 五霸ノ道

收司 相糾發ナリ一家罪アリ

九家罪ヲ發ス若シ糾

發セザレバ則チ十家連坐 數ナリ猶ホセリ 差等トイフ

收拏 一家ノ男女ヲ

アゲトリ没シテ官ノ奴婢トナスコトイフ

開阡陌 開ハ開闢ナリ

阡陌是レ井田ノ南北東西ノ路ナリ井田道路多シ而シテ田畝狹シ阡陌ヲ開ケバ則チ道路少クシ

灰云 韓子云ク殷ノ法灰ヲ衢ニ棄ル者

食之。吏逐得欲法之。公曰。食善馬不飲酒。傷人。皆賜酒而赦之。至是聞秦擊晉。皆願從。推鋒爭死以報德。

願頌ノ子孫大業トイフモノ駢柏ヲ生メリ舜姓ヲ高氏ト賜フ其後ニ張廉アリ其子チ女防トイフ其後ニ非子アリ馬チ好メリ周ノ孝王ノ爲ニ馬チ沂渭ノ間ニ主サドレリ馬大イニソダテリ土地チワケ附屬大名トセリ因テ秦ノ地ニ邑ヲモチ秦仲ニ至テ始メテ大イナリ莊公チヘテ襄公ニ至リ犬戎幽王チコロセリ襄公周チ救フテ功アリ諸侯トナリ賜フニ岐西ノ地チ以テス文公以下成公チヘテ穆公ニ至ル百里納トイフ者アリ故ノ成ノ大夫ナリ公ノ夫人ノツキピトナリシガ秦チニケ宛ニ至レリ楚人チヲトラヘリ公其賢者トイフチ以テ五枚ノ牝羊ノ皮チ出シ之ヲ楚人ニトラセテ彼チヨビモドセリ之ニ改チサツケ五殺大夫トイヘリ此ノ人友ノ蹇叔チ進メリ上大夫トス公晉ノ惡公チ送リ晉ニカヘズコレハ戰ニカチテトラヘシナリ後ソムケリ韓ニ合戰セリ穆公秦軍ニ圍マレ岐下ニ營テ公ノ馬チ食ムモノ三百八アリ馳セテ晉軍チ胃セリ晉圍チトケリ公モタスカリカヘル是レヨリサキ穆公善馬チウシナフ野人ドモ之ヲトモニ食ヘリ吏之チ逐ヒツカマヘ刑セントス公イフ善馬チ食ヒ酒チノマチバ人チ害ス皆之ニ酒チアタヘテ之チユルセリ因テ其恩ニ感シテ秦ノ晉チウツトキト皆モチチガヒ録チナラベツキダシ決死

穆公 後又送晉文公歸國立而霸

諸侯。晉文公卒。秦遣孟明襲鄭。因破滑。晉襄公敗之。峭繆公不替孟明。修國政。後伐晉。得志。遂霸西戎。歷康公。

共公。桓公。景公。哀公。惠公。悼公。厲公。共公。躁公。懷公。靈公。簡公。惠公。出子。獻公。至孝公。河山以東。強國六。小國十餘。皆以夷狄遇。秦擯不與。諸侯之會盟。孝公下令。賓客群臣。有能出奇計強秦者。吾其尊官。與之分土。衛公孫鞅入秦。因嬖人景監以見。說以帝道王道。三變爲霸道。而後及。強國之術。公大悅。欲變法。恐天下議。已鞅曰。民不可與虞。始而可與樂成。卒定令。令民爲什伍。相收司。連坐。不告姦者。腰斬。告姦者。與斬敵同賞。匿姦者。與降敵同罰。有軍功者。各以率受爵。爲私鬪者。各以輕重。被刑。大小戮力。本業畊織。致粟帛多者。復其身。事未利。及怠而貧者。舉以爲收拏。

テ鄭チ襲ハセ滑チ破リ晉ノ襄公チ之チ暗ニヤブレリ公孟明ノヤブレシモ之チ廢セズ用ヒテ國政チ修メシメ後晉チ伐テ志チ得テ遂ニ西戎ニ霸トナレリソレヨ

刑セラル子貢以テ重
シトナス之ヲ仲尼ニ
問フ曰ク灰ヲ衢ニ棄
テル者ハ刑セラル灰
ヲ衢ニステハ衢ケル
人必ス怒ル怒レバ則
チ圖フ則ヘバ則チ三
族之ヲ刑スルト雖モ
可ナリ綱鑑ノ注ニ灰
ハ田ヲ肥スベシ路ニ
ステレバ則チ墮農タ
リ故ニ刑ヲ加フ

補 吳養心ノ曰ク呂
不遠相トナリ自
ラ令書ヲ作り成陽城
外ニ布キ千金ヲ其上
ニカケ諸侯遊士賓客

ヲ延キ能ク一字ヲ増
減スル者アレバ千金
ヲ予ヘント易ヘルモ
ノアルコトナシ今ヲ以
テ之ヲ視レバ豈ニ一
字ノ増減スベキモノ
ナカラシヤ誠ニ秦人
鞅積威ノ規スル所ト
ナリ之ヲ讀セント欲
スト雖致テセザルト
コロアルヲ以テナリ
自若 猶ホ故ノゴ
トシトイフ
ガゴト 挾韓而
キナリ 樽里子ノ母ハ韓
譏 ノ女ナリ公孫臧
ハ本ト韓ノ諸公子ナ
リ皆韓ヲ護ルノ意ヲ

リ代チヘテ孝公ニナリ河山以東トテ崑崙山ノ東ニ強キ國六ツアリ小國八十
餘アリ皆夷狄ヲ以テ秦ニアシラヒシリソケテ諸侯ノチカイニ仲間入レセズ孝
公令チ下セリ客ノ中群臣ノ中タレニテモ能ク奇計ヲ出シテ秦ヲ強クナス者ア
レバ吾レ其者ノ官ヲ尊クシ之ニ地ヲワケツカハシタシ衛ノ公孫鞅ハ秦ニ入レ
リ與人ノ最監ニ因テ見ユトクニ帝道ヲ以テシテ三々ニ變シテ霸道トナリ
ソレヨリ後ニ國ヲ強クスル術ニ及ベリ公大ニヨロコビテ法ヲ變ントセリ天下ノ
已チカレコレイハシキツカフ鞅ノイフ民ハ法ヲ制スルコトハカレハ不都合
ナリトモドモニ法ニヨラセルコトニソ太平ヲタノシマス方尤モヨシト因テ命令
ヲ定メリ民ニ五軒ト十軒トノ組ヲ設ケテ互ニ罪ヲタマシ必ズコレヲ上ニイヒ
タツ常ニ罪ヲ犯サザルヲ望ム罪アレバ十軒ニテ罰チキルカクス者ハ腰ギリ皆
ケルモノハ敵ヲキルト賞チ同クス茲チカクマフモノハ敵ニ降ルト罰チ同クス軍
功ノアル者ハ各法規ニテ位ヲウケリ私闘チナス者ハ各輕キ重キヲ以テ刑ヲ被
ク錢ヲ免除ス商業ノ未利チ導トシ怠リ貧キ者ハ之ヲアゲテ皆官ノ奴婢トシ一
家ケル 令既具未布立三丈之木於國都市南門募民
有能徒北門者予千金民怪之莫敢徙復曰能徙者予
五十金有一人徙之輒予五十金乃下令太子犯法鞅
曰法之不行自上犯之君嗣不可施刑刑其傅公子虔
黥其師公孫賈秦人皆趨令行之十年道不拾遺山無

盜賊家給人足民勇於公戰怯於私鬪鄉邑大治初言
令不便者來言令便鞅曰皆亂法之民也盡遷之邊民
莫敢議令民父子兄弟同室內息者爲禁廢井田開阡
陌更爲賦稅法秦人富強封鞅商於十五邑號曰商君
孝公薨惠文王立公子虔之徒告鞅欲反鞅出亡欲止
客舍舍人曰商君之法舍人無驗者坐之鞅歎曰爲法
之弊一至此哉去之魏魏不受內之秦秦人車裂以徇
鞅用法酷步過六尺者有罰葉灰於道者被刑嘗臨渭
論囚渭水盡赤惠文王薨子武王立
チ國都ノ市ノ南門ニ立テ之ヲ北門ノ方ニ徙ス者ニハ千金ヲ與ヘント民之ヲ
怪シミテ徙スモノナシ復タ改メテイフ能クウツスモノハ五十金ヲ與ヘントイ
フ一人アツテウツス約ノ通り五十金ヲアトフ因テ令チ下セリ太子法ヲ犯セリ
鞅ノイフニ法ノ行ハレヌハ止ヨリ之ヲ犯スカラノコトシカシ君ノアトツギニハ
刑ヲ施スコトナラズト因テ其モリヤクノ公子虔ヲ刑シ其師ノ公孫賈ヲイレズミ
セリ秦人皆令ニオモムケリ之ヲ行フコト十年ニテ道ニステタル者チヒロハズ山

サシハサミテソシリ
タレバ王ハ之ヲ信セ
息讓 息讓彼ニ
アリ盟地
ナ指シテ王ヲ醫マシ
▲ナリ猶ホ王豈ニ息
壤ノ盟ヲ忘ルヤト
イフガゴトシ

宜陽云々 史記
ニ正義ノ曰ク宜陽ハ
河南府福昌縣ノ東十
四里ニアリ故ノ韓城
ナリ此レ韓ノ大郡伐
テ之ヲトリ三川ノ路
通ズルナリ武王二年

初メテ丞相ヲ置キ樗
里疾甘茂左右ノ丞相
補 三年ノ秋兵ヲ
出シテ四年ニ
宜陽ヲ拔キ斬首六萬
河ヲ涉リ武遂ニ城ク
武遂モ亦韓ノ邑故ニ
茂アラカシメ功ノ作
チ立チガタ
キヲ見ル 舉鼎

力ハ筋脈ニ由ル筋脈
堪ヘズ絶傷シテ死ス
ルナリ史記ニ臆チ絶
ツルニ作ル通鑑ニ脈
チ絶ツニ作ル一説ニ
云フ舊注ニ足ノ脛骨
ナリ則チ蓋シ是ノ舊
舊體ヲ絶テ死スルニ
作レバ 客卿 他邦
ナリ

ニハ盜賊ナク家毎ニ不足ナク人毎ニ不自由ナク民ハオモテムキノ戦争ニハ勇
ミ私ノタカカヒニオガケ邑里ノ大ニ治マレリ初メ便ナラズトイフモノ來テ令
ノ便チイヘリ鞅イフ皆コレヲハ法ヲ乱ス民トテノコラズ邊土ニ引移ラセリ民
之ヲ咎メルモノナシ民ニ令シテ父子兄弟同室チナシスム者チヤカマシグテ別
戸サセテ庸トテアヤクニアテル井田チヤメアセ道チヒラキ賦稅ノ法チアラメ
メテ秦人富ンテツヨシ鞅チ商於十五邑ニ封シテ商君トイヘリ孝公ナクナリ惠
文王立テリ公子處ノ徒鞅ハ反セントスト告ケ鞅出亡シテ客者ニ止ラント欲セ
リ舍人ノイフ商君ノ法ニ人ノ證據ナキモノ宿セシムル者ハ罪ニアハン因テ留
▲可ラズトイフ鞅嘆息シテ法チ立テ其弊ノ亦此レニモ至ルカ今更ラ悔テカヒ
ナキト去テ魏ニユキ魏受ケズ之ヲ秦ニ入レリ秦之ヲ車ザキニシテ示セリ鞅
ハ法チ用フレトキビシク六尺ヨリ繩ノビチイハヌ者ハ罰アリ灰チ道ニ棄テル
者ハ刑セラル前ニ涓水ニ罪アル者チキリシニ數多キタメ涓水ハ盡ク赤シ惠文
王立ツ 武王使甘茂伐韓茂曰宜陽大縣其實郡也今
倍數險行千里攻之難魯人有與曾參同姓名者殺一人
人告其母母織自若及三人告之母投杼下機踰牆而
走臣賢不及曾參王之信臣又不如其母疑臣者非特
三人臣恐大王之投杼也魏文侯令樂羊伐中山三年
而後拔之反而論功文侯示之謗書一篋再拜曰非臣

之功君之力也。今臣羈旅之臣也。樗里子公孫奭挾韓
而譏王必聽之。王曰寡人弗聽。乃盟于息壤。茂伐宜陽
五月而不拔。二人果爭之。武王召茂欲罷兵。茂曰息壤
在彼。王乃悉起兵佐茂遂拔之。
今之ニ函谷三殺ナドノ險チ背ニシテ千里モユクナカ、之チ攻メルトムツカシ
ニ魯人ニ曾參ト姓名チ同クスルモノアリ人チ殺セリ人曾參ノ母ニツク母織ル
コトモトノ如シ參ハ人チ殺ス可ラズトナリ三人ノ告ケルニ及ビ母ハ初メテ
信シハタノオサトイフ前ニアル木チナゲ其場チ下リテカキチコヘテ走レリ今
臣ガ賢ハ曾參ニ及バズ王ノ臣チ信ズルモノ又其母ニ及バズソレニ臣チ疑フ者
ノ三人ニ止マラチハ臣恐クハ大王杼チ投ジテ信ツタマハンチ又魏ノ文侯ガ
樂羊チシテ中山チ伐タシメシニ三年ノチニ拔ケリ反テ功チ論セシニ文侯之ニ
ソシリシ書面ノ入レシハコト見セリ再拜シテ謝シ全ク臣ノ功チラズ功ハ君ニ
アリトイヘリ今臣ハ他ヨリマイリシ者樗里子公孫奭ノ韓チヒイキニシテソシ
ラバ王ハ必ズ之チキカン王イフ決シテキト入レヌト因テ息壤チザカフ茂宜陽
ニアリ之チウチ五月ニテ拔ケズ二人アンノ如クアラソフ武王茂チ召シ兵チヤ
メントス茂ノイフ息壤ニテアノ通リチカイマシタソ王因テ兵チ起シ茂チ佐ケ
遂ニ之チ 拔ケリ 武王有力好戲力士任鄙烏獲孟說皆至大
官王與孟說舉鼎絕脈死弟昭襄王稷立有魏人范雎

來ヲ卿トナル故
ニ客卿トイフ
叔

一寒
一寒ト
字

膝
ノ一ノゴトク甚
シキナイフナリ

行
ヒザナ風シテ地
ニツキテユク以

供具
テ恐懼ノ狀
ヲ示スナリ

莖
酒食ヲ辨シ
ソナフナリ

屠
豆ニマゼテ馬チ
カフモフ

屠
城邑ヲ破リトリ其人
ヲ誅殺スル六畜ヲ屠

眊
ルゴトキ
ナイフ

眊
杜欽傳ノ字面注ニ眊
ハ眼チアゲルナリ眊

時之序
胡三省
四時ノ序功チナスモ
ノトハ春ハ生シ夏ハ
長シ秋ハ就シ冬ハ藏
シ各其功チ成シテ相
代謝スルチイフ按ズ
ルニ眊チシテ天道ニ
則リ其位チ去ラシム
メント欲スルチイフ

赧王
劉伯莊ノ曰
ク赧ハ慙ノ

赧王
甚シキナリ輕微危弱
東西ニ寄住シ慙赧チ

者嘗從須賈使齊齊王聞其辯口乃賜之金及牛酒賈
疑眊以國陰事告齊歸告魏相魏齊怒笞擊眊折
脅拉齒眊佯死卷以簀置廁中使醉客更溺之以懲後
眊告守者得出更姓名曰張祿秦使者王稽至魏潛載
與歸薦于昭襄王以爲客卿教以遠交近攻之策
武王ハ
チカラハザチ好メリカ士任鄒烏獲孟既何レモ大官ニ至レリ王孟既ト鼎チアゲ
シニ足ノ壓トテスチノ骨チオリテ死セリ一説ニ字ノ如クミヤクナリト弟ノ襄
王稷立テリ魏人范眊トイフ人アリ嘗テ須賈トイフ者ニ從テ齊ニ使者ニヤレリ
齊王其辨口アルチキテ之ニ金及ビ牛酒ヲ賜ヘリ范眊ハ國ノ秘密ノチチ齊ニツ
ゲシト疑ヒカヘリ之チ魏ノ相ニ告ケリ魏齊怒リ眊チムチウチワキバラノ骨チ
オリ齒チメクゲキタリ眊死シテ風チナス之チヌダレニスマキニシテカハヤニ
入レ醉客チシチ五ニイバリチカケ後ノコラシメニセリ眊守ル者ニ告グテ出ル
トチ得テ張祿ト名チカヘリ秦ノ使者王稽ノ魏ニ至リ潛カニノセトモニ歸ル昭
襄王ニストメテ客卿トナシ遠キハ交
リチシテ結ビ近キハ攻ルトチ教ヘリ
時穰侯魏冉用事眊說王
廢之而代爲丞相號應侯魏使須賈聘秦眊敝衣間步
往見之賈驚曰范叔固無恙乎留坐飲食曰范叔一寒

如此哉取一綈袍贈之遂爲賈御至相府曰我爲君先
入通于相君賈見其久不出問門下門下曰無范叔鄉
者吾相張君也賈知見欺乃膝行入謝罪眊坐責讓之
曰爾所以得死者以綈袍戀戀尙有故人之意爾乃
大供具請諸侯賓客置莖豆其前而馬食之使歸告魏
王曰速斬魏齊頭來不然且屠大梁賈歸告魏齊魏齊
出走而死
時穰侯魏冉事チ用ユ眊王ニトキテ之チ廢セリ代ハリテ丞相トナ
ヒントシヤブレ衣ニテアキ道ヨリユキ之ニアヘリ賈オドロキ范叔死セシト思
ヒシニ存命ナルカ留メテ飲ミ食ヒサセシム范叔サソ一枚ノ衣ニテ寒ガラン覺
ノ垂ト一枚ノウタ入チトリテヤレリソレヨリ賈ノ爲ニ馬チ御シ相府ニ至レリ
我ハ君ノタメ先ツ入テ相君ニ申サントテ去レリ久シテ出テユズ門下ノ者ニト
ヘバ范叔トイフモノナシサキノ者ハ吾相ノ張君ニテアルト賈初メテ欺カレル
チ知リ膝ニテ行キ入罪チ謝セリ眊坐シテ之チ責メテイフ爾ハ今殺ス可キナレ
ドソムガノワタイレチケレナツカシク久シハウチタヘテモ以前チジミノナサ
ケアルチ以テ殺サヌナリ然シコノマトニニユルサト大ニ酒具チ辨シ諸侯賓
客チヨビカイバ豆チ前ニ置キ馬ノ如クユシテ之チ食ハシメリイフ歸リテ魏王
ニ告ヨカシ速ニ魏齊ガ頭チキリテ來レサモナクンバ大梁チ屠ラント賈カヘリ

ナスニ足ル故ニ之ヲ
號シテ赧トイフ

王制 禮記ノ
篇ノ名 九

州 九州ノ内一州ヲ
王畿トナシ九十

三國ヲ容ル外八州一
千六百八十國ヲ容ル
折内ヲ并セテ千七百
七十三國トス

宗主於天子

王制ニ所謂比年ニ一
タビ小聘二年ニ一タ
ビ大聘五年ニ一タビ
朝スルノ類ナリ

ツケ魏齊 走リ死ス 睢既得志于秦。一飯之德必償。睢眦之怨必
報。王既用離策。歲加兵。三晉斬首數萬。周赧王恐。與諸
侯約從。欲伐秦。秦攻周。赧王入秦。頓首請罪。盡獻其邑
三十六。周亡。秦將武安君白起與范雎有隙。廢爲士伍。
賜劍死。子杜郵。王臨朝而歎曰。内無良將。外多強敵。睢
懼。蔡澤曰。四時之序。成功者去。睢稱病。澤代之。昭襄王
薨。子孝文王柱立。薨。子莊襄王楚立。薨。嗣爲王者。政也。
遂并六國。是爲秦始皇帝。
睢既ニ志ガシテ秦ニ得テ一飯ノ徳ヲモ必
ズ償フコトヲナシ人カ目チイカラスワヅカ
ノウラミトテモ之ヲ必ズ報ヘリ王既ニ睢ガ策ヲ用ヒテ魏ゴトニ兵ヲ三晉ニ加
ヘリ首ヲキルコトハ數萬ニテアリ周ノ赧王恐レテ諸侯ト從合ヲナシ秦ヲ伐シ
テ欲セリ秦周ヲ攻メリ赧王秦ニ入リテ頓首シテ罪ヲ請ヘリ盡ク其邑三十六ヲ
獻セリ周亡ア秦ノ將白起起トナカアシク廢シテ士伍トシテ劍ヲ賜ハリ杜郵ニ
死セリ王制ニノゾミナゲキ内ニハ長將ノナク外ニ強敵多ク白起ヲ殺サズハ敵
モ平ラギ此ノ憂モナカラント恨チイヘリ睢懼レリ蔡澤ノイフ四時ノ序ハ順ニ
マハリ春ノミ獨リ功ヲ專ラニス可ラズ夏ノカハル如ク功ヲナス者ハサレリ睢
病ト稱シテ澤之ニ代ハレリ昭襄王薨セリ秦ノ孝文王柱立テリ薨シテ子ノ莊襄

王楚立テリ薨シツギ王トナル者ハ
政ナリ遂ニ六國ヲ併ス者始皇ナリ

補 此ニ赧王ヲ以テ
終トナス綱目赧
王ノ後東周君ヲ以テ
之ニツケ故ニ曰ク周
三十七王東周君ヲ并
セテ計八百七十三年
ナ

黃帝以來。天下列百里之國。萬區。蓋自中國以達于
四裔。中國之制。可攷於王制者。九州千七百七十三。
國。古之建侯。各君其國。各子其民。而宗主於天子。歷
夏殷至周。強併弱。大吞小。春秋十二國外存者無幾。
戰國存者六七。至是遂併於秦。
黃帝ヨリコノカタ天下百里ノ
國ヲ列スルコト萬區アリソレハ
サダメシ中國ヨリ四方ノ外ニ達セリ中國ノ制ノ王制ニテ考フベキ者ハ九州千
七百七十三國アリ古ノ侯ヲ建ルニハ各其國ニ君トナリ各其民ヲ子トシ天子ヲ
タツトビ主トス夏殷ヨリ周ニ至リ強キハ弱キヲ併セ大ハ小ヲ吞ミ春秋十二國
ノ外ノコル者ハイクラモナク戰國ニ至リ存スル者ハ六七是ニ至リテ皆秦ニア
ラハセ
ラル

十八史略講義卷之一終

蓋頭字解

秦

始皇

始皇初天
下ヲ併セテ

帝ト稱シ咸陽ニ都シ
天下ヲ分チテ三十六

郡トナシ後マテ四郡
ヲ置キ凡ソ四十郡ナ

楚母

夏姫ハ寵
ナシ故ニ

楚イテハ實
子トナル

奇貨

可居

湖三省ノイ
ハク買入貨

チ積ミ置キテ時チ何
ヒテ利チ求ム庶チ楚

チモツテ貨財ニ比ス
今按ズルニ非常ノ財

貨故ニ奇貨トイフ居
蓄積ナリ是レ買入ノ

十八史畧講義卷之二

元・曾先之原著

大日本 太田 百 祥 講 義

秦

〔秦始皇帝名政。始生于邯鄲。昭襄王時。孝文王柱爲太子。有庶子楚。爲質于趙。陽翟大賈呂不韋。適趙。見之曰。此奇貨可居。乃適秦。因太子妃華陽夫人之姊。以說妃立楚爲適嗣。不韋因納邯鄲美姬。有娠而獻于楚。生政。實呂氏。孝文王立。三日而薨。楚立。是爲莊襄王。四年薨。政生。十三歲矣。遂立爲王。母爲太后。不韋在莊襄時。已爲秦相國。至是封文信侯。太后復與不韋通。王既長。不韋事覺。自殺。太后廢處別宮。茅焦諫。母子乃復如初。始

婦 夫人之姊

史記云不 章其飾ナシ

云々 夫人ニトカシメテ 曰ク吾之チキク色チ 以テ人ニ事ヘル者ハ 色衰ヘテ愛弛ルム今 夫人太子ニ事ヘ甚ダ 愛セラレテ子ナシ其 時ヲ以テハヤク自ラ 諸子ノ内ノ賢者ニシ テ孝心アル者チアゲ 立テ以テ適トナス 可シ因テ某チス

切 旅客賤トナク

一ニ皆之チ逐フ 一ナイフ刀ヲ以テ物 ナキルガ如ク荷モ整 齊チトリ長短縦 横チカヘヨミズ 由

余云々

戎王由 余チ秦

ニ使ロシ王之チ悦ビ 歸ルニ及ビ之チ要シ 百里奚晉ノ爲ニ秦ニ 勝シノチ宛ニ走ル穆 公之チアガナヒ楚叔 公孫枝並ニ岐州ノ人 宋晉ニアソヒ不約ハ 晉ノ大夫鄭子ナリ 泰山 管子ニ云海 ハ水チ辭セ 不故ニ能ク其大チ成 ス泰山土石チ辭セズ 故ニ能ク其 高キチナス 黔首 一脱ニ云凡民黒巾チ 以テ首チ覆フ故ニ黔 首ト 籍寇兵 句古語范 韓非 史 記 唯亦用フ

帝名ハ政始メ邯鄲ニ生ル昭襄王ノトキ孝文王ハ太子トナリ妾服ノ子ニ楚トイ フ者アリ趙ニ人質トナリキ陽翟ノ大商人ニ呂不韋トイフモノアリ趙ニユケリ 之チ見タイフコレハヨキモウケモノナリ之チスエオクベシト是レ此人チダヤ コミナスアラントス因テ秦ニユキ太子孝文王ノ妃ノ華陽夫人ノ姉ヨリ姫ニト キヨミ楚チ立テアトツギトセリ不韋ソレニヨリ邯鄲ノミメヨキ女チ楚ニダテ マツレリ實ハ已レガ愛シ娘メル者ナリ故ニ始皇ハ呂不韋ノ子ナリ孝文王立チ 三日ニシテ薨セリ楚立チ是チ莊襄王トナシ四年ニシテ薨ズ政生レテ十三歳ニ テソレヨリ王トナレリ母チ太后トナス不韋莊襄王ノ時ニアリモハヤ秦ノ相國 トナリ是ニ至リ文信侯ニ封セララル太后フタビ不韋ト不義セリ王ハモハヤ生 長不韋事アラハレテ自殺ニ及ブ太后廢セラレ別宮ニ處ル茅焦ノ謀メニヨリモ トノ如ク 親クセリ ○秦宗室大臣議曰諸侯人來仕者皆爲其 主游說耳請一切逐之於是大索逐客客卿李斯上書 曰昔穆公取由余於戎得百里奚於宛迎蹇叔於宋求 丕豹公孫枝於晉并國二十遂霸西戎孝公用商鞅之 法諸侯親服至今治強惠王用張儀之計散六國從使 之事秦昭王得范雎強公室此四君者皆以客之功客 何負於秦哉泰山不讓土壤故大河海不擇細流故深

今乃棄黔首以資敵國卻賓客以業諸侯所謂籍寇兵 而齎盜糧者也王乃聽李斯復其官除逐客令斯楚人 嘗學於荀卿秦卒用其謀并天下有韓非者善刑名爲 韓使秦因上書王悅之斯疾而問之遂下吏斯遺之藥 令自殺 秦ノ宗室大臣ノ評議ニイフ諸侯ノ人ノ來リ仕フル人々ハ察スルニ其 請フ誰レ彼レナク一トガモイニ之チ途ハン是ニ於テ大ニサガシ求メテ客チ逐 ヘリ客ノ長李斯上書シテイフ昔シ穆公ハ由余チ戎ヨリトツテ用ヒ百里奚チ宛 ヨリ得テ蹇叔チ宋ヨリ迎ヘ丕豹公孫枝チ晉ニ求メ國チ并スル一二十遂ニ西戎 ニ覇トナレリ孝公商鞅ノ法チ用ヒ諸侯親服セリ今ニ至ルマテ治マリテ強ク惠 王ハ張儀ノ計チ用ヒ六國ノ合從チ散シ之チシテ秦ニ事ヘシメリ昭王ハ范雎チ 得テ公室チ強クセリ此ノ四君ハ何レモ客ノ功チ以テスサスレバ客ハナンテ秦 ニソムクアアラン泰山ハ土ノカタマリモワキヘヤラズ故ニ大イナリ河海ハ細 キ流レチ擇バズ故ニフカシ今王ニハ人民チナスシテ敵國チダスケ賓客チヒリソ ケテ諸侯チダスケリコレ世ニイフアタガタキニ兵チカシテヤリ盜ニカテチモ タシテヤル理ナリト王ヨツテ是ノ議チトリアゲ其官チモドシ逐客ノ令チ除ケ リ斯ハ楚人ニテ荀卿ノ門ニ出テリ秦其謀チ用ヒ天下フ并セリ韓非トイフモノ アリ刑名ノ學ニ善シ韓ノ爲ニ秦ニ使ヒシ因テ上書セリ王之チヨロコビ人物ト 察セリ李斯之チニクミソシレリ遂ニ之チ役人ニ ○十七年內史勝滅

ニ云韓非ハ韓ノ諸公
子ナリ人トナリ口吃
ユテ道説スルコトア
ハズ善ク書クアラハ
ス李斯ト俱ニ荀卿ニ
ツカフ斯自ヲ以テ及
バズト疾ソノ能ヲ
ナスイムナリ
間 離間 除拜遺
命 命 命 命
トイ 中外ニ布告
令 スル令トイ
朕 朕 朕 朕
下之ヲ共ニス秦ニ至
リテ獨リ尊稱タリ後
世ツイニコ
レニヨル 皇帝
丘瓊山ノ曰ク盤古以
來皇ト稱スルモノ三
帝ト稱スル者五王ト
稱スル者三始皇初メ

韓十九年。王翦滅趙。二十三年。王賁滅魏。二十四年。王
翦滅楚。二十五年。王賁滅燕。二十六年。王賁滅齊。秦王
初并天下。自以德兼三皇。功過五帝。更號曰皇帝。命爲
制令。爲詔。自稱曰朕。制曰死。而以行爲謚。則是子議父。
臣議君也。甚無謂。自今以來。除謚法。朕爲始皇帝。後世
以計數。二世三世。至于萬世。傳之無窮。十七年。內史騰韓。滅
趙。二十三年。王賁魏。滅趙。二十四年。王翦楚。滅趙。二十五
年。二王賁。滅燕。滅齊。二十六年。二王賁。滅齊。滅燕。滅趙。二十
ハセリ始皇自ヲオモフ徳ハ三皇ヲ兼子功ハ五帝ニ過グト因テ更メ皇帝ト名ツ
ケ命ヲ制トシ令ヲ詔トシ自ヲ稱シテ朕トイヘリ天下ニミコトノリス死シテ其
行狀ヲ隆トス甚ダ其意ヲ得ズ是レ子ガ父ノコトヲ定メル臣ガ君ヲ沙汰スル是非
ヨクイフイカメ今ヨリハ之ヲヤメル因テ朕ヲ始皇帝トシ後世以テ數ナカゾヘ
二代三代ト幾代ニモツタヘ ○収天下兵聚咸陽銷以爲鐘鐻
金人十二重各千石。○徙天下豪富於咸陽。十二萬戶。○
丞相王綰等言。燕齊荆地遠。不置王無以鎮之。請立諸

天下ヲ并セ自ヲ徳ハ
三皇ヲ兼子功ハ五帝
ニ過ギタリトイフヲ
モツテ之ヲ兼子用フ
後世襲フテ之ヲ稱ス
而シテ王ヲ以テ其臣
子ヲ封シ遂ニ萬世易
フ可ラザルノ制トナ
ル是レ亦世變ノ
一初ナリ
周公謚法ヲ作り行ノ
美惡ニ縁テ以テ謚ヲ
立テ今秦之ヲ除キ後
人ノ已ニ加フルニ惡
謚ヲ以テスルコト
ヲオソルナリ 萬
世 王應麟ノイハク
秦皇ハ一ヲ以テ
萬ニ至ラント欲ス新
莽三萬六千歳ノ曆紀
ヲ推ス其愚一ナリ漢
ノ世祖ノ曰ク日復一

子。始皇下其議。廷尉李斯曰。周武王所封子弟同姓甚
衆。後屬疏遠。相攻擊。如仇讐。今海內賴陛下神靈。一統
皆爲郡縣。諸子功臣。以公賦稅。賞賜之。甚足。易制天下
無異意。則安寧之術也。置諸侯不便。始皇曰。天下初定。
又復立國。是樹兵也。而求其寧息。豈不難哉。廷射議是。
分天下爲三十六郡。置守尉監。天下ノ兵ヲ收メ之ヲ感陽ニアツメ
トテツリ手及ビ金人十二ヲ造リ重サハ一ツガ千石アリシト天下ノ金滿家ヲ感
陽ニウツス。十二萬ニテアリキ丞相王綰等ノイフニ燕齊荆ノ地ハ遠シ王ヲ置
ガ子バ之ヲ鎮メルコトナシ願クハ諸子ヲ立テヨト始皇コレハ何如ニ評議ニカケ
リ廷尉李斯ノイフニ周ノ武王ノ封シテ地ヲアタヘシ所ノ子弟同姓ノモノイト
多シ後チトホクシクナリ互ニセメウツコトハ仇ガタキノ如クナリ亂ル今海内
陛下ノ神靈ナル御徳即チオガケニテ一統シテ郡縣トナレリ諸子功臣ハ政府ノ
稅ニテ之ヲ恩賞ナリ一切マカナヘバ至極タリテ制シヤスク天下ニ異存ナケレ
バ此上ナキ安泰ノテダテナリ諸侯ヲ置クコトハ不便ナルコトナリ始皇ノイフ天下
初メテ定マルソレニマタソコ國ヲ立テルハ是レ兵ヲウエツケル如クナリソレ
テ安泰ヲ求ムルハムゾカシキコトナリ廷尉ノ申ス所ヨロシト因テ天下ヲウカチ
テ三十六郡トナシカミスケサ ○二十八年。始皇東行郡縣。上

日安ノ政ヲ遠ク千
歳ヲ斯セシヤ眞ニ帝
王ノ言ナ
兵 兵器ナ
ルカナ
銅ヲ以テ 鑿 鹿頭龍
兵トナス 身神獸
ナリ鑿ノ附皆用テ
以テ飾トナス古ヘハ
兵器ミナ銅ヲ以テ之
ヲツクル之ヲ銷シテ
用フル所ナシ因テ之
ヲ作ル鑿ハ鑿ニ作ル
カチノツリハシラト
アリコレニ神獸ノカ
ザリチナスモノ
ト知ル可シ
十
二人 二十六年大
人見ハル凡
ソ十二人今之ニ
像リテ作ル 石
百二十斤 荆 莊襄ノ
ニアタル 諱サケ

鄒嶧山立石頌功業上泰山立石封祠祀既下風雨暴
至休樹下封其松爲五大夫禪于梁父遂東遊海上方
士齊人徐市等上書請與童男童女入海求蓬萊方丈
瀛洲三神山仙人及不死藥如其言遣市等行始皇浮
江至湘山大風幾不能渡問博士曰湘君何神對曰堯
女舜妻始皇大怒伐其樹赭其山○韓人張良以五世
相韓韓亡欲爲報仇始皇東遊至博浪沙中良令力士
操鐵椎擊始皇誤中副車始皇驚求弗得令天下大索
○三十一年更臘爲嘉平 二十八年始皇東郡縣ナメケレリ鄒嶧山
ハセリ泰山ニノボリ石ヲ立テ地ヲカマテマツリチシガハリ下レバ急ニアラ
シトナル因テ樹ノ下ニイコヒ其イコヒ松ヲ五大夫ノ格ニシテヤレリ我國醜
翻天皇驚ニ五位ノ位ヲヤリ五位驚トイフマタコノ意ナリ梁父ニ地ノ祭チナセ
リソレヨリ東シテ海上ニアソベリ方術チスル齊人ニ徐市トイフモノ上其徒ト
上書シ童男童女ト海ニ入り山神山ノ仙人及ビ不死ノ藥ヲ求メニユカント之ナ
許セリ始皇江水ヲウカビ湘山ニユク大風ニアヒトテモゾタレヌ博士ニトフ湘

テ楚ヲ以テ 同姓
荆トナス
甚多 武王兄弟ノ
國ヲ封シ十
五人同姓ノ 陛下
國四十人
蔡邕ノ曰ク陛下ハ天
子チイフ陸ハ階ナリ
由テ以テ堂ニ升ル所
ノ者ナリ天子必ス近
臣アリ兵ヲトリ陛下
ニ陳シテ以テ不虞チ
戒メ群臣敢テ天子チ
指斥セズ呼ンテ陛下
ニアルモノニタヨル
是レ卑ヨリ尊ニ達ス
ルノ 神靈 神靈ハ
義 神明威
一統 統紀ノ
一二歸

君ハ何ノ神ヲ對テイフ幾ノ女舜ノ妻ナリ始皇大ニ怒リテ其樹チキリタホシ其
山チヤキアカツチトセリ韓ノ人ニ張良トイフモノアリ五代韓ノ相タルチ以テ
韓ノ亡ビシチ以テ爲ニ仇チ報ヒントシ始皇東遊シテ博浪沙ノ中ニイタレリ良
力士チシテ鐵ノツチチツクリコレチトリ始皇ニアラシムアヤマリ副車ニアタ
レリ始皇オドロキ之ヲ求メテ得ズ天下ニ命令シテ大ニ之チ
索メシム三十一年ニ冬ノ臘トイフ祭リチ嘉平ト改メタリ ○三十二年
始皇巡北邊方士盧生入海還奏錄圖書曰亡秦者胡
也始皇乃遣蒙恬發兵三十萬人北伐匈奴築長城起
臨洮至遼東延袤萬餘里威振匈奴○三十四年丞相
李斯上書曰異時諸侯並爭厚招遊學今天下已定法
令出一百姓當家則力農工士則學習法令今諸生不
師今而學古以非當世惑亂黔首聞令下則各以其學
議之入則心非出則巷議率群下以造謗臣請史官非
秦記皆燒之非博士官所職天下有藏詩書百家語者
皆詣守尉雜燒之有偶語詩書者棄市以古非今者族

スルヲ 樹兵 國ア

則チ兵アリ故ニ國チ 立ルハ兵チ樹ル所以 ナリ 郡チ治メル

尉 守チ佐ケ武職甲 卒チツカサドル

監 御史郡守チ監ス

封禪 土チ築クチ 封トイフ高

増廣チ示スナリ天高

ク及ア可ラズ故ニ之

チ泰山ニ祭ル天ニ近

クチ冀フナリ張晏ノ

曰ク天高ク及ア可ラ

ズ泰山ノ上ニ於テ封

禪シテマツル神靈ニ 近ククナコヒ子ガ

フナ 五大夫 爵

名二十 方士徐

級ノ一 方士方術ノ士徐

市 市ハ即チ徐福市

ハ即チ古ヘノ市ノ字

故ニ福ノ音ト通ス

童男童女 雨森

ノ曰ク必ズ童男女チ

用フル者ハ天元ノ未

ダキツ、カザルチ以

テナリ肥前ニ童男童

女村アリ相傳フ徐市

來リテ此ニ留ル人紀

州ニ有ルヲ知ラズ

前ニ有ルヲ知ラズ

録シテ異 膠 即チ蜡

聞ニ備フ 歳ノ十

所不去者。醫藥。卜筮。種樹之書。若有欲學法令。以吏爲師。制曰。可。三十五年。侯生。盧生。相與譏議始皇。因亡去。始皇大怒曰。盧生等吾尊賜之甚厚。今乃誹謗我。諸生存。咸陽者。吾使人廉問。或爲妖言。以亂黔首。於是使御史悉案問諸生。傳相告引。乃自除犯禁者四百六十餘人。皆坑之咸陽。長子扶蘇諫曰。諸生皆誦法孔子。今上皆重法。繩之臣恐天下不安。始皇怒使扶蘇北監蒙恬軍於上郡。三十二年。始皇北邊。方士。盧生。海。入。還。未。來。亥。泰。伊。比。始。皇。北。胡。下。思。因。蒙。恬。三。十。萬。人。兵。發。匈。奴。三。十。長。城。三。十。四。年。李。斯。上。書。シ。テ。イ。フ。ニ。マ。ヘ。ニ。諸。侯。ノ。並。ヒ。爭。ヒ。厚。ク。遊。學。チ。招。キ。ヘ。リ。三。十。四。年。ニ。李。斯。ノ。上。書。シ。テ。イ。フ。ニ。マ。ヘ。ニ。諸。侯。ノ。並。ヒ。爭。ヒ。厚。ク。遊。學。チ。招。キ。シ。ガ。今。天。下。ノ。定。マ。リ。法。令。ハ。一。途。ニ。出。テ。百。姓。家。ニ。ア。タ。ラ。バ。農。業。工。業。チ。ツ。ド。メ。士。ハ。法。令。チ。マ。ナ。ビ。習。フ。然。ル。ニ。今。諸。生。ハ。今。チ。ト。セ。ズ。シ。テ。古。チ。學。ビ。テ。當。時。ノ。コ。チ。ワ。ル。ク。イ。ヒ。人。民。チ。マ。ド。ハ。ス。令。ノ。下。ル。チ。キ。ク。ト。各。其。學。チ。以。テ。カ。レ。コ。レ。非。難。シ。入。テ。ハ。則。チ。心。ニ。非。ト。シ。出。テ。道。ハ。タ。ニ。議。シ。群。下。ノ。モ。ノ。ド。モ。チ。ヒ。キ。ツ。レ。テ。ト。モ。ニ。ソ。シ。リ。チ。ナ。セ。リ。因。テ。請。フ。史。官。ノ。察。ノ。記。テ。ナ。キ。者。ハ。ヤ。カ。ン。又。書。チ。ツ。カ。サ。ド。ル。博。

士官ニアラズシテ天下詩書百家ノ語ヲ藏セル者ハ皆守尉ニ差出シテ皆之ヲヤキステン詩書ヲ對シテカタル者ハ市ニスチギリセン古チ以テ今チソシル者ハ家族チ併セテコロサン去ラザル所ノ者ハ醫藥卜筮種工木ノ書ハノコス若シ法令ヲ學ブ者ハ官吏チ師トセヨト制ノ之チ許セリ三十五年ニ侯生盧生ノ二人ガ始皇チソシリニケ出セリ始皇大ニ怒リイフ彼ヲハ手厚クトリアツカヒ置キシニ今我チソシルハニクキナリ彼ノ諸生等ノ感陽ニ在ル者ハ吾人チ以テコトバク之チ吟味セシメントソノウチ又或人ガアヤシキコトフレ人民チミダセリ因テ御史ニ之チタハサシム諸生ドモ互ニテ、イ、ワケシテ四百六十餘ハツヨチオカシトラハレ咸陽ニイケ埋ニサル長子扶蘇諫チイフ諸生ハ何レモ孔子ノ言チ誦シ法トナス者今上ハ皆法チ重クシテ之チタハサス臣恐クハ天下ノ安スカラザルコトヲ始皇怒ル因テ扶蘇チ遣ケ此

○始皇以爲咸陽人多先王宮庭小乃營作朝宮渭南上林苑中先作前殿阿房東西五百步南北五十丈上可坐萬人下可建五丈旗周馳爲閣道自殿下直抵南山表南山之顛以爲闕爲復道自阿房渡渭屬之咸陽以象天極閣道絕漢抵營室也阿房宮未成欲更擇令名天下謂之阿房宮○始皇爲人天性剛戾自用天下事無大小皆決於上至

二物月萬ナ集合シテ
之ヲ索嬰スルナリ夏
ニハ清祀トイヒ殷ニ
ハ嘉平トイヒ周ニハ
蟠トイヒ秦惠文王ノ
時ヨリ初メテ臘ス是
ニ至リ名ヲ改メ秦建
亥ヲ以テ歲首トナス
臘ハ乃チ建丑ヲ用ユ
古人定説アリ

録

ハ録ト同シ續緯
ノ將墨子文王殷

ニ代リ河ニ胡二世
録圖ヲ出ス

始皇解セズ却テ
北胡ニ備フ

延ハ長術ナリ南
北ヲ兼トイフ秦

ノ時一里率子今三町
一間四尺四寸八分許

ニアタル按ズルニ長
城ハ昭王及ビ趙代王
已ニ之レアリ此ニ創
マルニアラズ

當家 一家ノ主
ルモノナク

博士云々 博士
宣典

籍ヲツカサドル秦ノ
書ヲ燒ク天下ノ藏書
ヲ燒クノミ項羽秦ノ
宮室ヲ燒キ博士ノ藏
スル所ヲ并セテ之ヲ
燒ク書ヲ燒ク商鞅ノ
時已ニ之レアリ獨リ
李斯ノミナラズ

雜 分別スル所
ナシ 偶

語對 棄市 人ヲ
市ニ

以衡石量書。日夜有程。不得休息。貪於權勢。至如此。○
秦有出使者。還遇人持璧授之。曰。爲吾遺瀉池君明年
祖龍死。○三十七年。始皇出遊。丞相斯。少子胡亥宦者
趙高從。始皇崩於沙丘平臺。秘不發喪。詐爲受詔立胡
亥。賜扶蘇死。載始皇輜輶車中。以一石鮑魚。亂其臭。至
咸陽。始發喪。胡亥即位。是爲二世皇帝。

始皇ハモフ感陽ハ人多ク先王ノ宮庭バ小サク
用ナサズ大ニスベシト諸臣ノ參朝ノ宮ヲ渭南上林苑中ニ造營シ先ツ前ノ殿
ヲ阿房ニ作レリ河ハ山ノマカリシ處東西五百間南北五十丈上ニハ一萬人ノ人
ヲスハラセ下ニハ五丈ノ旗ヲ建テララ高サメグリテサンシキチカケ殿ノ下
ケ阿房ヨリ渭水ヲワタリ感陽ニツヅク之ヲ天極星ト閣道星ノアマノ川ヲダチ
キリ營室星ニツヅクニカダドレリ阿房宮ノマダ出來ズ出來アガリノウハハ更
メテ令名ヲ擇バント天下之ヲ阿房宮トノミイヘリ始皇ノ人トナリハムマレツ
キツヨクイザワルクイガミ我意深ク人ヲ用ヒズ皆自ラセリ政事大小ナク上ニ
定マルハカリニテ書面ヲカカリ定マリノ目方ダケシラベ日夜キマリアリ休息
セズ權勢ヲ專ハラニスル此ノ如クニテアリ秦ニ出テ使スル者アリ還ルトキ人
ノ壁ヲ持チ使者ニ與フドウカコレハ吾ガタメニ感陽ニアル神ノ瀉池ニ遺ラレ
海神ハコノ玉ヲ受ケヌソレハ始祖タル龍ハ始皇ハナクナルカラトイヘリコ

レハ龍神ノツカヒシメナリト果シテ三十七年ニ多クノ臣ヲツレ遊ビテ沙丘ノ
平臺ニテ崩ヒリ喪チバカクシテ發セズ許リテ詔リテ受ケシトイヒ胡亥チ立テ
扶蘇ニ死チタマヘリ始皇チイキダシノ車ニノヒ臭氣チゴマカスタメニ一石
ノホシカチツシヨミ咸陽ニ至リ始メテ喪チバ發セリ胡亥即位二世是レナリ
二世皇帝名胡亥。元年。東行郡縣。謂趙高曰。吾欲悉耳
目之所好。窮心志之樂。以終吾年。高曰。陛下嚴法刻刑。
盡除故臣。更置所親信。則高枕肆志矣。二世然之。更爲
法律。務益刻深。公子大臣多僇死。○陽城人陳勝字涉。
少與人傭畊。之隴上。帳然久之。曰。苟富貴無相忘。傭者
笑曰。若爲傭畊。何富貴也。勝大息曰。嗟呼。燕雀安知鴻
鵠之志哉。至是。與吳廣起兵于蕪。時發閭左。戍漁陽。勝
廣爲屯長。會大雨。道不通。乃召徒屬曰。公等失期。法當
斬。壯士不死則已。死即舉大名耳。王侯將相寧有種乎。衆
皆從之。乃詐稱公子扶蘇。項燕。稱大楚。勝自立爲將軍。

刑シテ之族
 ナ案ツ
 ナ一身ニ去
 止ラズ也
 種樹之書
 ナ制可
 廉
 問
 除
 皇
 フ或ハ云フ乃自餘三
 字句告訴牽引以テ其

廣爲都尉大梁張耳陳餘詣軍門上謁勝大喜自立爲
 王號張楚諸郡縣苦秦法爭殺長吏以應涉○謁者從
 東方來以反者聞二世怒下之吏後使者至上問之曰
 群盜鼠竊狗偷不足憂也上悅○陳勝以所善陳人武
 臣爲將軍耳餘爲校尉使徇趙地至趙武臣自立爲趙
 王
 二世皇帝ハ名ハ胡亥元年東郡縣チメアリ趙高ニイフ吾レ耳目ノ好ム所チ十分
 ニ聞見シ心志ノタノシミチ窮メ生涯チオクランガ何知シテアヨキヤ高ノイフ陞
 下法チ嚴ニシ刑チコマカニシノコラズ古キ臣チナクシ新タナシキ者チ置
 ケバ枕チ高クシ志チキマヘニスルコト得ント二世チ然リトシアラタメテ法
 律チツクリテ務メテイヨト密ニ深クセリ公子大臣多ク法ニアテラレ死ス陽
 城ノ人ニ陳勝トイフ者アリ少ク人ノタメニヤトハレテ耕ヤセリ耕スコトチヤメ
 コダカキハラニユキナニカタメイキツキシバラクシテ仲間ニイフモシヨシガ
 テイフナンザ人ニヤトハレ耕ヤセルモノガナンテ富貴ニナラフチ勝大息シテ
 イフニアハ燕雀ハ鴻鵠トテ大鳥ノシハクヒヤ白鳥ノ志ハ知ル可ラズトアザケ
 リタリ是ニ至リ吳廣ト兵チ斬ニガコセリトキニ固左トテ徭役ノ者チ出シテ漁
 陽チ守リニヤレリ勝廣屯長ニテツレテユク大雨ニテ道トホレズ因テ徒風チ召
 シタイフ公等ハイツレモ期チ失ヘリ法ハ死罪壯士死ス覺悟ナクハソレマテ死
 スキナラバ大名チアグルコト出來ン王公將相トテ別ニ種アルニアラズ匹夫ニテ

和ラザルコト明シテ
 以テ相簡別セシム
 誦法孔子
 シテ以テ法
 トナスナリ
 詩書チ偶語スル者ハ
 棄市シ古チ以テ今チ
 非トスル者
 周馳
 ハ族セン
 周リテハスセカラシ
 △路險ニ行キガタリ
 木チ架シテ棚チツク
 リ而シテアラタル閣道
 トイフ覆道ハ築キ起
 シ道チ爲リ民ト相離
 ハラズ天子自ラ其上
 チ行ク私路ノ處アラ
 バ穴チ作り城門ノ如
 クシテ百姓彼中ニア
 ヲ往來
 ニス也
 鮑魚
 魚鱗
 チ施

沛邑掾主吏蕭何曹參爲収沛子弟得三千人○項梁
 者楚將項燕之子也嘗殺人與兄子籍避仇吳中籍字
 羽少時學書不成去學劍又不成梁怒籍曰書足以記
 姓名而已劍一人敵不足學學萬人敵梁乃教籍兵法
 會稽守殷通欲起兵應陳涉使梁爲將梁使籍斬通佩
 其印綬遂舉吳中兵得八千人籍爲裨將時年二十四
 ○齊人田儻自立爲齊王○趙王武臣使將韓廣略燕

サズシテカハカ
ス者ナリ

故
先世用フル所ノ
臣
臣タイプ

公子
公子十二人
咸陽ノ市ニ

戮セラレテ十公主杜ニ
死ス公子將聞天ヲ呼
ビ自殺ス公子高奔ラ
ント欲ス致テセズ乃

チ上書シ先帝ニ從ヒ
死シ驪山ノ足ニ葬ル
一ナ得ントコフ二世

大ニ悦ビ錢ヲタモフ
テ葬 驪山ト通シ田
ラス 中ノ高キ處

タイ 閻在 一脱ニ
フ 閻在 閻左ハ

閻里ノ左ニ居ルタイ
フ秦ノトキ復除ノ者

有種乎
求

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

扶蘇
扶蘇

地廣自立爲燕王。○楚將周市定魏地迎魏公子咎立

爲魏王。○二年吳廣爲其下所殺。○陳勝爲其御莊賈

所殺以降秦。○秦將章邯擊魏齊楚救之齊王儋魏王

咎與周市皆敗死。○趙王武臣爲其將李良所殺張耳

陳餘立趙歇爲王。○居鄆人范增年七十好奇計往說

項梁曰陳勝首事不立楚後而自立其勢不長今君起

江東楚讎起之將爭附君者以君世世楚將必能復立

楚之後也於是項梁求得楚懷王孫心立爲楚懷王以

從民望。沛人劉邦沛起沛父老等令沛公迎立沛公トナス沛

千人ヲ得タリ項梁ハ楚ノ將ノ項燕ノ子ニテ前ニ人ヲ殺セリ兄ノ子籍トカタキ

ヲ吳中ニ避ケテ居レリ籍ハ字ヲ羽トイヒ少キトキ書ヲ學ビテ成ラズ去テ劍

ヲナラフソレモイカズ梁怒ル籍ノイフ書ハ姓名ヲ記スニ止ル劍ハ二人ヲ相手

ニストテモ學ブニ足ラズ萬人ニ對スルヲザラ學バン梁因テ籍ニ兵法ヲオシヘ

リ會稽ノ守殷通ノ兵ヲ起シテ陳勝ニ應セント欲ス因テ梁ヲ將トシヤル梁籍ニ

命シテ通チカラシメ其印ヲトリ佩ビテ途ニ吳中ノ兵ヲアゲ八千人ヲ得タリ籍

ハ將トナリトキニ二十四才ナリ齊人田儻立テ齊主トナル趙王將ハ韓廣ヲヤ

リ燕ノ地ヲ略セシム廣自立シ燕王トナル楚ノ將周市魏ノ地ヲサダメ魏ノ公子

咎ヲムカヘ立テ魏王トナス二年吳廣臣下ニコロサレ陳勝御ノ莊賈ニ殺サル因

テ秦ニ降レリ秦ノ將章邯魏ヲウチテ齊楚コシテ救ヘリ齊王儋魏王咎周市ハ皆

ヤブレテ死ス趙王武臣其將李良ニ殺サル張耳陳餘趙歇ヲ立テト王トス居鄆ノ

人ニ范增トイフモノアリ年七十二メツラシキ計策ヲコノメリ往キテ項梁ニ

トキタイフ陳勝ノコトヲハジメル楚ノアトヲ立テズ自立スルハソノ勢ヒ長カ

クタモズイマ君ハ江東ヨリ起リテ楚ノ多ク峰ノ如ク起リシ大將ノワレ先

キトツクハ君ハ世々楚ノ大將ナリ必ズ楚國ノ後ヲ立テクレントノゾムナリト

因テ項梁楚ノ懷王ノ孫心ヲ求メ得テ立テ楚ノ懷王トシテ民ノソムニ從ハ

ス ○趙高與丞相李斯有隙高侍二世方燕樂婦女
居前使人告丞相斯可奏事斯上謁二世怒曰吾嘗多
間日丞相不來吾方燕私丞相輒來高曰丞相長男李
由爲三川守與盜通且丞相居外權重於陛下二世然
之天下斯吏具五刑腰斬咸陽市斯出獄顧謂中子曰吾
欲與若復牽黃犬俱出上蔡東門逐狡兔豈可得乎遂
父子相哭而夷三族 ○中丞相趙高欲專秦權恐群臣

只守下稱ス漢景帝ヨリ始メテ太守トイフ

陳陞 陳勝名字五ニ用ユ

補 顔師古ノ曰ク凡ソ地ヲ略スト言フ者ハ皆行テ之ヲ取リ功カヲ用フル少キナイフ

蜂起 爾雅ナリ

楚懷 云フ諡其房ニ近クハ轍チ動起シテ人チ攻ム故ニシカ

王 懷王秦ニ入り反ヘラズ楚人之チ憐レム故ニ祖ノ諡ヲ以テ號トナシ以テ民ノ望ム所ニ從フナリ

盜 陳勝チ指テイフ **族** 秦

不聽。乃先設驗。持鹿獻於二世。曰：馬也。二世笑曰：丞相

誤邪。指鹿爲馬。問左右。或默。或言高陰。中諸言鹿者。以

法。後群臣皆畏高。莫敢言其過。○項梁與秦將章邯戰

敗死。宋義先言其必敗。梁果敗。秦攻趙。懷王以義爲

上將。項羽爲次將。救趙。義驕。羽斬之。領其兵。大破秦兵

鉅鹿下。虜王離等降。秦將章邯、董騫、司馬欣、羽爲諸侯

上將軍。趙高丞相李斯トヒマアリ高ニ世ニハシメリ酒宴シ婦女前ニ居ルニ

テイワニ吾レフ。タンヒマノ日多キニ丞相マイラズ吾今酒宴シ樂シムニ丞相來ルハナニコトソ高ソバヨリイテ丞相ノ長男李由ハ三州ノ守トナリ盜ト通セリソノ上丞相ハ外ニ居リテ權ハ陛下ヨリモ重シ眞ニ油斷ノナラヌトイヘハ之ヲトリアゲ斯チナシコメリヤガテ五刑ヲソナヘ一々行ヒ咸陽ノ市ニテ腰カラキラレタリ斯ノ獄チアルトキ中子チアリムキイフ吾レソナタマタゾロ黃色ノ犬チヒキソレトモニ上蔡ノ東門チ出テカシヨキ免チ逐カケサセルアノ面白サハモウアキヌソヤト父子互ニナキイレリヤガテ三族チ踰セテ中丞相趙高秦ノ權チ專ニセント欲ス群臣ノ讒カザルチキゾカハ先ゾメシチセリ鹿チハシテ二世ニ獻シテ馬チトイヘリ二世笑テイワ丞相マチガヘモ甚ダシ鹿チ馬トス左右ニ問イハヌモノアリ鹿トコトゾモノアリ高ヒソカニ諸ノ鹿トイフ者

法ニ三族ニ當ル者ハ皆先ゾ殺シ入レズミ

右ノ趾チキリ其首チ

梟シソノ骨肉チ市ニ

サラス其誹謗ノ者ハ

先ツ舌チキル之チ五

刑チ具フルチイフ

盜無能爲。及秦兵數敗。高恐二世怒。遂使嫪毐弒二世

世於望夷宮。立公子嬰爲秦王。二世之兄子也。嬰既立

族殺趙高。○初楚懷王與諸將約。先入定關中者王之

當時秦兵強。諸將莫利先入關。獨項羽怨秦殺項梁。奮

願與沛公先入關。懷王諸老將皆曰：項羽爲人。慍悍猾

賊。獨沛公寬大長者。可遣。乃遣沛公。是ヨリ先キ高數度イフ關

愛フルニ足ラズト秦ノ兵數々アル、ニ及ビ高二世ノ怒チオソレテ遂ニムコノ開樂ニイヒツケ二世チ弒サシメ公子嬰チ立テリ二世ノ兄ノ子ナリ嬰既ニ立チ趙高チ族殺セリ初メ楚ノ懷王諸將ト約束シ先ゾ入テ關中チ定メル者ハ之ニ王タラント當時秦ノ兵強シ諸將先ゾ關ニ入ルチ利トスルモ、ナシ獨リ項羽ハ秦ノ項梁チ殺スチチウラミフルフテ沛公ト先ゾ關ニ入ルチ子ガヘリ懷王ノ諸老將皆言フ項羽ガ人トナリハシゴクイキチイサカンナルガ殘忍ナリ只沛

トイヒ行カズ高自ヲ
往キ子嬰ニ請フ送ニ
高子刺殺シ其家ヲ三
族シテ以テ徇フ

關中 秦西ニ關關
アリ東ニ函

谷關アリ南ニ武關ア
リ北ニ臨晉關アリ西
南ニ散關アリ秦地其
中ニ在リ故ニ之ヲ關

中トイ **莫利** 蓋シ
フナリ 秦ヲ

恐ル、**食其** 索隱
ナリ 二云

フ鄒審趙三人並ニ六
國ノ時司馬食其アル

ヲ以テ其名 **標悍**
ヲ塞フナリ

猾賊 標ハ疾キナ
リ悍ハキミ

ナカ猾ハ亂 **磨** 大將
賊ハ害ナリ 旗

兵卒ヲ指麾スル所以
因テ事從フ士ヲ麾下

トイ **大略** 末節ニ
フ 狗ハラ

スラ **狂** 大志疎慢
イフ 心ノ人ノ如

キチイ **長揖** 手上
フナリ ヨリ

下ニ **素車白馬**
極ム

喪禮ナリ組ハ印ノヒ
モクビニカケルハ自

ラクビラン **補** 莊襄
ト欲スナリ 王ヨ

リ子嬰ニ至リ合セテ
四十二年子嬰王トナ

リ四十六日ニテ
漢ニクダレリ

公ハ心ヒロクコセツカズ人ニマサルモノ
コノ人ナラバヤルベシトテ沛公ヲヤレリ ○高陽人酈食其謂沛
公麾下騎士曰吾聞沛公慢而易人多略此真吾所
願從游騎士曰沛公不好儒客冠儒冠來者沛公輒解
其冠漉溺其中未可以儒生說也食其令騎士第入言
之曰人皆謂食其狂生生自謂我非狂生沛公至高陽
傳舍召生入沛公方踞床使兩女子洗足而見生生長
揖不拜曰足下必欲誅無道秦不宜倨見長者於是沛
公輒洗起攝衣延生上坐謝之生爲沛公說下陳留後
常爲說客○張良從沛公西○沛公大破秦軍入關至
霸上秦王子嬰素車白馬繫頸以組出降軹道旁秦自
始皇二十六年併天下二世三世而亡稱帝止十有五
年 高陽ノ人ニ酈食其トイフモノアリ沛公ノ麾下ノ騎士ニイフ吾レウケタマハル
沛公ハ至テ高慢テ人ヲ人トモ思ハズ輕ンズルガ餘程見込ハ多キ人トキクソレ

テコソツシガソレニ從テアソアソテ願フ所トイフ騎士ノイフ沛公ハ儒者ナノ
ソマズ客ノ儒冠ヲカブリケル者ハ沛公其冠ヲトイバリナカケリ因テ儒生キ
ドリテトキテハトテモイカヌハイヘリ食其騎士ニタトモカケモ申ケル人ハ
皆食其チキチガイ書生トイヘ本人ハソウハイハメ之チ先ツアツテタマハレ
トイフ沛公高陽ノ族旅館ニニキ食其チヨブ沛公コシカケニコシカケカケ足チ
ノバシ兩女子ニアラハシメテ生ヲ見ル生長ク手チ胸ニアテ會釋シツト拜チセ
ズイフ足下必ズ無道ノ秦ヲ誅セントナレバカクノ如クコシカケチ長者チ見ル
可ラズト因テ沛公足チアラフ一チヤメ起テ衣チカハシ生チ上ノ坐ニノベテソ
ビセリ生沛公ノ爲ニトキ陳留チトキ後ニ說客トテ明策チトキノベル客トセリ
張良沛公ニ從テ西セリ沛公大ニ秦ノ軍ヲ破レ漢ニ入テ霸 二至ル秦王子嬰
白車白馬クビニ印綬チカケ出テ軹道亭ノソバニ降レリ秦始皇二十六
年ニ天下チ併セテヨリ二世三世ニテ亡ビ帝トイフトタト十五年ナリ

西漢

漢太祖高皇帝堯之後姓劉氏名邦字季沛豐邑中陽
里人也母媪息大澤之陂夢與神遇時大雷雨晦冥父
太公往見交龍其上已而產劉季隆準而龍顏美鬚髯
左股有七十二黑子寬仁愛人意豁如也有大度不事
家人生產及壯爲泗上亭長嘗繇役咸陽縱觀秦皇帝

西漢

關中ニ都ス
故ニ西漢ト

イフ然レモ此レ東漢

ニ對シテ稱テ立ツ當

時此名アルニアラズ

西東晉南北宋皆然リ

高祖 隆法ニ高ナ

モ高ク漢ノ太祖タル

ヲ以テ特ニ此號ヲ起

ヌ 漢中老嫗ヲ

ナス母ノ姓未ダ詳カ

ナラズ故ニ時人ノ稱

ニ從 深障ナ

神遇 猶ホ瀧姫黃

龍胸ニ據ル

日嗟乎大丈夫當如此矣單父人呂公好相人見劉季
狀貌曰吾相人多矣無如季相願季自愛吾有息女願
爲箕帚妾卒與劉季即呂后也

漢ノ太祖ハ魯ノ後姓ハ劉氏名ハ邦
字ハ季沛ノ豐邑中陽里ノ人ニテ母
字ハ季沛ノ豐邑中陽里ノ人ニテ母
字ハ季沛ノ豐邑中陽里ノ人ニテ母
字ハ季沛ノ豐邑中陽里ノ人ニテ母

秦始皇嘗曰東南有天子氣於是東遊以壓當之
劉季隱於芒碭山澤間呂氏與人俱求常得之劉季怪
問之呂氏曰季所居上有雲氣故從住常得季劉季喜
沛中子弟聞之多欲附者爲亭長時以竹皮爲冠及貴

ノ夢ノ 交龍 史記

似テ四足 準 鼻ノ

豁如 開大ノ

亭 開大ノ

秦ノ法十里一亭客旅

ナ停留宿食ノ館長ア

ル下後世ノ 絲 俗ト

里長ノ如シ 同シ

縱觀 常時車駕出

テハ則チ觀

ル者ヲ禁ズ此時ハ則

チ民ヲホシイマニ

觀セ 呂公 名ヲ失

シム 呂公 名ヲ失

曰ク名ハ 息 生△所

文ナリ 息 ノ女

箕帚之妾 言フ

掃ノ役ニ供ス曲禮ニ

女子天子ニ率ズルチ

常冠所謂劉氏冠也劉季爲縣丞徒驪山徒多道亡自
度比至盡亡之到豐西止飲夜乃解縱所送徒曰公等
皆去吾亦從此逝矣徒中莊士願從者十餘人季被酒
夜徑澤中有大蛇當徑季拔劍斬之後人來至蛇所
老嫗哭曰吾子白帝子也今者赤帝子斬之因忽不見
後人告劉季劉季心獨喜自負諸從者日益畏之

イヘリ東南ノ方ニ天子ノ氣立ツテ置ケズト東遊シテ此ノ氣ヲ之ニフレテ自
ラチサヘテ之ヲウチケサシム劉季芒碭山澤ノ間ニ隱レ呂氏人ト俱ニ求メテ常
ニ之ヲ得タリ劉季怪シテ之ヲ問フ呂氏ノイフ季ガ居ル上ニ雲氣ノアラハコレ
ヲ目アテニサガシテアルトイヘリ劉季ヨロコブ沛中子弟之ヲキリ附ントノソ
△者多シ亭ノ長タリシトキ竹皮ヲ以テ冠トセリ貴キニ及ビアタンカブレリ劉
氏冠トイフ劉季徒チ驪山ニ送ルトアリ徒多ク道ヨリ亡ケリ自ラハカレニ至ル
自分ニハノコラズウシナハント豊西ニ至リ止テ飲ム夜送ル所ノ徒チ解キハナ
シテイフ公等皆チ此場ヲ去レ吾モ亦此レヨリユクト徒中ノ壯士從ント願フモ
ノ十餘人ニ及ブ季酒ヲ十分ニ夜ニ澤中ヲトホル大蛇ノミチニアタレリ季
劍ヲヌキ之ヲキル後ノ人キテ見レバ老嫗アリナケリ吾ガ子ハ白帝ノ子ニテ今
赤帝ノ爲ニ斬ラルト忍テスガタハキニ後人コレヲ告グ劉季心ニウレシ陳涉
ク思ヒ自ラタノモシク思ヘリ多クシタガフ者ハ日ニキビアルク思ヘリ

漢書二供フルチイフ
笑ハ塵チ飲メルノ具

天子氣

晉天
文志

天子ノ氣内赤ク外黄

ナリ四方發スルト

コロ當ニ王者アルベ

シ若シ天子ノ遊往ス

ルアラント欲スレハ

則チ其地先ツ發ス故

ニ今東遊シテ以テ鎮

壓スルナリ史記ニヨ

ルニ是ノ時高祖自カ

ラ此ノ氣アルチウタ

ガフ始皇東遊スルト

キニ福ノ及バンチチ

恐レ故ニ

避ケ匿ル

ナリ他日詔チ下シテ

イフ爵ハ公乘以上ニ

竹皮

竹
皮

ニ非レバ劉氏冠
ヲ冠スルチ得ズ

中 夜澤中ニ路チト
ルハ潜行シテ去

ラント 劍 後世此ノ
劍始皇玉

璽ト併セ傳ヘ以テ傳

國ノ寶トナス李白ノ

詩劍麗傳無窮ト

アリコレナリ

帝 秦ハ四ニ居リ行

ニ於テ金ニ風ス

金色白シ故ニ白帝ノ

子トイフ劉ハ幾ノ後

堯火德故コ稱シテ赤

帝子トイヒ之チ殺ス

漢マサニ秦チ伐

シベキチ明ニス

幟 幡表幡旗ハ大
ニ幟ハ小ナリ

苛 脫文ニ苛ハ細草
ナリ以テ煩雜ニ

起。劉季亦起兵於沛。以應諸侯。旗幟皆赤。楚懷王遣沛
公破秦入關。降秦王子嬰。既定秦。還軍霸上。悉召諸縣
父老豪傑。謂曰。父老苦秦苛法久矣。吾與諸侯約。先入
關中者王之。吾當王關中。與父老約。法三章耳。殺人者
死。傷人及盜抵罪。餘悉除去。秦苛法。秦民大喜。

季亦兵チ沛ニ起シテ諸侯ニ應ゼリハタノホリ皆赤帝ノ子ナレバ赤クシ楚ノ
懷王沛公チヤレリ秦チヤアリ關ニ入り秦王子嬰チ降セリ既ニ秦チ定メカヘリ
霸上ニ陣トリノコラズ諸縣ノ父老豪傑チヨビイフ父老秦ノ苛マカキ法ニクル
シム久シ諸侯ト約セリ先ツ關中ニ入ル者ハ王トナルト吾ハ約ノ通り王トナ
ル因チ父老ト約シ三章ノ法ニ止ル人チ殺ス者ハ死罪人チ殺ス者ハ及ビ
スミチスルモノ其餘ハノコラズ秦ノ法チバンコラズ除キ秦民大ニ喜ベリ

羽率諸侯兵欲西入關。或說沛公守關門。羽至門閉。大
怒。攻破之。進至戲。期旦擊沛公。羽兵四十萬。號百萬。在
鴻門。沛公兵十萬。在霸上。范增說羽曰。沛公居山東。貪
財好色。今入關。財物無所取。婦女無所幸。此其志不在

小吾令人望其氣。皆爲龍。成五采。此天子氣也。急擊勿
失。羽季父項伯。素善張良。夜馳至沛公軍。告良。呼與俱
去。良曰。臣從沛公有急。亡不義。入具告。因要伯入見沛
公。奉卮酒爲壽。約爲婚姻。曰。吾入關。秋毫不敢有所近。
籍吏民。封府庫。而待將軍。所以守關者。備他盜也。願伯
具言臣之不敢倍德。伯許諾。曰。且日不可不蚤自來謝。
伯去。具以告羽。且曰。人有大功。擊之不義。不如因善遇
之。沛公旦從百餘騎見羽。鴻門。謝曰。臣與將軍戮力而
攻秦。將軍戰河北。臣戰河南。不自意先入關破秦。得復
見將軍於此。今者有小人之言。令將軍與臣有隙。羽曰。
此沛公左司馬曹無傷之言。項羽諸侯ノ兵チロキヒ西關ニ入ラント
欲セリ或人沛公ニトキ關門チ守ラシム
羽至ルニ門トヤタリ大ニ怒リ之チ攻メ破リテ進ンテ戲ニ至リアシタニ沛公チ
サタント定メリ羽ガ兵ハ四十萬ニテ百萬トブレコミ鴻門ニアリ沛公ノ兵ハ十

ナラズ之ヲ舉ゲテ早
ク意ヲ決シテ沛公ヲ
殺サント欲
スルナリ **翼蔽**
覆翼ト 噴ト通ス
同シ **噴** 目ヲ張ル
ナリ **眦** ハ目際マ
リ ナツリ **賜**
之 亦羽ノ
語異ハ
之 細人 小人ナ
ナリ **細人**
不勝柝杓 已レ
醉フ
テ酌ニ堪ヘザルチイ
フ杯ハ杯ト同シ
斗 酒ヲ酌
ム器 **亞父**
羽増チ號ビ亞父トナ
ス之ヲ尊ビ父ニ亞ケ
ナリ **言已至** コレ
羽ハ

増出テ、項莊ヲシテ入ラシメ前テカヅキチナサシメ劍ヲ以テ舞ント請フ
因テ沛公ヲウタタントス項伯モ亦マヘリ沛公チカバロ身アカクセバ莊ハウツ
出來ズ張良出テ樊噲ニ告グルニ事ノ急ア沛公ノ危キヲ知ラス噲タテチカトヘ
スグニ至ル目チイカラシテ羽ヲ視ルカミハサカダチ目シリハキリサケスマ
シキケンマク羽ホメ壯士スバラシ酒チノメト大盃チヤリイノコノカタモ一ナ
マ肉チヤレリ噲タチチガヲノミ劍チヌキ肉チキリ食フ羽イフ能クフタ、ビ飲
ムカ噲ノイフ臣ハ死テスラ避ケザル者況ンヤ酒チヤトマタノメリヤガテ項羽
ニイフ沛公先ツ秦チヤアリ咸陽ニ入ル勞苦シテ功ノ高キトハコレニテモ知ル
ソレテマダ封爵ノ賞モナク將軍小人ノイフ言チ用ヒ功アル人チ誅セント欲ス
ルハ亡秦ノアトツギニテヒソカニ將軍ノ爲ニ取ラザルトナリト羽イフ先ツ坐
セト噲良ニ從テ坐ス須臾ニシテ沛公起テ圓ニユケリ因テ噲チ招キ共ニソコチ
出テ問道チユキ翻上ニハシル良チトメテ羽ニワビサセイフ沛公ハ酒ニタエ
カチ申カ子臣ヨリオロビ申ス此品ハ聊カ御ラビノシルシ白玉一對再拜シ將軍
ノ足下ニ獻ス玉ノ盃一對再拜シテ亞父ノ足下ニト羽イフ沛公ハイヅクニアル
良ノイフ將軍ノアヤマチチトリタバサルトキ、身チ脱シテ獨リノガレ去リ
モハヤ軍ニ至リシナラント亞父劍チヌキ玉斗チタ、キ之チヤア、ゴヤツ
ハトモニコチ謀ルニ足ラヌ天下ハ **沛公至軍立誅曹無傷居數**
日羽引兵西屠咸陽殺降王子嬰燒秦宮室火三月不
絕掘始皇冢收寶貨婦女而東秦民大失望韓生說羽
關中阻山帶河四塞之地肥饒可都以霸羽見秦殘破

ナトメテ追ハザラ
シムルチ欲スルナリ
唉 嘆恨ノ
聲ナリ **豎子**
羽チ指ス其事チ
解セザルチイフ
誅殺スル所多キ
チ屠トイフ
發掘其屍チ
戮スルナリ **失望**
秦民初メ沛公侵暴ス
ル所ナキチ見テ大ニ
悦ブ羽ノ殘滅スル所
トナルニ及ビ再初ノ
望△所チ **阻** 猶ホ限
ウシナフ **阻** ノゴト
シ帶ハ **塞** 要塞秦ハ
帶 **塞** 西ニ散關
アリ東ニ函谷アリ南
ニ武關アリ北ニ蕭關
アリ故ニ四 **如夜**
塞トイフ

且思東歸日富貴不歸故郷如衣繡夜行耳韓生曰人
言楚人沐猴而冠果然羽聞之烹韓生羽使人致命懷
王王曰如約羽怒曰懷王吾家所立耳非有功伐何得
專主約乃陽尊爲義帝徙江南都郴分天下王諸將羽
自立爲西楚霸王乃曰巴蜀亦關中地立沛公爲漢王
王巴蜀漢中而三分關中王秦降將三人以距塞漢路
漢王怒欲攻羽蕭何諫曰願大王王漢中養其民以致
賢人取用巴蜀還定三秦天下可圖也王乃就國以何
爲丞相沛公軍ニ至リスアト曹無傷チ誅セリ居ル日數日ニテ羽兵チ引キテ西咸
陽ノ關中ハ山チヘダテ河チ帶ビ四塞ノ地ニテ土地コエ之ニ都シテ霸タル
皇ノツカチホリ寶貨婦女チトリオサメ東ヘユケリ秦ノ民望チ失ヘリ韓生羽
チ得ベシ羽秦ノヤブレシアトチ見テ東歸チ思ヒ富貴ニテ故郷ニ歸ラ子バニシ
キチ衣チ夜ニ行クト同シト韓生ノイフ人言フ楚人ハサルノ冠チ附ケシ如シ
ト全クソノ通リト羽之チキ、韓生チ烹ス羽人チシテ命チ懷王ニ致シ返事チ申
ス王ノイフ約ノ如ク關中ニ入ル者ガ王ニナレト羽怒テイフ懷王ハ吾家ノ立テ

行 知ル者ナキ
ニタトフ

沐 楚人鬻暴沐猴ニ
比ス沐猴鬻猴齊

命 復命返事ヲ
申スナリ

約 復命返事ヲ
申スナリ

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

伐 功ヲ積テ伐
トイフ

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

帝 衆力協成ノ者皆
義トイフ一字已

ル所ニテテガアラニアラズナシテ自由ニスルヲ得ントオモテムキ尊ト
ビ義帝トナシ江南ニウツシ邯鄲ニ都セリ天下ヲ分チ諸將ヲ王トシ天下ヲ分チ諸
將ヲ王トセリ羽自立シテ西楚ノ霸王トナルヨシテイフ關中ヲマルテ取ル理ナ
シ巴蜀ヲ取テ關中ニ王タルカドハタツトイヒ因テ其地ヲアトフテ漢王トシ
巴蜀漢中ニ王タリ關中ハ三分シテ秦ノ降將三人ヲ王トセリ因テ漢ノ路ヲフセ
ギタチキレリ漢王怒リ羽ヲセメント欲ス蕭何ノ諫テイフニ願クハ大王漢中ニ
王トシテ其民ヲ養ヒ賢人ヲマシキ巴蜀ヲトリテサメ其人ヲ用ヒカヘツテ
三秦ヲ定メバ天下ハ圖ルベキナリ王因テ國ニ就キ何ヲ以テ丞相トセリ ○
漢元年五星聚東井 ○初淮陰韓信家貧釣城下有漂
母見信饑飯信信曰吾必厚報母母怒曰大夫丈不能
自食吾哀王孫而進食豈望報乎淮陰屠中少年有侮
信者因衆辱之曰若雖長大好帶劍中情怯耳能死刺
我不能出我胯下信熟視之俛出胯下蒲伏一市人皆
笑信怯項梁渡淮信從之又數以策干項羽不用亡歸
漢爲治粟都尉數與蕭何語何奇之王至南鄭將士皆
謳歌思歸多道亡信度何已數言王不用即亡去何自

江南 南楚タリ
吳東楚タリ

巴蜀漢中 秦置
ク所

三分秦地

五星 五行ノ星東
井秦分史甘

漂 漢光トナス

王 水ヲ以テ架テウ
ツテ漂トイフ

孫 信蓋シ韓國ノ後
故ニ王孫トイフ

諸書其王孫ニ作ル見
ル可シ後世少年ヲ稱

孫 信蓋シ韓國ノ後
故ニ王孫トイフ

諸書其王孫ニ作ル見
ル可シ後世少年ヲ稱

追之人曰丞相何亡王怒如失左右手何來謁王罵曰
若亡何也何曰追韓信王曰諸將亡以十數公無所追
追信詐也何曰諸將易得耳信國士無雙王必欲長王
漢中無所事信必欲爭天下非信無可與計事者王曰
吾亦欲東耳安能鬱鬱久居此乎何曰計必東能用信
信即留不然信終亡耳 漢ノ元年五星ノ東井トテ經星ノ方ニアツマレ
日ヲ送ル布サラシノ老婆信ノウエタルサマヲ見カチテ信ニ飯ヲアタヘリ信ノ
イフニ吾レキツト母ニ禮ヲナサン母怒テイフ大ノ男ガ自身生活ヲ遂ケル能ハ
ズ吾レソナタナレキノノオチアレト思テ食ヲ進メシナリ禮ヲトルトテセン
ヤト怒レリ其實撲知ル可シ淮陰サカナウリノ少年信ヲアナドリ衆ニヨリ之ヲ
ハシシメテイフナンザ長大ニシテ好ンデ劔ヲ帶ルトハイハ内心ハ卑怯ナリ能
ク人ヲ殺スガガケレバ我ヲ刺セテキズハ我が胯下ヲクハレトイヘリ信彼ヲ
シメ見テヤガテ身ヲカハメテマタノ下ヲクハレリ一市ノ人皆信ガ卑怯ヲ笑
ヘリ項梁淮ヲ渡レリ信之ニ從ヘリ又シメテ策ヲ以テ項羽ニモトメリ用ヒラレ
ズ亡ケテ漢ニ歸伏シ治粟都尉トナリ數度蕭何ト謁レリ何之ヲ奇トセリ王南鄭
ニイタリ將士皆ウタチウタヒカヘリテ望ム多ク途中ヨリニケ何タビノイフ
王用ヒズ因テニケ去レリ何之ヲ追ヘリ人ノイフニ丞相何ニケルト王怒ルト左
右ノ手ヲ失フ如クトホウニケレリ何來リ謁ス王罵テイフニナンザ亡ケルトハ

シテ公子トナスモノ
ト同シカラズ
衆辱 之ヲ衆人ノ
中ニハツカ
シム 熟視 忍ビ難
ナリ 蒲伏 匍
アノ意ヲ 匍
狀スナリ 匍
ナリ 謳歌 ノ情内ニ
動キテ外ニ
發スルナリ 國士
無雙 國士ニシテ
一世ニナラ
ビナキモノ 無所
チイフ 言フハ倍チ
事信 留メルチ以
テ事トナス 爲公
一ナシ 壇
二字ハ已チ得ザ
ルノ意チ見ス

何ゾ何ノイフ韓信ヲ追フト王ノイフ諸將ノニケル十チ以テ數フ位多シ公之チ
カマハズ信ヲ追フトハイツハリナラン何ノイフ諸將ヲ得易キモ信ハ國士ノナ
ラビナキモノ王長ク漢中ニ王タルコトヲ知ラシムナラ信ニ用ナシテ天下ヲアラソフ
ナラコノ人チオキ人ナシ王イフ吾モ亦東シテ天下ヲ爭フナリナシテハ
コトニカバマリ居ラン何イフソレナラハ能ク信チ 王曰吾爲公以爲
用ヒヨ信ハ留マランサモナクハ信ハニケサラン 王曰何曰不留也王曰以爲大將何曰幸甚王素慢無禮
拜大將如呼小兒此信所以去乃設壇場具禮諸將皆
喜人人自以爲得大將至拜乃韓信也一軍皆驚王遂
用信計部署諸將留蕭何收巴蜀租給軍糧食信引兵
從故道出襲雍王章邯邯敗死塞王司馬欣翟王董翳
皆降○漢二年項籍弑義帝於江中○初陽武人陳平
家貧好讀書里中社平爲宰分肉甚均父老曰善陳孺
子之爲宰平曰嗟乎使平得宰天下亦如此肉矣初事
魏王咎不用去事項羽得罪亡因魏無知求見漢王拜

場 土チキツキ壇ト
ナシ土チノゾキ
場チツクリ天地ヲ祭
リ告ケ其命チタツト
一軍 舉軍
ナリ 部
署 部分
故道 縣
名 襲 其備ヘザルチ
掩フチ襲トイ
フ 漢二年 漢ハ
項籍 各チカキ
アヲハス
之チ罪 里社 月令
スル 民社
秦制二十五家以上社
チ立テ以テ年ヲ祈リ
災チハ 宰 肉チ分割
ラフ 卒 スルコチ
主尹 孺子 平年少
ドル 孺子 子以テ

爲都尉參乘典護軍周勃言於王曰平雖美如冠玉其
中未必有也臣聞平居家盜其嫂事魏不容亡歸楚又
不容亡歸漢今大王令護軍受諸將金願王察之王讓
魏無知無知曰臣所言者能也大王所問者行也今有
尾生孝己之行而無益成敗之數大王何暇用之乎王
拜平護軍中尉盡護諸將諸將乃不敢復言 王ノイフ吾レ
トセシイヤソレテハ然レハ大將ソレテ満足王ハモトヨリ人チアナドリ無禮ニ
テ大將チ命ズル小兒ニテモ命ズル如クソレテハ信ノ去ルアケ因テ嚴ニシテ
之チ命ゼント壇チキツキ禮チリナハ皆喜テ命チ拜スルニ及ヒ韓信ナレハ一同
トドロケリ王途ニ信ノ計策チ用ヒ諸將チ手ヲクシ蕭河チ留メ巴蜀ノ租稅チト
リオサメ軍ノ米チ送リ渡シ信兵チヒキヒテ故道トイフ縣ヨリ雍王章邯チ襲ヒ
邯敗シテ死セリ塞王司馬欣翟王董翳モ皆降ル漢ノ二年ニ項籍義帝チ江中ニ殺
セリ初メ湯武ノ人陳平家貧クソ書チ讀ムコト好メリ里中ノ社ニ平ハ宰タリ料
理チヤリ肉チキルヨク小大ナク上手ニキル父老之チホメル平ノイフ天下ヲ料
理スルモ此ノテギハニテヤルト答ヘリ初メ魏王咎ニツカヘ用ヒラレズ去テ項
羽ニ事ヘリ罪チ得テ亡グ魏無知ニヨリ漢王ニアハンコトモトム拜シテ都尉參
乘典護軍トセリ周勃王ニイフ平ハ美ナレモ玉チ以テカザル冠ノゴトシウハバ
ノミニテ中ハカラナリ臣キク平家ニ居テ其アニヨメチ盜ミ魏ニ事ヘテイレラ

孺子ト稱ス黄石公張
良ニイヒ孺子履ヲ取
レトイフ **冠玉** 冠
是レナリ
カザルニ玉ヲ以テス
光彩外ニアラハ中
アル所ナリオアリ
ナキニ喩フナリ

護 監護 セメル
ナリ

尾生 古ヘノ信士
孝己股ノ高

三老 官名史二十
亭ニ一郷郷

二三老アリ教化
チツカサドル **遮**

路ヲ遮 **順德** 六句
ルナリ 二句

毎ニ **聲罪云々**
押韻

レズ亡ケテ漢ニ歸セリ今大王軍ヲ護セシメ諸將ノ金ヲ受ク願クハ王之ヲ察セ
油斷ノナラヌヤット王義無知チセメリ無知ノイフ臣ガ言フ所ノ者ハ能ナリカ
レノアザ皆大王ノ御尋ハ品行コレハ尾生ヤ孝己ノヤウナ行ヒアルトテ今日世
中ノカケヒキノ術數ニ利ノナキモノハ大王之ヲ用フル有餘ナキナリ何ゾ區々
ノ品行ナドチヤカマシクイハン王平チ護軍中尉ニ
拜シテ盡ク諸將チマモラス諸將タレモイフ者ナシ ○漢王至洛陽新

城三老董公遮說曰順德者昌逆德者亡兵出無名事
故不成明其爲賊敵乃可服項羽無道放弑其主天下
之賊也夫仁不以勇義不以力大王宜率三軍之衆爲
之素服以告諸侯而伐之於是漢王爲義帝發喪告諸
侯曰天下共立義帝今項羽放弑之寡人悉發關中兵
收三河之士南浮江漢而下願從諸侯王擊楚之殺義
帝者○漢王率五諸侯兵五十六萬伐楚入彭城收其
寶貨美人置酒高會項羽方擊齊聞之自以精兵三萬
還擊漢大破漢軍於睢水上死者二十萬人水爲之不

兵ハ名ノアルチタツ
トア今ハ則チ然ラズ

服セザル **放弑** 之
所以ナリ

榔ニウツシ江中 **夫**
ニ弑スルチイフ

仁 二句仁義ノ師ハ
勇力チ假ラザル

チイ **素服** 裏服ナ
フ

義帝 裏チ發シ祖
シテ大哭シ

哀臨三 **三河** 河南
日ナリ 河東

河内三河ノ士チ收メ
以テ其北チ攻メ又南

江漢ニ浮ビ以テ夾ミ
之チ攻ムルナリ

諸侯王 漢王チ
名ケテ

諸侯王トナス書時未
ダ此稱アラズ此ハ諸

流圍漢王三匝會大風從西北起折木發屋揚沙石晝
晦王乃得與數十騎遁審食其從太公呂氏間行遇楚
軍爲楚所獲常置軍中爲質漢王至滎陽諸敗軍皆會
蕭何亦發關中老弱悉詣滎陽漢軍復大振

老董公ノ路チサヘギリ脱キイフ徳ニ順ヒ道チ守ル人ハ昌フモ徳ニ逆フ者ハ亡
ビヌ兵モ田ヌニ名義ナシ事ソレニヘニナラズ因テ敵ノ賊タルトチ明ニセバ敵
ハ因テ服スル者ナリ項羽無道ニシテ其君チ勝手ニ弑セリ天下ノ逆賊ソ仁者ハ
勇ノミテチナク義者ハ力ノミニテチハナク軍チ出シ勇チフルバカチガ能チナイ
大王ヨロシク三軍ノ衆チヒキヒ之ガ爲ニ裏服チキテ諸侯ニ告ゲテ之チ伐ソ
チハカルベシ人ノ感情ハ幾許ソヤト是ニ於テ漢王義帝ノタメニ裏チ發シ諸侯
ニ告テイフ天下共ニ義帝チ立ツル今項羽之チ勝手ニ弑セリ寡人悉ク關中ノ兵
チ發シテ三河ノ士チ收メテ南江漢ニウカビテ下リドウカ諸侯王ニ從テ楚ノ義
帝チ弑スル者チウチ平ゲント漢王五諸侯ノ兵五十六萬チヒキヒ楚チ伐チ彭城
ニ入ル其寶貨美人チトリオサメ盛會チ備フス項羽ノ齊チウツニアタリ之チキ
小自ラ風強ヨリヌキノ兵三萬チ以テカヘリ漢チウチ大ニ漢ノ軍チ睢水ノ上ニ
破ル死スル者二十萬人アリ水之ガ爲ニ流レズ漢王チ圍ムト三匝トテ三カコイ
丁度大風西北ヨリ起リ木チ折リ屋チ發キ沙石チアゲ蓋モククナリ王數十騎
トノガルトチ得タリ審食其大公ト呂氏トニ從ヒ間道チユクニ楚軍ニアヒ生
捕セラレ入質トセラレ漢王滎陽ニ至ル諸ノ敗軍皆アツマレリ蕭何モ亦關
中ノ老弱チ發シテノコラズ衆陽ニイメラシメ漢軍フタヒ大ニフル

侯及ヒ

五諸侯

常山王趙耳河南王申
陽韓王鄭昌魏王豹殷
王卯其國上文所謂三
河ノ地或ハ曰ク耳時
ニ兵ナシ陳

收寶

餘ナリ

貨美人

何ゾ咸
賜ニ入
ルトキハ相

間行

反スルヤ
間行シテ敵ヲサケテ
反ヘツテ之レトアフ
ナ

老弱

未ダ二十
三ナラザ
ルヲ弱トナシ五十六
ヲ過クルヲ老トナス
舊制二十三初メテ役
ニツク五十六免シテ
民ト
爲ス

便宜施行

蕭何守關中。立宗廟社稷縣邑事。便宜施行。計關中戶口。轉漕調兵。未嘗乏絕。○魏王豹叛。漢王遣韓信擊之。豹以柏直爲大將。王曰。是口尙乳臭。安能當韓信。信伏兵從夏陽。以木罌渡軍。襲安邑。虜豹。信既定魏。請兵三萬人。願以北舉燕趙。東擊齊。南絕楚糧道。西與大王會於滎陽。王遣張耳與俱。

○三年。信耳以兵擊趙。聚兵井陘口。趙王歇及成安君陳餘禦之。李左車謂餘曰。井陘之道。車不得方軌。騎不得成列。其勢糧食必在後。願得奇兵從間道絕其輜重。足下深溝高壘。勿與戰。彼前不得鬪。退不得還。野無所掠。不十日。兩將之頭可致麾下。餘儒者。自稱義兵。不用奇計。信間知之。太喜。乃敢下。未至井陘口。止夜半傳發。輕騎二千人。人持赤幟。從間道望趙軍。戒曰。趙見我走。必空壁逐我。若疾入趙壁。拔趙幟。立漢赤幟。乃使萬人先背水陣。平旦。建大將旗鼓。行出井陘口。趙開壁擊之。戰良久。信耳佯棄鼓旗。走水上軍。趙果空壁逐之。水上軍皆殊死戰。趙軍已失信等。歸壁。見赤幟。大驚。遂亂遁走。漢軍夾擊。大破之。斬陳餘禽趙歇。諸將賀。因問曰。兵法右倍山陵。前左水澤。今背水而勝。何也。信曰。兵法不曰。陷之死地而後生。置之亡地而後存乎。諸將皆服。信募得李左車。解縛。師事之。用其策。遣辯士奉

奏上ニ及バズシテ轍ヲ施シ行フナイフ

轉漕 車轉船漕以テ糧食ヲ給シ兵卒ヲ調發シテ以テ死亡ヲ補フ

乳臭 童子ノ口吻アル者少年ノ事ヲ更ザルニ喻フ

木 木押ヲ以テ罌瓶ヲ縛ス喻龍德臺

罌 木押ヲ以テ罌瓶ヲ縛ス喻龍德臺

擧 之ヲ取ルノ易キヲ言フ彭城ノ敗諸侯皆楚ニ歸ス

井 溫史趙王及成安君陳餘之ヲ聞キ

兵ヲ井陘口ニアツメル本文蓋錯簡時ニ信耳未ダ井陘口ニ至ラズシテ止ム自ラ明白

兵ヲ井陘口ニアツメル本文蓋錯簡時ニ信耳未ダ井陘口ニ至ラズシテ止ム自ラ明白

ナリ陸山ハ四方タカ
ク中央下ル井ノ如シ
故ニ井陘ト方比ナ
イフ
軌車轍ノ輜重
アト
我所留小
荷駄ナリ
十月野ニ昔草ナリ掠
メル所ナキヲ云フ
間諜
傳發
傳ヘテ發
輕騎
帶ビザ
戒日
軍ヲ望ミ指シテ
以テ之ヲ戒ム
壁
イクサノ
鼓行
トナラシ
殊
テ行ク

書於燕。燕從風而靡。三年。信耳兵ヲ以テ趙ヲ擊チ兵ヲ井陘口ニアツメ
フ井陘ノ道ハ車ハマダチトテ輪チナラベテコサレズ騎ハ行列チナス。出來ヌ
セマキトコロナレバ其地理ノ様子糧食ハアトニアル。必定トテモ之ヲ先キヘ
上セル。出來ヌトウソオモイガケナキ兵チナリ。間道ヨリ其輜重ヲ絶タキリ兵
糧セメトセン。足下ハミソチ深クシトリテチ高クシテ決シテトモニタカハズ陣
ス彼レ前シテカハカフ。得ズ退キテカヘル。ナラズ野ニハ掠メトル。外ハ
ク十日ナラズシテ信耳ノ二將ハ首トシテ旗下ニ之チモチ來ルチ得ソノ外ハ
學者ニテ義兵ト唱ヘテ奇計ヲ用ユル。トモ知ラ子ハ與シ易シト信ウカ。ヒ之チ
知レリ。大ニ喜ビ因テアヘテ下ル。マダ井陘口ニ至ラズシテ止ル。夜中ハゴロミガ
ルナ騎馬武者二千。人チ命令チツタヘ發シ人々赤ノボリチ。間道ヨリ趙ノ軍
ヲ望ミ戒メタイフ。趙我ガ走ルチ見レバ必ズ陣チカラフキニシテ我チオハ
汝ハ速ニ趙ノ陣ニ入り。敵ノ輜重ヲ漢ノ赤轍ニトリカヘ。萬人チシテ先ツ水チ背
ニシテ陣ドラシム。ヨノヒキアケニ大將ノ旗大鼓チ建テ井陘口チ出ツ趙ハ陣チ
ヒラキ。コノ人數チウツ戰フ久シク信耳伴リ。旗鼓チヌテハシル。水上ノ軍ノ方ニ
ニク趙果シテ陣チアケオヘリ。水上ノ軍皆一生懸命タカフ。趙軍信等チ見失ヒ
陣ニカヘル。赤轍ナレバ大ニ驚ク。遂ニ乱レテ遁グ。走ル漢軍。挾ミ擊ニセリ。大ニ之
チアブリ。陳餘チ斬リ趙歇チトリ。コニシ諸將賀セリ。因テ問テイフ。兵法ニ山陵チ
右ニトリ。又ハウシロニシ水チサハチ前ニトル。カ左ニトル。トイフ。ハキ。シガ
今ハ水チ背ニシテ勝ツ。ハイカ。信ノイフ。ニ兵法ニイツテアラズ。チ之チ死地ニ
陷イレテ後ニイキ。チ滅亡スル地ニガキテ。ノチニ存ストコナリ。諸將皆服セ
リ。信ツノリテ李左車チ得テ縛チトキ。之ニ師トシ事ヘタリ。其策チ用ヒ。辨士チヤ
リ。書チ燕ニ奉セシ。隨何說九江王黥布。畔楚歸漢。既至

死ニ決ス
赤幟
ヲ見テ大ニ驚キ信ヤ
ル所ノ軍已ニイルナ
リ
夾擊
兵水チ背
ニスル兵チ
禽
孫子信背ト
兵法
同シ
死地
同書疾戰セ
メ則チ存シ
戰ハザレバ則チ
亡ア死地トス
布
布督テ法ニ坐シ
テ驚セラル故ニ
黥布トイフ姓英漢雜
事姓チ改ムトナス必
シ難
帳
帷帳御
補
帝布ノ先キニ久シク
王トナルチ以テ其意

漢王方踞床洗足。召布入見。布悔怒。欲自殺。及出。就舍
帳。御食飲。從官皆如漢王居。又大喜。過望。酈食其說
漢王立六國後。王曰。趣刻印。張良來謁。王方食。具告良
良曰。請借前箸。爲大王籌之。遂發八難。其七日。天下游
士離親戚。棄墳墓。從大王。遊者徒欲望尺寸之地。今復
立六國後。游士各歸事其王。大王誰與取天下乎。且楚
惟無疆。六國復撓而從之。大王焉得而臣之乎。誠用客
謀。大事去矣。漢王輟食吐哺。罵曰。豎儒。幾敗乃公事。令
趣銷印。隨何九江王黥布。既至。漢王既ニキタレリ。漢王コ
ト欲セリ。出テ。舍ニ就ク。ニ及ビ。マダ諸道ノ類食物。一切ツキ人マテ。漢王ノ居ト
チガハズ。又大ニ喜ビ。望ニスギタリ。ト思フ。食其漢王ニ。說キ。六國ノアトチ。タ
ト王ノイフ。速ニ印チキザメ。張良來リ。メドウリス。王マサニ食セ。具ニ良ニツガ
リ。瓦ノイフ。請フ。前ノマテ。ルハ。シチ。借用シ。立ツ。可ラザル。ギチ。ハ。カ。ラ。ント。ハ
ノ。タ。ガ。タ。キ。理。チ。一。本。ツ。カ。ソ。ヘ。テ。ノ。ア。其。七。ニ。イ。フ。天。下。ノ。ア。ソ。ア。士。ノ。親。戚。チ
ハ。ナ。レ。墳。墓。チ。ヌ。テ。大。王。ニ。シ。タ。ガ。イ。遊。ア。モ。ノ。ハ。タ。ツ。ツ。カ。ノ。地。ニ。テ。モ。之。チ。望。ム

自ラ尊大チ恐ル故ニ其禮チ峻シ布チシテ折服ナラシメ己ニシテ其禮儀チ美ニシ其飲食チ厚フシ其從官チ多クシテ以テ其心チ悦ビシム是レ趣

猶ホ速ク箸 王方ニ食ス故

二食前ノ箸チカリ一離チ終ル毎ニ一箸チ下シテ以テ籌トナス

猶ホ射禮ニ捷チ唱フ

如シ 難 猶ホ仰クガゴト

望 欲望願讀者非

史記ニ日夜尺寸ノ地チ量ムチ欲スルニ作

ル見ル 誠 猶ホ若ク

堅儒 智ハ童子ノ如キチイフ

哺 食口ニ在ルチ哺トイフ

汝ナリ公ハ尊稱高祖人チノシル多ク此

語チ用ニ蓋 骨チ當時ノ語 鯁 食シ

喉中ニ留マレチイフハ直言受ケ難キ

骨ノ喉ニサトイフ骸

君ニ事ヘ其身チ有ル所ニアラズ故ニ

仕チ致シテ去ル骸骨チ乞フトイフ骸骨ト

イフ者ハ謙辭ナリ

食其說ニ 楚已陽チ拔キ堅ク放倉チ守ラズ兵チ引キ去ル

今復タ六國ノ後チ立テハ游士ハ各カヘリ其主君ニツカヘンサメレバ大王雖ト共ニ天下チトルヲチセシ且少楚ヨリ強キモノナシ六國フタヒビミタレテ之ニ從フコナラバ大王トテモ六國チ得テ臣トスルコトハナルマシク誠ニ客ノ謀チ用ヒバ大事ハ去リ天下チ治ル術ハ皆失ハント漢王食チヤメ口ニアル者チ吐キ

王於滎陽漢王謂陳平曰天下紛紛何時定乎平曰項

王骨鯁之臣亞父輩數人耳行間以疑其心破楚必矣

王與平黃金四萬斤不問其出入平多縱反間羽大疑

亞父請骸骨歸疽發背死○楚圍漢王益急紀信曰事

急矣請誑楚乃乘漢王車出東門曰食盡漢王出降楚

人皆之城東觀漢王乃得出西門去項羽燒殺紀信○

漢王軍成臯羽圍之王逃去北渡河晨入趙壁奪韓信

軍命信收趙兵擊齊○酈食其說王收滎陽據敖倉粟

塞成臯之險王從之○酈食其爲漢王說齊王下之劑

徹說韓信曰將軍擊齊而漢獨發間使下之寧有詔止

將軍乎酈生伏軾掉三寸舌下七十餘城將軍爲將數

歲反不如一堅儒之功○楚漢王ヲ滎陽ニ圍メリ漢王陳平ニイフ天下ミタ

諫メル忠臣ハ亞父ノ輩五六人ナリ問者チ入レ彼レヲノ心チ疑ハセルナラナラ

ハズ平多クハカリコトヲ以テ亞父ノコトヲルカ人ニイハセル羽王大ニ之チウタガ

フ因テイトマチトリ去リ疽トイフデキモノテ死セリ楚漢王ヲ圍ムコトイヒ急

ナリ紀信ノイフニ事急ナリユウヨナラズ楚チバダマカサント漢王ノ車ニ乘リ

東門ヨリ出テ食ツキテ漢王出テ降ルト楚人皆城ノ東ニユキ觀ル漢王西門ヨリ

去ルコトヲ得項羽紀信ヲ燒キコロセリ漢王成臯ニ出陣羽之チカコム王逃レ去ル

北河チ渡リアシタニ趙壁ニ入リ韓信ノ軍ヲ奪ヒ信チシテ趙兵チ收メテ齊チウ

タセシム食其王ニトク滎陽チ救メ放倉ノ粟チタヨリニコレニヨツテ成臯ノ險

チ塞ントス王之ニ從ヘリ食其漢王ノ爲ニ齊王ニトキ之チ下セリ劇徹韓信ニト

故ニ食 奪軍 一ハ 其イフ 兵チ

收メテ再舉セント欲 ス一ハ敗レテ見テ離 心ヲ生ゼン 救倉

積粟ノ 齊王 田廣 トコロ

獨 猶ホ特ノゴトシ 漢番ニ例多シ

寧 前積木致スル所アレ バ則チ伏シテ之ニヨ

掉 搗ナ 烹食

其 齊食其チ以テ己 チ賣ルトナス故

若而 皆汝 ナリ

翁 周晉秦隴父チ謂 テ論トナス

王約爲兄弟。吾翁即若翁。必欲烹而翁。幸分我一杯羹。羽願與王挑戰。王曰。吾寧鬪。知不鬪。力因數羽。十罪。羽大怒。伏弩射王。傷胸。○楚使龍且救齊。龍且曰。韓信易與耳。寄食於漂母。無資身之策。受辱於胯下。無兼人之勇。進與信夾濰水而陣。信夜使人囊沙。雍水上流。旦還走。且追之。信使決水。且軍大半不得渡。急擊殺。且信使渡。擊且伴敗。人言之。漢王請爲假王。以鎮齊。漢王大怒。罵之。張良陳平躡足附耳語。王悟。復罵曰。大丈夫定諸侯。即爲眞王耳。何以假爲。遣印立信爲齊王。四年。二信鬪。齊王約東。其以テ食其チ烹テ走レリ。漢ト楚ト皆廣武ニ軍ス。羽高キイタ。チツク。太公チ其ニ置キ。漢王ニ告テ。イフ念ニ下ラザルトキハ。吾レ太公チ烹ン。トコレハ。アヤマリ。吾レソナタト。俱ニ北面シ。懷王ニツカヘテ。兄弟ノ約チナセリ。吾翁ハソナタニ。モ父是非ニ。ントナラバ。幸ニ一杯ノ羹チ分チ共ニ。父チニテ。其シ。ルチ分チノ。マンコレナラバ。父チ殺ス。逆ハ互ニ。ノガレ。又因テ。説チカヘ。王ト鬪チ。イド。マン。トス。王ノ。イフ。ニ。吾レ。イツ。ソ。智チ。タ。カハ。シ。メ。テ。カ。チ。カ。ハ。ス。ト。チ。

挑戰 挑身トテ身 ナ出シ獨リ

寧 大、カフ復々衆 ナマダザルナリ

躡足 言ハズシテ 意チ諭スナ

躡足 左傳ニ。郤戊子士會 ノ足チ朝ニ。履トアリ

太公呂后 楚ニ 在ル

太半 凡ソ三 分ニア

養虎 遺 猶

信 水留ノゴトシ。一 句蓋古語ナリ

越 名王タリト雖未 ダ分地アラズ故

二頁王ニス、メテ梁 ナ以テ越ニ許シ。楚チ

ノゾマズト羽ガ十罪チカツヘテ。セメリ。羽大ニ怒リ。テ。イシ。ニ。イ。チ。伏。セ。オ。キ。テ。王。チ。射。リ。テ。ム。子。ニ。キ。ブ。チ。ツ。ケ。リ。楚。龍。且。チ。シ。テ。齊。チ。ス。ク。ハ。シ。メ。リ。龍。且。ノ。イ。フ。ニ。韓。信。ハ。大。ハ。イ。ナ。キ。モ。ノ。ナ。リ。布。ノ。サ。ラ。シ。ン。ノ。老。婆。ニ。食。チ。用。ラ。イ。一。身。チ。立。タ。ル。衛。モ。ナ。ケ。辱。恥。チ。マ。ダ。ノ。下。ニ。受。ケ。二。人。前。ノ。勇。モ。ナ。キ。タ。ハ。ケ。モ。ノ。ナ。リ。ト。進。ン。テ。信。ト。濰。水。チ。サ。シ。ハ。サ。ミ。陳。ド。レ。リ。信。夜。ニ。人。チ。シ。テ。沙。チ。オ。ク。ロ。ニ。シ。テ。水。ノ。上。流。チ。フ。サ。ガ。セ。ル。ア。サ。ワ。タ。リ。テ。龍。且。チ。ウ。チ。伴。リ。敗。レ。テ。還。リ。走。ル。且。之。チ。追。ヘ。リ。信。水。チ。一。時。ニ。キ。ラ。シ。メ。リ。且。カ。軍。大。半。渡。ル。ト。チ。得。ズ。急。ニ。擊。チ。且。チ。殺。セ。リ。信。人。チ。以。テ。漢。王。ニ。言。ハ。シ。メ。ド。ウ。カ。假。リ。ノ。王。ト。ナ。リ。齊。ノ。國。チ。鎮。メ。ント。漢。王。大。ニ。怒。リ。ノ。シ。ル。張。良。陳。平。足。チ。フ。ミ。耳。ニ。口。チ。ツ。ケ。テ。語。ル。王。サ。ト。レ。リ。復。タ。ノ。シ。リ。テ。イ。フ。大。丈。夫。諸。侯。チ。定。メ。バ。眞。王。ト。ナル。ベ。キ。チ。リ。ナ。ン。テ。假。リ。ノ。王。タル。ト。チ。セ。ント。印。チ。ヤ。リ。信。チ。立。テ。ハ。齊。王。ト。ナセリ。○項羽聞龍且死。大懼。使武涉説信。欲與連和。三分天下。信曰。漢王授我上將軍印。解衣衣我。推食食我。言聽計用。我倍之。不祥。雖死不易。蒯徹亦説信。信不聽。○漢立黥布爲淮南王。○項王少助。食盡。韓信又進兵擊之。羽乃與漢約。中分天下。鴻溝以西爲漢。以東爲楚。歸太公呂后。解而東歸。漢王亦欲西歸。張良陳平曰。漢有天下大半。楚兵饑疲。今釋不擊。此養虎自遺患也。

以テ信 楚歌 楚人

漢已ニ楚ノ地ヲ略ス 故ニ楚歌スルモノ多シ 太平御覽史記

字倒是レ正本此 虞

史記ニ美人アリ 名ハ虞常ニ幸從 慨 感激不 泣 目中

平ノ意 泣 ノ涙

世逝 押韻下單 韻味嘆

卒 梓ト 通メ 如其言

園ヲ濱アシ 艤 船ヲ 將ヲキル 整ヒ

岸ニ向フチ 補 楚漢 織トイフ 春秋

ニ云虞氏ノ歌ニ曰ク 漢兵已ニ地ヲ略シ四

方楚歌聲大王意氣盡

キ賤妾何ソ生ヲ聊セ

又 史記ニ云項王 乃チ亭長ニ謂

テ曰ク吾公長者ヲ知

ル吾此ノ馬ニ騎リ五

歲當ルトコロ敵ナシ

嘗テ一日千里ヲ行キ

之ヲ殺スニ忍ビス以

テ公ニ賜フ乃チ騎ヲ

シテ皆馬由リ下リ歩

行セシメ短兵ヲ持シ

テ接戦ス獨リ藉殺ス

所漢軍數百人項王身

交十餘創チカフムリ

願リミ漢騎司馬呂馬

王從之。○五年王追羽至固陵。韓信彭越期不至。張良勸王以楚地梁地許商人。王從之。皆引兵來。黥布亦會。項羽龍且ガ死スルトキニ大ニオツレ武渉チシテ信ニトカシメトモニ一致シ天下ヲ三ツニ分ントス信ノイフ漢王我ニ上將軍ノ印ヲ授ケ衣ヲトキテ我ニキセ食ハ己レハ食サザルモ我ニ食セヨトストメ言ハキカレ計策ハ用ラレ我レ之ニソムクハ不祥ナリ死ストモ此ノ志ハ易ヘヌト劇徹モ亦信ニ脱ケリ信キトイレズ漢黥布チ立テ淮南王トス項王助ケスクナク食ツキタリ韓信又兵チ進メテウテリ羽漢ト約シ天下ヲ中分シ鴻溝以四ハ漢トナシ以東ハ楚トナス太公呂后チカヘシ解キテ東ニ歸ル漢王亦四ニカヘラント欲セリ張良陳平ノイフ漢天下ノ大半ヲタモテリ楚ノ兵ハ饑エ疲ル今釋シテ擊タチバコレ虎チヤシナヒテアトテウレヘチノコス機ナモトト王之ニ從ハリ五年王羽チ追テ固陵ニ至ル韓信彭越約シテ來ラズ張良王チヌメテ楚ノ地梁ノ地チヤルヲチ商人ニ許セリ王ソノ通リニシテヤリ皆兵チ引キ來レリ黥布モ亦コノ所ニ會セリ 羽至垓下。兵少食盡。信等乘之。羽敗入壁。圍之數重。羽夜聞漢軍四面皆楚歌。大驚。曰。漢皆已得楚乎。何楚人多也。起飲帳中。命虞美人起舞。悲歌慷慨。泣數行下。其歌曰。力拔山兮氣蓋世。時不利兮。騅不逝。騅不逝兮。可奈何。虞兮。虞兮。奈若何。騅者羽平日所乘駿馬也。左右皆泣。莫敢仰視。羽乃夜從八百餘騎。潰圍南出。渡淮。迷失道。陷大澤中。漢追及之。至東城。乃有二十八騎。羽謂其騎曰。吾起兵八歲。七十餘戰。未嘗敗也。今卒困此。此天亡我。非戰之罪。今日固決死。願為諸君決戰。必潰圍斬將。令諸君知之。皆如其言。於是欲東渡烏江。亭長艤船待。曰。江東雖小。亦足以王。願急渡。羽曰。籍與江東子弟八千人。渡江而西。今無一人還。縱江東父兄憐而王我。我何面目復見。獨不愧於心乎。乃刎而死。楚地悉定。獨魯不下。王欲屠之。至城下。猶聞絃誦之聲。為其守禮義之國。為主死節。持羽頭示之。乃降。王還。馳入齊王信壁。奪其軍。立信為楚王。彭越為梁王。漢王即皇帝位。

呂萬月二隣フ晋レ若
ガタメニ徳セン乃チ
自ラクビハチテ死ス
王驎其頭ヲ取リ餘驎
相蹂踐項王ヲ争ヒ相
殺ス者數十人最モ其
後ニ郎中騎楊喜騎司
馬呂童郎中呂勝楊武
各其一體ヲ得ル五人
共ニ其體ヲ會シ皆相
違ナシ其地ヲ分チ五
トナシ五人ヲ封シ侯
トナシ

不愧於心

乘ノ同シク耻ツ
ル所ヲ言フナリ
絃 絃歌誦讀ナリ懷
歌 王羽ヲ封シテ魯
公トナス故ヘニ主ノ
爲メニ節ニ死ントス
ルチ

奪信軍

天 下

既ニ定マリ兵權チ人
ニカス可ラス其慮リ
モ亦周密 徹ハ通
ト云ヘシ 徹ナリ功
徳ノ王室ニ通スルチ
イフナリ後チ武帝ノ
諱ヲ避ケテ通侯ト云
フ或ヒハ曰ク列侯ノ
ゴト 高起王陵
並ロニ功臣ナリ漢書
ノ注ニ漢年記チ明ケ
リ他見ル 害 賈誼チ
所ロナシ 害スル
ノ害ノ如シ 予 與ト
忌ムナリ 同シ

帷幄

傍ラニ在ル
テ帷ト云上
ニ在ルチ 填 鎮ト同
ト云フ

人傑

傑ハ淮南子
ノ秦族訓ニ

カコム羽夜ニ漢軍ノ四面ニ皆楚歌スルチキト大ニ驚キ漢ニハ皆ステニ楚ヲト
リシヤ何ント楚人ノ敵軍ニ多キト起テタレヌノ中ニ酒モイシ虞美人ニ命ツ起
テ舞ハシムルシメノ歌チウタヒ悲嘆ノ涙チ下ス其歌ハ力ハ山ヲ拔キ氣ハ一代
チホフ程ノモノカ運ノ傾クトキハ戰ヒ利アラズ乘ル名馬モ思フ如クアユマ
ズ到底恢復スベキナシ虞氏ソナタノ身チハイカバハセント雖トハ羽ガ平日乘
ル所ノ名馬ナリ左右皆ナクダレモアチキ見ルモノナシ羽夜ニ八百餘騎ヲ從ヘ
テ圍チテズシ南ニ出シ淮ヲ渡リテ迷ヒ路チナクシ大澤ノ中ニ酒リタリ漢ノ追
フモノ之ニ及ブ東城ニ至リ二十八騎アリ羽其騎ニイフ晋ハ兵チ起シテヨリ八
年七十餘タビ戰ヒマダ一向ニ敗レヌ今卒ニ此ニクルシメリ此レ天ノ我チ亡ス
トニテ戰ノアシキニアラズ今日死テ決スドクカ諸君ノ爲ニ戰ヒ必ズ敵ノカコ
ミナクシ大將チキラン諸君ニ之ヲ知ラセント皆ソノ如ク見事ニ戰ヒ將チキ
リ圍チトケリ因テ東城江ヲ渡ラント欲ス亭長船ヨリチロチシテマテリイフ江
東ハ小ト雖モコトニヨレバ主タルニ足ル願クハ急ニワタレト羽ノイフニ籍ハ
江東ノ子弟八千人ト江ヲワタリ西セシ然ルニ今一人ノ還ルモノナシタトヒ江
東ノ父兄憐レシ我チ王トスルトモナニ面目アリマダ父兄ニカホムケナラズト
自ラ首ハチ死セリ楚ノ地ノゴラズ定マレリマダ魯ノミ下ラズ王之チ屠ラント
セリ城下ニ至リ猶ホ音樂ノ聲チキクコシ禮義チ守ルノ國ニチ主君ノ爲ニ節ニ
死スルカクゴタルチ知リ羽ノ頭チ見セテ降セリ王カヘル馳セテ齊王信ガ陣ニ
入り其軍チウマヘリ信チ立テ楚王トナシ

置酒洛陽南宮上日

徹侯諸將皆言吾所以得天下者何項氏所以失天下者何高起王陵對曰陛下使人攻城掠地因而與之與

天下同其利項羽不然有功者害之賢者疑之戰勝而
不予人功得地而不與人利上曰公知其一未知其二
夫運籌帷幄之中決勝千里之外吾不如子房填國家
撫百姓給餽餉不絕糧道吾不如蕭何連百萬之衆戰
必勝攻必取吾不如韓信此三人者皆人傑也吾能用
之此吾所以取天下項羽有一范增而不能用此其所
以爲我禽也群臣悅服○故齊田橫與其徒五百餘人
入海島上召之曰橫來大者王小者侯不來且舉兵誅
橫與二客乘傳至洛陽尸鄉自剄以王禮葬之二客自
剄從之五百人在嶋中者聞之自殺

洛陽ノ南宮ニ置酒セリ上ノ
イフニ列侯諸將皆イヘ吾ノ
天下ヲ得タルヲケト項氏ハ失ヒシヲケハ何故ゾ高起王陵ノ對チイフニ陛下ハ
人チシテ城チセメテ地チカサシメメ之チヤレリ天下ト利チトモニス項羽ハ
然ラズ有功ノ者ハ之チイミキライ賢者ハ之チ疑ヘリ戰勝トモ人ニ功チ與ヘズ
地チ得シモ人ニ利益チヤラヌソレ故ナリ上ノイフ公ハ其一チ知レヒ未ダ其二

知十人ニ過クルル者
ト云エリ人傑ハ傑然
トシテ獨リ 能用
出ツルヲ云

故齊 此下ヨ余本
王ノ字アリ

脱補 大ナル者ハ王
小ナル者ハ侯

ナチ大ハ則チ王小ハ
則チ侯ト謂フガト

シ横身王侯ノ二者ニ
出テザルチイフナリ

者ハナチ則チノゴト
シ史記ニ例多シ

又 傳ハ今ノ驛ノゴ
トシ古ハ車ヲ以

ス之レヲ傳 髡鉗
車ト云フ

髡チソリ鉗チ以テ類
ニ束カチ身ヲ變ジテ

刑人トナ 朱家
ルナリ

大俠ニシテ 滕公
名家ナリ

夏公嬰 丁公 楚漢
ナリ

ニ丁公 短兵接
名固

短兵乃劍ナリ兩方相
セマリ長兵ノ施スベ

キナシ故ヘニ短 兩
兵接ストイフ

賢 已レト丁公トナ
リ厄ハ控ト同シ

持ナリ史記何奴傳ニ
阿主相ヒ困セズト語

氣相似 徇 宣示スル
タリ

被山 四面ニ山ア
リ衣被ノ如

ク然リ故ニ被ト云フ
帶ハオビチ榮ラス如

チ知ラズハカリトチマクノ中ニ運ラシテ勝利チ千里ノ先キニ定メルハ子房ニ
及バズ國家チシツメ百姓チナテ兵糧チオクリ兵糧道チヌチキラズ辨シ兵チ苦
シメメハ蕭何ニ及バズ百萬ノ衆チ連ラテ戰フトキハ必ズ勝チ攻ルトキハ必ズ
取ルトハ吾レ韓信ニ及バズ此ノ三人ハ皆何レモ人傑ニテ吾レ能ク之ヲ用ユ此
レ吾ノ天下チ取ルハケ羽ハ一ノ范增アレハ之ヲ用フルト能ハズ此レ其我が爲
ニトリコニセラルトワケナリ群臣皆悅服ニ及フ故ノ齊ノ田横ソノ徒五百餘人
ト海島ニ入ル上之チヨブマイレ大ナル長者ニ王ニシテヤル其小ノ風者ハ侯ト
シテヤルマイラズハ兵チ向ケテ誅セント横ニ客トシクツキ馬ニテ洛陽ノ戸扉ニ
至リ自ラ首ハチ死セリ王ノ禮チ以テ葬レリト客モ死ス ○初季布爲項
五百人島中ニアルモノモ之ヲ聞キテ皆自殺セリト云フ

羽將數窘帝羽滅帝購求布敢匿者罪三族布乃髡鉗
爲奴自賣於魯朱家朱家心知其布也之洛陽見滕公
日季布何罪臣各爲其主耳以布之賢漢求之急不北
走胡南走越耳此棄壯士資敵國也滕公言於上乃赦
布召拜郎中○丁公爲項羽將嘗逐窘帝彭城西短兵
接帝急顧日兩賢豈相厄哉丁公乃還至是謁見帝以
徇軍中日丁公爲臣不忠使項王失天下遂斬之曰使

後爲人臣無效丁公也○齊人婁敬說上曰洛陽天下
之中有德易以興無德易以亡秦地被山帶河四塞以
爲固陛下案秦之故此益天下之亢而拊其背也上問
張良良曰洛陽四面受敵非用武之國關中左殺國右
隴蜀阻三面而守敬說是也上即日西都關中

ナリ數度帝チクルシメ羽滅ヒテ帝布チ金チカケテサガス之チカケス者ハ三
族チ驅スト布罪人トナリ自カラ魯ノ朱家ニ身チ賣レリ朱家心ニ其布タルトチ
知リ洛陽ニユキ滕公ニアイ季布ハ何ノツミニチカケヤカマシクイフト臣ハ銘
々主人ノ爲ニカチツクス布ノ如キ賢者テ漢ガ之チ求ムルトノ急ナラバ北ハ胡
ニユカチバ越ニ走ルナリ此レ壯士チウチステ敵國ノタメチヌル馬鹿シキ
ナリ滕公上ニイフ因テ布チ赦シ召シテ郎中ニ拜セリ丁公項羽ノ將トナリ嘗テ
オフテ帝チ彭城ノ西ニクルシメ短キ双物ニテマナガク來リアセウシ帝フ
△キ大將同士チ骨チ折リ難義スルハ馬鹿シキトナラズ丁公ウツトナラ
ズ退キ帝難チノガレタリ是ニ至リ謁見セリ帝以テ軍中ニブルル丁公ハ臣トナ
リ不忠項王ニ天下チ失ハセタリ目前ニ敵チニガス以テ外ト之チ斬リ後ハ人臣
ノ之ニ傲フトナカラシム齊人婁敬上ニトク洛陽ハ天下ノ中ニテ德アル者ナ
ラ與リヤスク德ノナキ者ハ亡ビ易シ秦ノ地即チ關中ハ山チカブリ河チトリマ
キ四方天然ノ要害ナリ陛下秦ノ地ノ元トバシヨニトバマリ都チ定メバ此レ天
下ノ頸トテノドクビチニギリソノ背中チウツ者ナリ上張良ニイフ良ノイフニ

案 ヨルナリ故
 イフ ハモトノ地
 ナリ元ハ咽喉漢中チ
 喻フルナリ推ハ持シ
 握ルチ云ナリ背ハ天
 下ニ喰ルナリ
補 賈求ハ賞チ懸ケ
 テ告者チ慕ルナ
避穀 穀氣チサ
 ケ食ラハ
佐漢 漢チ佐
 ナリ ケテ秦
 ナ亡ス是ハ韓ノ爲メ
 ニ仇チ復スナリ其汗
 馬ノ勢ナク特クニ離
 離ノ謀臣チ以テ常ニ
 高祖ノ左右ニアリ
 ニ舌チ以テ師ト爲
 ト云
赤松子 古
 仙人 楚人橋チ謂
 ナリ 圯 圯ト云フ

洛陽ハ四面ヨリ敵チウケル武チ用フル國ニアラズ關中ハ穀國チ左ニシ龍蜀
 チ右ニシ三方チフサギ守ル敬ノ説コソヨケレト上即日ニ西關中ニ都セリ ○
 留侯張良謝病辟穀日家世相韓韓滅爲韓報讎今以
 三寸舌爲帝者師封萬戶侯此布衣之極願棄人間事
 從赤松子遊耳良少時於下邳圯上遇老人墮履圯下
 謂良曰孺子下取履良欲歐之憫其老乃下取履老人
 以足受之曰孺子可教後五日與我期於此良如期往
 老人已先在怒曰與長者期後何也復約五日及往老
 人又先在怒復約五日良半夜往老人至乃喜授以一
 編書曰讀此可爲帝者師異日見濟北穀城山下黃石
 即我也且視之乃太公兵法良異之晝夜習讀既佐上
 定天下封功臣使良自擇齊三萬戶良曰臣始與陛下
 遇於留此天以臣授陛下封留足矣後經穀城果得黃

歐 擊タクナリ其
 無禮ナルチ怒
 擊タカント思ヒシ
 ガ老人ナレバ憫ミチ
 其言フマヤニ爲セリ
 茲ニ於チ良ノ能ク忍
 ブチ見テ能ク大事チ
 爲スニ足レリトシ故
 エニ數ニ可補 顏師
 シト云フ 古曰
 赤松子ハ仙人ノ號ナ
 リ神農ノ弟雨師タリ
 水玉ヲ服シ神農ニ教
 ヲ能ク火ニ入り自燒
 ス昆山ノ上ニ至リ常
 ニ四王母ノ石室ニ止
 マリ風雨ニ隨ツテ上
 下ス炎帝少女之レチ
 追ヒ亦チ仙チ得
 ト云ニ去レリ 又
 一説穀城山ノ下句チ
 絶シ史記我チ穀城山

石焉奉祠之 留侯張良病氣トイヒタテ仙術チマナビ穀物チタテリ家世々韓
 帝者ノ師トアオカレ萬戶侯ニ封セラレタリ此レテ身ノ榮華ツキメ因テ人間ノ
 一チウチチステ赤松子ニツキ遊ハントスト良ノワカキトキ下邳ノ橋ノ上チ通ル
 ト老人ニアフツツチ橋ノ下ニオトス良ニオフサカモノナリテ履チトレ良之チ
 ヲタントス老人チルチ不憫ニ思ヒ下リテ履チトレリ老人足ニテ受ケリ孺子教
 ニ可キ者ト後五日ニ約スルガコトニマオレト良期ノ如クニ往ケリ老人先キニ
 キテ居ル怒テイナニ長者ト約シテ後ルハ何事ゾフタトビ五日チ約ス又老人
 ニ先チコサル此度ハヨメヨリ往テ老人マイリ喜フ因テ一書ノ書チサツク此チ
 ヲメメ帝者ノ師タルベシト後ニ濟北穀城山下ノ黃石チ見シツレガサレナリト
 去ルアチ見レメ太公ノ兵法ニテアリ良之チメツラシキトニ思ヒ日夜ナラヘリ
 既ニシチ上チ佐ケ天下チ定メ功臣チ封ズルトキ良チシテ自ラ齊ノ三萬戶チ擲
 マシメリ良ノイフ臣始メ陛下ト留ニアフ此レ夫臣チ以テ陛下ニ授クルナリ留
 ニ封セラレハ申シ分ソナキト後ニ穀城チ通リシニ果シテ黃石チサカ
 シ得テ之チア
 ○六年人有上書告楚王韓信反諸將曰
 發兵阬孺子耳上問陳平平危之日古有巡守會諸侯
 陛下第出偽遊雲夢會諸侯於陳因禽之一力士之事
 耳上從之告諸侯會陳吾將遊雲夢至陳信上謁命武
 士縛信載後車信曰果若人言狡兔死走狗烹飛鳥盡

下二見ルニ作ル
參觀ス可シ

又
七條云太公兵法一帙
三卷太公呂望ナリ

又
蘇東坡曰黃石公
ハ古ノ隱君子ナ

又
劉子驥曰張良
赤松子ニ從テ

遊シテ欲ス蓋シ其辭
ヲ婉ニシテ以テ世網
ヲ脱スカル謂ニル鴻
飛冥々戈人何ソシ

又
漢ノ意
巡守 舜典ニ

第 但ナ
雲夢 陳

ノ四界雲夢ニ澤楚ニ
アリ江南ノ北ニ跨ガ
ル故ヘニ諸侯ヲ

陳ニ會ス
名刺後世ノ拜帖
械 謁

ハゴトシ

加ルニ扭楯以テス緊
ハ加ルニ散索ヲ以テ

スル
多々ハ
ナリ
多多 加ハル

愈多キ
天授 古語
ナクフ 左傳

ニ晉楚唯天ノ授クル
所口是ナリ張良モ亦

曰沛公ハ殆 補 割通
ント天授ト 信ニ

脱テ曰ク野鳥已ニ盡
キテ而テ腹狗烹ラ

足下之レヲ察セヨ云
云人蓋シ通ヲ指ス

狹鬼死スノ三句史記
越ノ世家范蠡齊ヨリ

大夫種ニ遣ル書ニ見
ユ而シテ前後位ヲ易

又
從容ハ其容止
ニ從任ニシテ

矜莊ナクサ 破ナ
ルヲ謂フ 符

良弓藏敵國破。謀臣亡。天下已定。臣固當烹。遂械繫以

歸。赦爲淮陰侯。上嘗從容問信。諸將能將兵多少。上曰

如我能將幾何。信曰。陛下不過將十萬。上曰。於君何如。

曰。臣多多益辨。上笑曰。多多益辨。何以爲我禽。曰。陛下

不能將兵。而善將將。此信所以爲陛下禽。且陛下所謂

天授非人力也。六年。人上書。言楚王韓信反。上告諸將。曰

之ヲアキフミイフ古巡守トテ天子ノ諸侯ノ國ヲメケリ諸侯ヲ會スルコトアリ陸

下ヲ出テ雲夢ニ歸リテシテ諸侯ヲ陳ニ會シソシニヨリ之ヲ會ニナサバ一力

士ノ事ニテアトス。上之ニ從ヘリ。諸侯ニ皆ゲテ陳ニアツマレ。吾ハ雲夢ニアソ

バン信上謁ス。武士ニ命シ。信ヲ生捕ル。之ヲアトノ車ニノセ。來ル。信ノイフ全ク人

ノ言ノ若シ。狹鬼ハ死シ。走狗ハニラレ。飛鳥ノナクナリ。テヨキ弓ハナサマル。敵國

ハ破レテ。謀臣ハ去ル。用ノス。メ。ア。ト。ハ。入。用。ナ。キ。コト。天下モ定レバ。モ。ハ。臣。モ。ニ

ラル。時分ナリト。手足ニカセテ。ハ。メ。ラ。レ。シ。バ。ラ。レ。カ。ヘ。リ。ツ。レ。タ。リ。シ。ガ。之。ナ。ユ

ル。淮陰公トセリ。上譽テ。ユ。ツ。タ。リ。信ニ。諸將ノ能ク。兵ニ。將。タル。ノ。多。キ。ト。少。キ。ト

ヲ。タ。ツ。子。リ。上。ノ。イ。フ。我。ノ。如。キ。ハ。何。程。ノ。將。ニ。ナ。レ。ル。信。イ。フ。陛。下。ハ。十。萬。ニ。將。タル

ニ。過。ギ。ズ。上。ノ。イ。フ。君。ニ。於。テ。ハ。カ。ハ。臣。ハ。多。ク。レ。バ。多。キ。ヤ。ウ。ニ。益。ハ。サ。バ。ク。上。笑

テ。イ。フ。カ。ク。イ。ヨ。ト。サ。バ。ク。ナ。ラ。ナ。ニ。ユ。ヘ。ニ。我。ガ。爲。ニ。ト。リ。コ。ニ。サ。ル。ハ。ヤ。曰。ク。陛。下

ハ。兵。ニ。將。タル。コト。ハ。出。來。ヌ。善。ク。將。ニ。將。タル。者。ナ。リ。此。ノ。信。ガ。陛。下。ノ。爲。ニ。ト。リ。コト

ナル。陛下ハ天授ニテ
八カノ及ア所ナラズ

○剖符封功臣。鄼侯蕭何。食邑獨多。

功臣皆曰。臣等被堅執銳。多者百餘戰。少者數十合。肅

何未嘗有汗馬之勞。徒持文墨議論。顧反居臣等上。何

也。上曰。諸君知獵乎。逐殺獸者。狗也。發縱指示者。人也。

諸君徒能得走獸耳。功狗也。至如蕭何。功人也。群臣皆

莫敢言。○上已封大功臣。餘爭功不決。上從複道上望

見。諸將往往坐沙中。相與語。上問張良。良曰。陛下以此

屬取天下。今所封皆故人親愛。所誅皆平生仇怨。此屬

畏不能盡封。又恐見疑。平生過失及誅。故相聚謀反耳。

上曰。奈何。良曰。陛下平生所憎。群臣所共知。誰最甚者。

上曰。雍齒。良曰。急先封齒。於是封齒爲什方侯。而急趣

丞相御史。定功行封。群臣皆喜曰。雍齒且侯。吾屬無患

ナ合セテ而シテ 鄴

分ツテ之ヲ授ス 鄴

呂南陽 文墨 簡牘

ニ屬ス 文墨 簡牘

ルヲ 發縱 雜ヲ解

ヲ縱放シ指示ハ手ヲ

以テ之レヲ指シ示ス

ナ功 二功字下二頓

リ 狗ノ功人ノ功

ナ言フ 往々 ナホ

ナリ 處々

ノ如 定位次 蕭

トシ 何

曹參、張敖、周勃、樊

會、酈生、酈商、夏侯

嬰、傅寬、靳歙、王陵、

陳武、王吸、薛歐、周

昌、丁復、太上 極

尊

ノ稱皇ハ君ナリ國事

ヲ治ルニ預ラス故ニ

帝ト稱

補 漢書走テ

矣。詔定元功十八人位次。賜丞相何劍履。上殿入朝不

趨。○尊太公爲太上皇。○帝懲秦苛法。

ヲトシ多キ者ハ百餘戰少キ者ハ數十合蕭何マダ一向馬ニアセカハス程ノ勞モ

セメニタリ文墨ヲトシ議論セリオモフニ反テ臣等ガ上ニ居ルハ何事ゾ上ノイ

フ諸君ハ獵ヲ知ラカレカ獸ヲ逐ヒ殺スモイハ狗ナリ犬ノナクハナシ指

圖スル者ハ人ナリ諸君ハ徒ラ二人ノ下ニツガハレカケテ獸ヲ得ルノミ其功ハ

狗ノ如キモノ蕭何ノ如キハ人ニテ其功ハ指圖シテ勞ヲバ走ル方ニ用ヒスモノ

ト群臣皆之ニ服セリ上己ニ大功臣ヲ封セリ餘ハ功ヲアソソヒ決定セズ上復道

トテ二重道ノ上ヨリノゾミ見ルコ諸將アチラコチラニ沙中ニ坐シ相惜ニ語レ

リ上張良ニ問フ良ノイフ陛下ハ此處ヲモツテ天下ヲトトル今封スル所ハ皆故人

親愛ノ人コロス所ハ皆平生ノカダキナリ此處ノコラズ封ズルノ出來ヌチオ

ソル又平生ノ過失ヲ疑ハレ誅ニ及バンノチ恐レリ故ニ相アツマリテ反チ相談

セリ上ノイフ之チイカバハセン良ノイフ陛下平生ノ惜ム所ア皆人ノ知ル所ハ

誰人ナルカ雍齒チ一番ニ惡ム良ノイフ急ニ先ヅ齒ヲ封セリ因テ齒ヲ封ジテ什

方侯トセリ急ニ丞相御史チウチガシ功チキメテ地チヤリハシメリ群臣皆喜テ

イフ雍齒スラ封チウケバ吾屬ニハ皆チ受ケルノチシ詔シテ元功十八人ノ位次

ヲ定メ不相何ニ賜フニ劍ヲ履ノマ、殿ニノホリ入朝ス ○帝懲秦苛法。

ルモスリ足テラシラズ太公ヲ尊トヒ太上皇トナセリ

爲簡易。群臣飲酒爭功。醉或妄呼。拔劍擊柱。叔孫通說

上曰。儒者難與進取。可與守成。願徵魯諸生。共起朝儀

上從之。魯有兩生。不肯行。曰。禮樂積德而後可興也。通

與所徵及上左右。與弟子百餘人。爲蘇絕野外習之。○

七年。長樂宮成。諸侯群臣皆朝賀。謁者治禮。引諸侯王

以下。至吏六百石。以次奉賀。莫不振恐肅敬。禮畢。置法

酒。御史執法。舉不如儀者。輒引去。竟朝罷。酒無敢誼諱

失禮者。上曰。吾乃今日知爲皇帝之貴也。拜通爲大常

○匈奴寇邊。帝自將擊之。聞冒頓單于居代谷。悉兵三

十萬。北逐之。至平城。冒頓精兵四十萬騎圍帝於白登

七日。用陳平秘計。使閼氏冒頓乃解圍去。平從

帝征伐。凡六出奇計。輒益封邑。○帝懲秦苛法。

テ功チアラソヒ醉テミダリニヨビ劍チヌキ柱チウチテリ叔孫通上ニ説キイフ僞

者ハ與ニスラソヒ軍チスルノハナラヌトナガテ得タル天下チ守リカケメルハ

其本分ニテアル願クハ魯ノ諸生チ徵シ共ニ朝儀チバ起サン上之ニ從ヘリ魯ニ

兩人ノ書生アリ行クノ不承知ニテ禮樂ハ德チ積ミノ上ニ與スベキモノ何ソ

帝ハ秦ノムゴキ法ニコリテ簡易ノ

オホマカノ法ニセリ群臣酒チノミ

テ功チアラソヒ醉テミダリニヨビ劍チヌキ柱チウチテリ叔孫通上ニ説キイフ僞

者ハ與ニスラソヒ軍チスルノハナラヌトナガテ得タル天下チ守リカケメルハ

其本分ニテアル願クハ魯ノ諸生チ徵シ共ニ朝儀チバ起サン上之ニ從ヘリ魯ニ

兩人ノ書生アリ行クノ不承知ニテ禮樂ハ德チ積ミノ上ニ與スベキモノ何ソ

帝ハ秦ノムゴキ法ニコリテ簡易ノ

オホマカノ法ニセリ群臣酒チノミ

テ功チアラソヒ醉テミダリニヨビ劍チヌキ柱チウチテリ叔孫通上ニ説キイフ僞

者ハ與ニスラソヒ軍チスルノハナラヌトナガテ得タル天下チ守リカケメルハ

其本分ニテアル願クハ魯ノ諸生チ徵シ共ニ朝儀チバ起サン上之ニ從ヘリ魯ニ

兩人ノ書生アリ行クノ不承知ニテ禮樂ハ德チ積ミノ上ニ與スベキモノ何ソ

左右 近臣ニテ

爲縣絶 繩ヲ

引キ

結ヲ爲リ表ヲ立テ絶
ヲ爲リ以テ尊卑ノ次
ヲ纂シ禮儀ヲ其中ニ
習ハシム孔子禮ヲ大
樹ノ下ニ習ハシムル
ガ如トシ廣慶禮ヲ習
フ可キノ地無キナリ

史記ニ通ノ曰禮ハ時
世ノ人情ニ因リ之レ
ガ節文ヲ爲ス顔古禮
ヲ采リ秦ノ儀ト

雜ヘテナセリ 長

樂宮 未タ未央宮

ヲ起サス故

エニ賀ヲ此引 引贊

宮ニウク 引ナリ

六百石 三補及

ヒ郡丞

邊郡長等 法酒 猶

ノ秩

禮酌ト言フ 御史

ガゴトシ

七アリコレ中丞ヲ指

ス供奉ヲ掌リ班列ヲ

正ス役 冒頓 冒頓

ナリ

子ノ名單子ハ匈奴ノ

語廣大ノ貌又關氏ハ

皇后ノ 補 周禮ニ天

ゴトシ 補 子女ヲ諸

侯ニ嫁ス至尊自カラ

婚ヲ主ラズ諸侯ノ同

姓ナル者シテ主ラシ

△故エニ公主ト云フ

舍人 私官ノ風親

近ナル者弟

ノ名ハ謝公著其兄嘗

テ罪ヲ得信コレヲ殺

サントス故 補 六籍

ニ反テ告ク 補 云フ

妄リニ之ヲナスベキモナラズトテコトハレリ通其メシタル所ノ者及ビ上ノ
近臣弟子百餘人ト野外ニナハバリシテ之ヲ稽古セリ七年ニ長樂宮成レリ諸
侯群臣皆朝賀セリ來リ謁スルモノ皆禮ヲ重シ諸侯王以下吏六百石ニ至ルマ
テテ順ヲ以テ賀ヲ申ス皆一同フルヒオソレシツト禮ヲツクサヌモノナシ禮畢
リテ法酒ヲ置キ御史法ヲトリテ儀ノ如クセヌモノナアグ其儀ヲサラズ朝ヲ竟
ヘ酒ヲヤメテ敢テサハガシク禮ヲ失フモノナシ上ノイフニ吾レ今日ヨソ皇帝
ノ貴キヲ知レリ通テ拜シ太常トセリ匈奴ガ中國ノハテニカチ入レリ帝之ヲ
ウテリ冒頓單于ノ代谷ニ居ルトキニ兵三十萬ヲツクシテ北之ヲ逐ヒ平城ニイ
タレリ冒頓精兵四十萬騎アリ帝ヲ白登ニ圍ム七日ニテ陳平ガ秘密ノ計ヲ用
ロテ間者ヲヤリ關氏ニ手アツキマイナヒテ冒頓圍ヲトキ去レリ平帝ニ從テ征
伐セリ凡ソ六タビ奇計ヲ 〇九年遣劉敬使匈奴和親取家
人子名公主妻單于。〇十年代相國陳豨反。帝自將擊
之。淮陰侯韓信舍人弟上變。告信陰與豨謀。呂后與蕭
何謀。詐稱豨已敗死。給信入賀。使武士縛信。斬之。信曰
吾悔不用蒯徹之謀。乃爲兒女子所詐。遂夷信三族。〇
十一年。帝破豨還。詔捕蒯徹。至曰。秦失其鹿。天下共逐。
高材疾足者先得之。當時臣獨知韓信。非知陛下天下

欲爲陛下所爲者甚衆。力不能耳。又不可盡烹邪。帝赦
之。梁王彭越太僕告其將扈輒勸越反。上使人掩越囚
之。反形已具。赦處蜀。呂后曰。此自遺患。遂誅之。夷三族。
〇遣陸賈立南海尉佗爲南粵王。佗稱臣奉漢約。賈歸
報拜太中大夫。賈時前說詩書。帝罵之曰。乃公馬上得
天下。安事詩書。賈曰。陛下以馬上得之。寧可以馬上治
之乎。文武並用。長久之術也。使秦并天下。行仁義。法先
聖。陛下安得有之。帝曰。試爲我著書。秦所以失。吾所以
得。及古成敗。賈著書十二篇。每奏稱善。號曰新語。九年ニ
和シ婚セリ十年ニ陳豨反セリ帝自ラ之ヲ征ス信ガ舍人變チ上ル信ノ陰ニ豨ト
謀ルト告グ呂后蕭何ト謀リ陳氏敗ルト信ヲアザムキ武士ヲシテ信ヲ縛セシメ
之ヲキリタリ信ノイフ蒯徹ノ謀ヲ用ヒズ吾レ之ヲ後悔ス因テ兒女ニアザムカ
ルト三族ヲ滅ボサル十一年ニ帝豨ヲアブリカヘル詔リシテ蒯徹ヲトラヘリ至
テイフ秦其鹿ヲ失ヒ天下共ニ逐ヘリ高材スバシツコキモノ先チ得ルナリ當時
臣獨リ韓信ヲ知ル陛下ヲ知ルニアラズ天下ニハ陛下ノ爲ス所ヲサントスル

天下ヲ取ルハ野鹿ヲ逐カゴトシト左傳云
 譬ハバ鹿ヲ捕フルカ如シ晉人之レチ角ス
 諸戒之レチ捨ス鹿ヲ以テ喻チ爲ス者多シ
尉佗 佗ノ姓ハ趙秦ノ年ヨリ
 南海ノ**粵** 越ト尉タリ 同シ
時 一時ヲ云ニ
前 アラス
新 帝未タ嘗テ聞カザル所ノ言故ヘ
語 二新語 卽チ道五トイフ 醢 刑チ具フル者斑志ニ韓信モ亦醢セラル 同
功 同シ王トナル故ニ同功一體ト云フ禍ヒノ身ニ及ンチ疑ヒ

モノ甚ダ衆キ然シカノ及バマナリ今ソノ者チ一々ニルコノ及バキヤトテモソレハ及バマナリナラシク然スレバ之ヲ見ノガシ其内捕ヘシ者ハ殺ストハ不公平ナリト帝之ヲ助ケテヤル梁王彭越ガ大僕其將ノ屬輔ノ越チスレメテ反スルト告ケリ上人チヤリ越チ掩フテ之ヲ囚ニセシム反形トテムホン下地ステニ出來然シユルシ蜀ニ居シム呂后ノイフコソ自然患チノコソト途ニ之ヲ誅シ三族ヲタヒラゲリ陸賈チヤリ南海ノ尉佗ヲ立テ南與王トス佗臣ト稱シ漢ノ約チ奉セリ賈歸リ報ズ太中大夫ニ拜セララル賈トキハスミ詩ト書トノハナシチナス帝ノイフ陸下馬上テ之ヲ得シモ馬上テ治メルコトハナルマシ文ト武トハ互ニ用フルハ長久ノ手ダテナリ秦チシテ天下ヲ并セ仁義チ行ヒ先聖ニ法トラシメ立派ニ制度チ立テシメナバ陛下ハナカハ之ヲ有ツコトハナルマシキナリ帝ノイフ試ミニ我が爲ニ書チバアラハセ秦ノ失フ所以ト吾ノ天下ヲ得シワケトチ及ビ古ノ成敗トチ書ケト十二篇チアメリ奏ス ○淮南王黥布見帝殺韓信醢彭越以同功一體之人自疑禍及遂反帝自將擊之○十二年帝破布還過魯以太牢祠孔子過沛置酒召宗室故人飲酒酣上自歌曰大風起兮雲飛揚威加海內兮歸故郷安得猛士兮守四方令沛中子弟習歌之以沛爲湯沐邑○初戚姬有寵生趙王如意呂后見

反セシ **太牢** 牛羊ナリ 豕ナリ
 養フ所口 **大風**
歌 第一句大風之重風賦起雲朔之重雲ト云カ如クナレ四海ノ擾亂ニ喻フ安得ハ期望ノ語天下已ニ定ルモ稀信ノ反アリ故ニ猛士 補 劉辰翁チ思ナリ 曰韓信死シ彭越死シ陳布反シ諸將殆ント盡クコトニ於テ四顧寂寥心チ傷マシムル者アリ語ハ壯ト雖モ然又カレモ意悲ナシ
 史記留侯曰初メ上數シバ困急ノ中ニ在リ幸ヒニ臣ノ策ヲ用ヒテ今マ天下安定セリ

疏太子仁弱上以如意類已欲廢太子而立之群臣爭之皆不能得呂后使人疆要張良畫計良曰此難以口舌爭也願上所不能致者四人曰東園公綺里季夏黃公角里先生以上嫚侮士故逃匿山中義不爲漢臣上高此四人今令太子爲書卑詞安車固請宜來至以爲客時從入朝令上見之則一助也 淮南王黥布帝ノ韓信チ殺シ彭柄ハタラキノ同シ人タルナリ以テ自ラ禍ノ及メンコト疑ヒテ途ニ反セリ帝自カラ將トシテ之チ擊チリ十二年ニ帝布チ破リテカヘレリ魯チトホリ太牢ニテ孔子チマツレリ沛チスギ酒チオキ宗室故人チヨビ酒盛リセリ酒佳境ノ樂ミ際中上自ラ歌チイフ大風ノ起リ世ノ亂ルハ雲ノアガル如シ威チ四海ノ内ニ加ヘテ雲モハライ故郷ニ目出度カヘレリ何ツクノ國ニカ猛勇ノ士チ得テ四方チ守リ天下チ治メントナリ沛中ノ子弟ニ之チ習ヒ歌ハシメリ沛チ以テ湯沐ノ邑トセリ初メ戚姬ハ寵アリ趙王如意チ生メリ呂后ウツンセラル太子慈悲心アリ柔弱上如意ノ己ニ類セルチ以テ太子チ廢シ之チ立ント欲ス群臣之チ爭ヘリ皆之チ得ルコト能ハズ呂后人チシテ張良チムリニトメ計策チ求メル良ノイフコソレハナカハ辨口チイカヌ一ノ計策ハコレマア上ガ招キテモ來ラヌ者四人アリ此人々ハ上ノ士チカロンシアナドルチ以テ故ニ山中ニ隠ケ匿レ漢漢ノ臣タラズ上此ノ四人チ高トセリ今太子チシテ書チツクリ詞チヒクハシ安車チ以テ之チ請フ

愛ヲ以テ太子ヲ易ン
トス骨肉ノ間臣等百
餘人ト雖モ何ノ益ア
ラン故ヘニ強テ之レ
ヲ要ス
安車 坐乘
ルナリ 老チ
優ス 偉ハ奇偉常
ル所 **偉** ノ服ニ非ル
ナ **善罵** 善クハナ
リ 岸善ク
崩ルノ善 **莫** 莫ハ猶
ノゴトシ **調護** 猶ホ營護
シ **指示** 四人ヲ指テ
威夫人ヲ示
補 上威夫人ヲ召
ス 歌テ曰鴻鵠高
ク飛テ一舉千里羽翼
既ニ就ツテ四海ヲ横
絶ス當サニ奈何ス可
キ増徴アリト雖モ尙

トキハ來ルナラシテ來ルナラシテ客トシテ時トシテハ之ヲ從ヒ入朝
サセ上ニ之ヲ見セシメバコレ太子ヲ廢セヌ一ノ難ケトナラント
呂后使
人奉太子書招之。四人至。帝擊布還。愈欲易太子。後置
酒。太子侍。良所招四人者。從年皆八十餘。鬚眉皓白。衣
冠甚偉。上怪問之。四人前對。各言姓名。上大驚曰。吾求
公數歲。公避逃我。今何自從。吾兒游乎。四人曰。陛下輕
士。善罵臣等。義不辱。今聞太子仁孝恭敬愛士。天下莫
不延頸願爲太子死者。故臣等來耳。上曰。頌公幸卒調
護。四人出。上召威夫人指示之。曰。我欲易之。彼四人者
輔之。羽翼已成。難動矣。蕭何以長安地陘上林中多空地
地棄。請令民得入田。上大怒。下何廷尉械繫之。數日而
赦之。○上擊布中流矢。疾甚。呂后問。陛下百歲後。蕭相
國死。誰可代之。曰。曹參。其次曰。王陵。然少戇。陳平可以

安ヲ施ス 狹ト同
所アラシ **陘**
田 田ハ佃ト通ス耕
シ治ルナリ
流矢 射リ主ノ知
レサルヲ流
矢ト **百歲** 百歳ノ
云フ 後トハ
死ヲ諱ンテ顯ハニ言
ヌナリ 戇ハ愚直ニシ
テ智略ノ足
ラヌナリ **安劉**
氏 天下ヲ安ンヌル
ト云ハズシテ劉
氏ト云フ論者曰フ預
カシメ呂氏ノ禍ヒ有
ルチ知 **又** 漢家ノ隆
レリ 常ニ孝チ
冠スルハヨク父ノ志
ヲ繼キヨク父ノ事チ
述ルチ以 **鳩** 鳥ノ名
テナリ 羽ヲ以

助之。平智有餘。然難獨任。周勃重厚。少文。可令爲太尉。
安劉氏者。必勃也。復問。其次上曰。此後亦非乃所知也。
○上崩。葬長陵。爲漢王者四年。爲帝者八年。凡十二年。
太子盈立。是爲孝惠皇帝。
欲シ後ニ酒ヲ置キ太子ヲモツラナル長ガ招ク所ノ四人ノ者從フ年皆八十餘コケ
マニトモニ白ク衣冠甚ダヌグレテ大ナリ四人ス、ンテ對ヘ各姓名ヲ言フ上大
ニ驚キイフ吾公ヲ求メルコト數年公我ヲサケテカクル今何故ニ吾兒ニシタガヒ
テ游ベルヤ四人ノイフ陛下ハ士ヲ輕ンシ善クノ、シレリ臣等義チ以テカケレ
テ辱シメラレズ今太子ノ仁アリ孝行ニ恭敬ニシテ士ヲ愛セラレト承ハリ天
下首ヲ延キ太子ノ爲ニ死ンコトヲ願ハヌ者ナシ故ニ臣等ハ來レルコト上ノイ
フサスレバ迷惑ナガラ太子ノ保護チタノメバ心付クレヨ四人出ツ上威夫人チ
ヨビ之ヲ指シ示シイフ我ハ之ヲ易ントス彼ノ四人ノ者之ヲ輔ケリ羽翼ノ已ニ
成リ上ハ之ヲ動スコトナルマシ因テ太子チカヘルコトハアキラメント蕭何長安
ノ地ハセマク上林ノ中ニ空地ノ棄テル多キチ以テ民チシテ入テ田ヅケルコトチ
得セシメント請フ上大ニ怒リ何チ廷尉ニ下シテ之ヲ手チツカチツナケルコト數日
ニテユルサレタリ上布チウツトキ流矢ニ中タル疾甚シ呂后問フ陛下百歲ノ後
蕭相國ノ死セバ誰カ之ニ代ル可キモ曹參其次ハ王陵然シコレハ少シクカロ
カナリ因テ陳平チ以テ之ヲ助クベシ平ハ智アマリアリテ獨リニテハ之レチマ
カセガタシ周勃ハオモシク親切義アリカザリゲナク律義一方大尉ノ役トス
ベク劉氏チ安ンズル者ハ必ズ勃ナラン復タ其次キチトヘリ上ノイフ此後ハ亦

ソナタノ知ル所ナラズソレマテハ生キテ居ラレト上崩セリ長陵ニ葬ムル漢王タル者四年帝タルモノハ八年ニテ凡テ十二年太子盈立テリ是ヲ孝惠皇帝トス

テ酒中ヲ毒シ之レテ飲メハ立チドコロニ死 去眼 眼晴ヲ去スナリ輝ハ灼ナリ藥ヲ以テクズベテ雖ナラシム其ハ好シテ人穢ヲ食フ故ヘニ之レヲ厨中ニカラン 趣 誑テ促トス速ヤカナリ 較 著明ノ貌ヲ備一ハ著明ナル一字ヲ寫スカカトシ 他人 後宮ノ美人カツテ呂氏ニ嬖セラレ身ヲメル有テ宮ニ入り生メル者 補 勿ハ弗ノゴトヲ禁止ノ辭ニアラズ載ハ事ナリ清淨ハ黄老ノ術ナリ曹參一

〔孝惠皇帝〕名盈。母呂太后。即位之元年。呂后鳩殺趙王如意。斷戚夫人手足。去眼。燬耳。飲瘖藥。使居廁中。命曰人彘。召帝觀之。帝驚大哭。因病歲餘不能起。○二年蕭何卒。齊相曹參令舍人趣爲裝。吾且入相。使者果召參。代何爲相國。一遵何約束。百姓歌之曰。蕭何爲相。較若畫一。曹參代之。守而勿失。載其清淨。民以寧壹。○五年曹參卒。○六年王陵爲右丞相。陳平爲左丞相。○張良卒。○周勃爲大尉。○帝在位七年崩。無子。呂太后取他人子。以爲太子。至是即位。太后臨朝稱制。○元年太后議立諸呂爲王。王陵曰。高帝刑白馬盟曰。非劉氏而王。

天下共擊之。平勃以爲可。陵罷相。遂王呂氏。孝惠皇帝ハ名后即位ノ元年ニ呂后趙王如意ヲ毒殺シ戚夫人ノ手足ヲ斷チキリ眼ヲクリヌキ耳ヲクスリテムシクシノクスリチノマセカハヤノウチニ居ラシム命シテ人彘トイフ帝ヲ召シ之ヲ觀サシム帝驚キテ大ニ哭シ因テ病氣トナル一歲餘マテ起ツナラズ二年蕭何卒セリ齊ノ相曹參舍人ヲシテ趣カシテ仕度ヲナサシメ吾レコレヨリ朝ニ入り相タラント使者果シテ參ヲメセリ何ニ代ハリ相國トナリ一ニ何ノ約束通りニセリ百姓歌フテイフ蕭何相トナリ法ノ明ラニキマリヨク一チヒキタルガゴトシ曹參代リテ守リテ失フナク事ハ潔白ニ民モ安クシテ一致ナスト五年ニ曹參卒セリ六年ニ王陵右丞相トナリ陳平左丞相トナル張良卒セリ周勃大尉トナル帝在位七年崩シテ子ナシ呂太后他人ノ子ヲトリ太子トス是ニ至リ位ニ即ケリ太后朝ニ臨ミテ天子ノ一チアツカレリ王陵ノイフ

ニ清淨無爲ヲ行テ治ヲ爲スヲ云ヘリ 制 制度ノ命今マ天子ノ事ヲ行フニヘニ制ヲ稱スト云母后朝ニ臨ム此ニ始ル 刑 殺ナリ白馬ヲ殺シ血ヲ歃テ盟フ白子用ユルハ潔淨ヲ取ナリ 爲 勃等曰高帝天下ヲ定メテ子弟ヲ王トス今マ太皇制ヲ稱シ諸呂ヲ王トス不可ナル所 幽 幽閉ナシトス 補 古ハ前朝後市王宮南ニアリ故ニ衛宮ノ兵城內ニアル者南軍トス京城ノ軍則チ之ヲ北軍ト官フ 周勃

高帝白馬ヲ刑ニ行ヒ盟テイフ劉氏テナク王タラバ天下共ニカテト平勃ハ呂氏ヲ立テルチ可トス陵退キ呂氏ヲ王トス ○四年太后北軍呂産將南軍大尉勃不能主兵平勃使酈寄說祿解印以兵授勃勃入軍門令曰爲呂氏者右袒爲劉氏者左袒軍中皆左袒召朱虛侯劉章予卒千餘人擊呂

爲右丞相

先王陵死シ平右丞
相トナル今マ勃ノ功

多キヲ以テ讓リ位第
一ヲ以テシ退テ第二

二列セ **乘輿** 大駕
シナリ 法駕

前驅九旂雲罕鳳凰開
戟虎軒鸞旗アリ皆大

夫載 **吉行** 巡守ヲ
ス 云師行

ハ征伐ナリ凡凶行ハ
百里日ノ力ヲ窮メテ

止△漢ノ一里率子我
ガ三町一間四尺四寸

八分許 **道里** 道路
ニ當ル 里程

ナ **主者** 主任者ナ
リ 若シ **廷尉** 刑

ナ主ドル治粟内史ハ
穀貨ヲツカサドル

待罪宰相 罪ヲ
得ル

何レ時ニアルヲ知ラ
ズトイフ臣下謙スル

ノ **吳公** 吳ハ姓公
ハ尊稱史

名ヲ失ス唯時人ノ稱
ヲ傳フルノミ宣帝紀

定國父子公モ亦 **超**
之レト同シ

遷 不次ニ官ヲ
遷スナ云 **二**

年 マサニ陳平卒ノ
上ニアルベシ

賜 免ノゴ **渭橋**
トシ

三アリ此ノ其中ナリ
故ニ中渭橋ト云フナ

躡 天子ノ出入ス
ル道ヲ清メ

産殺之分部悉捕諸呂無少長皆斬之○諸大臣迎立

代王恒王西郷讓者三南郷讓者再遂即位誅子弘等

赦天下是爲太宗孝文皇帝四年太宗少帝ヲ廢シ之ヲ幽殺セリ恒

他人ノ子ヲ名ケテ惡帝ノ子トイフハルモノナリ八年太后崩ス諸呂亂チナサン

トス時ニ呂祿ハ北軍ニ將タリ呂産ハ南軍ニ將トナリ大尉勃兵ヲツカサドル

能ハズ平勃鄒寄チシテ祿ニトカシメ印ヲトキ兵ヲ以テ勃ニサツケサセ軍門ニ

入り令シテイフ呂氏ノ爲ニスル者ハ右ノハダチヌク劉氏ナラバ左リト軍中皆

左チヌグリ朱虛侯劉章チヨビ卒千餘人チ予ヘリ劉産チ擊テ之ヲ殺セリ分チテ

手クバリシ諸呂チ捕ヘリ少長トナク皆之ヲ斬ル諸大臣代王恒チ迎ヘ立ツ王西

二郷ヒ臨ルモノ三ツ客分ナリ南郷シテ臨ルモノ再タビ遂

二位ニ即ケリ子弘等ヲ誅シ天下ニ大赦チナス文帝是ナリ

〔孝文皇帝〕名恒母薄氏夢龍據胸遂生帝帝立尊爲皇

太后○元年陳平爲左丞相周勃爲右丞相○時有獻

千里馬者帝曰鸞旗在前屬車在後吉行日五十里師

行日三十里朕乘千里馬獨先安之於是還其馬與道

里費而下詔曰朕不受獻也其令四方毋來獻

氏龍胸ニ據ルト夢ミテ遂ニ帝チ生メリ帝立ツ尊シテ皇太后トナス元年陳平左

丞相トナリ周勃右丞相トナル時ニ千里ノ馬チ獻スル者アリ帝ノイフ鸞旗ハ前

ニアリツキソヘノ車ハノチニアリ平日ノ遊行ニハ日ニ五十里師行ニハ日ニ三

十里ト定マル朕ハ千里ノ馬ニ乘リ獨リ先ツ安クニカエカ用ナキ者ハ之ヲ要

セメト道中ノ入り用チヤリ之チカヘセリ詔チ下シイフ朕

ハ決シテ獻チ受ケズ四方チシテ來リ獻スルト止ムト ○帝益明習

國家事朝而問右丞相勃曰天下一歲決獄幾何勃謝

-3 295 33 875" data-label="Text">

不知又問一歲錢穀出入幾何勃又謝不知惶愧汗出

揖ハ文 上疏 漢書

帝ノ子 二詳

大倉 上供ナ火

名ノ大倉 属 津風ナ

ニアラズ 其支

牀ヲ斷ツモノ再ヒ連

續スベカラザルナ云

官婢 周禮ニ奚罪

テ官ノ爲メニ賜

使セラレトモノ 補

古ハ五刑ミナ肉刑ナ

リ孝文詔ノリシテ云

フ今肉刑三アリ而シ

テ姦ヤマズ註ニ黥劓

斬趾三ノ者ナ開フ遂

ニ髡劓ヲ以テ黥ニ代

エ答三百ヲ以テ劓ニ

カハ管五百ヲ以テ斬

趾ニカフ獨リ宮刑ニ

及ハズ然ルニ景帝元

年詔言ス孝文帝宮刑

ヲ除ク美人ヲ出シテ

人ノ世ヲ絶ツテ重シ

ス則チ知ル文帝宮刑

ヲ并セテ之レヲ除キ

景帝中元年ニ至テ徒

ノ陽陵ニ作スル者死

罪ヲ赦シ腐ヲ欲スル

者之レ許ス而シテ武

帝ノ許季延年司馬遷

大傳徒梁王太傳上疏曰方今事執可爲痛哭者一可

爲流涕者二可爲長太息者六○十年帝舅薄昭殺漢

使者帝不忍誅使公卿群臣往哭之昭自殺○十二年

賜民今年田租半○十三年大倉令淳于意有罪當刑

少女緹縈上書曰死者不可復生刑者不可復屬願沒

入爲官婢以贖父刑上憐其意詔除肉刑○是歲除田

之租稅○十六年方士新垣平爲上大夫○後元年平

以詐伏誅○六年淮南厲王長ムホンセリ廢シウツサレテ死ス民ニウタフモノ

ナカアシキヤ帝キト之ヲウレヘ後其四子ヲ封シ侯トセリ匈奴ノ冒頓死セリ是

ヨリ先キ上騰シテ賈龍ヲモツテ公卿ノ位ニスルトス大臣ハ之ヲシテ不

承知ナリ上以テ長沙王ノ太傅トス梁王ノ太傅ニ徙レリ上書シテイフ方今ノ

リサマタメニ痛ミナゲク可キモノハ一ツアリ爲ニ流涕スベキ一ツアリ爲ニ

長太息オホタメイキツクベキモノハ六ツアリ十年帝ノ舅即チ母ノ兄弟薄昭漢ノ

使者ヲコロス帝誅スルニ忍ビズ公卿群臣チシテ往テ之ヲ哭セシム昭自殺セリ

十二年民ニ今年ノ田租ハ半分ヲ許セリ十三年大倉令淳于意罪アリ刑セラレ

平ハ詐ヲ以テ詳ニ伏セリ ○六年匈奴寇上郡雲中詔將軍

周亞夫屯細柳劉禮次霸上徐厲次棘門以備胡上自

勞軍至霸上及棘門軍直馳入大將以下騎送迎已而

之細柳不得入先驅曰天子且至軍門都尉曰軍中聞

將軍令不聞天子詔上乃使使持節詔將軍亞夫乃傳

言開門門士請車騎曰將軍約軍中不得驅馳上乃按

轡徐行至營成禮而去群臣皆驚上曰嗟乎此真將軍

矣向者霸上棘門軍兒戲耳○七年帝崩在位二十三

年宮室苑囿車騎服御無所增益嘗欲作露臺召匠計

之直百金上曰中人十家之產也何以臺爲身衣戈綈

命事ハ君節 鹿牛 尾チ

聞將軍令 六韜 二軍

十八史略讀義卷二

百八十三

以テ之ヲツクル以テ
使者ノ信ヲナストコ
露臺 臺上屋セ
露臺下 漢方
露臺下 寸重
露臺下 漢方
露臺下 寸重
中人 中等ノ人家
中人 ナリ
廟 天子ハ七廟次ヲ
以テ祀遷ス惟々
太祖ハ百世遷サス太
宗親盡キテ祀セズ
智囊 史記樽里子
滑稽多智秦
人號シテ
智囊ト云
法令 錯
更定スル所ノ
令三十章
爭
道 行基ノ路ヲ爭フ
ナリ博局ハナホ

所幸慎夫人衣不曳地示朴爲天下先吳王不朝賜以
几杖張武受賂金錢更加賞賜以愧其心專以德化民
當時公卿大夫風流篤厚耻言人過上下成俗人足後
世莫能及葬霸陵太子即位是爲孝景皇帝是以海內
安寧家給 六年二匈奴上郡雲中ニアタセリ將軍周亞夫ニ詔シテ細柳ニタムロ
ニ備フ上ハ自ラ軍ヲ勞フ霸上及ヒ棘門ノ軍ニイタルスガニ馳テ入ル大將以下
騎送リ迎ヘリ已ニシテ細柳ニユク入ルコトヲ先驅ノモノイフ天子軍門ニ御
出ニナルソ都尉ノイフ軍中テハ將軍ノ令チキクモ天子ノ詔ハキカスト上因テ
使ニシルシノホコチモタセ將軍ニ詔ス門チヒラケト門士車騎ニ請テイフ將軍
ノ約ナリ軍中テハヘルコトナラズ上クツハチトメシツカニユキ陣屋ニイタリ
サキノ額上棘門ノ軍ハ小兒ノタハムレナリト七年ニ帝崩ビ在位二十三年宮
室苑囿車騎服御以前ノマハオゴラヌ前ニムキダシノウテナチ作ラントシツモ
ラセルニ百金ノ價ナリ上ノイフソレハ中等ノ人ノ十軒カラシノ金高ソレ程ノ
費ハムダトヤメニス身ニハクロツムギチキテ籠スル所ノ慎夫人トテモ衣ハ地
チヒカズ質朴チ示シテ天下ノ先ガケチセリ吳王朝セヌニ賜フニ几トツエトチ
以テ張武路ノ金錢チ受ケシニ更ニ褒美チヤレリカクシテ其心チハチシメリ
專メラ徳チモツテ民チ化シ善ニストメシムソノトキノ身分アル人ハ風雅親切
情アリ人ノアヤマチチイフ下チ恥ガ上下風俗チナスソレユエ海内安寧家給ト

今ノ墓盤 提 祭帽ノ
ノゴトシ 提クル
ノ提ノゴト
シ擲ツナリ
亡人
遺過亡 其封土チ
命ノ人 削減スル
補 雖ハ詰ルナリ
云 相問難スルチ
楚趙有罪 史
フ 記
ニ楚王服舍ニ私姦ス
膠西尉チ賣ル姦アリ
チ趙其故 便蒙ニ
チ云ハス 補 云案趙
ハ趙王遂チ云舊注ニ
以テ王友ト爲ス者認
レリ高后紀及ヒ高五
王列傳ニ遂高帝第六
子趙王友ノ子ナリ高
后七年趙王友高后ノ

〔孝景皇帝〕名啓即位之元年丞相申屠嘉奏功莫大於
高皇帝宜爲帝者太祖之廟德莫盛於孝文皇帝宜爲
帝者太宗之廟制曰可○帝爲太子時鼂錯爲家令得
幸太子家號爲智囊帝即位錯爲內史數請問言事輒
聽寵傾九卿法令多所更定○初孝文時吳王濞太子
入見得侍皇太子飲博爭道不恭皇太子引博局提殺
之濞稱疾不朝錯數言吳過可削文帝不忍及帝即位
錯曰吳王誘天下亡人謀作亂今削之亦反不削亦反
削之反丞禍小不削反遲禍大上令公卿列侯宗室雜
議莫敢難 孝景皇帝名啓即位ノ元年丞相申屠嘉奏セリ功ハ高祖
ヨリ盛ナルハナシ之チ帝者ノタツトアベキ廟トナスベシトイフ制シテイフ
可ナリト帝ノ太子ノトキ鼂錯ハ家令トナリキニイレリ太子ノ家ナツケテ智囊

怒ニ遣フテ幽死ス高
后崩シテ文帝位ニ即
キ友ノ子遂チ立
テ趙王トナス 又
齊王ハ將閭ナリ昔注
ニ膠西膠東富川濟南
ノ諸王ノ兄トナ
ス者亦謬レリ 即
若ナ 緩急 帶ビ云
リ フ同異
得失等ノ言ノ如 三
シ急チ云フナリ
十六將 未々檢
出セス
獨 猶ホ唯ノゴトシ
他無キノコトバ
要 腰ト 同産 兄
同シ 弟
ナ 忤上意 上栗
太子
チ廢セントス亞夫之
レチ争ヒ又后ノ兄及

トイヘリ帝位ニ即キ錯ハ内史トナリタビタビヒマコヒコヒ天下ノ一ヲノベキ
届ケラル龍ハ九卿ヲ傾ケリ法令モカヘ定メルモ多クアリ初メ孝文ノトキ吳王
濞太子入テ見ニ皇太子ニツキソヒ酒宴シ恭ニテ盤面ノアラソヒハジマリ不敬
ノシヨチアリ太子怒リテ恭ツボトリナゲテ之ヲ殺セリ濞疾トイヒタテ朝セズ
錯タビタビ申ス吳ハ地ガスギル之ヲ削ルベシト文帝之ヲケツルニ忍ビズ帝ノ
即位ニ及ビ錯ノイフニ吳王ハ天下ノカケオチ人ヲ誘ナイ乱チナスヲ謀レリ
今之ヲ削ルトモソムキ削ラヌトモ反セン之ヲ削ルトキハ反スルヲ速ニシテ
禍ハ小ニテヌム削ラヌトキハ反クハハチソクモ禍ハ大イナラシ上公卿列侯一
門ト一同評議サセ 鼂錯又言楚趙有罪削一郡膠西有姦
削六縣及削吳會稽豫章書至吳王遂反膠西膠東菑
川濟南楚趙皆先有吳約至是同反齊王先諾後悔初
文帝且崩戎太子曰即有緩急周亞夫真可任將及七
國反拜亞夫太尉將三十六將軍住擊吳楚鼂錯素與
袁盎不善盎言獨有斬錯復諸侯故地兵可無血刃而
罷錯於是要斬東市父母妻子同産無少長皆棄市周
亞夫大破吳楚諸反皆平亞夫後爲相封條侯以諫忤

ビ匈奴降王ヲ候トセ
ンスルチ争ヒ皆ナ意
ニモ 補 少主ハ太子
トル 補 ナサス少年
ノ君ニ留遺ス可キ者
ニ非ズト云ナリ
鞅 快ト通ス滿タサ
ルノ貌チ
黎 衆ナ 廩廩 字
アルチ裏ト云ヒ野ニ
アルチ度ト云フ皆ナ
米藏 鉅萬 鉅ハ大
ナリ 鉅萬 ナリ鉅
萬チ累ヌルハ數
百萬々チ云ナリ
錢チ穿ツノ繩ナ
リ校ハ計數ナリ 陳
陳 久舊チ 露積
云ナリ 屋チ設ケ 紅腐 其
サルナリ 色

上意罷上曰此鞅非少主臣卒爲人誣告下獄歐血
死 鼂錯又イフ楚趙罪アリト一郡ヲケツル膠西ニ姦惡アリ六縣ヲ削ル吳ノ會稽豫
章ヲ削ルニ及ビテ書面來ル吳王怒リテ遂ニ反セリト膠東以下イヅレモ皆先ツ
吳ヨリノ約束アリテ是ニ至リ一同ニ反セリ齊王先キニ承諾シテ後ニ約ニ應ジ
タリシチクニ初メ文帝ノ崩セントスルトキ太子ヲ戒メテイフ事ノ起リシトキ
ハ周亞夫ハ大將ニ任スベキ人ト七國ノ反スルニ及ビ亞夫ヲ大尉ニ拜セリ三十
六將軍ニ將トシテエキ吳楚チウテリ鼂錯モトヨリ袁盎トナカアシク益ノイフ
ニ獨リ錯チキリ諸侯ノモトノ地チカヘスヲナラバ兵ハ刃ニ血チヌルヲナク此
ノ亂チヤムヲチウルト錯是ニ於テ東市ニテ腰ヨリキラル父母妻子同シ家ニ生
ルモノヲカキモトシタケシモノモ皆キラレヌ周亞夫大ニ吳楚チ破リ諸ノ反ス
ルモノ皆平ケリ亞父後ニ相トナリ條侯ニ封セラレ諫メテ以テ上ノ意ニサカフ
テヤメラル上イフ此レハ不平ニテ不満足ニテ少キ君ノ臣テハツ ○自漢
カイキレヌト卒ニ人ニムリチ告ケラレ獄ニテ血チ吐キテ死セリ
興掃除繁苛與民休息孝文加以恭儉至帝遵業五六
十載之間移風易俗黎民醇厚國家無事人給家足都
鄙廩瘦皆滿而府庫餘貲財京師之錢累鉅萬貫朽而
不可校太倉之粟陳陳相因充溢露積於外紅腐不可
勝食爲吏者長子孫居官者以爲姓號故有倉氏庫氏